令和３年度

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」

研究開発実施報告書・第３年次

令和４年３月

岡山県立岡山城東高等学校

地域との協働による高等学校教育改革推進事業【グローカル型】　全体構想概念図

「ステージは『世界』だ！ 」～岡山発グローバルリーダーの育成～

岡山県立岡山城東高等学校

目指す人材像

～ 持続可能な郷土岡山の実現に向けて ～
- ○ グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材
- ○ 郷土や日本への貢献意識を持ちながら国際社会で活躍する人材

育成したい資質・能力

- 創造的・批判的思考力
- 高度な英語運用能力
- グローバルな視野と多様性の理解
- 自主的・自律的な行動力と社会貢献意識

地域密着の課題研究

3年次

GLOBAL Ⅲ（個人研究）
高度な課題研究《選択者》

- 個人で**研究を深化**
- 論文作成（英語または日本語）

2年次

GLOBAL Ⅱ（グループ研究）
本格的な課題研究《全員》

- **「学類コア科目」（１単位）と「総合的な探究の時間」（２単位）が連動**した学類の専門性を活かした探究活動
- **地域でのフィールドワーク**を重視した実証的な研究

人文社会学類	理数学類	国際教養学類	音楽学類
（主なテーマ）文学、歴史 経済、法学 国際、教育	（主なテーマ）自然科学 環境 科学技術	（主なテーマ）アジア研究 国際理解 異文化共生	（主なテーマ）民族音楽 伝統、宗教 文化

1年次

GLOBAL Ⅰ（グループ研究）
スキル学習・課題研究《全員》

- **教科横断的なリサーチスキル**の学習
- 県内企業訪問で**グローバルな地域課題**の学習
- **ＳＤＧｓ**の 17 のゴールを参考に課題研究の演習を実施

総合的な探究の時間　各教科・科目
学校設定科目「学類コア科目」

異文化交流の深化

教員の指導力向上

○英語の授業改善
- 聞く力、話す力の重視
- 国際教養学類での先進的な取組
- 先進的取組の他の学類・他校への普及

○評価方法の研究
スピーキングテストの実施によるパフォーマンス評価の研究

海外体験・国際交流

○海外研修の充実【単位認定の研究】
～現地の地域課題調査等
- ２年次後半：**大学等で研究発表**（イギリス）
- ２年次前半：**アジアでの交流**（韓国、台湾、マレーシア）
- １年次：**多文化社会の体験**（カナダ、オーストラリア）

○海外姉妹校・提携校等訪問の受け入れ、外国人留学生の受け入れ

○留学の促進

○岡山大学の留学生との交流

○ＩＣＴを活用した海外との交流

各教科・科目　特別活動
外国語（英語）

自主性・自律性を育成する取組

社会貢献活動

○学類の専門性を活かした地域のニーズに基づくボランティア活動等
- 小学生の学習支援ボランティア
- 校外出前演奏
- 観光地での通訳ガイド
- 地域行事への参画

高大連携

○アカデミック・インターンシップの推進

リーダー育成

○生徒会活動や委員会活動の活性化

特別活動
教育課程外

コンソーシアム　岡山県内の関係機関と連携しながら、県全体をフィールドとして生徒が活動

- **岡山城東高等学校**
- **岡山県教育委員会**
- **県経済団体連絡協議会**：課題研究での協働 インターンシップ
- **岡山県･岡山市**：地域課題を共有し 地域振興に参画
- **岡山大学**：課題研究の指導 留学生の派遣

これまでの取組（スーパーグローバルハイスクール H26～H30）

成果
- 課題研究に必要な基礎的スキルの定着
- チーム力やプレゼン能力の向上(異力の統合)
- 海外研修等による異文化理解の深化
- 思考力や言語活動を重視した授業改善

課題
- 地域の理解や**地域との関わり**
- 課題研究と**学類の強み・専門性**との関連
- 英語力強化の取組と**全校・他校への普及**
- 課題研究等で得られた知見を生かした**自主的な実践**

「ステージは『世界』だ！」 ～岡山発グローバルリーダーの育成～

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文部科学省指定 令和元年度～）岡山県立岡山城東高等学校

目指す人材像

～ 持続可能な郷土岡山の実現に向けて ～

○グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材

○郷土や日本への貢献意識を持ちながら国際社会で活躍する人材

育成したい資質・能力

- 創造的・批判的思考力
- グローバルな視野と多様性の理解
- 高度な英語運用能力
- 自主的・自律的な行動力と社会貢献意識

地域密着の課題研究

GLOBAL Ⅰ （１年次生）

（グループ研究） スキル学習・課題研究 <全員>

・教科横断的なリサーチスキルの学習
・県内企業訪問でグローバルな地域課題の学習
・ＳＤＧｓの17のゴールを参考に課題研究の演習を実施

一人一台端末を活用した課題研究

企業訪問（カンコー学生服）

企業訪問（ナカシマプロペラ）

高校生探究フォーラム

SDGs講演会「持続可能な社会を目指して」

課題研究・教室発表

GLOBAL Ⅱ （２年次生）

（グループ研究）本格的な課題研究 <全員>

・「学類コア科目」（１単位）と「総合的な探究の時間」（２単位）が連動した学類の専門性を活かした探究活動
・地域でのフィールドワークを重視した実証的な研究

人文社会学類	理数学類	国際教養学類	音楽学類
文学、歴史、経済、法学、国際、教育	自然科学、環境、科学技術	アジア研究、国際理解、異文化共生	民族音楽、伝統、宗教、文化

全国高校生フォーラム

おかやまESDフォーラム2021

高校生探究フォーラム

Glocal High School Meetings 2022
（全国オンライン課題研究発表）

校内課題研究発表会

GLOBAL Ⅲ （３年次生）

（個人研究）
高度な課題研究 <選択者>

・個人で研究を深化
・論文作成（英語または日本語）

G20岡山保健大臣会合（令和元年）

個人研究発表

異文化交流の深化

○海外研修の充実　～現地の地域課題調査等
　２年次後半：大学等で研究発表(イギリス)
　２年次前半：アジアでの交流(韓国、台湾、マレーシア)
　１年次：多文化社会の体験（カナダ、オーストラリア）
○海外姉妹校・提携校等訪問の受け入れ、外国人留学生の受け入れ
○留学の促進　○岡山大学の留学生との交流　○ＩＣＴでの海外交流

アメリカとオンラインで課題研究

岡山大学の留学生との交流（オンライン）

海外文化体験研修（カナダ）（令和元年）

学類研修（マレーシア）（令和元年）

自主性・自律性を育成する取組

○学類の専門性を活かした地域のニーズに基づくボランティア活動等
・小学生の学習支援ボランティア　・校外出前演奏
・観光地での通訳ガイド　・地域行事への参画
○アカデミック・インターンシップの推進
○生徒会活動や委員会活動の活性化

福祉施設との交流（オンライン）

こども園や幼稚園でのボランティア

通学路清掃

砂浜海岸清掃

地域密着の課題研究

５月25日　GLOBAL Ⅰ
第１回講演会

６月８日　GLOBAL Ⅰ
スキル学習

１０月１５日　GLOBAL Ⅰ
課題研究講演会　岡本弥彦先生

８月19日　企業訪問（オージー技研）

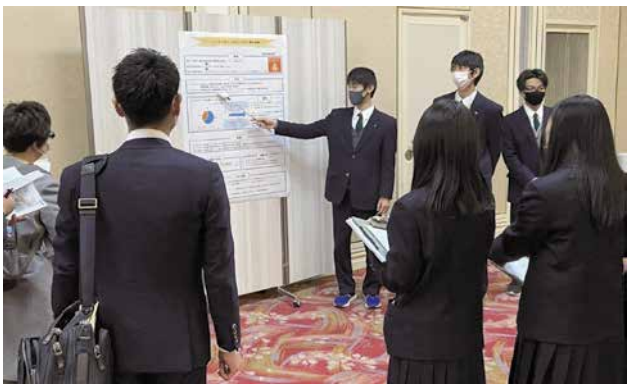
１０月１３日　企業訪問
（岡山トヨタ自動車）

８月20日　企業訪問
（菅公学生服）

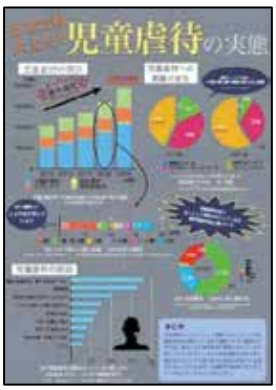
６月29日　RESAS 出前講座

一人一台端末（iPad）を活用してデータを見ながら意見交換

地域密着の課題研究



12月27日　高校生探究フォーラム



9月　岡山県統計グラフコンクールへの応募

9月30日　GLOBALⅡ
発表の打ち合わせ

1月29日　Glocal High School Meetings 2022

9月30日　GLOBALⅡ　中間発表会　（オンライン）
岡山大学の先生からの指導助言

Glocal High School Meetings 2022
英語発表部門　銀賞　　日本語発表部門　銀賞

11月20日　おかやまESDフォーラム2021

地域密着の課題研究

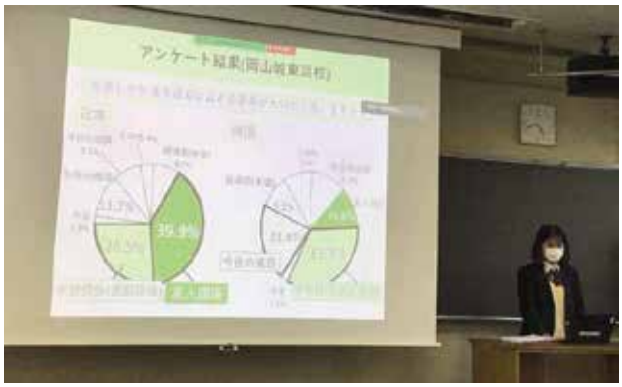
２月３日　課題研究発表会　２年次　ステージ発表（理数学類）
「アメリカザリガニの肥料化」

２月３日　課題研究発表会　２年次　ステージ発表
（音楽学類）「面白い鑑賞の授業受けたくない？」

２月３日　課題研究発表会
活発な質疑応答

１月１８日　１年次課題研究クラス発表　「TABLE FOR TWO」

２月４日　「TABLE FOR TWO」の提案
「野菜たっぷりラーメン」が食堂のメニューに



11 月 25 日　３年次　GLOBALⅢ　発表会
「自己肯定感と日本の文化的社会的背景」

12 月 19 日　2021 年度全国高校生フォーラム

異文化交流の深化

11月28日　吉備国際大学高校生
英語スピーチコンテスト最優秀賞

２月６日 日本高校生パーラメンタリー
ディベート連盟杯岡山県大会第１位

７月27日　岡山大学留学生とのオンライン交流会

３月３日　岡山大学留学生とのオンライン交流会

3月2日　GLOBAL ENGAGEMENT PROGRAM
ハーバード大学生とのオンライン交流（事前学習）

７月13日　ドイツからの留学生
日本文化体験（茶道部）

１月28日　ITC（英語集中合宿）　スキット

１月28日　ITC（英語集中合宿）ディベート

自主性・自律性を育成する取組

ボランティア活動　グリーン長利こども園　いっしょに歌おう！（合唱部）

９月28日　献活デー　芥子山幼稚園
工作の材料を準備

11月16日　音楽学類中庭コンサート　城東チャイルドセンター園児招待

９月28日　献活デー　芥子山小学校
みつばちクラブ　外遊びの支援

１０月１日　献活デー　サービス付き高齢者向け住宅
VERZ 城東　オンラインレクリエーション

５月２６日　制服を考える会
明石被服株式会社、菅公学生服とオンライン会議

９月28日　献活デー
城東チャイルドセンター　玩具の消毒

８月　椅子の騒音防止用の
テニスボールを中学校に寄付

１１月１３日　リーダー研修会
翠緑祭を振り返る

巻　頭　言

「ステージは世界だ」～岡山発グローバルリーダーの育成～
三年間の取組を通して

校長　前川　隆弘

岡山城東高等学校は、令和元年度からの三年間、文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業【グローカル型】」の指定を受け、様々な取組を行ってきた。ここに三年間の取組概要および成果と課題をまとめた報告書を完成することができたことを喜ぶとともに、この事業の成果が、本校の教育をますます充実させ、新たな学びのスタイルを全国に発信するものになると期待もしているところである。

本校は、昭和62年に「普通科総合選択型」の新しいタイプの高等学校として開校された。「進取・協同」を校訓とし、県下各地から、また海外からも個性豊かな生徒が集い、自由で明るい校風のもと、自主的・自律的な生活を送っている。本校のミッションは、生徒一人ひとりの多彩な才能が開花する教育を行い、グローバル社会や地域コミュニティ等において、リーダーとして必要な資質・能力を備えた人材を育成することである。そのため、単位制により、多様な知的好奇心に応える幅広い選択科目を開設している。また、二年次から、四つの学類（人文社会・国際教養・音楽・理数）にわかれ、学類コア科目、学類専門科目、学類研修等で、より専門性を深める探究的学習が進められている点も本校の大きな特色である。

本校は、平成14年度から三年間「SELHi開発研究校」に指定された。さらに、平成24年度から「ステージは『世界』だ！」というグローバル人材育成の取組を開始し、文部科学省事業「英語力強化の拠点校」を経て、平成26年度には「SGH（スーパーグローバルハイスクール)」に指定され、平成30年度での五年間、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えた人材を育成する研究開発を行い、一定の成果をあげてきた。

このたびの「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」では、SGHで培ったノウハウを活かして、「岡山発グローバルリーダーの育成」をスローガンとして掲げた。持続可能な郷土岡山の実現に向けて、グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材、郷土や日本への貢献意識を持ちながら国際社会で活躍する人材を育成することを、本校の本事業における研究開発の目標と定めた。そのために、岡山県全体を地域と捉え、「地域密着の課題研究」「異文化交流の深化」「自主性・自律性を育成する取組」の三本柱を設定し、PDCAサイクルを回しながら実践・研究を進めてきたところである。新型コロナウイルス感染症拡大により、思うように行かなかった事業もあったが、そういった状況の中でも、できないことを悔やむのではなく、できることを見つけて工夫をしてきたつもりである。本事業は今年度末をもって終了するが、この三年間ですべてが完結するわけではない。この事業を通して、本校が進むべき方向性があらためて確認できたと考えている。来年度以降も、継続すべき取組は工夫しながら続けていきたいと思っている。

本事業は、多くの方々のご支援があって成り立ってきた。貴重な機会を与えてくださった文部科学省の皆さま、コンソーシアムを構成していただいた岡山県、岡山市、岡山県経済団体連絡協議会、岡山大学、岡山県教育委員会の関係者の皆さま、運営指導委員の皆さま、その他本事業に関わっていただいたすべての皆さまに、心から感謝申し上げるとともに、今後とも、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目　　次

第１章　令和３年度研究開発実施報告 …… 1
1. 研究開発構想名
2. 対象
3. 研究開発の目的・目標
4. 研究開発の概要
5. 研究開発の内容
6. 令和３年度の実施計画
7. 事業実施体制
8. 課題項目別実施期間
9. 成果の普及及び評価・検証

第２章　地域密着の課題研究
第１節　「GLOBALⅠ」の実施 …… 7
1. シラバス・年間指導計画
2. 実施概要
3. 講演会の実施
4. 企業訪問
5. 今年度の成果と課題
第２節　「GLOBALⅡ」の実施…… 19
1. シラバス・年間指導計画
2. 実施概要
3. フィールドワークの実施
4. 今年度の成果と課題
第３節　「GLOBALⅢ」の実施…… 29
第４節　課題研究発表会・成果報告会 …… 34
第５節　一人一台端末の活用・探究活動の充実を目指した学習環境 …… 39
第６節　JLPの取組 …… 40

第３章　異文化交流の深化…… 41
1. 先進的な取組を取り入れた英語の授業の実施
2. 海外交流の取組
3. 海外姉妹校・提携校等の受け入れ、外国人留学生の受け入れ
4. 岡山大学外国人留学生との交流
5. ハーバード大学生とのオンライン交流（GLOBAL ENGAGEMENT PROGRAM）
6. 今年度の成果や課題

第４章　自主性・自律性を育成する取組 …… 53
1. 社会貢献活動の実施
2. 生徒会活動や委員会活動の活性化
3. 今年度の成果と課題

第５章　カリキュラム開発…… 64
1. カリキュラム・マネジメントの推進
2. 「GLOBALⅠ」、「GLOBALⅡ」、「GLOBALⅢ」の評価
3. アカデミック・インターンシップの状況
4. 総合的な探究の時間のカリキュラム開発
5. 今年度の成果や課題、次年度の取組

第６章　各種委員会の開催…… 75
1. 運営指導委員会・コンソーシアム運営会議
2. 教育改革推進委員会
3. 学校評議員会

第７章　広報活動…… 88

生徒報告　「GLOBALⅠ」…… 90
「GLOBALⅡ」…… 92
「GLOBALⅢ」…… 98

関係資料　地域との協働による高等学校教育改革推進事業 …… 101
ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業・スーパーグローバルハイスクールネットワーク
連携協力に係る実施要項（岡山大学）
スクール・ポリシー（令和３年11月公表）
令和３年度学校経営計画書
教育課程表
令和３年度「総合的な探究の時間」全体計画
令和３年度「キャリア教育」全体計画
令和３年度学校自己評価アンケート
令和３年度各種アセスメント結果

第１章　令和３年度研究開発実施報告

１．研究開発構想名

「ステージは『世界』だ！」～岡山発グローバルリーダーの育成～

２．対象（令和３年度）

対象とする生徒数　１年：320名　２年：319名　３年：312名　（令和３年５月１日現在）
学校全体の規模　設置学科：全日制普通科　在籍者数：951名（令和３年５月１日現在）

３．研究開発の目的・目標（構想調書）

平成26年度から５年間「スーパーグローバルハイスクール」（以下「SGH」という。）の指定を受け、「課題研究」「学類コア科目」「海外体験」を柱に研究を行い、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えたグローバルリーダーを育成してきた。課題研究においては、主な連携先である岡山大学の教員や大学院生の手厚い支援を受けるとともに、その他の連携先である東京大学、JICA岡山県デスク、特別非営利活動法人AMDA、岡山県経済団体連絡協議会、山陽新聞社等の協力を得ながら質の高い探究活動を実施し、生徒は自ら課題を発見し他者と協働して課題解決に向けて提案・実践する力を身に付けた。また、海外研修プログラムを開発し、異文化理解を深めるとともに、グローバルな視野を課題研究に生かすことができた。一方、グローバルな課題を意識するあまり、地域でのフィールドワークに基づいた研究が少なく、グローバルリーダーに必要とされる郷土の理解と貢献意識を十分に伸ばしきれていないという課題が残った。

これまで、本校では、国際的な実践力を備えた次代を担うリーダーの育成を進めてきたが、社会の変化に伴い、地元地域に貢献できる人材育成も求められるようになっており、この研究では、地元企業や大学、自治体等との協働を強化し、地域でのフィールドワークを重視した課題研究を実施することにより、グローバルな視点を持ってローカルで活躍したり、郷土愛を持ちながらグローバルに活躍したりしながら、郷土岡山の持続可能な発展のために貢献できる「岡山発グローバルリーダー」の育成を目指す。コンソーシアムと連携して、生徒は、地域におけるフィールドワークを重視した課題研究を通じて、岡山の歴史や文化を理解し、そこに内在する地域課題を解決し、郷土の持続可能な発展に向けた提言を、SDGsを踏まえながら作成する。自らの研究を深めるだけでなく、他のグループ研究にも接し、地域社会で活躍する人々と密接に関わる中で、多様性を学ぶ。課題意識を持って上級学校に進学し、将来は岡山発のグローバルリーダーとして国際社会で活躍したり、グローカル人材として地域社会を支えたりするために、自主的・自律的に行動できる人材へと成長していくことを目指す。

なお、本事業において育成したい具体的な資質・能力は次のとおりである。

（１）創造的・批判的思考力　　（２）高度な英語運用能力
（３）グローバルな視野と多様性の理解　（４）自主的・自律的な行動力と社会貢献意識

４．研究開発の概要

学校設定科目「学類コア科目」と総合的な探究の時間「GLOBALⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を教科横断的に連動させ、地域と連携して、郷土岡山の地域課題を踏まえ、創造的・批判的思考力を育成しながら、本校の類型である学類の専門性を生かした課題研究に取り組む。並行して、海外研修の充実、留学の促進、海外姉妹校等からの訪問の受け入れや英語教育の改善により、グローバルな視野と多様性の理解、高度な英語運用能力を育成する。また、学類の専門性を生かした地域ニーズに基づくボランティア活動、生徒会活動の活性化により、自主性・自律性を育成する取組を強化し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて、将来、地域社会を支えたり、国際社会で活躍したりする「岡山発グローバルリーダー」の育成カリキュラムを開発する。

５．研究開発の内容

（１）目的・目標

郷土岡山の創生のために､次代を担う多様性を理解したグローカル人材が求められている。そこで、海外や地域社会で活躍する人々から文化や社会の多様性やグローバル課題について学び、地域課題の解決に向けた地域でのフィールドワークを重視した課題研究に取り組む。それを通じて、将来グローバルリーダーとして国際社会で活躍したり、グローカル人材として地域社会を支えたりする、自主的・自律的に行動できる人材を育成する。

（２）現状の分析と研究開発の仮説

①現状の分析

本校では、平成26年からSGH事業において、「課題研究」「学類コア科目」「海外体験」を柱として、グローバルな視野と主体的・協働的な実践力を備えた人材を育成する研究開発を行った。生徒、教員及び卒業生への調査から、生徒は課題研究で育成したい基礎的な資質・能力を概ね習得し、教員も思考力、判断力、表現力を育成する協同的な活動を重視した授業実践を各教科で行うようになった。また、海外体験が高校卒業後のキャリア形成意識に有為に働いていることも明らかになった。

一方、課題として、地域でのフィールドワークを含む地域密着の取組が少なかったこと、異文化理解のための英語活用能力を十分に身に付けさせることができなかったこと、地域社会の持続的な発展に積極的に参画しようという態度の育成と活発な実践には至らなかったことなどが挙げられる。

②仮説及び期待される効果

仮説１：「課題研究」と学類を特長付ける「学類コア科目」等とを教科横断的に関連付けた新しい学びのカリキュラムを開発することによって、生徒の創造的・批判的思考力を育成することができる。

仮説２：「異文化交流」を深化させるため、英語運用能力を高度化する指導法の開発と各種海外研修及び交流事業を関連付けることによって、生徒の高度な英語運用能力、グローバルな視野と多様性の理解を育成することができる。

仮説３：学類の特長を生かしたボランティア活動の在り方等について、生徒主体の企画等も含めて研究することにより、生徒の自主的・自律的な行動力を育成するとともに社会貢献意識の醸成につなげることができる。

（３）地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

①課題研究

（ａ）「教科・科目」と「総合的な探究の時間」との関連を図った指導の展開

本校独自の学類ごとに設定した「学類コア科目」等で学類での専門性を高めるとともに郷土岡山の特色に関連した探究課題を発見させ、それを総合的な探究の時間における課題研究に関連付ける。

（ｂ）地域との連携の在り方

１年次での企業訪問（全員参加）や県主催の企業説明会等を通じた学習をもとに、２年次で地域におけるフィールドワークを行い、地域社会の課題の発見につなげる。

（ｃ）学習形態の工夫

１年次生・２年次生における課題研究をグループ研究で行い、生徒同士のコミュニケーションが活発に行えるようにする。また、全体発表会や論文やレポートの作成等により、創造的思考とそれを支える論理的思考が高められるようにする。

②異文化交流の深化

（ａ）高度な英語運用能力の開発

・三年間の指導過程・指導内容の策定
・指導法の改善（校内研究授業：年３回、授業公開：年３回）
・評価方法の開発

（ｂ）海外体験・国際交流の充実

・海外文化体験研修（カナダ・オーストラリア）【単位認定】、海外学類研修（韓国、台湾、マレーシア）、海外修学研修（イギリス）【単位認定を研究中】
・長期留学生受け入れ及び姉妹校との交流の発展（韓国：慶南外国語高等学校・金海外国語高等学校）

（４）カリキュラム・マネジメントの推進体制

①推進体制

（ａ）課題研究：カリキュラム開発係が中心となって、地域連携係と協働で学習活動の内容及び進め方について開発を行う。

（ｂ）異文化交流の深化：国際交流係と外国語教育推進係が協働で学習活動の内容及び進め方について開発を行う。

②カリキュラム・マネジメントの視点

（ａ）実施状況の評価・改善を図る方策

月単位～年単位の期間の中で、各係単位から推進委員会が定期的に進捗状況を確認できるようにする。

（ｂ）必要な人的又は物的な体制を確保し、その改善を図る方策

・県内全域との連携による学習を支援するため、地域協働学習実施支援員の協力を得ながら、地域連携係が、コンソーシアムとの連絡・調整を行う。
・海外研修の新規企画など海外との交流に係る業務について、海外交流アドバイザーの協力を得ながら、国際交流係が、連絡・調整を行う。

６．令和３年度の実施計画

（１）全体

・令和４年度からの新教育課程や社会に開かれた教育課程を踏まえ、さらなる生徒の到達度等を測定する各種調査の実施により、各取組の効果を検証したカリキュラム・マネジメントを推進する。
・各機関との連携を強化しながら、コンソーシアム運営会議及び運営指導委員会を開催し、事業の成果と課題について評価や検証を行うとともに、指導の改善に生かす。
・課題研究発表会等の開催、報告冊子の作成及びWebページの活用により、県内外へ事業の成果を発信・普及する。

（２）地域密着の課題研究

・１年次生の「GLOBALⅠ」（総合的な探究の時間）において、生徒一人一台端末の活用を図るとともに、これまでの成果と課題を踏まえた実践を行い、その成果を検証する。
・１年次生の企業訪問において、よりキャリア教育の観点も加味しながら、これまでの成果と課題を踏まえた実践を行い、その成果を検証する。
・２年次生の２時間連続の「GLOBALⅡ」（総合的な探究の時間）と学類コア科目（学校設定科目）において、これまでの成果と課題を踏まえた実践を行い、その成果を検証する。
・３年次生の「GLOBALⅢ」（学校設定科目）において、作成したシラバスを基に実践を行い、その成果を検証する。

（３）異文化交流の深化

・GTECの成績分析及び改定したCAN-DOリストを基に、高度な英語運用能力を育成する授業展開について、これまでの成果と課題を踏まえた実践を行い、その成果を検証する。
・海外文化体験研修、海外での学類研修及び海外修学研修を実施する。新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、昨年度、海外研修の代替として実施したオンライン研修プログラム等を活用し、海外研修がねらいとする、プレゼンテーション力、コミュニケーション力といった資質・能力の育成を確実に図っていく。
・海外修学研修の充実と単位認定について研究を行う。海外留学と留学生受入れ等を推進する。

（４）自主性・自律性を育成する取組

・アカデミック・インターンシップの実践研究及び学類の専門性を活用したボランティア活動について、これまでの成果と課題を踏まえた実践を行い、その成果を検証する。

７．事業実施体制

（１）研究開発に係る校内の実施体制

「岡山城東高等学校教育改革推進委員会」

（コアメンバー）校長、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、教務課長、学類主任（人文社会・理数・国際教養・音楽）、年次主任

（必要に応じて出席するメンバー）カリキュラム開発係主任（教務課長補佐）、地域連携係主任（生徒課長）、国際交流係主任（国際課長）、外国語教育推進係主任（外国語科研究主任）、情報発信係主任（総務課長）、記録係主任（図書文化課長）、会計係主任（事務室）

（２）校内係

課題項目	実施場所	事業担当責任者
「GLOBAL Ⅰ」の実施	各HR等	１年次主任　１年次GLOBAL係
大学教授等の派遣		主幹教諭
「GLOBAL Ⅱ」の実施		２年次主任　２年次GLOBAL係
「GLOBAL Ⅲ」の準備		３年次主任　３年次GLOBAL係
総合的な探究の時間のカリキュラム開発		教務課長補佐　各学類主任
公開授業	各HR等	教務課長　JLP(Joto Learning Project)
評価・検証		教務課長
大学との連携の調整		主幹教諭
企業との連携の調整		生徒課長　進路指導課長
ボランティア活動の研究		生徒課長
生徒会活動の活性化		生徒課長
英語教育の改善	各HR等	指導教諭（外国語）
海外修学研修の改善	イギリス	国際課長　教務課長
留学・国際交流の推進		国際課長　教務課長
情報発信・HP更新		総務課長
報告書作成・配布		図書文化課長
英語に関する外部検定試験支援		進路指導課長　指導教諭（外国語）
課題研究発表会	体育館等	２年次主任
成果報告会	セミナー室	主幹教諭

（３）運営指導委員会（６名）

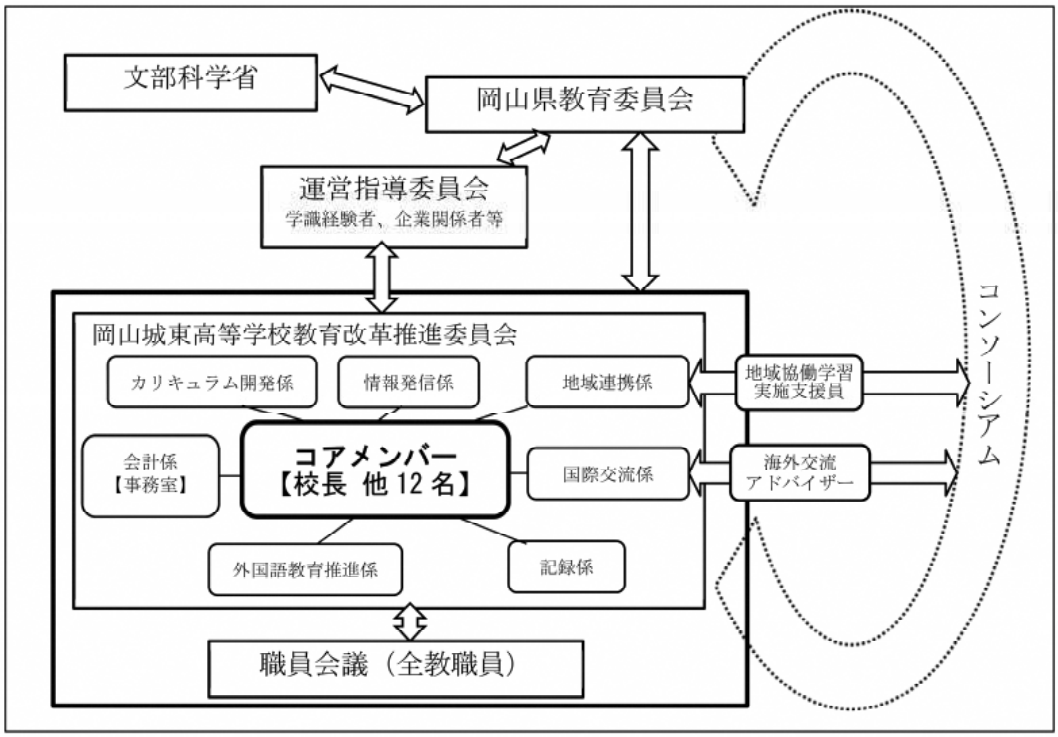
氏名	所属・職	備考
岡本　弥彦	岡山理科大学・ 教育推進機構　教職支援センター教授	課題研究の手法に関する指導
小川　正人	環太平洋大学・副学長	グローバル人材育成や探究学習に関する指導
神崎　浩二	岡山県経済団体連絡協議会・事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知見
国定　啓人	山陽新聞社編集局・局次長	グローバルな社会課題、地域課題に関する知見
杉山　慎策	中国学園大学・中国短期大学・副学長	高度な英語力の育成に関する指導
谷一　　尚	一般財団法人林原美術館・館長 山陽学園大学・副学長	地域文化に関する知見 グローバル人材育成に関する指導

（４）高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
岡山県	知　事・伊原木　隆太
岡山市	市　長・大森　雅夫
岡山県経済団体連絡協議会	座　長・中島　博
岡山大学	学　長・槇野　博史
岡山県立岡山城東高等学校	校　長・前川　隆弘
岡山県教育委員会	教育長・鍵本　芳明

（５）カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	朴　浣	岡山県県民生活部国際課国際交流推進員	県庁職員の業務の一環として
	アラン・チャンブリス	岡山県県民生活部国際課国際交流員	県庁職員の業務の一環として
	大塚　崇史	岡山県教育庁高校教育課指導主事(主幹)	県庁職員の業務の一環として
地域協働学習実施支援員	木科　孝夫	岡山県教育庁生涯学習課社会教育主事（総括主幹）	県庁職員の業務の一環として
	大塚　崇史	岡山県教育庁高校教育課指導主事(主幹)	県庁職員の業務の一環として



８．課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（令和３年度）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○「GLOBALⅠ」の実施												
年間指導計画等作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
評価の研究・実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○「GLOBALⅡ」の実施												
年間指導計画等作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
評価の研究・実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○「GLOBALⅢ」の実施												
年間指導計画等作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
評価の研究・実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○英語教育の充実												
指導方法の研究・実践	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海外研修の実施と単位認定の研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
海外修学研修の準備・改善	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
留学・国際交流の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○自主性・自律性の育成												
ボランティア活動の実践	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生徒会活動の活性化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○外部機関との連携												
大学・企業との連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
NPO法人との連携開発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○事業評価												
事業評価の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○会議の実施												
運営会議の実施	○	○				○					○	
コンソーシアム運営会議の実施		○				○					○	
運営指導委員会の実施						○					○	
教育改革推進委員会の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○研究成果の発信												
研究冊子等の作成								○	○	○	○	○
HPでの発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
成果報告会の実施											○	

９．成果の普及及び評価・検証

・課題研究中間発表会、課題研究発表会及び成果報告会を開催する。
・事業の評価・検証を行い、報告冊子の作成やWEB ページを活用して成果の普及を行う。
・生徒の到達度等を測る各種調査を実施する。(GPS-Academic、独自作成質問紙調査、教員意識調査、卒業生調査)
・運営指導委員会、コンソーシアム運営会議により、事業の進捗状況の確認と成果の評価・検証を行う。

第２章　地域密着の課題研究
第１節　「GLOBALⅠ」の実施

１．シラバス・年間指導計画

（１）「GLOBALⅠ」の基本的方針

「GLOBALⅠ」は、１年次全員を対象とし、「総合的な探究の時間」（１単位）において課題研究に必要となるスキル学習や演習を学んだ上で､グループでの課題研究に取り組む。昨年度に引き続き、１学期は研究発表に必要な基礎的な知識や技能を身に付けさせるための「スキル学習」を行い、２学期は「SDGs 持続可能な世界を実現するための 17 のゴール」の中から自らの興味や関心に合わせてグループを編成し、研究を行った。

生徒が協力しながら共通の課題について情報を収集し、解決策を研究するための指導助言は、主にクラス担任が支援を行う。講演会やスキル学習の一部においては、外部講師を招き、指導助言を得た。

（２）生徒の状況と「GLOBALⅠ」の方向性

今年度は GIGA スクール構想のもと、生徒が一人一台端末の iPad を所有するという大きな変化があった。日頃から様々なデバイスを使い慣れている生徒たちの多くは、インターネットを用いた情報収集、発信、共有といった面では高い技能を持つ。その一方で、手軽に得られた情報のみで端的な結論を出してしまい、そこからさらなる課題を見出して情報を基に自分なりの見解を持とうとする姿勢は依然として乏しい。複数の情報を多角的・客観的視点で捉え、理解・活用していく力を身に付ける必要があるのに加え、情報の正誤の判断の仕方や著作権についての理解も十分でないために、他から得た情報を正しく引用することには大きな課題があった。

「GLOBALⅠ」前期では、教科の特性を生かした「スキル学習」を研究活動に先立って行い、課題研究を進めていく上で基礎的な知識や技能を習得することとしている。文献やインターネット上での情報の引用の仕方、著作権についての他、実験、アンケート、インタビューによる独自調査の方法、RESAS を用いた情報収集の仕方、収集した情報の整理の仕方を学習させた。年次所属教員がそれぞれ自分の教科での強みを活かして必要な知識・技能をお互いに共有し合うなどして実施することとした。

「GLOBALⅠ」後期では、課題研究において情報収集だけでなく、可能な限りグループでのディスカッションに時間を費やすことができるように配慮した。情報収集等の作業は基本的に家庭や授業外で行うことを指導し、事前に目を通した参考文献、必要な情報を Google ドライブで共有するなどしながら「GLOBALⅠ」の時間に持ち寄ることで、コンピュータ室や図書館ではなく教室においてのディスカッションや資料作りに重きを置いた。

各教科との連携のもと進めた。「情報の科学」の授業では、生徒は１学期からプレゼンテーション、文書作成、表計算ソフトの使用法や、Google Forms を用いたアンケートの取りまとめ方等、iPad を利用した様々な技術を学ぶなど、「GLOBALⅠ」での学習活動に必要な技術的な面の習得をしてきた。また、夏季休業課題として数学科・情報科が「統計グラフコンクール」に応募する作品作成を課すことで、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりすることができるようにした。

「SDGs 持続可能な世界を実現するための 17 のゴール」からテーマを一つ選択し行う課題研究においては、自らと岡山、世界とのつながりを意識させ、自らが当事者となって問題解決に臨む姿勢を身に付けさせ、地域から世界に、世界から地域へと視野を移し、グローバルかつローカルな視点や意識を常に持つことのできる人材を育成することが必要である。他者の意見を鵜呑みにするのではなく、多面的、批判的に解釈し、積極的に質問、意見することで、質の良い共有とさらなるアイデアを生み出そうとする姿勢を持てるようにしたい。「GLOBALⅡ」に向けて更なる検討を重ね、学類ごとにさらに各自の進路の方向性に見合う、そしてより専門性の高い研究ができるよう改善していきたい。

（様式４－２）

総合的な探究の時間　年間指導計画

令和３年度

学校名　県立岡山城東高等学校　　記入責任者　國定　英之

名称	科・コース	学年又は年次	単位数
ＧＬＯＢＡＬＩ	普通科	１年次	１単位

学習活動	時数	学習活動の詳細	実施上の留意点
１．スキル学習	14	【各教科と連携しながら課題研究を進める上で必要なスキルを習得させる】 ①講演会　課題研究の意義について理解させる。 ②クラス討議 グループで意見を出しあい、それらをクラスの意見へとまとめ上げるよう指導する。 ③研究倫理に関して 引用文献・参考文献の取り扱い方を学ばせる。 ④研究手法について 文献調査、アンケート調査、インタビュー調査等の手法を紹介し、研究計画書の作成させる。 ⑤調査・実験の実行および結果のまとめ 調査・研究の方法を紹介し、結果のまとめ方、論理的な考察の立て方を学ばせる。 ⑥研究内容をまとめる、発表方法について 研究要項・論文の作成方法を理解させる。プレゼンテーションの技法やポスター発表の仕方を習得させる。	・課題研究の意義がよく伝わるよう人選に配慮する。 ・振り返りの場を必ず用意し、今自分がどのようなスキルを身につけ、そのスキルをどれぐらい活かせるかを確認させる。 ・各教科との連携を図り、「総合的な探究の時間」だけではどの部分が伝えられていないか把握する。
２．課題研究	22	【スキル学習で学んだことを使って、身近な問題についての課題研究を行わせる】 ①班編制 各クラス５人程度の班を８班編制させる。 ②研究テーマの決定 SDGsの１７の目標から研究テーマを決めさせる。 ③RQの設定、仮説を立てる ②のテーマについての先行研究・事例からRQを導き出させる。そのRQに対する仮説を立てさせる。 ④研究計画書の作成 研究の目的を明確にし、実行可能性を検討しながら研究計画書を作成させる。 ⑤調査・研究・検証 スキル学習で学んだ研究手法を駆使して、仮説を裏付ける調査・研究を行わせる。その結果をまとめることで仮説を検証させる。 ⑥研究内容のまとめ・発表 研究論文を作成させる。発表用のプレゼンテーションをPowerPointで作成させる。班の中で分担して作成したものをひとつにまとめさせる。 クラス発表で代表を選出し、全体発表会で発表させる。	・SDGsの17の目標の重要性をよく理解させ、身近な問題から研究テーマを見つけさせる。 ・毎回、振り返りをさせ、研究の進捗状況を確認させる。さらに、今後の展望を検討しながら研究全体の見通しが立てられるよう指導する。 ・発表時に注意すべき事項を確認させ聞き手に伝わるような発表ができるよう指導する。
３．企業訪問	3	【キャリア教育として、企業を訪問することで地域の企業の取り組みがグローバルな社会と関わっていることを理解させる。】 ①訪問先 コンソーシアムの協力を得て訪問する企業を紹介してもらい、生徒に選択させる。 ②訪問内容 SDGsとの関わりを説明してもらう。 ③事後研修 振り返りを行い、職業選択の参考とさせる。	・生徒の希望とのマッチングがうまくいくように配慮する。
時　数　計	39		

備　考	

２．実施概要

（１）研究における目標

「GLOBAL Ⅰ」においては、「SDGs 持続可能な世界を実現するための17のゴール」からテーマを選択し、岡山、世界とのつながりを意識し、自らが当事者となって問題解決に臨む人材を育成することを目標としている。この課題研究の過程において、生徒達は①自らの意見を述べることができる。②他の意見を受け入れることができる。また、その雰囲気づくりができる。③相手の意見を受け、批判的に考えて自らの意見を言うことができる。という昨年同様の３段階の力を付けていくことが必要となる。

（２）スキル学習

１学期は各教科の教員が順に授業を行い、昨年度から採用したベネッセコーポレーションの「探究ナビ」を活用して研究に必要な基本的なスキル学習を行った。新型コロナウイルス感染防止による時程短縮の影響もあったが、例年と同じ時間数を確保することができた。今年度は統計スキルを身に付けるため、生徒一人一台端末を活用し、経済産業省による「RESAS出前講座」をオンラインで受講した。

<table>
<tr><th>日付</th><th>1組</th><th>2組</th><th>3組</th><th>4組</th><th>5組</th><th>6組</th><th>7組</th><th>8組</th></tr>
<tr><td>6/1</td><td colspan="2">シンキングツール
（各HR）</td><td colspan="2">研究手法・文献調査
（合併教室）</td><td colspan="2">研究倫理・インタビュー
（各HR）</td><td colspan="2">仮説・実験・検証ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
（生物教室）</td></tr>
<tr><td>6/8</td><td colspan="2">研究手法・文献調査
（合併教室）</td><td colspan="2">研究倫理・インタビュー
（各HR）</td><td colspan="2">仮説・実験・検証ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
（生物教室）</td><td colspan="2">シンキングツール
（各HR）</td></tr>
<tr><td>6/15</td><td colspan="2">研究倫理・インタビュー
（各HR）</td><td colspan="2">仮説・実験・検証ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
（生物教室）</td><td colspan="2">シンキングツール
（各HR）</td><td colspan="2">研究手法・文献調査
（合併教室）</td></tr>
<tr><td>6/25</td><td colspan="2">仮説・実験・検証ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
（化学教室）</td><td colspan="2">シンキングツール
（各HR）</td><td colspan="2">研究手法・文献調査
（合併教室）</td><td colspan="2">研究倫理・インタビュー
（各HR）</td></tr>
<tr><td>6/29</td><td colspan="8">統計（RESASの活用法）</td></tr>
</table>

①研究手法・文献調査：研究手法の種類と文献調査の仕方（地歴科担当）

実際の文献調査やグラフ読み取りで必要な技術や注意すべき点を学ばせる。どのような機関が資料や報告書を作成したりしているのか、どのような文献を参考にしたらよいのかを明らかにする。

②仮説・実験・検証ガイダンス：仮説を立てた上での実験、検証（理科担当）

実験による研究の進め方の手法を知り、仮説の立て方や検証の方法を実践する。

③シンキングツール：シンキングツールの種類と効果的な使い方（情報・英語・家庭・芸術科担当）

アイディアを広げ、情報不足に気付くための「イメージマップ」の使い方を知る。原因を発見し、具体的な解決策を考えるための「ロジックツリー」の使い方を知る。シンキングツールを補助として、思考の深め方を理解する。

④研究倫理・インタビュー：結論の導き方やインタビュー法（国語・数学科担当）

主な研究不正として、改ざん・捏造・剽窃（盗用）があることを確認する。剽窃（盗用）と引用の違いを確認する。インタビューの手順を実践で学ぶ。

⑤統計（RESASの活用法）：統計スキル学習（数学・情報科担当）

地域密着の課題研究に取り組むなか、地域の現状や実態を正確に把握するためにRESASを用いた手法を学習させるとともに、今後の探究活動や地域密着の課題研究において地域の課題やグローバルの課題を見いだした研究を深めさせる。

（３）課題研究

9	24	金	研究①	『探究ナビ』p.38,39と 付録ワーク SDGsのゴール毎にグループを作る。
10	15	金	講演会	「探究のプロセスを大切にした課題研究の進め方」
10	19	火	研究②	『探究ナビ』p.44～46と付録ワーク Research Question（課題）を設定。 探究計画書及び文献調査リストの作成
10	22	金	研究③	
10	26	火	研究④	『探究ナビ』p.48～p.51と 付録ワーク調査・実験（1）
11	5	金	研究⑤	『探究ナビ』p.48～p.51と 付録ワーク調査・実験（2）
11	12	金	研究⑥	結果・考察をはさんで調査・実験（3）
11	19	金	研究⑦	『探究ナビ』p.48～p.51と 付録ワーク調査・実験（4）
11	30	火	研究⑧	『探究ナビ』p.48～p.51と 付録ワーク調査・実験（5）
12	14	火	研究⑨	『探究ナビ』p.101 結果・考察
12	21	火	研究⑩	『探究ナビ』p.106,107 プレゼンの技法
1	7	金	研究（補足）	『探究ナビ』p.106,107 プレゼンの技法
1	11	火	研究⑪	発表準備（スライド表紙＋5枚を目安に作成）
1	14	金	研究⑫	発表準備（スライド表紙＋5枚を目安に作成）
1	18	火	クラス発表①	クラス発表会①（スライド提出、相互評価、クラス代表選出）
1	21	金	クラス発表②	クラス発表会②（スライド提出、相互評価、クラス代表選出）
1	28	金	発表準備①	代表班：発表準備、その他の班：研究収録準備
2	1	火	発表準備②	代表班：発表準備、その他の班：研究収録準備
2	3	木	全体まとめ	全体発表会（体育館）
2	15	火	全体まとめ	評価等 まとめ

① 研究テーマ

「SDGs 持続可能な世界を実現するための17のゴール」をテーマに研究を始めて３年目になる。１学期は授業時間の短縮があり、スキル学習については学習時間が短くなったが、２学期からの「研究①～⑫」に関しては、昨年と同等の時間数を確保することができた。SDGsについて深めるために、「探究ナビ」の該当ページを学習すると同時に、各々過去の先輩の研究収録等も参考にしながら、興味・関心の近い生徒同士で５・６人のグループを編成し、１クラス７～８グループ程度のグループで研究を進めた。もちろん複数の生徒の興味や関心が同じにはならないが、話し合いながら一つのテーマで研究を深めていかねばならない過程において、自分の意見を述べると同時に他の意見を受け入れ、とりまとめていく力が必須となった。

② 研究手法・一人一台端末の活用

テキストに従い「アンケート」「インタビュー」「実験」等の研究手法を提示し、生徒が自分たちの研究にあわせて手法を選んだ。手法に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で出向いていくことが困難になり、直接企業や団体を訪問することがかなわなかった。

データをクラウド上におくことで、タブレット端末での共同編集が可能となり、新たな手法で研究を進めることができた。１人１台端末の利点を生かし、ClassiやGoogle Formsを活用して、校内の同級生にアンケートを実施するなどして研究を深めたグループもあった。

③ 考察・結論・展望

昨年度と同様に、生徒達は外部等の第三者からアドバイスをほとんど受けることなく研究を進めざるを得なかった。SDGsの地球規模での課題について、先行研究を調べてまとめることはできても、新たな課題を発見したり、高校生ができる解決法や改善策を考えたりすることは大変難しく、担当教員から何度も軌道修正のアドバイスを受ける場面が少なくなかった。調査をもとに結果・考察をまとめる際、論理的に展開していくことに苦労している生徒や、筋が通っていないことを認識できていない生徒が目立った。ただ、未熟ながらも自分たちなりに探究心をもって解決策を見出そうと研究する姿勢や意欲的な意見交換は多く見られ、成長の良い機会となった。

④ 教室発表・質疑応答・代表決定

今年度も、体育館発表を学年から２グループ、教室発表をそれぞれ各クラスから３グループずつ選出した。クラス発表での生徒の相互評価と担任の評価を総合しクラス代表を決定した。生徒の相互評価では目を引くパフォーマンスを行ったり、身近な意見を取り入れたりしているグループに高い評価をつける傾向があり、担任の評価と齟齬を生じるなど、次年度へ課題を残した。クラス代表決定後、年次の教員間でクラス代表８グループの発表データを共有し体育館で発表する学年代表２グループを決定した。発表データは共有ドライブに保存させていたことから、比較検討をスムーズに行うことができた。

３．講演会の実施

（１）目的

課題研究に取り組むに当たり、必要な資質・能力はどのようなものか、そしてその資質・能力が将来どのように活かされるのかを理解するとともに、実際に行われている岡山県での取組を知ることにより、主体的に課題研究に取り組む姿勢を身に付ける。また、課題研究を行うに当たって必要なデータ収集の手法や課題研究の進め方を習得する。

（２）実施内容

目的に基づき、年４回の講演会を実施した。第１回は「GLOBAL Ⅰ」の第１時に、本校教員による課題研究全体についての講義及びワークショップを行った。第２回は、地域の現状や実態を正確に把握するための RESAS を用いた手法を学習する機会とした。第３回は、ESD や SDGs の 17 の目標が作成された背景やターゲットなどについて理解を深めるとともに、実際に SDGs の達成に取り組む岡山市の実践を通して再確認することで、課題研究のゴールをより明確にする機会とした。第４回は課題研究を始めるに当たって、探究活動の意義や具体的な探究のプロセスについて学ぶ機会とした。

（３）Google Classroom の活用

すべての講演会の資料は、「GLOBAL Ⅰ」の Google Classroom に掲載し、事前学習のための閲覧や、事後の振り返り学習に活用した。外部講師の方々にも快くスライド資料を提供していただき、生徒は自分の iPad などを使い PDF 化された資料をいつでも閲覧できる。

■第１回

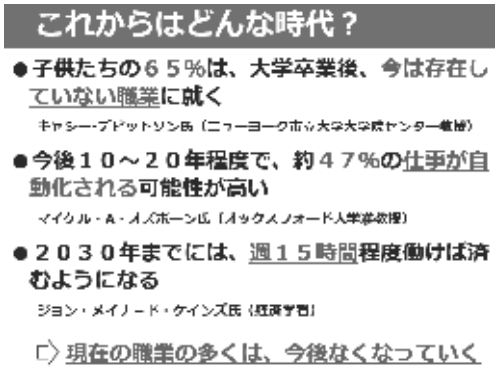
期日　令和３年５月 25 日

講師　大西　宏和　岡山県立岡山城東高等学校　主幹教諭
　　石原　明子　岡山県立岡山城東高等学校　教諭
　　枝松　鈴子　岡山県立岡山城東高等学校　教諭

演題　「GLOBAL Ⅰ」イントロ

概要　課題研究でどのような能力を養うことができ、その能力が社会のあらゆる場面で求められていることを知り、「GLOBAL Ⅰ」での取組内容を俯瞰した講演を本校教員で行った。

まず初めに、Society5.0 の時代の到来や AI やロボット技術の発達によって、その便利さと引き換えに、現在ある多くの職業は今後なくなっていくという未来予測を確認した。続いて、現在の地球全体、世界、日本が抱える貧困や格差、食料不足などのさまざまな課題を認識することができた。また、身近なところにも探究の材料は転がっており、常にアンテナを張っておくことの大切さや同じ高校生が行っている地域貢献活動などを知ることで、自分たちにできることを考える契機となった。講演会の後半では、周囲の数人でグループ活動を行い、岡山県の魅力や課題について考えることを行った。



講演資料の一部

探究のプロセスとは（石原教諭）

クイズも交えてワークショップ（枝松教諭）

■第２回

期日　令和３年６月 29 日

講師　住田　由香　氏　経済産業省 中国経済産業局 総務企画部 企画調査課
地域経済分析システム普及支援調査員

演題　「RESAS ワールドへようこそ！」

概要　地域密着の課題研究に取り組むなか、地域の現状や実態を正確に把握するために RESAS を用いた手法を学習させるとともに、今後の探究活動や地域密着の課題研究において地域の課題やグローバルの課題を見出した研究を深めさせる目的で実施した。

RESAS（Regional Economy Society Analyzing System:リーサス)とは地方創生の様々な取組を情報面から支援するために経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供している地域経済分析システムである。

新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインによる講演を行った。生徒は説明を受けながら、自分の iPad を用いて、RESAS の様々なデータを画面に映し、地域の現状や状態を把握するためのデータの収集方法について実践しながら学習することができた。実際の画面を操作しながらデータ収集の方法を習得することは、一人一台端末の利点を生かした講演となった。

昨年度の第１回コンソーシアム運営会議において、委員から「探究活動に生かせるツールとして、「RESAS」がある。高校の教員が活用して教材化を進めている事例もある。探究活動に使えるワークシートなどもダウンロードできるので、活用できるのではないか。」という御意見もいただいている。

Zoom を利用しオンライン受講

一人一台端末（iPad）の活用

■第３回

期日　令和３年７月 13 日

講師　岩田　裕久　氏　岡山市市民協働局市民協働部 SDG s ・ESD 推進課課長

演題　「持続可能な社会を目指して～SDGs から考える私たちの未来～」

概要　課題研究の研究テーマ設定を行うに当たって、SDGs の 17 の目標が作成された背景やターゲットなどについて理解を深めさせるとともに、今後の探究活動にお

いて SDGs の観点を踏まえた地域の課題やグローバルの課題を見い出し、研究を深めさせることを目的とした。

SDGs 策定までの経緯や理念を、岡山市の取組を通して、再確認できた講演会であった。森林破壊やプラスチック製造の現状を知り、生徒は想像以上に地球が深刻な状況であることに驚き、強い危機感を持つこととなった。SDGs の目標やターゲットは一つ一つが独立したものでなく、密接に絡み合っていることを理解し、一人ひとりのちょっとした行動や習慣を変えることで少しずつ世界を変えられる可能性をもっていることを知り、これからの世界は自分たちが作っていくという覚悟や「学ぶだけでなく、学びを行動に移す」ことの大切さを再認識する機会となった。

■第４回

期日　令和３年 10 月 15 日

講師　岡本　弥彦　氏　岡山理科大学 教育推進機構 教職支援センター教授

演題　「探究のプロセスを大切にした課題研究の進め方」

概要　地域密着の課題研究を始めるに当たって、探究活動の意義や探究のプロセスについて理解を深めさせるとともに、今後の探究活動や課題研究において意欲的に取り組ませることで、よりよく課題を発見させ研究内容を深めさせることを目的とした。

課題設定のためには「比較・関連づけ・変化」を効果的に用いることが大切であり、課題研究を進めていく上では高校生が行う研究もノーベル賞を受賞するような研究もその手順や手法は同じであること、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り」という同じサイクルを異なる目的で繰り返す必要性などを学ぶことができた。多くの生徒からはこれから進めていく課題研究に対する不安が和らぎ、研究を進めていく指針を得ることができたとの感想が寄せられた。

昨年度の課題も踏まえ、本年度は外部講師による課題研究講演会を実施した。昨年度の第３回コンソーシアム運営会議において、委員から次のような御意見もいただいた。「他校の課題研究を指導しているある大学の教員が、「高校の課題研究は何を目指しているのか」ということを言っていた。課題研究を進めていく上での課題として、取組を次の学年へとどう引き継いでいくのか、そして、方法論も含めて成果をどう蓄積していくのか、ということが十分できていないということがあるのではないか。」

４．企業訪問

（１）目的

地域と連携して専門性の高い課題研究に取り組むことを目指すなか、地元企業を訪問することで、SDGsも含めた地域課題に取り組む企業の実態や世界市場で活躍する企業戦略等を学習し、将来の進路を考えさせるとともに、自分と社会との関わりについての考えを深めさせる。

（２）実施概要

今年度は７つの企業の協力で実施した。１年次生全員を対象とし、事前に自らの興味・関心や将来の進路に合わせて訪問先の希望調査を行い、訪問先を決定した。７月末に企業訪問ワークシートを配付し、企業訪問の目的と今後の予定を確認した。

企業訪問の目的	①企業におけるSDGsの取組を知る。 ②企業からみた岡山県（地域）の課題を知る。 ③今後の「地域密着の課題研究」や自らの将来（進学を含め）を考える契機とする。

事前学習として、「訪問企業の業務内容や経営方針、社会貢献活動や地域貢献」、「自分がその企業に就職するとしたら、そこでしてみたいこと」について考えさせるとともに、SDGsの目標との関連についても意識させた。８月17日(火)に訪問先ごとに事前研修を行い、企業についての理解を深めたり、訪問の目的の確認をした上で、８月19日(木)･20日(金)の午後、企業訪問を実施した。(一部、10月13日(水)･第３回定期考査最終日午後に実施。)

	企業名	訪問日		参加生徒数
1	(株)両備ホールディングス	８月20日(金)		20名
2	(株)ベネッセホールディングス	８月19日(木)	８月20日(金)	35名×2
3	(株)ナカシマプロペラ	８月19日(木)	８月20日(金)	35名×2
4	(株)オージー技研　邑久工場	８月19日(木)	８月20日(金)	35名×2
5	(株)岡山トヨタ自動車	10月13日(水)		20名
6	(株)菅公学生服	８月20日(金)		35名
7	(株)中国電力	８月19日(木)		35名

（３）「おかやまSDGsマップ」の活用

訪問先の受入については、「おかやまSDGsマップ」を活用し、訪問先に依頼を行った。一般社団法人岡山経済同友会ホームページ（https://okadoyu.jp/）にも公開されている。Google Classroomにも掲載しており、生徒もPDFファイルの閲覧ができるようにしている。

（４）訪問先の様子

（５）実施後の生徒アンケート・振り返り

それぞれの企業からは、SDGs17のテーマとの関連に触れながら、企業の理念や活動についての説明があり、生徒が実際に商品に触れる機会や新しい事業を企画する機会などが提供された。生徒の振り返りをみると、思ってもみなかったSDGsのテーマとの関連に気づいたり、社会貢献の方法の多様さを知ったり、それぞれに多くの驚きと発見があったことがわかった。また、地域の抱える課題について自らにも関連することとして捉えたり、世界市場を活動の拠点とした地元企業の活躍を知って視野を広げる契機としたりしており、生徒には非常に貴重で有意義な経験となった。

設問３（目的１の達成）企業におけるSDGsの取組を知ることができましたか。

【菅公学生服】
身近な制服の会社が多くの項目に取り組んでいて驚いた。また、会社内で特別に環境に配慮した開発のための部署を作っていることにも衝撃を受けた。着眼点を変えれば、環境保全の方法はいくらでも見つけられることを学んだ。機能のよい制服や体操服でさえも環境保全につながっていることを知り、自分が着ている制服に誇りを感じた。

設問４（目的２の達成）企業から見た岡山県（地域）の課題を知ることができましたか。

【両備ホールディングス】
岡山県の若者の減少について。就職や学業のために都会へ出る人が多く、そのまま地元に戻らない人が多いことがわかった。若い人がいなくなると農業などの産業が厳しくなるだけではなく、医療・福祉にも大きく影響してくるため、対策しなければならない課題ということを学んだ。

設問５（目的３－１の達成）今後の「地域密着の課題研究」を考える契機となりましたか。

【ベネッセ】
多くの課題に触れ、企業の取り組みを知り、もっと地域や地域課題に関心を持って生活したいと思うようになった。課題が手遅れになってしまってからでは遅い。今できることを今実行していきたい思った。企業訪問に行くまでは、このような考えにも至らなかった。また、ベネッセのような仕事にも関心を持つことはなかった。だが、このような仕事も将来の選択肢に加わった。加えて、社員の方がおっしゃっていたように、身近な人やものから考えて、自分にできることを考え、実行していきたいと思った。

設問６（目的３－２の連成）自らの将来（進学を含め）を考える契機となりましたか。

【ナカシマプロペラ】
進路の視野が広がり、たくさんの刺激をもらった。ほとんど知らなかったシンガポールについてとてもよく知ることができる機会だった。実際に多国籍の方々とお仕事されているのはかっこいいと思ったし、シンガポールの都心をライブしてくださりワクワクした。ここにいつか行ってみたり、ビジネスをしたいと思った。シンガポールにおられる社員の方 が英語を学んで、今は外国の方と仕事されているこ とから、私も英語などの語学を学ぶことを真剣に頑張ろうと思った。海外で働くことは私の目標だと改めて強く思った日だった。

【実施後アンケート】肯定的回答率

・企業におけるSDGsの取組を知ることができたか。（96%）
・企業から見た地域（岡山県）の課題を知ることができたか。（82%）
・自分の将来を考える契機となったか。（82%）

（６）次年度に向けて

実施後に教員、企業に対してアンケートを行った。実施時期と実施規模については概ね適切であった。生徒の変容についても次のような記載があった。「働くことの楽しみも感じられたように思う。」「事前学習にも真剣に取り組んでおり、SDGsについての学びも深まった。」「生徒達も、振り返りから岡山市（地域）のために自分達ができることは何かを真剣に考えるきっかけになったようだ。」「実際の企業のSDGsに対する取組や岡山の課題を知ることで、多くの疑問を持ったようだ。課題研究に繋げようとする姿勢が見られた。」

今年度は、生徒の振り返りをはじめとする「企業訪問まとめ」の冊子を作成し、お世話になった企業へもお送りすることで、成果や課題を共有することができた。

５．今年度の成果と課題

（１）成果

スキル学習、SDGs 講演会、企業訪問、課題研究講演会、課題研究の一連の流れが確立し、「総合的な探究の時間」を軸に新学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラム開発に繋がった。学校自己評価アンケートの結果からも、他者と協力した課題解決、グローバル視野育成の項目で生徒評価が高い。

スキル学習では、今年度も１年次の担任と各教科の教員が連携し、後半の課題研究の充実を目指して実施できた。昨年度に引き続き、シンキングツールを活用して、生徒はグループと自らの考えを深めることができた。スキル学習後の企業訪問での振り返り、課題研究におけるテーマ設定でもシンキングツールを使い、多面的に思考する場面が見られた。また全生徒に統計グラフコンクールへの応募作品を作成させ、優秀な 23 作品を応募するなど、数学科と情報科が連携した教科横断的な学びにより、学習の意欲が高まっている。

SDGs に関する講演会を実施し、「持続可能な社会を目指して～SDGs から考える私たちの未来～」というタイトルで、持続可能な社会の実現のために解決しなければならない課題や、世界を変えるための 17 の目標について理解させ、課題研究を一層深めるための契機となった。生徒からも概ね好評であった。

企業訪問では、SDGs と絡めたワークシートを、事前、訪問、事後を通して活用することで、目的意識を明確に持って企業訪問に臨むことができた。今年度も、生徒が訪問先を選択できるようにし、それぞれの興味・関心にあった企業への訪問となった。特に、企業における SDGs の取組に対する理解が、実施後のアンケートから高い肯定的回答を示した。また、２年次の学類選択も踏まえた１年次団の教員による訪問選択の指導が行われた。

また、今年度から生徒が一人一台端末を使用するようになり、さまざまな場面での活用が図られた。特に、プレゼンテーションの発表と準備、グループでの学習においては、端末を使用することで、情報共有をしたり同時に作業を行ったりと、学びの手段が広がった。

（２）課題

一人一台端末の使用では、生徒はさまざまな場面で活用している。反面、端末の活用に教員の得意、不得意があるため、今後より一層、一人一台端末のさらなる効果的な活用方法を研究するため、研修を進めていく必要があると考えられる。

課題研究では、SDGs に関連付けた課題を設定し、文献調査にとどまらず製品の試作、実験、アンケート、インタビューなど多様なアプローチで課題に取り組んでいた。コロナウイルス感染拡大防止による制約があり、さまざまな取組に制限がかかる中で、ウィズコロナの視点から現状に合った取組を考えていく必要がある。その代わりに担任による指導を通して、議論を深められたことはよかった。

課題研究発表会の様子から、質疑応答に関しては、あまり慣れていないようだった。「GLOBAL Ⅰ」の中で指導できればよいが、発表スキルのように、他の教科、教育活動でも育むことができるよう方策を研究したい。

スキル学習では、一定の内容を確立することができているが、さらなる教科横断的な指導の在り方を研究し、課題研究が一層充実するようにしたい。

企業訪問では、訪問企業との繋がりを大切にするとともに、事業終了後の継続的な訪問についても、早期に検討したい。

（３）次年度の取組

課題研究では、最終発表会までその都度、活動内容をまとめ、振り返りシートを用意したが、課題研究のリサーチ、発表準備が始まると時間に追われ、その都度の振り返りが疎かになりがちだった。また、今年度から導入の生徒一人一台端末の活用について、使用法やポートフォリオの蓄積について、より一層の研究を進めていきたい。

シラバスや評価方法の検証と改善、一層の教科横断を目指した指導の改善、総合的な探究の時間と特別活動の計画の完成を目指して進めて行きたい。

第２節　「GLOBALⅡ」の実施

１．シラバス・年間指導計画

（１）「GLOBALⅡ」の基本的方針

「GLOBALⅡ」は、２年次生全員が履修することとしており、グループで研究する学習形態により、生徒のコミュニケーション力や協働する力を育成する。SGH で取り組んできた「GLOBALⅡ」と異なる点として、「学類コア科目」と「GLOBALⅡ」を連動させることによって、学類ごとにグループを編成し、各学類の特徴や専門性を生かした探究活動に取り組む。また、教科・科目の知識を学びながら世界の諸地域の文化や生活について幅広い教養を身に付けられるよう、新たなカリキュラムでは地域におけるフィールドワークを幅広く行うことを通して、より実証的な研究になるよう工夫する。

さらに、「GLOBALⅠ」で経験した探究型課題研究をより深めるため、岡山大学の教員や経済界等と連携し、専門的な立場から研究テーマについての指導や助言を受ける。イングリッシュ・ティーチャーとして３名の外国人講師からの協力を得て、より深い研究活動を目指す。また、プレゼンテーション能力を高めるために、9 月下旬から 10 月にグループ毎の中間発表、１月にはグループ毎の研究成果発表会を行い、その結果をもとに選抜された代表班が２月の課題研究発表会で発表を行う。

（２）「GLOBALⅡ」の方向性

「GLOBALⅠ」で学んだ技術や手法をもとに、より発展的な探究型学習を週３時間の授業を中心に展開する。学校設定科目「学類コア科目」（１単位）と、総合的な探究の時間「GLOBALⅡ」（２単位）を教科横断的に連動させることで、学類の専門性を生かした課題研究に取り組む。従来の学類コア科目をベースとしながらも、週３時間の一貫性をもった探究活動とする。

学類・コア科目毎に合計 10 グループを編成し、さらに各グループで数班に分かれて課題研究に取り組む。外部からの支援として、各グループは、10 月の中間発表と１月のグループ内研究成果発表会の２回、岡山大学教員から指導を受ける。また、英語発表を予定する班には、毎時間 ET から指導を受けることができる体制を整え、語学力に対する意識を高める。なお、研究過程で何らかの情報収集が必要となった場合には、企業や公的機関等の訪問も含め、積極的にフィールドワークをするように勧める。最終的に、中間発表を含め何度か予定している発表会では、発表者としてのプレゼンテーション能力とともに、聴衆として質問する力を高める機会と捉える。

（３）教員間での方針の共有

昨年度に引き続き、学類や教科の専門性を生かしながら、SDGs との関連を意識し、地域社会の問題解決につながるようなテーマを設定することが望まれる。課題研究のテーマ設定や研究手法については、各グループの指導教員に一任しつつ、朝礼や年次会議で情報や取組を共有しながら進めた。年間指導計画やルーブリック、研究成果の様式については年次で統一するようにした。「GLOBALⅠ」での経験やこれまでの２年次生の取組を参照しながら、進めるようにした。

「GLOBALⅡ」の時間は、原則として２年次所属の教員が指導し、「学類コア科目」の時間は、教科指導の立場から他年次教員も指導に加わる場合があった。したがって、週３時間のすべての指導に関わることができない教員もいるので、生徒への指導が継続できるように、関係教員で緊密に連携することで適切な指導が行えるようにした。

（様式４－２）

総合的な探究の時間　年間指導計画

令和３年度

学校名　　岡山県立岡山城東高等学校　　記入責任者　　國定　英之

名　　称	科・コース	学年又は年次	単 位 数
ＧＬＯＢＡＬⅡ	普通科	２年次	２単位

学習活動	時数	学習活動の詳細	実施上の留意点
１．探究的学習	36	【学類の特徴を活かしながら、グローカルな問題についての課題研究を行わせる】 ①講座編成 学類特有の科目との２時間連続の授業設定で実施する。 ②研究テーマの決定 学類特有の科目と関わりのある研究テーマを設定させ、SDGsの１７の目標と関連づけさせる。 ③RQの設定、仮説を立て、研究計画書の作成 GLOBAL Ⅰの経験を活かし、RQを設定させ、それに対する仮説を立て、研究計画を考えさせる。 ④調査・研究・検証 インタビューやアンケートだけではなく、実験、ディベート、ディスカッションなどを取り入れながら調査・研究方針を検討したり、仮説の検証をさせる。 ⑤研究内容のまとめ・発表 研究論文を作成させる。発表用のプレゼンテーションをPowerPointで作成させる。班の中で分担して作成したものをひとつにまとめさせる。 学類ごとに代表を選出し、全体発表会で発表させる。	・学類特有のテーマ設定を行い、SDGｓとの関連を考慮する。 ・研究手法として生徒参加型の検討ができる場を設けるようにする。
２．学類研修	16	【学類ごとに決められたコースの中から、興味のあるコースを選択し研修を行わせる】 ①学類研修のコース別にグループを編成する。 ②研修先での課題を設定し、事前調査を行わせる。 ③研修中に調査を行いつつ、そこでしかできない体験活動を行わせる。 ④研修後、成果を各自でまとめて学類研修発表会で成果を報告させる。	・研修の事前・事後指導を充実させ、研修中は現地調査や体験活動が有意義なものになるよう調整する。
３．外部講師等との連携	18	【学類を横断しての講演会、学類ごとのワークショップなどキャリア教育となる行事を体験させる。】 ①地域の課題と関わるグローバルな話題を聴くことで、グローカルの意義や重要性を理解させる。 ②職業への意識やライフワークバランスなど人生に関わる話や体験を通してキャリア意識を持たせる。	・講演により生徒が広い視野を持てるような人材を選ぶよう配慮する。
４．学習成果の発信	8	【学類ごとに研究内容をまとめ、校内外での発表の機会を持たせる。】 ①研究成果を報告書でまとめ、外部に対して公表する。 ②発表の場を設け、プレゼンテーションを実施して、外部の機関に評価してもらう。 ③海外修学研修を通して、グローバルレベルでの評価を受ける機会を設ける。	・成果発表会を公開会場で行い、多くの人に発信できるよう手配する。
時　数　計	７８		

備　考	

科目	GLOBAL Ⅱ 人文社会学類 （総合的な探究の時間）

単位数	2
習得年次	2

担当者
2年次人文社会学類所属教員

目標	・SDGsに関連する事項について課題を設定し、調査や研究を踏まえた具体的な提案をする。 ・GLOBAL Ⅰで習得した課題研究を行うために必要なスキルを実際に活用することができる。 ・社会の諸事情に対して問題意識を持ち、諸問題を解決に導いていく思考力と行動力を身に着ける。

◆　何ができるようになるか［どのように資質・能力を身につけていくのか］

評価の観点 学びの三要素			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
熟達スケール	S	**探究** **(究める)**	仮説に対する検証過程に説得力があり、その根拠となるデータ等にも具体性がある。	一つの考え方に固執することなく設定した課題に対し複数の視点から検討できている。	研究を通して気づいた諸問題についての検証を深めることで新たな課題を見いだし、その解決策を地域に提案する試みがみられる。
	A	**熟練** **(使える)**	研究の発表内容が論理的であり適切にICT機器を使用することができている。	自分たちの仮説を検証することができ、導き出した考察や新たなる仮説を発表できる。	SDGsと関連づけた課題の仮説に対して他者と協働してその検証をすることができる。
	B	**上達** **(できる)**	実際の社会的事象について正しく理解し、仮説を立てようとすることができている。	リサーチクエスチョンに対する仮説を立て、そのための研究計画を立案できる。	グループで情報を共有しSDGsに関連した諸問題を発見しようとすることができる。
	C	**習得** **(わかる)**	各教科・GLOBAL Ⅰのスキル学習を通じて基本的な知識・技能を身につけている。	テーマを決め、リサーチクエスチョンを考え、他者に伝えることができる。	新聞やニュースから社会で起きていることについての情報を得ることができる。
１０の資質・能力			［論理的思考力］ ［ICT活用能力］	［課題解決能力］ ［批判的思考力］ ［自己表現力］	［コミュニケーション能力］ ［グローバルな視野］ ［人を大切にする心］
評価方法			授業に対する姿勢、課題に取り組む態度、グループによる相互評価、プレゼンテーションの内容、発表の様子等により総合的に評価		

◆　何を学ぶか［授業内容］

1学期	・講習会 ・情報分析や実験の手法などのスキル学習 ・先行研究のリサーチ
2学期	・講演会 ・ルーブリック作成 ・リサーチクエスチョンを考える ・仮説を立て、研究計画を作る ・調査・研究を行う ・研究論文を作成する
3学期	・発表用プレゼンテーション作成 ・課題研究発表会

◆　何を学ぶか［教材］

・探究ナビ

◆　どのように学ぶか［主体的・対話的で深い学び］

・グループワーク等によるスキル学習
・KJ法等によりリサーチクエスチョンの決定
・シンキングツールにより仮説を立てる
・情報収集、実験、アンケート、フィールドワーク等により調査研究を行う
・論文を作成する

科目	GLOBAL Ⅱ　理数学類 （総合的な探究の時間）

単位数	2
習得年次	2

担当者
２年次理数学類所属教員

目標	・課題研究を行うために必要な理系的な視点やスキルを習得する。 ・理数学類ならではの視点で、SDGsに関する身近な課題を発見する。 ・GLOBAL Ⅰや理数科目で得た知識を用いて、調査・研究し解決方法を提案する。

◆　何ができるようになるか［どのように資質・能力を身につけていくのか］

評価の観点 学びの三要素			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
熟達スケール	S	**探究** **(究める)**	仮説を繰り返し検証し、理論的に説明するための根拠を示すことができる。	仮説の検証を繰り返すことで、新たな課題を見つけて研究を深化させ、研究成果をまとめて発表できる。	他者と積極的に協働して、課題研究に取り組み、その結果をもとにより大きな課題の解決策を地域に提案する試みがみられる。
	A	**熟練** **(使える)**	仮説を検証し、更に理論的に説明するための新たな根拠を示す方法を提案できる。	自分たちの仮説を検証することができ、導き出した考察や新たなる仮説を発表できる。	地域の課題解決に向けて仮説を立て、他者と協働してその検証することができる。
	B	**上達** **(できる)**	情報分析や実験結果から仮説を検証することができる。	リサーチクエスチョンに対する仮説を立て、そのための研究計画を立案できる。	グループで情報を分析しながら地域の諸問題を発見しようと努力することができる。
	C	**習得** **(わかる)**	情報の収集方法や実験の手順を理解し、正しく扱うことができる。	テーマを決め、リサーチクエスチョンを考え、他者に伝えることができる。	新聞やニュースから社会で起きていることについての情報を得ることができる。
１０の資質・能力			［論理的思考力］ ［ICT活用能力］	［課題解決能力］ ［批判的思考力］ ［自己表現力］	［コミュニケーション能力］ ［グローバルな視野］ ［人を大切にする心］
評価方法			授業に対する姿勢、課題に取り組む態度、グループによる相互評価、プレゼンテーションの内容、発表の様子等により総合的に評価		

◆　何を学ぶか［授業内容］

1学期	・情報分析や実験の手法などのスキル学習 ・先行研究のリサーチ
2学期	・講演会 ・ルーブリック作成 ・リサーチクエスチョンを考える ・仮説を立て，研究計画を作る ・調査・研究を行う ・研究論文を作成する
3学期	・発表用プレゼンテーション作成 ・課題研究発表会

◆　何を学ぶか［教材］

・探究ナビ
・各教科の教科書、スキル学習用プリント

◆　どのように学ぶか［主体的・対話的で深い学び］

・グループワーク等によるスキル学習
・KJ法等によりリサーチクエスチョンの決定
・シンキングツールにより仮説を立てる
・情報収集、実験、アンケート、フィールドワーク等により調査研究を行う
・論文を作成する

科目	GLOBAL Ⅱ　国際教養学類 （総合的な探究の時間）

単位数	2
習得年次	2

担当者
2年次国際教養学類所属教員

目標	・SDG s をテーマとしたディベートやプレゼン等の活動をすることで、自身の知見を広げる。 ・Global Studiesで習得した技能や知識等を活用し、国際的な視野をもち地域に根ざした課題を見つける。 ・SDGsに関連する身近な課題について調査・研究し、解決方法をグループで提案する。

◆　何ができるようになるか［どのように資質・能力を身につけていくのか］

評価の観点 学びの三要素			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
熟達スケール	S	**探究** **(究める)**	研究成果を英語で発表した後、英語での質疑応答に対応することができる。	問題解決のために仮説検証を繰り返すことで、さらに研究を進めることができる。	世界を取り巻くあらゆる問題に対して課題意識を持ち、新たな課題に向けて研究を進め、その解決策を地域に提案する試みがみられる。
	A	**熟練** **(使える)**	英語による研究手法をとり、必要となる情報を精選し、英語で論文を発表することができる。	課題解決に必要となる情報を精選、分析し、仮説を検証することで客観的根拠を持って論理的に説明することができる。	立場の違う意見を理解し、他者と協力して課題を解決する糸口を見つけることができる。
	B	**上達** **(できる)**	英語文献などから必要な情報を取り出し、研究論文を英語でまとめ発表することができる。	課題解決に必要となる情報を収集して取り出し、仮説を立て様々な観点から自分の意見を述べることができる。	自分の意見と他者の意見を多角的にとらえ、考えをまとめることができる。
	C	**習得** **(わかる)**	研究論文を英語でまとめる際に必要なスキルを身につけている。論文を英語で発表することができる。	あらゆるメディアから国内外の情勢について情報を得て、課題解決に必要となる情報を収集することができる。	自分の意見を述べ、他者の意見を理解することの重要性を理解している。
１０の資質・能力			［基礎学力］ ［自己表現力］	［論理的思考力］ ［批判的思考力］ ［課題解決能力］	［コミュニケーション能力］ ［グローバルな視野］ ［人を大切にする心］
評価方法			授業に対する姿勢、課題に取り組む態度、グループによる相互評価、プレゼンテーションの内容、発表の様子等により総合的に評価		

◆　何を学ぶか［授業内容］

1学期	・SDG s テーマに関する学習 ・講演会（ワークショップ） ・リサーチクエスチョンを考える ・仮説を立て，研究計画を作る
2学期	・ルーブリック作成 ・調査・研究を行う ・研究論文を作成する
3学期	・発表用プレゼンテーション作成 ・課題研究発表会

◆　何を学ぶか［教材］

・探究ナビ
・Global Studies の関連資料

◆　どのように学ぶか［主体的・対話的で深い学び］

・SDG s 関連の論題でディベート・プレゼンテーション
・TAとの英語によるディスカッション
・異文化理解をテーマにしたプレゼン発表
・リサーチクエスチョンの決定
・シンキングツールにより仮説を立てる
・情報収集、アンケート、フィールドワーク等により調査研究を行う

科目	GLOBAL Ⅱ 音楽学類 （総合的な探究の時間）

単位数	2
習得年次	2

担当者
音楽学類所属教員

目標	・課題研究を行うために必要なスキルを習得する。 ・スキル学習で取得した技能や知識等から、SDGｓに関する音楽文化における身近な課題を見つける。 ・SDGｓに関する音楽文化における身近な課題について調査・研究し解決方法を提案する。

◆　何ができるようになるか［どのように資質・能力を身につけていくのか］

評価の観点 学びの三要素			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
熟達スケール	S	**探究** **(究める)**	自分たちの研究を論文やプレゼンにまとめることができ、他者にしっかりと伝えることができる。	仮説の検証を繰り返すことで、新たな課題を見つけ研究をさらに進めることができる。	課題研究の成果をもとに、音楽文化普及のためにより大きな課題に取り組み、その実践として地域にフィードバックする試みがみられる。
	A	**熟練** **(使える)**	自分たちの仮説を検証するために学んできたスキルを活用できる。	自分たちの仮説を検証することができ、考察や新たな仮説を導き出せる。	音楽の歴史や音楽文化、音楽教育における新たな課題の解決に向けて、仮説を立て協同して研究することができる。
	B	**上達** **(できる)**	考えを整理するためにブレインストーミングやロジックツール等を利用できる。	リサーチクエスチョンに対する仮説を立て、そのための研究計画を立案できる。	情報を分析しながら音楽の歴史や音楽文化、音楽教育における新たな課題を発見しようと努力することができる。
	C	**習得** **(わかる)**	スキル学習（論文の書き方、文献調査、実験検証、統計等）の内容を理解できる。	音楽文化における身近な課題からテーマを決め、リサーチクエスチョンを考えることができる。	音楽の歴史や音楽文化、音楽教育について多角的に情報を得ることができる。
１０の資質・能力			［ICT活用能力］ ［論理的思考力］	［課題解決能力］ ［批判的思考力］	［コミュニケーション能力］ ［グローバルな視野］ ［自己表現力］
評価方法			授業に対する姿勢、課題に取り組む態度、グループによる相互評価、プレゼンテーションの内容、発表の様子等により総合的に評価		

◆　何を学ぶか［授業内容］

1学期	音楽の歴史、音楽文化、音楽教育等における基礎知識の学習 課題設定
2学期	課題探求のための仮説・検証 （アンケート調査や関連機関への訪問、演奏等のアウトリーチ活動） 中間発表 研究論文の作成
3学期	発表用プレゼンテーション作成 研究論文の作成 課題研究発表会

◆　何を学ぶか［教材］

・探究ナビ

◆　どのように学ぶか［主体的・対話的で深い学び］

・グループワーク等によるスキル学習
・情報収集をもとに仮説を立てる
・アンケートやフィールドワーク、実践的な活動等により調査研究を行う
・論文を作成する

２．実施概要

（１）「GLOBALⅡ」の展開

課題研究テーマ一覧（次ページ）に示すように、学類・コア科目ごとに 10 の研究グループを編成し、さらにグループ内で６～12 班に分かれて課題研究を行った。

・人文社会学類 … 文学探究、歴史探究、国際理解の３グループ
・理数学類 … 数学・物理・化学・生物の４グループ
・国際教養学類 … ７組、８組の２グループ
・音楽学類 … １グループ

（２）実施方法

２年次全クラス共通で、水曜７限に「GLOBAL」の授業を実施し、次に示す２時間連続の授業「学類コア科目＋GLOBAL」と合わせて、週３時間「GLOBALⅡ」の授業を実施した。

・理数学類 … 木曜５～６限
・人文社会学類 … 木曜６～７限
・国際教養学類 … 金曜５～６限（７組）、金曜６～７限（８組）
・音楽学類 … 金曜６～７限

時間割の都合上、２年次教員全員が指導にあたることができるのは水曜７限のみであった。一方で、コア科目の時間には、他年次の教員が教科の専門性を生かして指導に加わるケースが、複数のグループで見られた。

（３）活動の経過

年度当初、昨年度同様、各学類のコア科目と連動させて課題研究を進めることに関して共通理解を図った。課題研究の成果を、年度末には４種類の成果物にまとめ、提出することを確認した。

①発表用パワーポイントのスライド　②A4 版１枚の要旨（日本語）
③A4 版１枚の要旨（英語）　④研究論文

各学類及びコア科目の特性に応じて、すぐにテーマ、リサーチクエスチョンの設定に入るグループもあれば、背景知識などの十分なインプットをしたうえで課題研究に入っていくなどそれぞれの形で課題研究に取り組み始めた。

・９月 30 日、10 月１日　グループ内の中間発表（岡山大学の先生によるオンライン指導・講評）ルーブリックに基づいて生徒は相互評価を行い、発表後は評価表を交換してその後の改善に役立てた。
・１月 20 日・21 日　グループ内の最終発表（２回目のオンライン指導・講評）
・２月３日　課題研究発表会（各グループの代表数班が、体育館や教室で発表）

今年度も、新型コロナウイルスの影響で、校外での活動が大きく制限されたが、ビデオ会議アプリケーションを活用し海外とのやりとり、学校周辺で実験試料の採取、県内各所でのインタビュー、演奏の披露など学類の特色を生かした多種多様な研究が行われた。

アメリカの元教員へのインタビュー

GLOBALⅡ 課題研究テーマ 一覧

全体発表の代表班：◎　教室発表の代表班：○　※国際教養学類は，全ての班が英語発表

学類	コア科目等	番号	代表	班	課題研究テーマ
理数学類	Global Science 数学	01		1	勉強の最強コンディション
				2	音楽が及ぼす影響
				3	歩くべきか、走るべきか
				4	ＳＮＳと幸福度
				5	岡山の1番もんげ一発電はなんじゃろか？
			○	6	人口減少社会における空き家問題
			○	7	中学生の数学力向上についての研究
			○	8	じゃんけんについての確率
			○	9	6×6オセロの最善手
				10	A DISTANCE BETWEEN BICYCLES
			◎	11	冬は暖かくありたい
				12	色と熱の関係
	Global Science 物理	02	○	1	用水路の新たな効用 ～水力発電力を添えて～
				2	新しい力～ボイスパワー～
				3	Domino world
			○	4	渋滞学の応用 ～as soon as possible ～
			○	5	Possibility of Dilatancy
	Global Science 化学	03	○	1	草木染めにおける日光の影響
				2	捨テキな化粧水
			○	3	チョークによる水質浄化
			○	4	自分たちで作る環境に優しい日焼け止め
	Global Science 生物	04	◎	1	外来種を減らそう！ ～アメリカザリガニの肥料化～
			○	2	シュレッダーゴミの活用法
			○	3	ジャンボタニシによる食害を減らせ
			○	4	川の臭いと酸素濃度
人文社会学類	文学探究	05		1	江戸っ子にげぇむを売ってみた!!!!!
			○	2	平安時代と現代のジェンダー差別
				3	Various Love ～真実の愛、知りたくない？～
			○	4	『源氏物語』の魅力的な女性とその女性たちの悩み
			○	5	「生」と「死」と心の天秤
				6	人を成長させるもの
				7	貧困と高齢者問題 WITH 楢山
	歴史探究	06		1	中国大返しから現代に生かせること
			○	2	江戸時代と現代の教育の違い～よりよい教育をめざして～
			○	3	世界に影響を与えた教育理念
			◎	4	足守メロンを盛り上げよう
			○	5	コレラとコロナ
	国際理解	07		1	韓国の経済はKorean（これやん）！
			○	2	岡山を盛り上げる
				3	外国人観光客のマナー問題の現状と改善策
				4	Welcome to おかやま ～こられぇ、おかやまに～
			◎	5	次世代へ国際人権意識の伝え方
				6	Let's sleep shall we？
			○	7	自分に合った教育を手に入れる
			○	8	福祉のマークの普及 ～誰もが過ごしやすい社会へ～
				9	ダイエットと健康美 ～痩せるがすべてじゃない～
国際教養学類	Global Studies	08		1	Are you happyf?
			○	2	Conveinience could be killing us.
				3	Love yourself, accept yourself.
			○	4	Fill the wisdom gap of menstruation ～for ALL of us～
			○	5	Formula for how to convey the seriousness of environmental issues
				6	#L♡K AT ME! ～Find happiness through self-expression～
		09	○	1	Let's Protect Stray Cats.
			○	2	Why do Japanese People hesitate to tell their opinions?
				3	How to study ～Japan and Netherlands～
				4	WAKE UP JOTO!!
			◎	5	What kind of people are found attractive?
			○	6	Potential of School Lunch
音楽学類	Global Music	10		1	社会の中の音
			○	2	Magic of Music ～音楽の魔法～
				3	絶対音感の研究
			○	4	YOASOBIを超えろ！！
				5	BGMの力で食欲をアップさせよう！！
			◎	6	面白い鑑賞の授業受けたくない？

３．フィールドワークの実施

（１）フィールドワークの導入

１年次での企業訪問（全員参加）や県主催の企業説明会等を通じた学習をもとに、２年次で地域におけるフィールドワークを行い、地域社会の課題の発見につなげることをねらいとしている。課題研究において、グローバルな視点を踏まえて地域課題の解決に向けた探究活動を行うと同時に、課題研究の質的向上を図るために、地域におけるフィールドワークを充実させ、グローバルな視点を持ちながらより柔軟な発想で地域課題に対する解決策を追求させる。

（２）「GLOBALⅡ」におけるフィールドワークの位置付け

「GLOBALⅡ」では、研究過程で何らかの情報収集が必要となった場合には、企業や公的機関等の訪問も含め、積極的にフィールドワークをするよう勧めている。また、研究を始める第一歩として、校外の施設を訪問する形を取ることもある。今年度も、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響で、外部の機関を訪問することが難しい場合もあったが、可能な限り、校外でのフィールドワークを実施した。また、実際に訪問することができない場合には､電話やビデオ会議アプリケーションを使って聞き取り調査を行った。

（３）実施内容

訪問先/連絡先	活動内容	活動単位
岡山県立図書館	休日を利用し班員全員で施設に赴き参考文献の貸し出しを受けた。もう一方のグループは、夏休みを利用し班員のうち３名が事前にレファレンス相談していた図書館所蔵の資料を使用して閲覧室にて３時間活動した。	歴史探究２グループ
耳岩神社 布勢神社	日本人の言霊信仰について授業を行った後、地域の神社を訪問し宮司（代理）から神社の由来や祝詞について説明を受け、資料をいただいた。	文学探究講座生
アメリカ	ビデオ会議アプリケーションを使用したインタビュー	国際理解１グループ
学校周辺（計７回）	実験試料（スクミリンゴガイ、アメリカザリガニなど)の採取	理数学類（生物）２グループ
赤木農園	実験試料（桃の葉）の提供を受けた。	理数学類（科学）１グループ
環境活動家 谷口貴久氏	生徒主体で、本校に招致し、講演会を行った。	国際教養学類
県内公立中学校４校	知っておくべき生理に関する知識を学齢ごとにまとめたリストを自作し、恩師を訪ね、リストを見ての感想、意見をインタビューした。	国際教養学類１グループ
岡山県立美術館（計３回）	学芸員と演奏会の打ち合わせ、作品についてのレクチャー、ファシリテーターの方と詩のワークショップ、演奏収録	音楽学類１グループ
そんぽの家東岡山（計２回）	リモートで演奏交流、インタビュー	音楽学類１グループ
岡山県立岡山盲学校	インタビユー	音楽学類１グループ

４．今年度の成果と課題

（１）成果

今年度も、学類ごとにグループを編成し、コア科目を研究分野の柱としたことで、学類の特色や教科の専門性を生かした研究テーマを設定できたことが、生徒たちの主体的な学びの姿勢につながったと感じる。自分たちが好きで、興味関心が高い内容であることが、より意欲的に探究する姿勢を引き出したと思われる。加えて一部のグループに限定されるが、コア科目が配されている教科の教員だけでなく、他教科の教員や外部講師が関わることで、広がりのある研究ができただけでなく、教員の指導や役割を分散させ、年次として課題研究に一丸となって取り組めたと考える。

前ページの一覧にもあるように、外部講師の招聘やフィールドワークの実施も、コロナ禍でありながら一定の取組を行うこともできた。その内容も、単なる聴き取りだけでなく、学類の特性に応じた「アクション」を含んだものが多く、城東高校ならではフィールドワークを実践できたと考える。また、オンラインも含め多く発表の場も確保でき、表現力の育成などに繋がっている。

「Glocal High School Meetings 2022」（主催：文部科学省指定 グローカル型地域協働推進校探究成果発表委員会　共催：文部科学省）において、次のとおりの結果であった。

英語発表部門　　「Potential of School Lunch」　銀賞受賞
日本語発表部門　「冬は暖かくありたい」　　銀賞受賞

また、「WWL･SGH×探究甲子園」において、次のとおりの結果であった。

「Fill the wisdom gap of menstruation ～for ALL of us～」の研究グループが予選を通過し、３月 19 日にオンラインで全国発表を行う。

（２）課題

研究テーマの設定に当たっては、事業の趣旨を踏まえ、学類の特徴や教科の専門性を生かすだけでなく、SDGs に関連する世界的な解決課題や、地域社会の改善につながる提案などを十分に意識するべきである。コア科目の性質上、関連付けが難しいと思われる分野もあるが、これらは切り口の一つなので、研究の起点として使うだけでなく、興味関心に基づいて進めてきた課題研究を振り返る際にこれらの観点との関連を考えてみることで、研究を深めることができると考える。実際に、この授業の教科書と位置付けられている『探究ナビ』でも SDGs は、そのように位置付けられている。学類の専門性を活かした課題研究である一方、今後、様々な進路に進んでいく高校生の課題研究なので、折に触れて、他学類の教員が関わることができれば、生徒、教員ともに視野が広がり、研究テーマにおける困難さはある程度解消されると考える。

また、学類コア科目と課題研究が紐づくことで、専門科目の教員に指導が集中する部分は、解消できない面があった。

（３）次年度の取組

「GLOBALⅡ」と学類コア科目が連動することで、コア科目の担当教員に負担が集中しやすいので、年次内の他教科担当、同一学類の他年次教員が関わる仕組みを本年度以上に、計画的に構築する必要がある。非常勤講師等の活用も、効果的に行われる必要がある。また、そのように様々な教員が関わることで、前述したように、研究テーマ設定に関わる困難さを解消する一つの手段になり得ると考える。

SGH ネットワーク校、WWL 連携校でもあり、生徒の発表の場を確保し、一層の取組の充実を図っていきたい。

第３節　「GLOBALⅢ」の実施

（１）実施概要

「GLOBALⅢ」は２単位の学校設定科目として３年次生希望者選択の個人研究とし、１～２年次生までの課題研究をさらに深化させ、生徒個人の在り方・生き方に関わるような探究課題を設定した課題研究や、海外研修での発表等を行う。SGH 事業で実施してきた「GLOBALⅢ」も参考に、年間指導計画を作成した。

科目「GLOBALⅢ」の目標は次のとおりである。「GLOBALⅡ」での研究テーマを継承し、「海外修学研修」で得たネットワーク等を活用し、研究に必要な情報収集や協力者を確保し、探究型学習を極める。「専門的学習」と「海外体験」の実績により、高度な思考力、コミュニケーション能力を身に付ける。探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、国際的・社会的課題解決に関わる地域の課題にも目を向け、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。グローバル人材育成に重点を置く大学や海外の大学への進学を目指す。

「GLOBALⅡ」の学習をもとに、生徒の主体的キャリア形成に資する研究となるよう、高度な課題研究に個人研究として取り組ませる。生徒同士で発表し合い、ディスカッションを行う。研究を深化させるために、地域におけるフィールドワークを通じて、データの独自性や信頼性を上げ、研究の充実を図る。研究成果の発信を行うため、発表資料や論文作成（英文含む。)、コンテストへの応募などを推進する。また、できるだけ多くの発表機会を確保するため、大学や学会で開催される発表会への参加を計画する。三年間の課題研究の取組の体験レポートを作成する。

また SGH 事業では、高いレベルで課題探究学習を個人研究として行い、高度な思考力、コミュニケーション能力を身に付けるとともに、論理的な英語の文章を作成し、独自の発想を発信する能力と態度を養うことをねらいとして実施しており、これらの学習によって生徒の思考力、コミュニケーション能力、実践力が高められたことが各種調査から認められたことから、今後もこの内容を継承するとともに、生徒の主体的なキャリア意識の形成を支援できるよう、引き続き地域におけるフィールドワークを充実させ、発信するための発表の機会を確保する。「GLOBALⅢ」の時間は、原則として３年次所属の教員が指導する。

（２）選択者３名の研究概要

	研究タイトル	研　究　概　要
1	伝統文化を次世代へつなぐ ―灘崎地域を事例として―	地元の灘崎地区を例に、少子高齢化や過疎化が進む地方における、地域の祭りなどの伝統行事や文化の継承のあり方を考える。①自治会代表へのインタビュー②灘崎地域の資料を用いた検証③他地域における先行研究の調査④提言
2	自己肯定感と日本の文化的社会的背景	海外での経験から、日本人は他国の人々に比べて自己肯定感が低いということを知った。なぜ日本人は自己肯定感が低いのか、自己肯定感の高低を決定づけるものは何か検証する。①本校生徒・韓国の金海外国語高校にアンケート・分析②論文や書籍を用いた検証③校内課題研究発表会での発表
3	Motivation Toward Studying English	英語嫌いな友人が周囲に多くいたことをきっかけに、授業以外において英語学習へのモチベーションを上げる方策を考える。校内でワークショップを実行し、効果を検証した後、本校生徒へ提言する。①校内でのイングリッシュカフェの開催②参加者アンケートの分析③提言

（３）活動の経過

① テーマ選択と課題研究（４～６月）

「GLOBAL Ⅰ」「GLOBAL Ⅱ」での研究を踏まえて、各生徒が「GLOBAL Ⅲ」で研究したいテーマを発表することから授業が始まった。それぞれが個性を生かしたテーマを考えていたが、コロナ禍ということもあって研究方法には制約も多く、テーマを絞るのに苦労していた。一旦研究を進め始めたものの、参考になる先行研究や論文が見つからなかったりして、テーマ設定の段階に逆戻りすることもあった。

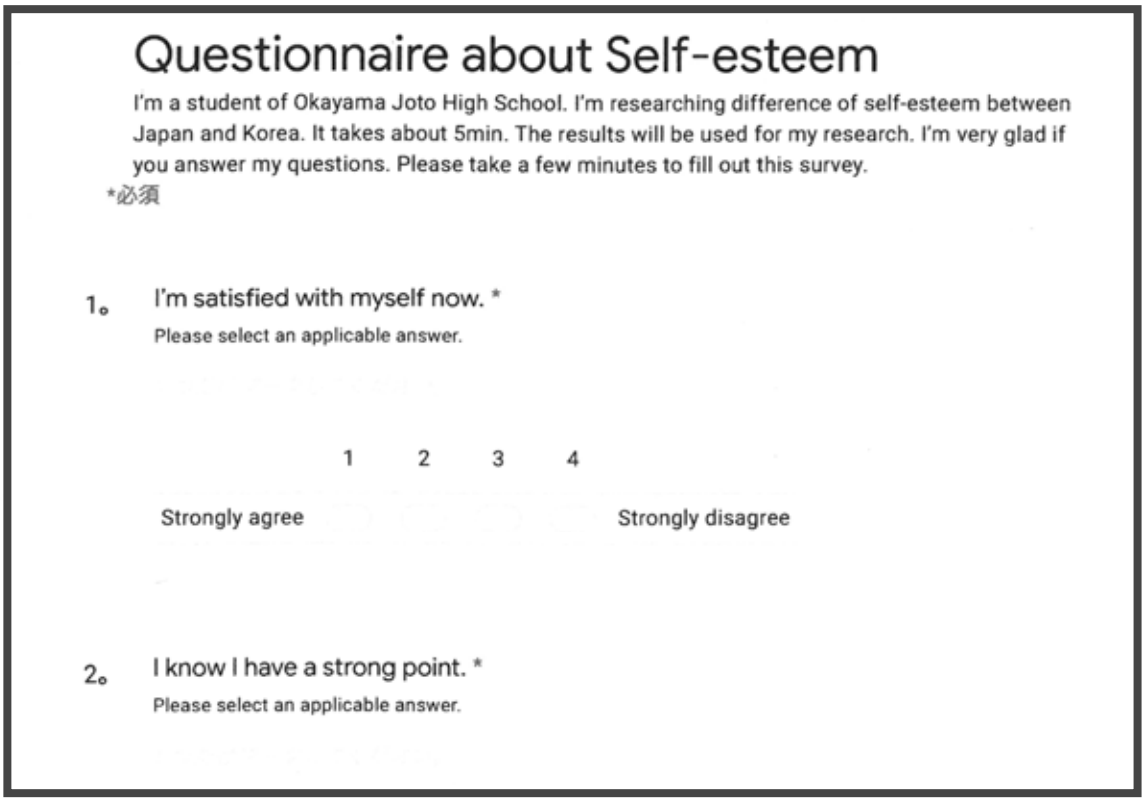
週に１度は各自でレジュメを作成し、研究の進捗状況を発表する機会を設けた。これにより、生徒同士が互いの研究について知ることができると同時に担当教員も全生徒の研究内容を把握することができ、スムースな指導に役立った。また、発表する方も場数を踏むことによって、人前で発表したり、質疑応答に対応したりすることに慣れていった。

② 中間発表（７月 13 日）

夏季休業前に、パワーポイントスライドを使っての中間発表を行った。アドバイザーとして、岡山大学の宮川陽名先生には Zoom でご参加いただいた。宮川先生からの質問に答えることで、自分の研究に足りていないことは何か明確になったり、テーマについてさらに深く考えることができたりして、夏休み以降の課題がはっきりした。講評の中で、「問いを明確にする」ことの重要性を伝えてくださり、改めてテーマについて考え直す生徒もでてきた。

③ 長期休業中の課題研究（７～８月）

７月の中間発表で指摘された内容についてまとめ、２学期からの研究課題とした。夏季休業を利用して、Google Forms でアンケートを作成し、韓国の交流校へ回答を依頼した生徒もいた。先方も夏季休業中ということもあり、回答数はやや少なかったが、英語によるアンケートを実施し、海外の高校生の意識を知ることは大きな刺激となり、自信にもなった。



Questionnaire about Self-esteem

I'm a student of Okayama Joto High School. I'm researching difference of self-esteem between Japan and Korea. It takes about 5min. The results will be used for my research. I'm very glad if you answer my questions. Please take a few minutes to fill out this survey.

*必須

1。 I'm satisfied with myself now. *

Please select an applicable answer.

1 2 3 4

Strongly agree Strongly disagree

2。 I know I have a strong point. *

Please select an applicable answer.

Google Forms を活用し、韓国交流校へアンケートを実施

④　研究の深化と発表の経験（９月～11 月を中心に）

研究を深化させるために資料収集や考察が本格的になる時期である。11 月末の最終発表を意識しながら、限られた時間の中で研究を進めていった。この時期は大学の特別入試の時期と重なり、該当生徒には時間的にも精神的にも厳しいものがあるが、上手に対応してくれた。

⑤　最終発表会（11 月 25 日）

課題研究の集大成として、パワーポイントのスライドと発表原稿を完成させて、最終発表を迎えた。出席者からの質問に答える経験も含め、プレゼンテーション力が高まったと確信できた発表会であった。最後に、岡山大学 宮川陽名先生に講評していただいた。良い点を褒めてくださった上で、専門家ならではの的確で丁寧なアドバイスをしてくださり、大変参考になった。

⑥　研究成果のまとめ

最終発表会で使用したプレゼンテーション用スライドと発表原稿に加えて、Ａ４判１ページの英文での概要と、「GLOBALⅢ」の研究成果に３年間の活動の振り返りを含めたエッセイを作成した。また、３学期には校内での課題研究発表会をはじめ校外の WWL 開発拠点校で開かれる発表会に１名が参加する予定である。

（４）今年度の活動についての考察

生徒たちは「GLOBAL Ⅰ」「GLOBAL Ⅱ」の経験を生かしながら主体的に取り組んだ。研究を行う単位がグループから個人へと変化することで、自分の思いどおりに研究を進められる一方で、行き詰まったときには一人で切り抜けなければならない難しさも味わったようである。「GLOBALⅢ」での自ら課題を発見し解決に向けて探究する経験は、各自の成長に繋がると同時に、今社会で求められている力を身に付けるために必要な活動であると実感できた。

最後に、授業を終えての生徒の感想を紹介する。

☆GLOBALⅢの授業を通して、自分の興味・関心を深め、卒業後にどのようなことを学んでいきたいかを考える機会となった。（中略）
長期間一人で研究してみることで、多角的に物事を考える力、道筋を立てて効果的な根拠を示す力を身に付けられた。また、研究内容や発表方法、論文の書き方など一連の流れにおいて、三年間の集大成ができたと感じた。

☆発表の際には、自分意見をどうやったら相手にうまく伝えられるか、より説得力あるものにするかということに関して、少し理解することができた。大学進学後もプレゼンテーションなどで、自分の考えていることを相手に伝える機会はあると思うので、今回学んだことをきっかけにして自分をより磨いていきたい。

☆研究テーマの決定に苦労したことが一番の思い出だ。もともと地域おこしや地域経済に興味があり、地元で活動をしていたこともあって、GLOBALⅢでその活動へ反映できることをしたいという思いがあった。しかし実際に研究活動をしていくと、地元地域への理解が足りていないことを実感し、自分の中で何をしたいのか見えなくなった。（中略）
先行研究や資料などまだ内容を読み込めるものもあり、できることが山のように残っているように思う。今後の活動に GLOBALⅢでの経験を少しでも生かすことができたらいいと思う。

学校設定教科･科目　開設計画書

令和３年度

学校名　岡山県立岡山城東高等学校　　記入責任者　大西　宏和

教科	種　　別	１ 学習指導要領に示された教科　② 学校設定教科 ① 各学科に共通する教科　　２ 主として専門学科において開設される教科
	名　　称	GLOBAL
	目　　標	グローバル化の進展に伴い、地球規模の課題解決や、異なる文化を背景とする国際社会の在り様が問われている。そこで、本校が積み重ねてきたグローバルリーダー育成の実績を生かし、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えた人材を育成する。すなわち、国際社会や経済界、地域のリーダーとして活躍することで、我が国及び人類の未来に貢献する。
	指導教員の免許教科	国語　地理歴史　公民　数学　理科　保健体育　芸術　外国語　家庭　情報
科目	名　　称	GLOBALⅢ
	目　　標	「GLOBALⅡ」での研究テーマを継承し、「海外修学研修」で得たネットワーク等を活用し、研究に必要な情報収集や協力者を確保し、探究型学習を極める。 「専門的学習」と「海外体験」の実績により、高度な思考力、コミュニケーション能力を身に付ける。探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、国際的・社会的課題解決に関わる地域の課題にも目を向け、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。 グローバル人材育成に重点を置く大学や海外の大学への進学を目指す。
	単位数	２
	内　　容	［課題研究の深化］ 総合的な学習の時間GLOBALⅡで収集した情報に対し、更なる分析・考察を加えることにより課題研究を深化させる。 ［研究成果の発信］ 国内や国外で開催されるコンテストや発表会を利用して、研究成果を発信する。 ［GLOBALの集約］ GLOBALでの学びを、レポートやポスターおよびエッセイなどにまとめ、必要に応じて利用する。
	内容の取扱い	［課題研究の深化］については、以下の手法などを取り入れる。 ・校外でのフィールドワーク ・校内でのシミュレーション ・研究に関連の深い教科・科目や学際領域の自主的学習 ［研究成果の発信］および［GLOBALの集約］については、ＩＣＴ機器を積極的に利用する。また、海外文化体験研修や学類研修および海外修学研修などで得た人材を利用して、英語によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を磨く。 校内の教職員は、生徒が自主的に研究活動を実施できる場を提供する。外部機関との連携や、外部人材の活用を積極的に進める。
	教科用図書等	各自の研究テーマに応じた文献を使用
	その他	

学 校 設 定 教 科 ・ 科 目　　年 間 指 導 計 画

令和３年度

学校名　岡山県立岡山城東高等学校　　記入責任者　大西　宏和

教科名	科目名	単位数	科・ｺｰｽ・類型	学年	講座数
GLOBAL	GLOBALⅢ	2	普通科	3	3

単元名 題材名	事項名 （教材名）	時数	形態	指導内容	指導上の留意点、教材等
課題研究の深化	先行研究の調査 校外でのフィールドワーク 校内でのシミュレーション 教科・科目の自主的学習	26	個人研究	・普遍性や独自性を確認する。 ・新聞記事や論文の検索、実地調査により、一次文献を入手する。 ・観察や実験をデザインし、再現性のあるデータを得る。 ・関連する教科・科目の学力を深める。	・深化の方針に反映する。 ・データの信頼性を上げ、研究の充実をはかる。 ・研究結果の分析や考察に客観性をもたせる。 ・行政や大学等の教育機関で企画される学習会に参加する。 ・学際的な領域についても理解を深める。 ・活動を通じて得られる人脈を大切にする。
研究成果の発信	非凡な発表資料の作成 国内の発表会やコンテストへの参加 インターネットを利用した海外への発信	26	個人研究	・ＩＣＴ機器を利用して、効果的な発表資料にまとめる。 ・大学や学会で開催される発表会への参加を計画する。 ・研究成果を論文にまとめ、コンテストに応募する。 ・英語による発表資料をつくり、海外の交流校などに発信する。	・表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使いこなす。 ・研究発表に伴う質疑応答をこなし、研究の質を高める。 ・海外での発表に繋がるコンテストなども視野に入れる。 ・海外での研修経験を利用する。
ＧＬＯＢＡＬの集約	GLOBALでの学びを伝えるレポート 海外への進学や留学の模索 ２年次生の研究へのアドバイス	26	個人研究	・GLOBALⅠ・Ⅱ・Ⅲを通して学んだ体験をレポートにまとめる。 ・海外の大学への進学や、国内の大学に進学後の留学を視野に入れた活動を行う。 ・後輩の課題研究に対して、経験者の立場からアドバイスを行う。	・ポスターやレポート等の作成に活用する。 ・海外文化体験研修や学類研修および海外修学研修などで得た人脈を活用する。 ・研究の過程で体験した困難とその克服について紹介する。
	時数計	78			

備考	

第４節　課題研究発表会・成果報告会

１．課題研究発表会

（１）目的・実施の形態

「GLOBALⅠ」、「GLOBALⅡ」、「GLOBALⅢ」の中で取り組んできた課題研究が、グローカルな視野と主体的・協働的な実践力を備えるための取組であることを発表を通して再確認する。また、その学習成果を１・２年次生全員で共有することにより、学類や年次を超えて知的好奇心の高揚を図るとともに、次年度に向けた学習への意識付けの場とする。

なお、今年度も新型コロナウイルス感染症対策の一環として、午前中のステージ発表について、体育館へは２年次生のみが入場し、１年次生は各ホームルームでのオンライン視聴（Zoomでの配信）の方法で行った。

（２）日程　　令和４年２月３日（木）

9：00　開会行事＜体育館＞
　　開会挨拶・趣旨説明
9：15　ステージ発表＜体育館＞
　　「GLOBALⅠ」
　　「GLOBALⅡ」
　　「GLOBALⅢ」
　　指導講評（県教育庁高校教育課）
12：10　昼食・休憩
13：00　教室発表＜HR教室＞
　　「GLOBALⅠ」
　　「GLOBALⅡ」
14：30　閉会行事＜放送＞
　　閉会挨拶

（３）「GLOBALⅠ」の発表内容

【ステージ発表】

①　１年２組　「一食多利　～TABLE FOR TWO を城東に～」
②　１年８組　「動き続ける地球と私たちの生活」

【教室発表】

１年１組　「自分にできることを今。」
　　「児童虐待　～子どもたちの未来を守ろう～」
　　「海洋廃棄物の削減　～海洋廃棄物が与える生物への影響とは～」
１年２組　「ながら勉強」
　　「Love&Peace」
　　「より良い親子関係を築くために。」
１年３組　「小学校の給食の食品ロスに効果的な啓発資料の作成」
　　「ヤングケアラーの現状と対策」
　　「Terrace of Hopes Project　～在日難民の生活環境改善～」
１年４組　「プラスチックゴミを減らすために」
　　「未来のICT教育」
　　「海洋ゴミ等のこれからの課題と対策」
１年５組　「Are you hungry?」
　　「どうしたら発展途上国の子供が元気に大人になれるのか」
　　「地球温暖化の*beautiful idea*」
１年６組　「学校にお昼寝タイムは必要なのではないか？」
　　「スマホの使い過ぎが自分の感覚に及ぼす影響」
　　「百間川でほたるを見るには」
１年７組　「食事が及ぼす健康と病気」
　　「高齢者の住みやすい町づくり」
　　「すべての人権侵害の共通点」
１年８組　「To realize symbiosis with medical care」
　　「Japanese education compared to the world」
　　「インターネットがもたらす人類の発展」

（４）「GLOBALⅡ」の発表内容

【ステージ発表】

③　人文社会学類　「足守メロンを盛り上げよう」
④　人文社会学類　「次世代へ国際人権意識の伝え方」
⑤　国際教養学類　「What kind of people are found attractive?」
⑥　音楽学類　「面白い鑑賞の授業受けたくない？」
⑦　理数学類　「冬は暖かくありたい」
⑧　理数学類　「外来種を減らそう！ ～アメリカザリガニの肥料化～」

【教室発表】

人文社会学類　「岡山を盛り上げる」
（国際理解）　「自分に合った教育を手に入れる」
「福祉のマークの普及 ～誰もが過ごしやすい社会へ～」
人文社会学類　「江戸時代と現代の教育の違い～よりよい教育をめざして～」
（歴史探究）　「世界に影響を与えた教育理念」
「コレラとコロナ」
人文社会学類　「平安時代と現代のジェンダー差別」
（文学探究）　「『源氏物語』の魅力的な女性とその女性たちの悩み」
「『生』と『死』と心の天秤」
理数学類　「人口減少社会における空き家問題」
（数学）　「中学生の数学力向上についての研究」
「じゃんけんについての確率」
「6×6オセロの最善手」
理数学類　「用水路の新たな効用 ～水力発電力を添えて～」
（物理）　「渋滞学の応用 ～as soon as possible ～」
「Possibility of Dilatancy」
理数学類　「草木染めにおける日光の影響」
（化学）　「チョークによる水質浄化」
「自分たちで作る環境に優しい日焼け止め」
理数学類　「シュレッダーゴミの活用法」
（生物）　「ジャンボタニシによる食害を減らせ」
「川の臭いと酸素濃度」
国際教養学類　「Conveinience could be killing us.」
「Fill the wisdom gap of menstruation」
「Formula for how to convey the seriousness of environmental issues」
「Let's Protect Stray Cats.」
「Why do Japanese People hesitate to tell their opinions?」
「Potential of School Lunch」
・音楽学類　「Magic of Music ～音楽の魔法～」
「YOASOBIを超えろ！！」

（５）「GLOBALⅢ」の発表内容

【ステージ発表】

⑨　３年　荻野　夏実　「自己肯定感と日本の文化的社会的背景」

（６）成果と課題

①「GLOBALⅠ」

今年度は一人一台端末を導入したことで、資料の収集やプレゼンテーションの作成など、グループごとで協同作業を行ったり、iPadを発表で使用したり、学びの活用が広がった。データはクラウド上に保存されるため、情報教室など特定な場所に限らず、普通教室でも活動ができるようになった。

課題研究前に「SDGsに関する講演会」、「課題研究講演会」を行い、研究の素地を養い10

月から実際に研究活動に入った。前半での知識や基礎の積み重ね、iPad活用による効率化もあるが、１月中旬のクラス発表までに短期間で研究テーマの決定、調査、実験を経て結論、展望などをまとめたことは、生徒たちの努力の証である。

ステージ発表では、クラス発表を受けて選ばれた代表２グループが、発表会までにお互いの発表を見せ合い、疑問点や問題点を出すことでブラッシュアップし、何度も練習を重ねて発表に臨んだ。２グループとも、２年次生ばかりの中で練習の成果を発揮して堂々と発表し、さまざまな質問に対してもできる限りの返答をしていた。また、２年次生のステージ発表では、各学類の特色を活かしたより深い研究内容や見やすくまとめられたスライド、聴く側を引きつける工夫された説明に刺激を受け、次年度の「GLOBALⅡ」への意欲を高めることができた。ステージ発表以外の生徒は昨年同様、教室で視聴する形になったが、２年次生の発表は勿論、積極的で的確な質問に大いに刺激を受けていた。

午後からの教室発表では、ステージ発表のグループを除き、各クラスから３グループずつが発表した。今年度は人の動きをできるだけ減らすため、発表班の生徒が違うクラスに移動して発表する形をとった。ここでも各グループともiPadを活用し、自らミラーリング機能を使用しプロジェクタに資料を投影していた。どのグループも発表班に選ばれてから原稿の修正や発表練習を行って発表に臨むことで、午前中のステージ発表にも負けないほど、堂々と発表していた。発表を聴いている生徒からは、想像以上に積極的に質問する姿が見られた。

１日を通して、２年次生や同級生の発表する姿を見ることで大いに刺激を受け、次年度の学類の特色を活かした課題研究「GLOBALⅡ」で自分たちがすべきことを考えることができる良い機会となった。質疑応答については積極的に質問する姿は見られたが、単に疑問を発する質問ではなく、より内容に踏み込み、発表者とは違う視点から考察した質問を期待したい。そうすれば、発表者の研究内容や聴衆者の理解も深まり視野が広がると考えられる。

②「GLOBALⅡ」

「GLOBALⅡ」の授業で、学類ごとの学校設定科目（コア科目）ごとに編成された班で取り組んできた課題研究の成果を、プレゼンテーションソフトを使ってまとめ、それぞれのグループごとに事前グループ内発表を行い、代表を選出した。発表会当日は午前の全体会で６班、午後の分科会で30班がプレゼンテーション形式で発表した。

各班の発表では、各学類コア科目の特徴に沿った研究内容を、プレゼンテーションソフトに加え、実物を使用したり音楽を聴かせたりして、より効果的に伝えようとする姿勢が見られた。いずれの発表も、文献調査だけでなく、校内外へのアンケートや校外施設へのフィールドワーク、実験を取り入れたものであった。また、学類ごとの班編成にしたことで、英語による発表や音楽に関する発表等、バラエティに富んだ内容となった。

午前の全体会では、いずれの発表班も大勢の聴衆の前で堂々と発表を行い、その後の質疑応答も大変活発であった。中には、的確な質問とそれへの応答によって、聴衆全体の理解が深まる場面も見られた。午後の分科会では、10会場に分かれて発表を行い、午前同様に活発な質疑応答が行われた。午後は３回の発表にしたことで生徒の発表機会が増え、より多くの生徒が充実感、達成感を得ることができた。また、人流を少なくするためコア科目ごとに教室を割り当て、その教室に発表班が移動する形式をとった。そのため生徒が聴きたい班の発表ではなかったが、違う学類の発表を聴く良い機会になった。

課題として、今年度も新型コロナウイルス感染症により制約が多い上に、大学の先生との交流もリモートになり、発表会直前まで発表内容がまとまらない班が多数あった。代表発表班決定から発表会までの短い期間中に他の行事もあり、とても多忙な中、昼休みや放課後を使うことを余儀なくされた。課題研究の成果をプレゼンテーションソフトにまとめ、より効果的な発表の形に仕上げるには十分な時間が必要であり、改めて計画を見直したい。

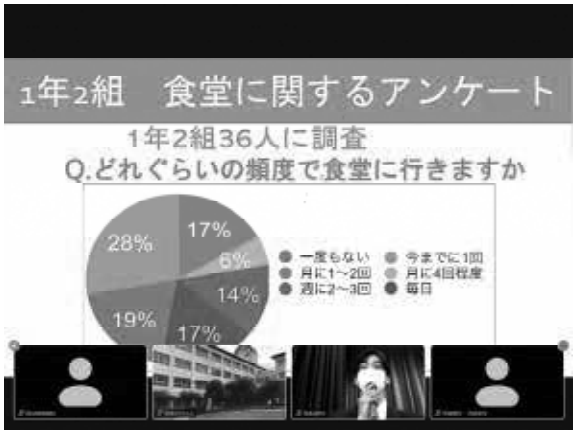
③「GLOBALⅢ」

今年度は「GLOBALⅢ」が、３年次生受講者３名で開講され、それぞれが個人研究を進めた。研究成果の発表の場として、まず、11月25日に講座内で「GLOBALⅢ　課題研究発表会」を行い、岡山大学の宮川陽名准教授からそれぞれの発表に対して指導助言をいただいた。更に３名の中から代表者を１名決め、２月３日の課題研究発表会でステージ発表を行った。研究内容、発表態度ともに１、２年次に行った「GLOBALⅠ」「GLOBALⅡ」の経験が生かされた、芯

のある堂々としたものであり、下級生にひとつのモデルを示すことができたと考えている。発表後は、岡山大学のサビナ・マハムド准教授からも好評をいただいた。

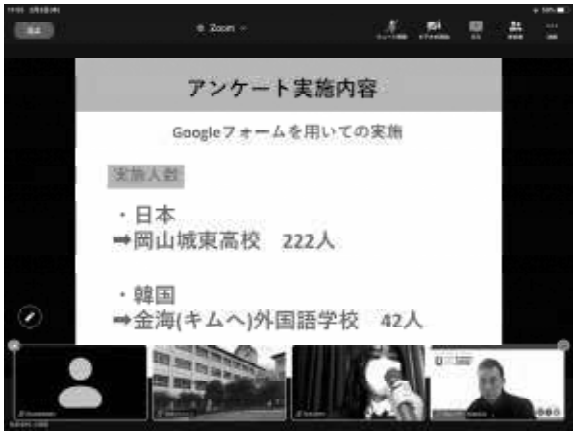
④全体

実施後の教員の振り返りから、「１年次生の教室視聴はよかった」、「さすがは２年次生だと思った」、「質疑応答がしっかりできていた」、「遠隔ではあるが、１年次生も質疑応答ができればいいと思った」、「コロナで仕方がないが午後の部で他学年の発表も聴きたかった」といった意見があった。次年度以降に生かしたい。



午前：１年次代表の発表、教室へオンライン配信

午前：２年次生の発表に対する質疑応答



午前：３年次代表の発表

午前：高校教育課による講評（オンライン）

午後：１年次の教室発表
iPadを使用してプレゼンスライドを
ミラリング機能でプロジェクタに投影

午後：１年次の教室発表
質疑応答でもiPadで資料を提示

２．成果報告会

（１）目的

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」の最終年次の第３年次における研究を分析し、明らかになった成果や課題を校外の教育関係者に発信する。併せて、本校教職員が成果や課題を共有するともに、令和４年度から全面実施の新学習指導要領を踏まえた教育活動や学習指導の改善に資する。

（２）日程　　令和４年２月３日（木）

15：15～15：20　校長挨拶
15：20～16：10　成果報告（司会：副校長）
①概要説明（グローバル係主任）　⑤異文化交流の深化（国際課長）
②「GLOBAL Ⅰ」（グローバル係）　⑥自主性・自律性を育成する取組（生徒課長）
③「GLOBAL Ⅱ」（グローバル係）　⑦カリキュラム開発等（教務課長）
④「GLOBAL Ⅲ」（グローバル係）　⑧全体を通して（グローバル係主任）
16：10～16：25　意見交換（司会：副校長）
16：25～16：40　指導助言　岡山県教育庁高校教育課

（３）概要

他の高等学校等や大学、小中学校、さらに県内企業等の地域に対しても、広く周知するため、成果報告会を毎年度実施することとしている。様々な外部機関から学校の研究に対する意見を受けることで、学校の研究開発を加速させることをねらいとしている。

令和３年12月に、県内の学校、運営指導委員、コンソーシアム運営委員、企業訪問先、課題研究指導者（岡山大学の先生）に、課題研究発表会と併せて参加の案内を送付した。令和４年１月に入り、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大を踏まえ、感染予防の観点からZoomを使用したオンライン開催に変更した。オンライン開催ということもあり、校外からの参加申込数は、課題研究発表会は29名、成果報告会は23名となり、参加者からも多くの質問、感想、助言をいただき盛況であった。

特に今年度は、生徒の研究発表資料、事業の成果報告資料ともに充実した内容となり、参加者への資料配付もGoogle Driveを活用して事前にPDFファイルをお送し、研究成果の普及に努めた。本校職員も合併教室に集まり、事前にiPadに配付したPDF資料を見ながらオンラインで参加し､成果と課題を共有することで今後の事業の取組や学習指導の改善を図りたい。

【本校会議室からオンラインで報告】

【ホストは平賀副校長】

【発表資料の一部】

第５節　一人一台端末の活用・探究活動の充実を目指した学習環境

１．情報企画室基本方針

ＧＩＧＡスクール構想の早期実現を目指し、生徒一人一台の端末やＩＣＴを効果的に活用することで、生徒の主体的な学び、進路に応じた最適な学び、知的好奇心・探究心や学問的興味を引き出す学び、生徒主体の学校行事や各種活動での学び、海外体験や高大連携での学び、個別最適化された学び等において、学習活動の充実を図る。

２．生徒一人一台端末

本年度の１年次生からBYOD方式で生徒一人一台端末（iPad（第８世代）Wi-Fiモデル）を導入することとした。端末の管理はインヴェンティット株式会社の提供する MobiConnect for Educationを使用し、アプリケーションの配信やWi-Fiの設定等を行っている。さらにApple School Managerを端末と連携させ、さらに端末管理ツール（MDM）とも連携させて管理をしている。

３．校内Wi-Fiアクセスポイントの設置

Wi-Fi環境も整え、校内のどこでも情報ネットワークにアクセスすることが可能である。令和２～３年度にかけて、次の箇所にアクセスポイントを設置した。

令和２年度：全普通教室、第１生物教室、第１化学教室、第１物理教室、社会科教室、被服教室、音楽教室、合併教室、職員室

令和３年度：体育館、第２生物教室、第２化学教室、第２物理教室、ｅ-スタジオ、美術教室、応接室、電算室、セミナー室

４．アカウントIDの発行

（１）「Google Workspace for Education」のアカウントIDの発行

「Google Workspace for Education」の持つ機能（Drive,Classroom,Meet,GMailなど）が活用できるよう、全校生徒及び全教員にアカウントIDを発行している。課題研究に限らず、平素の授業や学校行事でも活用は広がっている。

（２）「岡山県教育委員会 Microsoft365」のアカウントIDの発行

１年次の生徒のiPadでMicrosoft Office（PowerPoint,Word,Excel）が使用できるよう、「岡山県教育委員会 Microsoft365」のユーザID ・パスワードを発行した。課題研究でプレゼン資料を作成するなど活用が拡大した。

（３）「Classi」のアカウントIDの発行

ポートフォリオやアンケートを中心に「Classi」を活用しており、各教育活動や学校行事でも振り返りやルーブリック評価などを行い、活動の評価、計画の改善が図られている。保護者にもアカウントIDが発行されており、生徒や保護者への連絡も常時使用されている。

５．その他主な整備状況

（１）Zoomアカウントのライセンスの取得

オンライン会議やオンライン配信を行うことができるよう、Zoomアカウントを取得した。課題研究のフィールドワーク、課題研究発表会、成果報告会、外部講師講演会など、様々な教育活動で活用が広がっている。

（２）生徒用ＰＣの整備

「県立高校ふるさと岡山"学び舎"環境整備事業」により、生徒が課題研究などで利用可能なＰＣ４台（Windows10、Office搭載）を整備した。ネットワークにも接続可能である。

（３）貸出用iPadの活用

生徒がいつでもiPadが活用できるよう、図書室に常設した。課題研究や年次集会などでも活用されている。

第６節　JLP の取組

（１）はじめに

JLP とは、Joto Learning Project の略称で、生徒の主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を促す授業を継続しながら、育成したい資質・能力の三つの柱を考慮した授業の在り方についての研修会を企画・運営し、授業改善を図るものである。スタッフは、指導教諭、教務課長、生徒課長、進路指導課長、各教科主任である。

（２）取組と成果

今年度も昨年度に引き続き、教務課、進路指導課、生徒課と協働して、知識・技能をしっかりと身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を磨き、学びに向かう力・人間性を高め、何事にも自主的・自律的に行動できる生徒の育成を目指し、各種研修会を通して授業改善を図ることとした。

・教務課との協働

教務課 OJT 担当者と２回の研修会を企画・運営することができた。第１回は６月に各教科内で iPad をどのように授業で活用するかの教案作成や実践例の紹介などを行い、７月に全職員で iPad を活用して各教科の取組を共有した。第２回は、９月から 11 月に iPad を活用した他教科の授業参観を実施し、各教科内で様々な教科の取組を共有し自教科での導入方法や活用方法を検証した。各教科内でのまとめは、iPad を活用して共有した。今後も iPad を活用した授業が増え生徒の様々な能力を育成できると確信する。

・生徒課との協働

生徒課長や生徒課主任と制服の着こなしやマナーについての意見交換を行った。１年次生を対象とした着こなしセミナーの実施を考えたが、日程等を上手く調整できず実施することができなかった。一方、生徒会では、ジェンダーレスの制服についての検討を始め、臨時生徒総会などをオンラインで実施して意見を取りまとめていた。その後、来年度は、着こなしセミナーや制服を着る意義についての講演会等を実施してほしいと生徒会から要望が出た。次年度は、着こなしセミナーを実施しマナー向上を図る機会を得ることができると確信している。

・進路指導課との協働

若手教員と希望教員を対象に生徒面談の在り方や志望大学についての助言方法についての研修会を実施した。また、昨年度に引き続き、若手教員による小論文伝達講習会を実施した。若手教員の取組も大変すばらしく内容も理解しやすく明快で、生徒対象の講習会を開きたくなるものであった。また、全教科に校外での公開授業への参加を呼びかけ、可能な限り校外の授業へ参加し、授業改善への一助とした。更には、校内５名の指導教諭の授業参観も促し各担当者の授業改善や指導の工夫を共有してもらった。次年度も、以上の取組を継続し、可能であれば、生徒対象面接講習会を企画したい。

（３）課題と次年度の取組

教務課、生徒課、進路指導課と考え方や意見を共有し、協働を推進することができた。次年度も上記の取組を継続していきたい。また、指導教諭が５人となり各課にそれぞれ１名が所属しているので、JLP と各課の中心となりよりスムーズに各取組を実施できるものと考えられる。

第３章　異文化交流の深化

１．先進的な取組を取り入れた英語の授業の実施

（１）実施内容

グローバル人材に求められる英語の実践的コミュニケーション能力を強化し、海外体験や国際交流の効果を最大限のものにするため、３年間の英語の指導過程や指導法、評価方法の研究開発を行う。これまで国際教養学類で指導を行ってきた様々な言語活動、例えば、スピーチ、ディベート、ディスカッションなどを他の学類の授業においても取り入れる方策を研究する。GTEC の成績分析をもとに、英語力を向上させる授業展開について研究開発を行う。

（２）３年間の指導過程・指導内容の策定

新学習指導要領における４技能５領域、CEFR との整合性を意識し、文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」拠点校指定時（平成 24 年、25 年）に作成した CAN-DO リストの改訂を本事業第１年次に行ったが、この３か年での生徒の授業での活動の観察、成績の伸長等を考慮し、本年度、CAN-DO リストの改訂を再度行った。

（３）指導法の改善

実践の共有、指導法の改善を目指し、以下の公開研究授業を行った。

日　時	科　目	授　業　内　容
６月 23 日	Practical writing（３年次国際教養学類）	エッセイライティングを中心とした４技能統合型言語活動
10 月４日	コミュニケーション英語Ⅱ（２年次）	リテリングを中心とした４技能統合型言語活動
11 月１日	英語表現Ⅰ（１年次） ＊指導教諭による公開授業と兼ねる	文法知識の習得を中心とした４技能統合型言語活動
12 月 21 日	コミュニケーション英語Ⅰ（１年次） ＊外国語指導助手との共同授業推進研修会と兼ねる	ディベート
１月 17 日	コミュニケーション英語Ⅲ（２年次） ＊校内のみ	サマリーライティングを中心とした４技能統合型言語活動
１月 31 日	英語表現Ⅱ（２年次） ＊校内のみ	パラグラフライティングを中心とした４技能統合型言語活動

（４）評価方法の開発

本年度は、毎週月曜日３限に外国語科会議を開き、完成した CAN-DO リストの改訂、新学習指導要領における指導方法及び評価方法の検討を中心に協議を行った。これらの会議と公開授業における助言者として、就実大学教授小山敬一氏に複数回来校していただいた。

（５）成果

GTEC における４技能総合の CEFR が、昨年度２年生次の B1 の割合が 22.6%だったが、同生徒が本年度３年次生になると、44.1%と大きく伸びた。これは過去３年で最高値であり、本事業の成果といえる。本年度２年次生も、１年次から２年次にかけて、昨年度の生徒と同程度、B1 の割合が増えているので、着実に力をつけているといえる。本年度１

年次生は、B2 の割合が 10%を超えており、過去３年で最も高い割合を示した。本事業での取組を継続及び深化させ、さらに伸びていくことを期待したい。

また、英検に関しては、本年度３年次生も、25 名という多くの生徒が準１級を取得している。本年度２年次生でも、５名の生徒が準１級を取得している。また、本年度２年次生は、英検２級の合格者が例年よりも多く、中位層においても英語学習のモチベーションが高まっていることが窺える。

その他、TOEFL、IELTS、TOEIC などの試験も、新型コロナウイルス感染症流行のため、多くの制限があったが、積極的に受験していた。また以下のように、今年度も英語運用能力を様々な場面で評価された。

・第 10 回岡山県高校生英語ディベート大会３位
・第 11 回日本高校生パーラメンタリーディベート連盟杯　岡山県大会優勝
・第 27 回吉備国際大学高校生英語スピーチコンテスト加計賞（第１位相当）
・第 60 回全国高等学校生徒英作文コンテスト１年の部優良賞（１名）、入選（１名）
・Glocal High School Meetings 2021 英語発表部門銀賞
・第 15 回岡山県高校生英語レターコンテスト入選

ここまでは、各種資格試験結果と外部評価に基づく量的な成果となるが、最後に、この事業指定期間である３年間、本校で学んだ本年度３年次生の声を、質的な成果の一つとして紹介したい。当該年次生のうち、３年間で GTEC のスコアが大きく伸長した 10 名の生徒に聞き取りを行った。ほとんどの生徒がペアワークなどで自分の意見をアウトプットする機会が授業の中に豊富にあったことを、自身の伸長の要因としてあげていた。授業以外の要因としては、海外文化研修やネイティヴとの交流が、英語学習に対する意欲を増大させたという回答が多かった。また、そのような機会がさらに充実することを望む声が、コロナ禍も相まって多く見られた。

（６）事業を終えて

本事業を通して、CAN-DO リストの改訂を行い、それに基づいた授業や評価を行い、それらの実践を踏まえ、再度 CAN-DO リストの改訂を行い、新学習指導要領における学習にも対応し得る CAN-DO リストを作成することができたことは大きな成果である。また、年次によって指導と評価に差があることが外国語科の課題であったが、本事業を通して、授業を参観する風土も醸成された。そのことで、各年次のリテリングやディベートなどのスピーキング活動を中心とした４技能統合型言語活動を軸とし、それぞれの年次で取り組むべきアウトプット活動を充実させていくという授業が、外国語科全体を通してデザインされている。そのような授業スタイルが、英語運用能力の伸長に寄与していると生徒が感じていることも前述したとおりである。また、その生徒たちが、海外体験や国際交流の機会が、英語学習のモチベーションを高めることにつながったと回答していることは、冒頭で述べた「海外体験や国際交流の効果を最大限のものにするため、３年間の英語の指導過程や指導法、評価方法の研究開発を行う」ことを目的とした本事業は、生徒のニーズに合致し、生徒の力を伸ばすものだったといえる。新型コロナウイルス感染症が収束する兆しはまだ見られないが、ビデオ会議アプリケーションの活用などが進み、国際交流の機会を確保できつつある。そのような機会を捉えて、生徒の学びが深まるよう、本事業で培ったノウハウを次年度以降にも引き継ぎ、発展させながら、より良い授業を模索していきたい。

２．海外交流の取組

（１）“FLAT（Foreign Language Active Learning）in Osaka”

本校では、国際理解教育の一環として、創立以来、１年次生の希望者を対象に、夏季休業中の７月下旬から８月上旬に海外文化体験研修を実施してきた。現在のような情勢では、海外への渡航は難しく、直接海外の人たちとの交流ができなくなっている。その代案として、国内で語学異文化体験研修“FLAT(Foreign Language Active Learning) in Osaka”を８月７日（土）から11日（水）に企画した。気軽にふらっと参加して語学学習ができ、滞在中はネイティヴの講師たちと様々な国の食事をともにしながら就寝まで交流し続ける５日間となるようプログラムを工夫した。残念ながら、緊急事態宣言のため中止となった。以下は行程表とプログラムである。

＜行程表＞

日次	月/日	行　程	宿泊施設
1	8/7（土）	岡山駅集合 7:00　岡山 7:15 ―― 貸切バス2台 ―― YOLO ENGLISH CAMP 10:15 ・日本旅行独占契約！ 滞在中は英語漬けの環境を体験いただきます。 ・異文化交流　・プレゼンテーション研修 ・海外疑似体験　など スケジュール詳細は企画書参照 ・スケジュールは学校と相談の上、アレンジ可能です。 ・講師陣の国籍は、アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリアが主となり、トレーニングを積んだ厳選された講師が担当。 ・食事は世界の様々な国の料理を提供（企画書参照） ・万全のコロナ対策を実施（企画書参照）	大阪 YOLO ENGLISH CAMP 朝食 ー　昼食 ||　夕食 ■
2	8/8（日）	スケジュール詳細は企画書参照 YOLO ENGLISH CAMPにて、英語アクティビティ	大阪 YOLO ENGLISH CAMP 朝食 ■　昼食 ||　夕食 ■
3	8/9（月）	スケジュール詳細は企画書参照 YOLO ENGLISH CAMPにて、英語アクティビティ	大阪 YOLO ENGLISH CAMP 朝食 ■　昼食 ||　夕食 ■
4	8/10（火）	スケジュール詳細は企画書参照 YOLO ENGLISH CAMPにて、英語アクティビティ アフターサポート：マンツーマンのオンラインレッスンを4回プレゼント！	大阪 YOLO ENGLISH CAMP 朝食 ■　昼食 ||　夕食 ■
5	8/11（水）	YOLO ENGLISH CAMP 12:00 ―― 大阪市内（昼食）12:10 13:10 ―― 岡山 16:00　岡山駅解散	朝食 ■　昼食 ||　夕食 ー

この計画書は、　2021年1月22日　現在のスケジュールです。運輸機関のダイヤ改正、各地の道路事情により、多少行程・時間が変更になる場合があります。予めご了承下さい。
記入例：　バス ═══　ＪＲ ＊＊＊　航空 ──△　船舶 ～～～　ロープウェイ・ケーブル ┌┬┬┐　私鉄 ┈┈┈　徒歩 ……
・お客様の安全確保の為にバス走行中は常にシートベルトを着用願います。
・添乗員同行の場合、労働基準法の定めからも勤務中一定の休憩時間を適宜取得させることが必要ですので、お客様各位のご理解とご高配をお願い申し上げます。
【朝食　4回、昼食　5回、夕食　4回】

取扱管理者印 ㊞

＜プログラム＞

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
7:00	移動	起床	起床	起床	起床
8:00		朝食	朝食	朝食	朝食
9:00		ホームステイ英会話	英語で新世界ツアー＆クイズ 外国人講師によるツアーガイド	現地学校体験 1時間目 数学 2時間目 SDGs 3時間目 ダンス	修了式 結果発表 & 抜粋 フィードバック & 写真撮影
9:45	来館				
10:00 10:30 11:00	オープニングセレモニー アイスブレーキング / アクティビティ 自己紹介 / チーム対抗ゲーム ※各グループに担当外国人講師、1グループ8名前後	スクラップブック作成 & 発表 ※生徒は事前に写真等を準備して持参	ネイティブスピーカーへの道 ② スラングを学ぶ アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語 練習問題		解散
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	
13:00	海外疑似体験（ロールプレイング）	留学疑似体験（日常編）	プレゼン準備 ②	異文化交流	

※５日目は 12 時まで活動を続け、昼食をネイティヴ講師たちと食べて終了するプログラムに変更した。

14:00 15:00	海外で想定されるシーンを英語で体験 入国審査、機内、ホテル、 レストラン、病院	ミッションをクリアしよう！ 洋服、スーパー、家、お土産屋 etc	スライド作成 ジェスチャーや立ち回りの練習 スピーチでの効果的な伝え方	各国2～3名(3大陸)のインストラクターによる 国の紹介、クイズ、民族ダンスで 異文化の理解を深めよう
15:30 16:00 16:30	ディベート大会 ・賛成派、反対派に分かれて討論 ・ディベートで使用する単語と フレーズの練習 ・各グループから代表者を選び ステージでディベート	プレゼン準備 ① テーマ例(担当講師の母国を紹介しよう) プレゼン基礎、インタビュー準備 インタビュー、スクリプト作成	プレゼン準備 ③ リハーサル	異文化交流パーティー プレゼン準備 ④ 最終調整＆リハーサル
17:00	ネイティブスピーカーへの道 ① 発音矯正、間違いやすい単語 イディオム			
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食
19:00	トレジャーハント 館内中に仕掛けられた15の謎を解き、 チームビルディングを育む	しゃべくりタイム 他チーム講師とテーマに合わせて対話	しゃべくりタイム 他チーム講師とテーマに合わせて対話	プレゼン本番 各グループ15分のプレゼン 講師からの評価
20:00 20:30	バス＆フリータイム	バス＆フリータイム	バス＆フリータイム	バス＆フリータイム
23:00	就寝	就寝	就寝	就寝

（２）国際交流推進員との交流会

実施日：令和３年６月 23 日(水)　韓国国際交流推進員
令和３年９月 22 日(水)　中国国際交流推進員

２年次国際教養学類の生徒を対象に、岡山県の国際交流推進員と交流会を実施した。例年、学類研修で韓国を訪問し提携校である外国語高等学校の生徒と交流していた経緯があり韓国国際交流推進員と、また、学類研修の代案としてシンガポールへの訪問を計画したのでシンガポールにおける中国文化を学ぼうと中国国際交流推進員との交流会を決めた。国際交流推進員を本校に招き、対面形式で韓国と中国の文化をそれぞれ学び、異文化理解を深めることがきた。

（３）希望者対象国際交流行事

名　称	参加者数	開　催　日　時
Design Your Future 2021	１年次生 ２名	令和３年７月 26 日(月)～31 日(土)
Stanford MBA GMIX Program	１年次生 ４名	令和３年８月 28 日(土)
岡山県・中国江西省青少年交流事業	１年次生 ４名	令和３年 11 月 21 日（日）

その他、多くの生徒が積極的に国際交流行事（岡山市国際課主催のもの）への参加や各種留学プログラムへの応募を行った。

３．海外姉妹校・提携校等の受け入れ、外国人留学生の受け入れ

（１）海外交流校の受け入れ

本校には韓国に、金海外国語学校、慶南外国語学校２校の交流校がある。毎年、本校国際教養学類２年次生が学類研修の一環として両校を訪問し、9 月と 10 月には両校からの修学旅行の受け入れを行うという相互訪問による交流を行っている。しかし、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症蔓延のため、残念ながら相互の訪問は中止となった。韓国の高校生との交流を楽しみにして入学してきた生徒が、交流できないまま卒業を迎えることになり、大変残念に感じている。アフターコロナを見据え、交流をいかに継続させていくかが今後の課題である。

（２）外国人留学生の受け入れ

本校では、長期留学生の受け入れも積極的に行っている。ホストファミリーを本校生徒の中から募集し、学校生活でも家庭生活でも留学生と交流する機会を設けている。本年度は１名の留学生を受け入れた。

ドイツ・ルートヴィッヒスフェルデより留学しているメラニー・アントニウスさんで、令和２年 11 月から令和３年７月末まで滞在した。新型コロナウイルス感染症蔓延により留学開始が遅れたり、滞在中も行きたいところへ行くことができなかったりと不便なことも多かったが、無事に留学期間を満了して帰国することができた。

昨年度は２年次、本年度は３年次国際教養学類に所属した。勤勉な性格で日本語の学習をはじめ、茶道などにも高い関心を持ち茶道部の活動にも自ら進んで参加した。短期間でお点前も上達し、作法も大変美しくこなすこともでき、多くの日本文化を学んだ。また、週５回の日本語授業では、たこ焼きやいちご大福など日本ならではの料理を体験しながら日本語を学ぶという、ユニークな授業も行われた。ホストファミリーに連れて行ってもらった温泉も気に入ったようである。

最後まで礼儀正しく、誠実な人柄で、友人からはもちろんのこと、教員やホストファミリーからも厚い信頼を得ており、愛されていた。「あきらめずにがんばれば、なんでもできます」というメッセージによく表れているように、彼女のひたむきな姿は、多くの生徒たちに良い刺激を与えてくれた。ぜひまた日本を訪れ、今回行くことの叶わなかった京都にも足を運んでもらいたい。

そして新たに、４月にはフィンランドから１名、９月にはドイツから２名の留学生受け入れに向けて準備が進んでいたところであったが、こちらも新型コロナウイルス感染症蔓延のため、現在のところ留学延期・中止を余儀なくされている。何かと不自由な中ではあるが、生徒たちが異文化との接点を持つことができるチャンスを今後も模索していきたい。

茶道のお点前を練習するメラニーさん

たこ焼き作りに挑戦したメラニーさん

４．岡山大学外国人留学生との交流

（１）目的

グローバル社会において異なる文化背景を持つ人々と意思疎通を図り、相互理解を深める一助としての英語コミュニケーション能力の向上を目的とする。

（２）目標

岡山や日本の理解を深めると同時に異文化理解を深め、グローバルリーダーとしての資質・能力の土台作りを行う。

（３）実施日・実施場所

・第１回　令和３年７月 27 日（火）14 時～15 時半・本校セミナー教室
・第２回　令和４年３月３日（木）14 時半～16 時半・同上

（４）参加者

本校１年次 国際教養学類進級予定の生徒及び希望者 45 名程度
岡山大学大学院に所属する外国人留学生
第１回９名（インド１名、ケニア２名、ネパール１名、ガーナ２名、シリア１名、バングラデシュ１名、ナイジェリア１名）
第２回８名（ケニア２名、ナイジェリア１名、トリニダード・トバコ１名、ガーナ２名、カメルーン１名、ベナン１名）

（５）内容

・第１回（オンライン開催）

本校生徒と岡山大学外国人留学生が各自事前にそれぞれの国・特徴的な文化・伝統行事等についてのプレゼンテーションを英語で準備しておき、当日は生徒４～５人と外国人留学生１人が１グループとなりプレゼンテーションと質疑応答を行った。留学生のプレゼンテーションは各回 15 分、4 回のローテーションで行って、様々な文化圏についての知識理解を深めた。生徒のプレゼンテーションは、自分の紹介したい日本文化を、質疑応答を含め１人２分で全員が発表した。

・第２回（オンライン開催）

本校生徒４～５人と岡山大学外国人留学生１人が１グループとなり、生徒から司会と記録係を決めた上で、あらかじめ提示したトピックについてグループディスカッションを行う。トピックは「自分の国の文化を特徴付けるものとは」「自分の文化の中で失礼にあたる言動とは」といった、異文化理解に関わるものとする。その後、生徒がディスカッションを通して学び得たことを他のグループに対して発表することで、様々な文化圏についての理解を深められるようにする。

（６）成果と課題

昨年までは２年次国際教養学類生徒を対象に開催していたが、今年は試験的に１年次の国際教養学類進級予定の生徒を対象とした。海外文化体験といった海外交流の機会が失われる中、生徒の英語学習に対する目的意識や異文化に対する興味を高揚させることがねらいである。ALT との TT 授業以外に外国人と接する機会がない生徒が大多数を占める中で、多国籍の外国人との交流の機会をもつことで、文化の多様性を認識するとともに、自国文化についても見識を深めることの重要性を再認識した。また、ネイティブの英語話者でない者同士で、自らの考えを伝えたり相手の言いたいことを正確に理解したりするために、英語力の向上の必要性に気付き、学習意欲の高揚につながった。１年次を対象とすると、時程外での交流となり、事前準備の時間や活動内容も限られてくることが課題で、第２回の活動が対面でないために難易度が高いという懸念はあるが、今回の反省を踏まえて来年以降の方向性を検討していきたい。

５．ハーバード大学生とのオンライン交流（GLOBAL ENGAGEMENT PROGRAM）

２年次国際教養学類に向けた新たな取組

（１）プログラムの概要と導入の経緯

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度も学類研修、海外文化体験研修など、海外での学習活動が中止又は変更となった。昨年度は、新たな試みとしてISA・GIP US協力のもと、「JOTO STEEEEM (Science,Technology,Engineering,Environment,Entrepreneurship,English and Math) 2020」と題し、アメリカ現地のオーディエンス(大学生・大学院生、研究者、ビジネスパーソンなど)とオンラインで繋いで、課題研究の発表やその内容の指導を受けた。アメリカで行われているStudent Centered Learningと探究型学習法に基づいた授業であり、生徒を中心とする参加型授業である。これにより、生徒のリーダーシップ性、理系的思考力、プレゼンテーション力、課題解決能力等の育成を図ることを目指した。

（２）ハーバード大学生とのオンライン交流

今年度は、国際教養学類２年次生を対象に、近畿日本ツーリスト・JACC(Japan America Academic Center)日米学術センターの協力のもと、「GLOBAL ENGAGEMENT PROGRAM」と題し、令和４年３月15日（火）から18日（金）に海外研修の代替プログラムを実施する。ハーバード大学生とオンラインで繋ぎ、世界における様々なテーマについてディスカッションなどを行う。また、「GLOBALⅡ」で研究してきたテーマについての発表を行い、意見交換を行う。様々なバックグランドと専門知識を有するハーバード大学生との交流は有益であり、海外研修が不可能となったことで、当初の計画でねらいとしていた資質・能力の育成が、本プログラムへの変更により、十分代替できるものと考える。令和３年12月に、管理機関から文部科学省へ研究開発実施計画変更申請書を提出し、この度の取組が実現可能となった。

（３）ねらい

例年、海外研修では、「GLOBALⅡ」での課題研究の成果をもとに、海外の大学や高校、国際機関などで意見交換を行うことにより、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に付けることをねらいとしている。また、ハーバード大学生との交流や意見交換を通して、大学入学までの過程、大学生活とそこで学び考えていること、将来の夢などを知ることで、進路や考え方などに意義ある刺激を与えることもねらいとしている。

この度は、JAAC日米学術センターが実施するSLICEオンラインプログラムを実施し、ハーバード大学の学生をメンターとして招へいし、英語でのオンラインフィールドワーク、ワークショップ、ディスカッションを実施する。「GLOBALⅡ」の課題研究の内容をさらに深めるとともに、プレゼンテーション力やコミュニケーション力、批判的思考力を身に付けることをねらいとする。なお、ハーバード大学の学生メンター、JAAC現地スタッフなどの必要な人材の確保やコーディネートなどは、変更前の海外研修に係る委託業者であり、本事業の趣旨、目的を熟知している近畿日本ツーリストに業務を委託する。

（４）プログラムの目的

①グローバルリーダーシップ理解

幅広い分野においてグローバルリーダーシップとはどのようなものかを理解するとともに、自らのリーダーシップスキルを身に付ける。

②思考力の向上

様々な情報を検討し、シナリオを分析し、ハーバード大学生や仲間と協力して様々な問題に対して独自の解決策を提示するワークショップを通して、思考力を養う。

③英語によるコミュニケーションスキルの向上

すべてのアクティビティは英語で行われ、文化的、専攻分野の異なるハーバード大学生がセッションを担当する。ハーバード大学生のサポートを受けながら、生徒は幅広いトピックについて英語で考え、自信をもって自分の意見を述べ、アイディアを共有する能力を

身に付ける。

④知識の習得

プログラムの期間中、参加者はハーバード大学生によるワークショップのシリーズを受講する。プログラムの前には、ワークショップで取り上げられるトピックについて新たな知識を得るための課題が用意される。

（５）日程・内容

〇事前学習セミナー

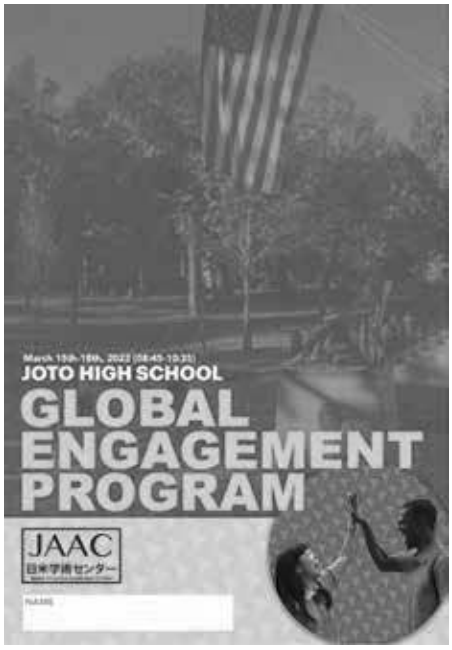
令和４年３月２日に、参加生徒を対象に事前学習セミナーを行った。近畿日本ツーリストの担当者にも来校いただき、当日のスタディーガイドを配付するとともに、JAAC日米学術センターとオンラインで繋ぎ説明を受けた。スタディーガイドは、各ワークショップのトピックの基本的な理解を確立するのに役立つようにデザインされたリーディング、ライティング、リスニングのアクティビティ教材である。本プログラムで必要となる主要な用語や語彙を事前に学習し、自分の考えや意見を発表するための準備も行った。また、当日に参加するメンターの紹介や各国のクイズも交えて、事前学習が行われた。

〇思考力を養う「ハーバードワークショップ」

事前準備で学習した知識をもとに、様々な視点から問題を議論し、シミュレーションやケーススタディを通して、問題に対する解決策や対応策を考え、提案を行う。他国の同世代の優秀な若者と比較して、日本の生徒たちが顕著に不足していると指摘される２つの基本的なスキルである「掘り下げて考える力＝クリティカル・シンキング」と、「自己の考えを英語で表現／伝える力＝英語コミュニケーション」の重要性と実践の機会を設ける。

〇主体性を養う「グループワークとディスカッション・プレゼンテーション」

生徒はハーバード大学生や仲間と様々なアクティビティに参加する。少人数のグループで行われ、各自が積極的に参加できるようにする。また、プレゼンテーションを準備し、ハーバード大学生からコーチングを受ける。プログラム最終日にはプレゼンテーションを行い、ハーバード大学生からフィードバックを受ける。



事前配付のスタディーガイド

３月２日事前学習セミナー
２年７・８組の教室で実施
（オンライン）

Extra Reading

HARVARD University

A Short Introduction

About Harvard

Harvard University was established in 1636 and is named after its first benefactor, John Harvard. Harvard is in Boston and is the United States' oldest institution of higher learning. Its history, influence, and wealth have made it one of the world's most prestigious universities.

Harvard has about 6,700 undergraduate students, and about 21,000 students overall. Besides being a leader of research in many scientific fields, Harvard also emphasizes the value of liberal arts through its general education program. Famous graduates range from American presidents like Barack Obama and John F. Kennedy to scientists and actresses like Neil deGrasse Tyson and Rashida Jones respectively.

At its founding, Harvard was a religious institution dedicated to teaching members of the clergy. However, as the United States changed in response to various intellectual movements, the university's mission became more secular, especially during the 19th century. Today, Harvard has not only an undergraduate college but also 11 graduate schools. Particularly famous among them are Harvard Law School, Harvard Medical School, Harvard Kennedy School (of public policy and leadership), and Harvard Business School. While the university had historically accepted mostly wealthy, white students from New England, Harvard changed its policy in the years after World War II to be more open and meritocratic. Students now come from much more diverse socio-economic, ethnic, and international backgrounds.

- established 設立された
- benefactor 恩人
- institution of higher learning 高等教育機関
- influence 影響力
- wealth 財産，富裕
- prestigious 一流の，名誉ある
- undergraduate students 学部の学生，大学生
- emphasize (x) (x)を重視する
- general education 一般教養教育
- graduates 卒業生
- at its founding 設立された時
- religious institution 宗教施設
- members of the clergy 聖職者たち
- intellectual movements 知的な活動・運動
- secular 非宗教的
- public policy 公共政策
- wealthy 裕福な
- meritocratic 実力主義的
- socio-economic 社会経済的な

Quick Facts

Founded in 1636
Founded in 1636, Harvard is the oldest university in the United States.

Applications In 2021
In 2021, 57,786 students applied to Harvard. 2,320 (4%) were accepted.

Global Campus
Students from around 80+ countries enroll at Harvard each year.

US Presidents
Eight US presidents graduated from Harvard, including Barack Obama, George Bush, and John F. Kennedy.

Dormitories & Houses
More than 97% of undergraduate students live on campus in the dormitories and houses.

Accessibility
More than half of all students receive financial aid, and 20% of students receive full financial support.

○日程

Class 7

Day 1
(March 15th JST)
Facilitator + Harvard Mentors

08:45-09:35 | Session 1

Program Intro (Approx. 10 minutes)
- Introduction to program by program facilitator
- Self-introductions by Harvard mentors

Homeroom Session (Approx. 40 minutes)
- Mentors and students are assigned to breakout rooms
- Self-introductions by students, follow-up questions by mentors
- Fun, open discussion to help students feel more comfortable communicating in English, help mentors get a sense of the students level of English proficiency
- Breakout rooms close at around 09:32, comments from facilitator, then a ten minute break starting at 09:35

09:45-10:35 | Session 2

Welcome Back (Approx. 5 minutes)
- Comments by facilitator

Homeroom Session (Approx. 35 minutes)
- Mentor-led discussion about the importance of engaging with different perspectives
- Students introduce their research project
- Students share the questions they plan on asking during the sessions with international mentors on Days 2 and 3
- Mentor helps students refine the questions as necessary, explaining why the suggested changes will be helpful
- Mentor helps students practice asking their questions, provide feedback and comments as appropriate
- Mentor wishes students good luck with their field work
- Breakout rooms close at 10:25

Closing (Approx. 10 minutes)
- Comments by facilitator
- General feedback from mentors
- Comments from one or two students
- Students log off at 10:35

Day 2
(March 16th JST)
Facilitator + International Mentors

08:45-09:35 | Session 3

Day 2 Intro (Approx. 5 minutes)
- Introduction to program by program facilitator
- Very brief intros/greetings from mentors
- Breakout rooms open at around 08:50

Fieldwork 1/4 (Approx. 40 minutes)
- Self-intros from students and mentor
- Students present their research project
- Feedback and questions from mentor
- Questions from students to mentor about their research topic and the mentor's country

Breakout Rooms Close
- Breakout rooms close at 09:33, brief comments from facilitator and then a ten minute break starting at 09:35

09:45-10:35 | Session 4

Welcome Back (Approx. 2 minutes)
- Comments and reminders by facilitator, then back to breakout rooms

Fieldwork 2/4 (Approx. 40 minutes)
- Same as Fieldwork 1/4 but with a different group of students
- Breakout rooms will close at 10:27

Closing (Approx. 8 minutes)
- Brief comments and feedback from mentors
- Closing comments by facilitator
- Students log off at 10:35

Day 3
(March 17th JST)
Facilitator + International Mentors

08:45-09:35 | Session 5

Day 3 Intro (Approx. 5 minutes)
- Introduction to program by program facilitator
- Breakout rooms open

Fieldwork 3/4 (Approx. 40 minutes)
- Same as Day 2's field work sessions but with a different group of students

Breakout Rooms Close
- Breakout rooms close at 09:33, brief comments from facilitator and then a ten minute break starting at 09:35

09:45-10:35 | Session 6

Welcome Back (Approx. 2 minutes)
- Comments and reminders by facilitator then breakout rooms will open

Fieldwork 4/4 (Approx. 40 minutes)
- Same as previous sessions
- Breakout rooms will close at 10:27

Closing (Approx. 8 minutes)
- Brief comments and feedback from mentors
- Closing comments by facilitator
- Students log off at 10:35

Day 4
(March 18th JST)
Facilitator + Harvard Mentors

08:45-09:35 | Session 7

Day 4 (Approx. 5 minutes)
- Introduction by program facilitator
- Breakout rooms will open around 08:50

Homeroom Session (Approx. 40 minutes)
- Brief catch-up chat
- Mentor leads discussion, has students share what they learned from the four people they spoke with on Days 2 and Day 3
- Presentation rehearsal by students, feedback and advice from mentor
- Thank you message from mentor to homeroom group

Breakout Rooms Close
- Breakout rooms close at 09:33, brief comments from facilitator and then a ten minute break starting at 09:35

09:45-10:35 | Session 8

Welcome Back (Approx. 2 minutes)
- Facilitator will give an overview of how the final presentation session will work

Presentations (Approx. 35 minutes)
- Each homeroom will give a a 2-3 minute reflective presentation on what they learned and experienced during the program
- At the end of each presentation two mentors will give some short feedback

Closing (Approx. 8 minutes)
- Final comments and feedback from mentors
- End program at 10:35

Class 8

10:45-11:35 | Session 1
All contents same as above, just with different students.

11:45-12:35 | Session 2

10:45-11:35 | Session 3

11:45-12:35 | Session 4

10:45-11:35 | Session 5

11:45-12:35 | Session 6

10:45-11:35 | Session 7

11:45-12:35 | Session 8

[DAY1]３月15日

○プログラムイントロダクション

ファシリテーター（主任講師）からプログラムの目的と目標、４日間のスケジュール詳細について説明を受ける。ハーバード大学生の自己紹介に続いてアクティブで楽しいアイスブレーキングセッションを通して、生徒とハーバード大学生の距離を近づけてプログラムを開始する。生徒は５～６名のグループ（ホームルーム）に分かれて、４日間のプログラムに臨む。

○ハーバードホームルームセッション

ホームルームに分かれてホームルーム担当のハバード大学生と以下について話し合う。

・ハーバード大学生はなぜハーバードに進学し、何を学んでいるか
・参加生徒の夢や目標を共有
・世界の様々な人々と交流し社会問題を理解することの意義と重要性について
・課題研究に関するプレゼンテーション、[DAY2][DAY3]の準備

[DAY2][DAY3]３月16日・17日

〇フィールドワークセッション

生徒は課題研究のプレゼンテーション発表をオンライン上で行う。メンターは自身が関心を持っているトピックを生徒のプレゼンテーションに関連付けて話す。トピックはそれぞれのメンターの出身国が抱える問題や課題を題材とする。生徒はその課題やトピックについて事前に学習を行い、メンターとディスカッションやインタビューリサーチを行う。トピック以外にもフリートークの時間を設け、メンターの出身国の文化や習慣についても理解を深める。

[DAY4]３月18日

〇リフレクティブディスカッション

初日同様にハーバード大学生が参加し、ホームルームに分かれて、[DAY2][DAY3]に学んだ内容をハーバード大学生と共有する。ハーバード大学生は生徒にフィールドワークを行うとともに、発展的なトピックを提起し、生徒とディスカッションを行う。意見やアイディアを出した上で、ホームルームごとにプレゼンテーションを作成する。

〇グループプレゼンテーション、クロージング

グループごとに学んだこと、話し合ったことについてのまとめを発表し、生徒間で意見交換を行うとともに、ハーバード大学生が総評を行う。世界の様々なトピック、問題、課題を英語で学び考えることの重要性を、生徒とハーバード大学生とで共有し理解を深める。

（６）オンラインの活用

①使用機器

・PC（Windows、ホスト用）
・iPad14台（生徒１班当たり２台）
・プロジェクタ（セミナー室既設）
・Wi-Fiは新設のアクセスポイントを使用（セミナー室）

②使用アプリケーション

・Zoom（現地とのオンライン接続、ブレイクアウトルームも使用）

（参考）昨年度の取組の様子（JOTO STEEEEM 2020）

初日、講師による説明。その後、全グループの現時点での英語による課題研究発表。

その後は、現地アメリカとオンラインを活用し、課題研究を深める。

６．今年度の成果や課題

（１）成果

生徒の英語力を伸ばすため、教員が一丸となって授業改善に取り組んだ。週に１時間の外国語科定例会議を行い、各科目の授業目標や各授業における目標と活動について話合いを重ね授業実践に結び付けた。初年度は学期に１回の公開授業を実施したが、年々教員の意識が向上し、今年度は校外に案内した公開授業を４回、校内研修としての公開授業を２回、合計６回の授業を公開した。これにより、“JOTO STYLE”と呼ばれる授業形態を確立することができた。英語のメモを参考に生徒自身の言葉で英文の内容を筆記や口頭で即座にまとめさせる活動を継続することにより、指示されたテーマや語数で英文を書いたり、口頭で発表したり、討論したりする力を身に付けさせることができた。生徒にも CAN-DO リストを配布し各年次で身に付けるべき４領域５技能の力、達成目標を明示し、生徒とともに授業を構築することに成功した。英語の成績を向上させている生徒への聞き取り調査では、「授業で自分の英語が理解され意見交換ができるのが楽しくて、自宅でも英語の勉強を積極的に行っている」と複数の回答があった。また、アドバイザーの就実大学教授の小山敬一氏からも、「生徒の英語力を伸ばすために３年間を見通した授業を行えるようになり、各教員の個性も生かしながらそれぞれの授業で指導目標を達成している」との評価を得ることができた。

今年度新たに導入したのは、iPad を活用したスピーキングテストである。外部資格試験でも音声の吹き込みを行うので、実践を兼ねた練習にもなった。この iPad を活用したスピーキングテストは１年次生のみを対象としており７月と３月に実施した。音声を iPad に吹き込み、生徒自身で発話内容を確認したり語数を数えたりするなどして分析を行い Google Drive に提出する。その後、教員が同様の評価を行う。評価シートを返却し、フィードバックとして授業での各種活動に繋げ指導を継続することができた。

国際教養学類の生徒を中心とした海外交流活動も昨年度に引き続き実施することができた。１年次生で国際教養学類へ進級する生徒を対象とした岡山大学留学生との交流会を１回から２回に増やすことができ、７月と３月に行うことができた。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大予防のためオンラインでの実施ではあったが、各自の iPad を有効活用し班毎に留学生と英語で２時間に及ぶ交流を行い、即興でプレゼンテーション資料を作成し、全留学生に対して発表するなどの精度の高い交流ができた。留学生からは他校の生徒に比べて英語力の高いことを評価してもらい、生徒は自分の英語力に自信を持ち、益々海外へ行き多くの人たちと交流することを希望するようになった。

２年次生国際教養学類生徒を対象としたハーバード大学生との交流会も３月に４日間実施することができた。昨年度の STEEEEM プログラムに代わるものである。専門的知識をしっかりと身に付け見識の広い大学生と英語で交流することは、かなり刺激的なプログラムであり、生徒たちも積極的に参加し自分自身を鍛えることができた。

（２）課題、次年度の取組

次年度は、外国語科内で計画的に相互授業参観を行い更なる授業改善が継続できるよう取り組む予定である。生徒の高度な英語運用能力の育成には、教員の指導力向上と指導の工夫が絶えず必要である。各授業で様々な英語運用場面を考え、生徒が楽しみながら授業を受け英語を使用する場面をより多く設定できるよう改善を続けたい。

また、生徒が海外の人たちと実際に英語を話したり発表したりする場面を定期的かつ継続的に設定していきたい。現時点では、１年次生の国際教養学類進級予定者を中心に岡山大学留学生との交流を続けているが、その他の学類の生徒にも国際交流の場を設定していきたい。幸運なことに、次年度は、オーストラリアから１名の生徒が１年次生へ、ドイツから２名の生徒が２年次へ留学してくる予定である。直接海外の生徒と交流できる機会を得るのは大変貴重なことで、より多くの生徒が留学生と交流する場を提供したい。

計画通りに進まない場面もあるかもしれないが、より多くの活動計画を立て海外交流場面を増やし生徒の高度な英語運用能力の育成に努めたい。

第４章　自主性・自律性を育成する取組

１．社会貢献活動の実施

社会貢献活動では学校が主催する活動と有志（生徒会・部活動・個人）による活動と大きく分けて２つのカテゴリーで実施した。

学校が主催する活動は、1年次生全員を参加対象として企画した。昨年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、あわじ宿泊研修清掃活動、小学生学習支援、スポーツ支援ボランティアは中止となった。しかし、「献活デー」（社会貢献活動の日）では、多くの近隣施設で生徒の受け入れに協力いただいた。オンラインによる高齢者との交流や、車椅子やおもちゃの消毒作業等、コロナ禍ならではの経験も生徒にとっては有意義であった。

有志による活動では、企業との協働ボランティアや有志ボランティアへの呼び掛けに様々な部活動が積極的に参加することができた。昨年以上に生徒の参加数が増加した背景には、これまでのボランティア活動の実践が定着し、生徒が主体となって参加する意識や意欲が高まったことが挙げられる。

（１）学校主催の社会貢献活動

①参加実績

・あわじ宿泊研修清掃活動（５月中止）
・小学生学習支援、スポーツ支援ボランティア（８月中止）
・吉備路ウォーキング清掃活動（1年次全員対象　実施）
・献活デー（９、10月１年次生全員対象　実施）

	「献活デー」受け入れ先施設	参加人数	
		１日目	２日目
1	財田幼稚園	30	30
2	古都こども園	20	20
3	芥子山小　みつばちクラブ	4	―
4	城東チャイルドセンター	5	―
5	特別養護老人ホーム　けしごの里	30	30
6	介護老人保健施設　古都の森	42	40
7	サービス付き高齢者向け住宅 VERZ 城東	―	10
8	芥子山幼稚園	30	30
	合　計	161	160

②活動の様子

献活デー（芥子山幼稚園）

献活デー（財田幼稚園）

献活デー（オンライン交流会）

献活デー（けしごの里）

献活デー（古都の森）

献活デー（みつばちクラブ）

③生徒の感想

・城東チャイルドセンター（保育施設）

小さい子供たちが遊ぶおもちゃを消毒するのが思ったより大変だった。丁寧にすることが第一だが、時間の制限もあるので効率よくすることが大切だと思った。コロナ禍ということもあり、交流などはあまりできず残念だったが、最後に見学をさせてもらえたのがよかった。今回の体験を将来や次の貢献活動にも生かしていきたい。

・けしごの里（特別養護老人ホーム）

駐車場や建物の周りの落ち葉集めや草抜きなどをした。落ち葉が多くあって一人で一袋半集めることができた。他のクラスの初対面の人とも話をしながら、普段施設の人ができないような細かいところまできれいにするように心掛けた。施設の利用者の方には会えなかったが、間接的に少しでも役に立っていたらうれしい。

・古都こども園

花壇の整備や運動場の掃除などをした。自分から進んで行動し、目に見えにくいところまで掃除することができた。また、安全面や使いやすさなど、施設の工夫をたくさん見つけられた。子どもが使う施設では、私たち高校生とは違って子どもの視点でものを考えることが大切だと思った。参加する前は大したことはできないと思っていたが、大勢いないとできないことや力が必要な作業は、高校生でもとても役に立てることがわかった。感謝されるととてもうれしく達成感が得られ、他のボランティア活動にもぜひ参加したい気持ちが高まった。

・吉備路ウォーキング清掃活動

吉備路は一見とてもきれいなのでゴミはないだろうと思っていたが、結構たくさんのゴミが落ちていた。側溝や田んぼに落ちているものなど拾えるゴミはほぼ拾い、ビニール袋３つをパンパンにして持ち帰ることができた。自然の中でのんびりとみんなで歩きながらのゴミ拾いだったので、あまり作業という感じではなく、楽しみながらできたのがよかった。ゴールで全部のゴミを集めるとかなりの量になった。今日１日歩いたルートがかなりきれいになったと思い、充実感を味わうことができた。

（２）有志（生徒会・部活動・個人）の社会貢献活動

①活動実績について

・通学路清掃活動（５月野球部）
・玉野市渋川海岸清掃（７月バレーボール部）
・ファジアーノ岡山（サッカー）ハーフタイムショー（７月管弦楽部・合唱部）
・中学校へのボール寄付（８月テニス部）
・こども園交流会（11 月音楽学類２年次９組）
・岡山中央警察署特殊詐欺防止啓発動画作成（11 月美術部）
・動物愛護募金（11 月ボランティア部）
・通学路清掃活動（11 月社会貢献活動委員会）
・岡山中央警察署交通安全呼びかけ動画作成（12 月美術部）
・JR 東岡山駅清掃・点字ブロック清掃（12 月テニス部）
・財田保育園ボランティア（12 月バレーボール部・サッカー部・テニス部）
・こども園交流会（３月合唱部）
・地域清掃活動（通年バレーボール部）
・小学生登校サポート（通年テニス部）
・コンタクトレンズケース回収リサイクル（通年保健委員会）
・ヘアドネーション（個人）
・NHK 海外たすけあい募金活動（個人）

②活動の様子

渋川海岸清掃（バレーボール部）

特殊詐欺啓発動画作成（美術部）

テニスボール寄付

こども園交流会（音楽学類）

JR 東岡山駅清掃

小学生登校サポート

こども園交流会（合唱部）

財田保育園ボランティア

ヘアドネーション寄付

環境美化（花壇作り）

NHK 海外たすけあい募金

③生徒の感想

・渋川海岸清掃ボランティア

砂浜のゴミ拾いをすることで、自分や周りの誰かが怪我をするのを少しでも防ぎ、人の役に立つ活動ができて良かった。また、人が捨てたゴミ以外にも海からのゴミが多いことを実感した。今回の活動を通して、身近な環境問題にも触れることができたので、今後の生活や公共の場の利用の仕方を改めて考える良い機会になった。

・特殊詐欺防止啓発動画作成

誰かに自分が呼びかけたいことを伝えるためのツールとして絵を描くのは初めての経験で、とても緊張した。文字と絵をどういう動きで画面に出すかという悩みもこういう機会を与えてもらえたから感じられた事だと思う。今後も誰かの為に自分の絵を使えたらいいなと思った。

・こども園交流会ボランティア

園児たちが体を動かしながら、楽しそうに聴いている様子を見ていると、歌っている私たちも自然と笑顔になれた。私たちの音楽が、小さな子どもたちに元気を分けてあげられていると思うと、これからも楽しい音楽を提供できるように交流を続けたい。

・JR 東岡山駅清掃ボランティア

比較的きれいだったが、細かいところまで目を配ってみるとお菓子の袋やたばこの吸い殻などのゴミが意外と多く見つかった。やはりいい気分はしないし、ポイ捨てをしないことは周りの人への配慮にもつながると改めて感じ、ゴミを自主的に拾えるように心掛けたい。

・小学生登校サポートボランティア

地域の方と連携して、横断歩道を渡る小学生の登校安全支援を行った。私たちの活動が小学生の安全を守っていると思うととても意義があるものと感じた。また、活動を通して高校生の交通マナーや安全について考える機会となった。今後も元気な挨拶を交わしながら地域の交通安全活動に貢献したい。

・財田保育園ボランティア

保育園では、園児から目を離せないため、職員の方が普段掃除や片付けが困難な箇所を掃除した。活動が終わった時には大変感謝していただき、きれいになった園を見て、役に立てたというやりがいを感じ自分のことを誇らしく思えた。また、参加したいと思った。

・動物愛護募金ボランティア

今年度ボランティア部は１年次生の発案で動物愛護募金活動を行った。募金活動の経験者はおらず、ポスターや募金箱も手作りで「本当に募金は集まるのか？」と不安な気持ちの中で準備を進めてきたが、終わってみると予想を大幅に上回る金額が集まった。今回の活動を通して得た経験を今後の活動に活かしてさらなる社会貢献活動に努めていきたい。

・NHK 海外たすけあい募金ボランティア

大勢の前で募金を呼びかけるのは緊張したが、自分の呼び掛けが役立つことが何よりも嬉しく、最後には笑顔で終わることができた。この募金活動をきっかけにこれからもこのようなボランティア活動に参加したいと思った。

・通学路清掃ボランティア

いつも何気なく通っている道も、視線を低くしてよく見るとたばこの吸い殻や空き缶など様々なものが落ちている。かなりのゴミがあったが献活委員で協力して清掃できた。通学路をきれいにしたことで、城東生や地域の方が気持ちよく通行できるようになった。

・ヘアドネーション寄付ボランティア

今回の寄付のために髪の毛をしっかりケアしてきた。その髪でヘアウィッグができ、笑顔になってくれる人がいると思うとヘアドネーションをして良かったと思う。また、私たちの行動を見て、「私もヘアドネーションをしてみよう！」と思ってくれる人がいれば幸いだ。

２．生徒会活動や委員会活動の活性化

（１）生徒会活動

生徒会活動は、生徒が企画・実践することを大原則としている。教員の指示はあくまで助言にとどめ、資料作成や各行事の企画運営、司会進行などを生徒たちが主体的に行っている。リーダーとなった生徒たちは権限と責務を自覚し、計画的に物事にあたっている。

32 期生徒会長の発案した代表委員会を、半年に２回のペースで開催している。室長が各クラスで意見を収集し、そこからまとめた会議資料を執行部が各種委員長あてに配布する。代表委員会では各種委員長や室長が全校から集められた課題を確認し、担当するものを各自で持ち帰って委員や顧問と課題解決に向けての検討・活動を行うようにした。リーダーとして働く委員長たちは、他者と協働すること、他者に指示を伝えることの難しさとやりがいを学ぶことができた。

（２）執行部・各種委員会の活動

①実施した主な内容

・リーダー研修会（生徒会執行部・室長・各種委員長・翠実・生徒有志）
・新入生歓迎会、生徒総会、オープンスクール体育館発表、３年生を送る会などの運営（執行部）
・代表委員会の開催
・翠緑祭の企画運営（翠緑祭実行委員）
・コロナ対策のため、昼食時などの注意喚起（室長）
・号令の質の向上を目指し、号令啓発運動の動画を作成（室長）
・行事写真を定期的に掲示（文化広報委員、生徒会副会長）
・生徒会役員のリコール制度の検討（選挙管理委員会）
・生徒会役員選挙リモート中継（選挙管理員会）
・教室の換気やサーキュレーターの管理（保健委員会）
・きれいなクラス大賞（美化委員会）
・翠緑祭での規律ある行動の呼びかけ（風紀委員会）
・携帯電話・スマートフォンの使用マナーについてのアンケート（風紀委員会）
・携帯電話・スマートフォンの使用マナー向上に向けての啓発活動（風紀委員会）
・交通マナー向上に向けた立ち番（交通委員会）
・自転車鍵かけコンテスト参加（交通委員会）
・コンタクトレンズケース回収リサイクル（保健委員会）
・制服を考える会の実施（評議員会・有志生徒）
・校内広報活動の活性化（文化広報委員会）

②活動の様子

リーダー研修会（執行部討議）

リーダー研修会（討議の資料）

リーダー研修会（ディベート）

他校とのリモート情報交換会（翠緑祭実行委員）

制服業者とのリモート情報交換会（制服を考える会）

リモート生徒会役員選挙（選挙管理委員会）

定例会（代表委員会）

街頭指導（交通委員会）

行事写真の掲示（文化広報委員会）

スマホ使用に関する啓発ポスター掲示（風紀委員会）

風紀委員会と美術部の協働作成
啓発ポスター完成作品

③委員会活動実践報告（風紀委員会の取組）

昨年度から実施している携帯電話・スマートフォンの使用マナー向上に向けて、今年度も引き続き啓発活動やアンケートを行った。マナーやルールを守りながら携帯電話・スマートフォンを使用できる本校独自のスタイルを持続させ、全員が気持ちよく学校生活を送るために、風紀委員会が実態を検証して、報告したり改善に向けた啓発活動をしたりすることで、生徒同士で使用マナーを守るという意識の高揚を促すことができた。

◎アンケート結果分析

(a) 昨年度とほぼ同じ結果であることから、今後も粘り強く改善に向けた取組が必要である。

(b) 自分自身は「使用マナーがよい・どちらかと言えばよい」と感じている生徒が全体の 90%なのに対して、「城東生のマナーがよい・どちらかと言えばよい」と感じている生徒は全体の 69%であり、自分自身の目線と他者からの目線において差がある。

(c) 携帯電話・スマートフォンの使用が必要かどうかの判断ができず、なんとなく使用している生徒が多い。

→(b)(c)から、他人からどう見られているか、本当に使用する必要があるのかなどを考えて行動できておらず、自分本位な行動を取ってしまっている生徒が多いことが考えられる。

＜現状の課題＞

○休み時間等に娯楽目的で使用している生徒が多い
○歩きスマホをしている生徒が多い
○お互いに注意し合うことができていない

＜呼びかけていくべきこと＞

○自分たちで過ごしやすい環境を作っていく意識を持つこと
○携帯電話・スマートフォンの使用が必要かの判断をできるようにすること

＜具体的な行動内容＞

○LHR 等で、自分たちで携帯電話・スマートフォンの使用について考える時間を設ける

○啓発活動の継続と新しい取組の提案・実践をする

＜携帯電話・スマートフォンの使用に関するアンケート　質問内容＞

●以下の質問に該当するものに○をしてください

1　自分の携帯電話・スマートフォンの使用マナーについて

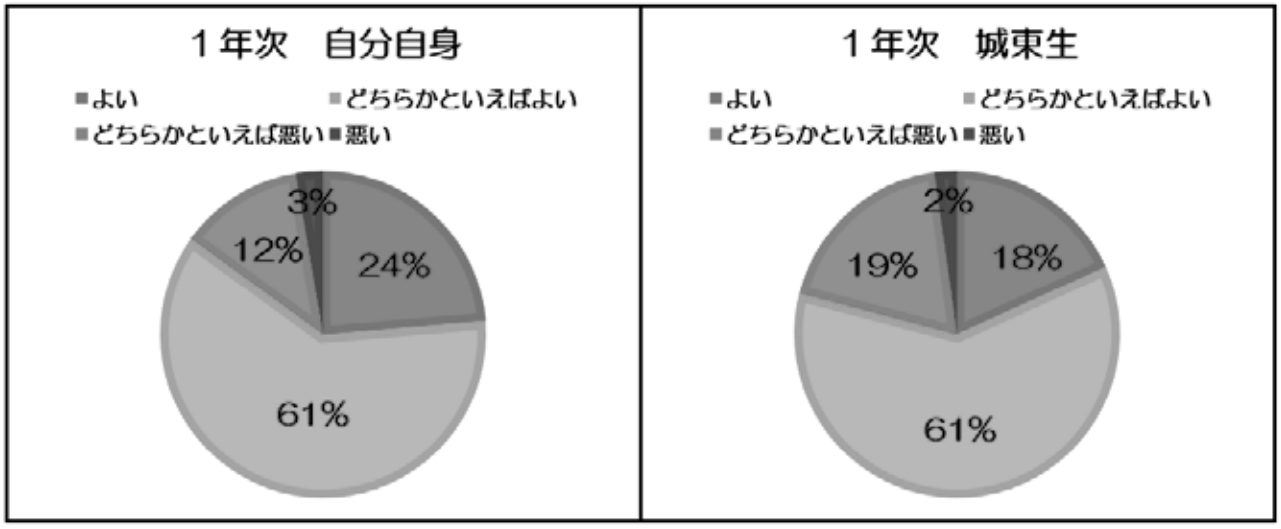
＜　よい　　どちらかと言えばよい　　どちらかと言えば悪い　　悪い　＞

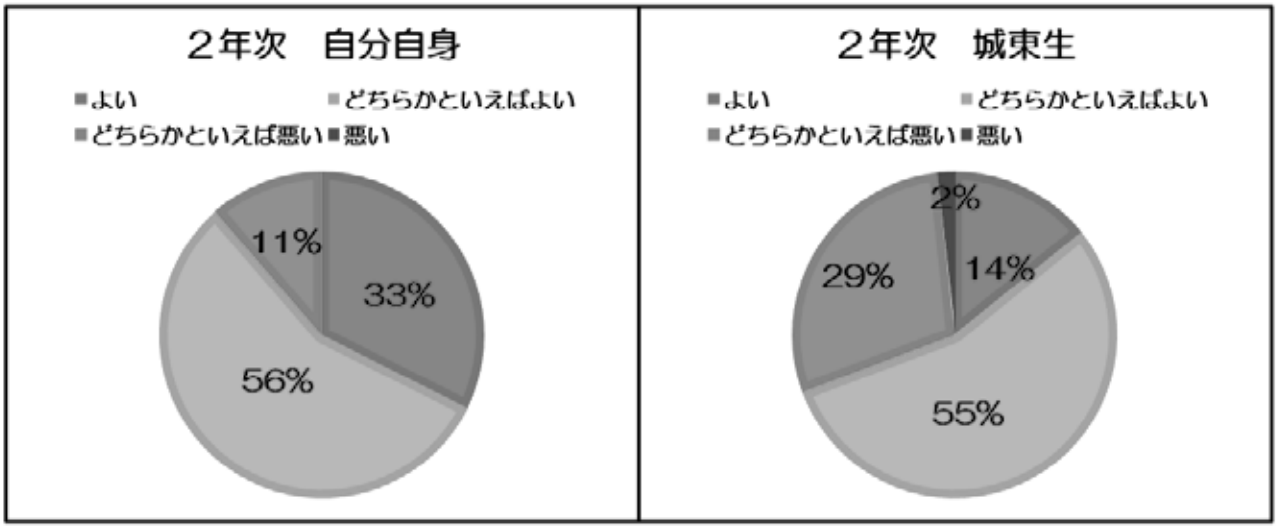
2　城東生の携帯電話・スマートフォンの使用マナーについて

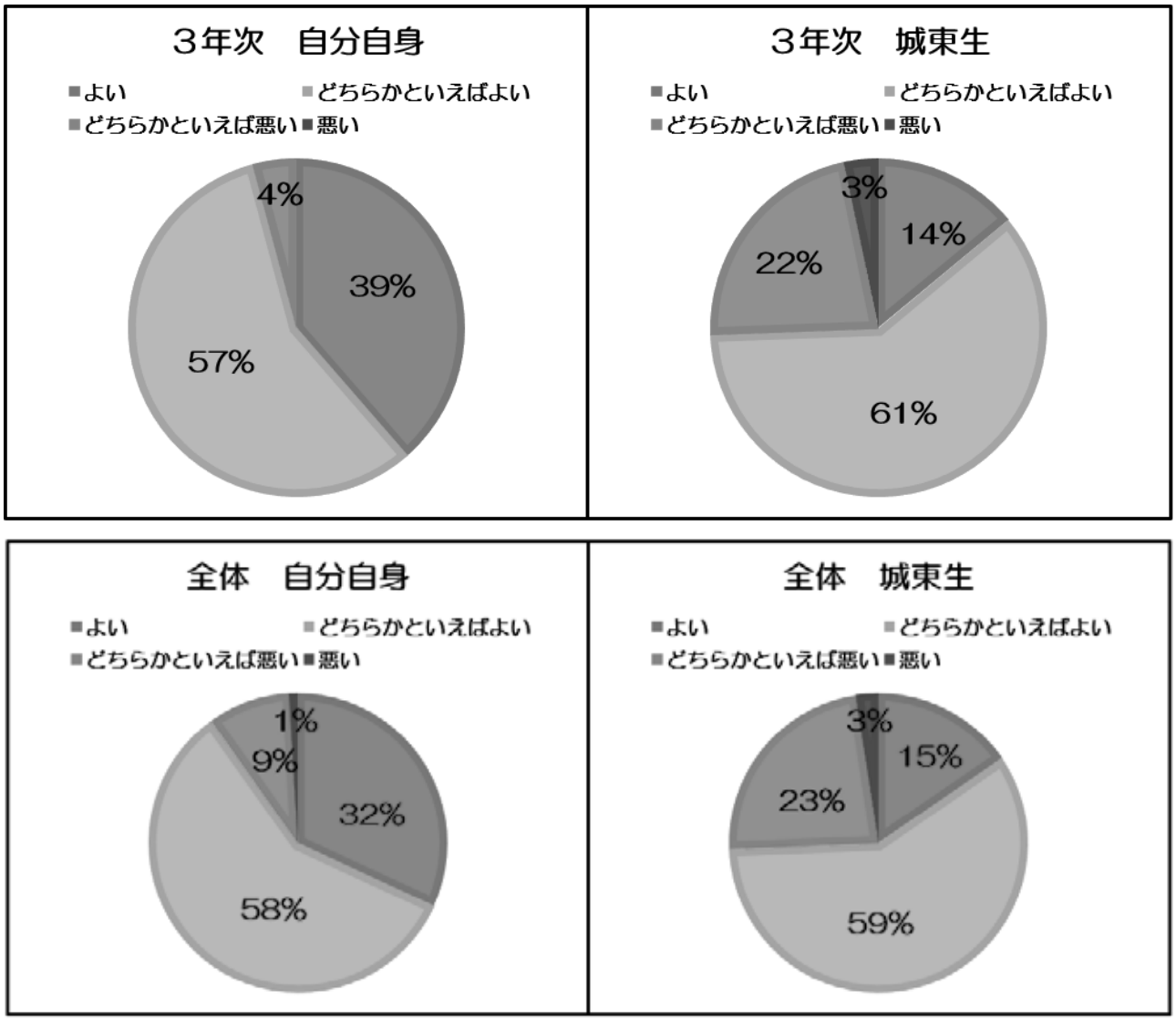
＜　よい　　どちらかと言えばよい　　どちらかと言えば悪い　　悪い　＞

3　城東生の携帯電話・スマートフォン使用マナー向上に向けて、必要なことや改善すべきことは何だと思いますか？

＜携帯電話・スマートフォンの使用に関するアンケート　結果＞







④生徒の感想

・２年次室長

翠緑祭後の行動について、本来なら盛大に成功を祝いたいところだが、感染症対策に基づいて互いに自粛するように啓発文を作成・掲示した。先生から言われて行動するのではなく、自分たちが発信することでより高い効果が得られると考えた。全校の協力もあって翠緑祭を無事に終えることができ、自分たちから動くことで物事に影響を与えられるのだということを学べた。

・生徒会副会長

行事を運営する際に一番大事なことは、全体を広く見渡し、計画を立てて行うことだ。例年にならう行事では、感染症対策などの多くの変更にもその都度対応した。また新規の企画では、自分の企画に対する他者の意見を予想し、できるだけ先に対応しておくなど、物事がスムーズに進むように取り組んだ。

３．今年度の成果や課題

（１）社会貢献活動について

①成果

・社会貢献活動の日（献活デー）と地元企業と協働する社会貢献活動が定着したことで、地域のボランティア受け入れ体制が整い活動内容が充実した。
・部活動単位における社会貢献活動への参加は、地域貢献や集団における協力性や責任を培う活動につながる観点から積極的な参加がみられ、部活動・委員会等による活動人数は 266 名から 360 名へと増加した。
・活動の振り返りの感想より、意欲的に参加でき有意義な活動であったことが窺え今後も継続してボランティアに携わりたいという意思を確認することができた。

令和２年度　社会貢献活動　ボランティア実績

年次	人数	主な活動内容
１年次生	320	社会貢献活動の日
１年次生	320	吉備路ウォーキング清掃
合　　計	640	
部活動・委員会	人数	主な活動内容
卓球部	15	大会補助員
バレーボール部	10	通学路清掃
テニス部	16	ＪＲ東岡山駅清掃
サッカー部	20	啓発活動
陸上競技部	26	通学路清掃活動
ソフトテニス部	25	通学路清掃活動
管弦楽部	40	美術館コンサート
合唱部	48	サッカーハーフタイムでの演奏
ダンス部	42	サッカーハーフタイムでのパフォーマンス
書道部	11	JR東岡山駅　医療従事者応援
美術部	1	JR東岡山駅　医療従事者応援
個人参加の活動	12	ヘアドネーション　地元での活動
合　　計	266	

令和３年度　社会貢献活動　ボランティア実績

年次	人数	主な活動内容
１年次生	320	社会貢献活動の日
１年次生	320	吉備路ウォーキング清掃
合　　計	640	
部活動・委員会	人数	主な活動内容
野球部	21	通学路清掃活動
バレーボール部	11	渋川海岸清掃
管弦楽部	40	サッカーハーフタイムでの演奏
合唱部	40	サッカーハーフタイムでの演奏
テニス部	24	中学校へのボール寄付
音楽学類２年次９組	25	こども園交流会
美術部	2	特殊詐欺防止啓発動画（警察）
ボランティア部	6	動物愛護募金
社会貢献活動委員会	24	通学路清掃活動
美術部	3	交通安全呼びかけ動画（警察）
テニス部	24	JR東岡山駅ボランティア
テニス部	20	財田保育園ボランティア
バレーボール部	12	財田保育園ボランティア
サッカー部	8	財田保育園ボランティア
合唱部	40	こども園交流会
バレーボール部	11	通学路清掃
テニス部	37	小学生登校サポート
保健委員会	4	コンタクトレンズケース回収
有志	8	ヘアドネーション　募金活動
合　　計	360	

②課題

・学類の特性を生かしたボランティア活動の種類を増やすことができなかった。
・部活動や有志のボランティア活動は、ワークシートを活用した事前指導と事後指導ができているとより効果的になったと思われる。
・部活動単位で活動が増えた一方で、校外における有志個人の参加数は減少した。また、有志個人で校外において参加した活動の情報が入りにくかった。

③次年度の取組

・計画的に部活動単位でボランティア活動へ参加できるよう季節や大会とのスケジュール調整を行い、年間ボランティア参加計画を作成し継続的に活動ができるようにする。
・地元企業との協働を基盤に、学類の特性を生かした活動が展開できるように学類のニーズと受け入れ先のマッチングを強化し連携を図れるようにする。
・今後も学校と地域企業とが連携し、持続できる社会貢献活動を定着させる。その際、学類の特性も関連づける。

（２）生徒会活動や委員会活動の活性化について

①成果

・学校生活における課題や制服に関する意識調査を行うなど、自治的な活動が活発に行われた。活動実績は令和元年度６項目、令和２年度 12 項目、令和３年度 19 項目と年々増加した。
・開催が困難と思われた学校行事や生徒会行事について、生徒が自発的に実践方法のアイディアを出し合い代替案を提案することができた。そして、その提案が認められ学校行事の実施が可能となった。

②課題

・校内へ向けての情報発信は文化広報委員会を中心に取り組めたが、地域やメディアへ向けて情報発信する取り組みは乏しかった。
・地域と連携した委員会活動は低調だった。多くの生徒が委員会と部活動を兼ねているので、委員会活動と部活動を関連付けて取り組むことが効果的であると考えられる。

③次年度の取組

・これまでに定着した活動を、委員会活動の年間計画へ明記し、生徒全体へ周知するとともに他の活動との関連を持たせ実践していく。
・委員会と部活動と協働し、互いの特徴や特性を生かした実践活動を促していく。
・生徒会便りや広報便りなどを作成し、生徒会や委員会活動の計画と活動報告の情報発信ができるように取り組む。
・評議委員会や生徒会執行部が主体的となり、生徒会活動や行事の企画・運営ができる機会をこれまで以上に増やす。具体的には、生徒総会、ホームルーム活動を活用し、エビデンスを明確に示したプレゼンテーションを作成させ、主張や提案を学期に１回できるようにする。

第５章　カリキュラム開発

１．カリキュラム・マネジメントの推進

（１）目的

本事業において、生徒に習得させる資質・能力として「創造的・批判的思考力」「高度な英語運用能力」「グローバルな視野と多様性の理解」「自主的・自律的な行動力と社会貢献意識」を設定している。これらの資質・能力を習得させるためのカリキュラム開発であり、それらのカリキュラムが生徒の成長に寄与しているかどうかを検証するためのカリキュラム・マネジメントである。本来は、すべての教育課程に対して行うべきカリキュラム・マネジメントであるが、本事業においては地域との協働による探究的な教育活動に焦点をあてて行うことで、生徒の資質・能力の変容をより把握しやすくなるであろうと考えている。すなわち、カリキュラム・マネジメントの推進により、本事業の成果目標の達成度を測りながら生徒の習得すべき資質・能力を伸長させることを目的としている。

（２）カリキュラム・マネジメントの実施に向けて

①　経緯

本事業に特化したカリキュラム・マネジメントでは、一過性のものとなり継続的にカリキュラムを見直していくことができない。そこで、教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動を主軸として、学校行事、生徒会活動などを有機的に結びつけながら学校全体としてのカリキュラム・マネジメントの実施方法を模索してきた。つまり、来年度から全面実施される学習指導要領に対応できるようにシステムを構築を検討してきた。そのシステムにおいて、本事業に流用できる部分を試験的な運用として実施することで、本事業の目的にも期することができ将来的な本校の課題であるカリキュラム・マネジメントの実施に向けた準備も整ってきた。本校のシステムは青森県立青森高等学校のカリキュラム・マネジメントを参考としている。

②　概念（Concept）

図１は、本校のグランドデザインを抜粋したものである。

本校の学校教育目標の一つである「進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動していく態度を養う」を基に、「育成したい生徒像」の一つとして「自主的・自律的に行動することのできる生徒」をあげている。

これをカリキュラム・マネジメントの中核をなす概念（Concept）としている。

岡山県立岡山城東高等学校グランドデザイン

生徒の実態	内外の環境分析
○岡山城東高校の校風・教育方針に魅力を感じて入学してくる生徒が多い。 ○まじめで明るい生徒が多い。また、全体的に自主自律の意識が高い。 ○90%以上の生徒が部活動に加入して文武両道を追求している。 ○理想と現実のギャップに苦しみ、自己肯定感が低くなりがちな生徒が散見される。	○「4つの学類による学び」等、城東独自の学びのシステムが確立されている。 ○5年間のSGH指定により、グローバル人材を育成する学校というイメージが定着している。 ○全県学区であり、広域から生徒が入学してくるため、地域との繋がりがやや希薄である。

《生きる力を資質・能力として具体化するための３つの柱》
①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等

学校教育目標 《育成したい生徒像》	1. 進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動していく態度を養う。 2. 学園の一員として連帯し、互いの立場を考え協力して助け合う態度を養う。 3. 学業に励み、高い知性と豊かな情操を身につけ、健全な心身を養う。 4. 日本ならびに世界の文化と伝統への理解を深め、国際感覚と国際協調の精神を養う。

図１

③　システム（Phase Ⅰ～Ⅲ）

Phase Ⅰ

・学校経営計画、グランドデザイン

・スクールポリシー
・スクールミッション　｝来年度から実施

・本事業において、生徒に習得させる資質・能力の細分化（表１）

育成したい資質・能力	細分化した資質・能力
創造的・批判的思考力	「基礎学力」「論理的思考力」「批判的思考力」「課題解決能力」「ICT活用能力」
高度な英語運用能力	「基礎学力」「コミュニケーション能力」「自己表現力」「グローバルな視野」
グローバルな視野と多様性の理解	「グローバルな視野」「コミュニケーション能力」「論理的思考力」「批判的思考力」「ICT活用能力」
自主的・自律的な行動力と社会貢献意識	「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「自己管理能力」「人を大切にする心」

表１

・城東高校で育みたい「10の資質・能力 」（学びのポータル）
「基礎学力」「論理的思考力」「批判的思考力」「課題解決能力」
「コミュニケーション能力」「自己表現力」「自己管理能力」「グローバルな視野」
「人を大切にする心」「ICT活用能力」
図２は達成困難度を球の大きさで表し、自主・自律の度合いに合わせて色を変えた概念図である。

・学校行事等と「10の資質・能力」の関連づけ

・「熟達スケール」（羅針盤＝共通言語）
「習得」　→　「上達」　→　「熟練」　→　「探究」
資質・能力の到達度を表す基準となるものである。

Phase Ⅱ

・教育課程
令和４年度から全面実施の学習指導要領に対応した教育課程

・10の資質・能力のルーブリック
（Big Chart）
表２を参照

・Competency Baseのシラバス
（Small Chart）
第２章「GLOBAL Ⅰ」「GLOBAL Ⅱ」の実施を参照

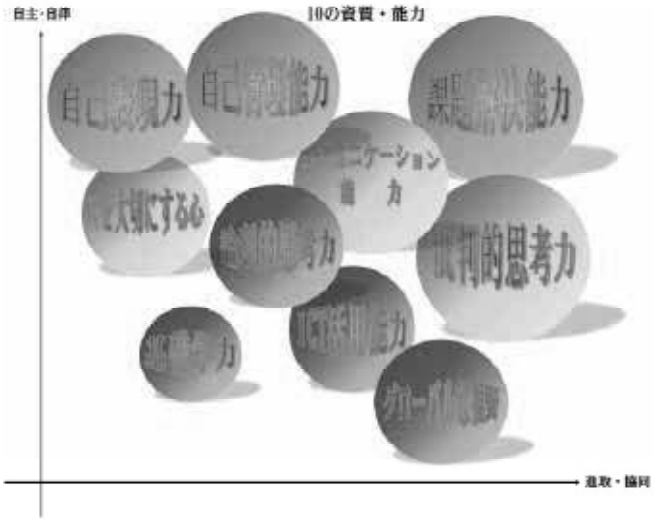


図２

Phase Ⅲ

・メソッド（Small Chart）
授業、学校行事、考査、学習評価

・活動単位（Ship）
年次、クラス、講座、部活動、委員会等（生徒、教員が活動する単位）

10の資質・能力のルーブリック（次ページ参照）

（３）進捗状況

今年度は本事業終了後のことを見据えて、この事業において調査・研究してきたカリキュラム・マネジメントを実施可能なレベルに整備することが求められた。

令和４年度から実施する学習指導要領に則った教育課程は１年次は完成しているが、２・３年次については、大学入学共通テストの科目との関係で修正しなければならない部分があり、それは来年度初めに対応しなければならない。さらに、指導の評価と一体化を目指して、学習評価についても大幅な見直しが必要であるが、こちらは現在進行中である。

昨年度、策定した「10の資質・能力のルーブリック」（Big Chart）については、今年度入学生についても自己評価を実施しており、初めて全年次での実施が叶う形となった。その分析もいろいろと進めており、今後のカリキュラム・マネジメントの資料になっていくことであろう。また、「GLOBALⅢ」のシラバスが完成し、「GLOBALⅠ」、「GLOBALⅡ」のシラバスも修正を行い今年度の評価に生かしたいと考えている。各科目におけるCompetency Baseの「シラバス」（Small Chart）も着々と完成しており、来年度の実施に向けた準備が整いつつある。

しかしながら、学校行事と「10の資質・能力」の紐付けについては、計画はしているが実行段階での周知がまだ不十分のようである。これは、来年度以降の課題となるであろう。

「定期考査・実力テストの目的と構成」については今年度より実施しており、各教科とも意欲的に取り組んでいるようである。まだ、教科間での意見交換等には至っていないので、「熟達」レベルの問題としてどのようなものを出題すればよいのかは今後の検討であるが、定期考査の見直しという点においては機能しているように感じる。今後も授業改善の一助となるように教科内だけではなく学校全体として定期考査の在り方を考えることができるようにしたい。

生徒、保護者、教員による「自主的・自律的に行動できる生徒像」の共有はまだ、実施できていない。今後、「社会に開かれた教育課程」の確立を目指して、生徒、保護者、地域との共通理解（Consensus）を構築すること必要となるであろう。

１０の資質・能力のルーブリック

10の資質・能力		基礎学力	論理的思考力	批判的思考力	課題解決能力	コミュニケーション能力
定　義		知識及び技能として身につける必要のある学力。教科書の内容が概ね理解できる。	知識及び技能を十分に習得した上で、それらを駆使しながら客観的な根拠を提示したうえで自分の考えを組み立てることができる力。	物事を多面的な視点で捉え、自分と他者の考えを比較・検討しながら自分の意見を論理的に構築していくことができる力。	取り組むべき課題に対して、仮説を立て、協働しながら論理的に答えを導き出すことができる力。	他者の気持ちを慮り、集団の調和を保つように行動することができる力。人の話をよく聴き、自分の考えをわかりやすく人に伝えることができる力。
三観点	知識・技能	◎	○			
	思考・判断・表現		◎	◎	◎	◎
	主体的に学習に取り組む態度			○	○	○
熟達スケール	S：探究 主体的に自分と社会との繋がりを理解し、取り組むべき課題を発見し、その解決に向け試行錯誤することで学びに向かう力を醸成する。	知的好奇心を持ち、自らの能力を社会に活かすという視点をもっている。教科横断的に知識を活用して思考できる。	課題を自ら発見し、結論に至る論理的展開に科学的な説得力がある。課題解決に向けて、周囲との議論を主導することができる。	社会における様々な問題に対して課題意識を持ち、必要な情報の精選・分析を踏まえて、多角的な視点から自分と他者の意見を比較・検討しながら、解決に向けての自分の意見を論理的に構築していくことができる。	課題解決後の状態を仮定し、考察、検証を繰り返すことで、新たな課題を見つけ、課題解決をさらに進めることができる。	自分の考えも含め、集団の意見をまとめ問題解決に向け行動することができる。
	A：熟練 思考力・判断力・表現力を積極的に駆使しながら、様々な場面において課題解決に取り組む姿勢が見られる。	自己分析して課題を見つけ、計画的に学習に取り組むことができる。基本的事項を組み合わせて複雑な論理展開や表現に対応できる。	結論に至る論理展開に合理的な説得力があり、十分な水準にある。人の意見を参考に論理展開を再構築し、課題解決に取り組むことができる。	立場の違いによる意見の相違を理解し、課題解決に必要となる情報を精選・分析することで、考えをまとめ、客観的根拠を持って論理的に説明することができる。	課題解決後の状態を仮定し、自分たちの仮定を検証することができ、考察を導き出したり、より良い課題解決後の状態を仮定したりできる。	集団の中で起こった課題を皆で考え、解決方法を探ることができる。
	B：上達 習得した知識及び技能を活用し、課題解決において思考力・判断力・表現力を発揮できるようになる。	学習習慣が身についている。基本的な事項を活用して学習内容を正しく理解し、表現することができる。	結論に至る論理展開に説得力が加わり、習得した知識及び技能を活用し、より深く考察することができる。	自分や相手の意見を正しく捉え、課題解決に必要となる情報を取り出し、様々な観点から考えをまとめ、筋道立てて説明することができる。	課題解決に向けて、課題解決後の状態を仮定し、そのための計画を立案できる。	周りと調和して行動し、自分の意見を相手に分かりやすく伝えることができる。
	C：習得 基礎・基本が十分に理解できる学力や技能が身についている。	予習や復習の方法が身についている。基本的な事項を正確に理解できている。	基礎・基本的な知識・技能を身につけ、結論に至る論理展開ができる。	自分や相手の意見を正しく捉えようとする姿勢が見られる。課題解決に必要となる情報を収集し、根拠を持って説明する意義を理解している。	テーマを決め、課題解決のための問いを考えることができる。	他者の気持ちや考えを理解することができる。

◎……10の資質・能力と特に強い関連のある観点
○……10の資質・能力と強い関連のある観点

表２

１０の資質・能力のルーブリック

10の資質・能力		自己表現力	自己管理能力	グローバルな視野	人を大切にする心	ICT活用能力
定　義		自分の考えや思いを、自分の言葉を使って正確に他者に伝えたり、形のあるものとして表現することができる力。	広い視野をもち、物事を効率よく処理するために、自分の内的・外的要因を適切に律することができる力。	様々な資料から、世界で起こっている事象を知り、それらの事象が地域や社会とどのように関わっていくのかということに興味・関心をもつこと。	社会における円滑な人間関係を築くことを考え、他者の話をよく聞いて相手を理解するように努めること。自己肯定感を高め自分の事を大切にすることで、他者にも優しく接するようになること。	ICT機器を利用して、自分の考えをまとめることができる力。また、協働して課題に取り組む際にツールとしてICTを活用できる力。
三観点	知識・技能					○
	思考・判断・表現	○	○			○
	主体的に学習に取り組む態度	○	◎	◎	◎	
熟達スケール	S：探究 主体的に自分と社会との繋がりを理解し、取り組むべき課題を発見し、その解決に向け試行錯誤することで学びに向かう力を醸成する。	自分の考えや思いを、客観性を持って論理的にまとめ、効果的な表現手法を工夫して、相手に分かりやすく伝えることができる。	広い視野をもち、物事を効率よく処理するために、主体的に考えて自分の内的・外的要因を適切に律することができ、他者の行動にも気遣った言動をすることができる。	多様性のある人たちと相互理解を深め、構造化・体系化した世界の事象を検証し、新たな課題を発見し協働して解決策を見つけることができる。	自己肯定感を高め、自身を大切にすることができ、また、他者を思いやり良好な人間関係を築きながら、自らを取り巻く人間関係や社会状況を考慮した協調的な行動を取ることができる。	情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりすることができる。
	A：熟練 思考力・判断力・表現力を積極的に駆使しながら、様々な場面において課題解決に取り組む姿勢が見られる。	自分の考えや思いを、根拠に基づいて客観的に考察し、相手に説得力を持って伝えることができる。	広い視野をもち、物事を効率よく処理するために、主体的に考えて自分の内的・外的要因を適切に律することができる。	世界の多様性を理解し、構造化・体系化した世界の事象を用いて、論理的に自分の意見を述べることができ、地域社会での問題点の解決に向けて努力できる。	自己肯定感を高めて自身を大切にすることができ、また、他者を思いやり良好な人間関係を築くことができ、自己を取り巻く人間関係に配慮することができる。	情報手段を用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を発信・伝達したり、保存・共有したりすることができる。
	B：上達 習得した知識及び技能を活用し、課題解決において思考力・判断力・表現力を発揮できるようになる。	自分の考えや思いを、相手によく伝わるように整理したり、まとめたりすることができる。	物事を効率よく処理するために、主体的に考えて自分の内的・外的要因を適切に律することができる。	世界的な事象を整理し、異なる文化を理解して、構造化・体系化することができ、地域社会での問題点を探ることができる。	自己肯定感を高めて自身を大切にすることができ、また、他者を思いやり円滑な人間関係を築くことができる。	情報手段を用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を発信・伝達したり、保存・共有したりすることが3つできる。
	C：習得 基礎・基本が十分に理解できる学力や技能が身についている。	自分の考えや思いを、具体的な言葉でまとめることができる。	物事を効率よく処理するために、他者からの支援を受けて、自分の内的・外的要因を律することができる。	資料などを通して世界で起こっている事象を整理しようとしたり、様々な文化背景を持つ人たちと交流し、異なる文化を認識することができる。	自己肯定感を高めて自身を大切にすることができ、また、他者を思いやろうとする姿勢がみえる。	情報手段を用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を発信・伝達したり、保存・共有したりすることが2つできる。

◎……10の資質・能力と特に強い関連のある観点
○……10の資質・能力と強い関連のある観点

表２

２.「GLOBAL Ⅰ」、「GLOBAL Ⅱ」、「GLOBAL Ⅲ」の評価

（１）評価方法の検討

SGHでは「GLOBAL Ⅰ」「GLOBAL Ⅱ」「GLOBAL Ⅲ」において、事細かにルーブリックやシラバスを作成していたが、その取組の成果を一般の教科・科目に反映できるよう、指導と評価の改善を目指してきた。「GLOBAL」の指導と評価は大きく改善されたが、引き続き一般の教科・科目の指導と評価が改善されるよう、研究を進めたい。研究指定事業で得られた経験や成果を今後に生かしてこそ、本校にとってメリットを得ることができる。負担だけが教師に残るのでは、生徒の資質・能力を伸ばすことなど到底できはしない。

そこで、来年度実施予定のカリキュラム・マネジメントの手法を取り入れることを検討した結果、「城東高校で育みたい「10の資質・能力」(学びのポータル)」と「熟達スケール」を組み合わせて、シラバス（評価規準）を作成することにした。これは、正式なカリキュラム・マネジメントの試験運用による実験的な試みである。この２年間において運用してきた中で、浮かび上がった問題点や改善点を修正・改良したものを今年度は使用している。

本事業の「GLOBAL Ⅰ」、「GLOBAL Ⅱ」は「総合的な探究の時間」に実施されており、評価は文章表記によって行われる。そのために必要なことは、生徒の活動を教師がどれだけしっかりと観察しているかということである。SGHの学校設定科目「GLOBAL Ⅰ」では、観点に基づいて評価するためにすべての活動を点数化することで評点を計算していた。そのため、かなり煩雑な作業を担当者に強いることとなっていた。その反省を踏まえて持続可能な評価方法を検討してきた。

最終的な評価は、文章表記になるので担当者の主観によって決定するところが大きい。ただし、文章表記だからといっても何らかの基準となるものがなければ評価ができない。さらに、全体での評価に偏りがあってはいけないので、評価者である担当者が生徒の活動を公平公正に評価できるような指標を用意する必要がある。「GLOBAL Ⅰ」ではその指標として、図１のシラバス（評価規準）を利用することにした。「GLOBAL Ⅱ」はコア科目等と関連づけているので、「教科による評価」と「総合的な探究の時間の評価」の２本立てになる。そこで、各学類ごとに「シラバス」を作成してもらい「総合的な探究の時間の評価」はこのシラバスを一つの指標として利用することにした。

「GLOBAL Ⅰ」のシラバスの作成には、生徒にも関わってもらっている。自分たちの活動を自分たちでも評価できるように生徒の言葉も使った。

「GLOBAL Ⅱ」は生徒の言葉が反映されていないまま作成してしまったので、来年度は生徒の意見も取り入れた「シラバス」にしたいと考えている。今年度も生徒による自己評価が参考資料となるような仕組みを取り入れて文章表記に結びつけるようにしてある。

当然、シラバスだけで評価するわけではないので、１年間の探究活動を通して評価できるようにしなければならない。そのためには、ポートフォリオを活用することが有効であると考えている。

Classiによりポートフォリオを電子化して貯めていくことで、探究活動の振り返りが容易にでき、生徒自身が自分の成長や変容を実感できるようになっている。また、教師は生徒の実態を短期的にも長期的にも把握しやすくなっている。

GLOBAL Ⅰ

◆ 何ができるようになるか［どのように資質・能力を身につけていくのか］

評価の観点 学びの三要素			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
熟達スケール	S	探究 (究める)	自分たちの研究を論文やプレゼンをまとめることができ、他者にしっかりと伝えることができる。	仮説の検証を繰り返すことで、新たな課題を見つけ研究をさらに進めることができる。	自分たちの課題研究をもとに、より大きな課題に取り組み、解決策を地域に提案する試みがみられる。
	A	熟練 (使える)	自分たちの仮説を検証するために学んできたスキルを活用できる。	自分たちの仮説を検証することができ、考察や新たな仮説を導き出せる。	地域の課題解決に向けて仮説を立ててそれを協働して検証することができる。
	B	上達 (できる)	考えを整理するためにブレインストーミングやロジックツール等を利用できる。	リサーチクエスチョンに対する仮説を立て、そのための研究計画を立案できる。	グループで情報を分析しながら地域の課題を発見しようと努力することができる。
	C	習得 (わかる)	スキル学習(論文の書き方、文献調査、実験検証、統計等)の内容を理解できる。	テーマを決め、リサーチクエスチョンを考えることができる。	新聞やニュースから社会で起こっていることについての情報を得ることができる。
１０の資質・能力			[論理的思考力] [ICT活用能力]	[課題解決能力] [批判的思考力]	[コミュニケーション能力] [グローバルな視野]
評価方法			授業に対する姿勢、課題に取り組む態度、グループによる相互評価、プレゼンテーションの内容、発表の様子等により総合的に評価		

図１

「GLOBALⅢ」については、３年次の選択科目として実施しており、今年度は選択者が３名であった。３名とも文系の生徒であったので、国語、地理歴史、外国語の教員３名が担当した。この担当者に「GLOBALⅢ」のシラバスを作成してもらった。「GLOBALⅢ」は個人研究であり、選択者も多くはいないであろうとの予想もできたので、シラバスの作成は教員のみで行った次第である。今後、「GLOBALⅢ」を継続していくことで、課題設定や研究手法についてのノウハウが蓄積されていけば生徒個々に対応したものが作られていくことであろう。今年度は、このシラバスにより担当者が観点別評価を行い、それに基づいて評定を算出している。

（２）評価方法

具体的な評価には以下のものを参考資料と考えている。

「GLOBAL Ⅰ」
- スキル学習の成果（グラフコンクール出品者に加点）
- 「GLOBAL Ⅰ」のクラス発表における評価アンケート
- 「GLOBAL Ⅰ」についての様々なアンケート（ポートフォリオ）
- シラバスによる自己評価、教師による評価（図２）

「GLOBALⅡ」
- 「GLOBALⅡ」における活動記録（ポートフォリオ）
- 「GLOBALⅡ」についての様々なアンケート（ポートフォリオ）
- 「GLOBALⅡ」のクラス発表における評価アンケート
- シラバスによる自己評価、教師による評価（図２）

「GLOBALⅢ」
- 「GLOBALⅢ」における活動記録（ポートフォリオ）
- 「GLOBALⅢ」についての様々なアンケート（ポートフォリオ）
- 「GLOBALⅢ」の最終発表における評価
- 研究内容に対する評価（図２）

これらを、評価のためのエビデンスとしながら、担任が生徒個々人の到達度を「学びの三要素」による三つの観点で評価していく。その評価を「GLOBAL Ⅰ」、「GLOBALⅡ」については「総合的な探究の時間」の文章表記に反映させていく。「GLOBALⅢ」については観点別評価をもとに評定を算出していく。

来年度入学生からは、全ての教科・科目で「学びの三要素」に基づいた Competency Base のシラバスを作成し、それに則った観点別評価を実施する。

GLOBALⅡ

図２

GLOBALⅢ

３．アカデミック・インターンシップの状況

（１）高大連携事業について

①　高校生が岡大キャンパスで大学生と共に受ける授業の聴講

例年「岡大聴講」と呼ばれている高大連携事業であるが、令和３年度は岡山大学の時間割変更に伴い、募集が行われなかった。

講義の内容は様々であるが、全てが大学の講義であり、高校生には難解な内容も多く含まれている。例年、３～４名程度が参加しており、半年間の講義を受ける生徒が多くいる。中には、１年間通して講義を受ける生徒もおり、参加した生徒からは「難しい内容だったが、大学の講義を体験できて良かった。」「大学の学部・学科の選択に役立った。」などの感想があった。生徒にとって大変刺激となる事業であり、来年度は実施されることを期待したい。

②　高校生のための大学講座

例年８月に岡山大学で行われる県内の高校生のための公開講座である。県内の多くの高校から多数の参加者があり、この日は岡山大学のキャンパス内で多くの高校生が見受けられる活気のある高大連携事業となっている。

今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染対策として11月20日（土）にZoomを用いたオンライン授業で実施された。申込についても学校で取りまとめをせず、生徒自身がホームページから各自で申し込む形であった。本校からは４名の生徒が医学部保健学科、法学部、経済学部の講座に参加した。オープンキャンパスと違い、大学の教授等から実際の講義を受けるという体験は、高校生にとっては新鮮な経験であり大学の実態に触れることのできる貴重な機会である。参加した生徒にとっては今後の学習目標となり、進路選択の一助となったと思われる。

③　SJPP（SAKUYO-JOTO Partnership Program）

平成18年に締結した「高大連携授業に関する協定」により開始した音楽学類における聴講制度である。毎週木曜日の６・７限にくらしき作陽大学に行き大学の授業やレッスンを受けることができる。本校の高大連携事業として従来から取り組んでおり、他の学類における高大連携の在り方にも大きく参考となっている。今年度も１学期の間は、オンラインの実施が中心であったが、それ以降は例年どおり、くらしき作陽大学に赴き講義を受ける形での実施ができた。今年度は17名の音楽学類の生徒が受講しており、来年度は31名が受講予定である。

（２）アカデミック・インターンシップ

残念ながら岡山県内の大学にはアカデミック・インターンシップを実施している大学が見当たらない。社会的にもインターンシップについては高校・大学である程度の認知度があり、実際に実施したり協力したりしてくれる企業・団体は多く存在する。昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、なかなか大学に赴くということが難しくなっているのが現状である。

オンラインの導入により、高大連携の形も多様になってきている。今後のアカデミック・インターンシップの在り方も模索したい。

４．総合的な探究の時間のカリキュラム開発

（１）教育課程について

来年度の「総合的な探究の時間」において１年次では、今年度と同様に週１時間の「GLOBALⅠ」を実施する。「スキル学習」と「課題研究」を中心として行う予定である。また、「企業訪問」も生徒の希望を優先する形で実施する予定であり、SDGsも含めた地域課題に取り組む企業の実態や世界市場で活躍する企業戦略等を学習し、将来の進路を考えさせるとともに、自分と社会との関わりについての考えを深めさせるよう、キャリア教育の充実を図りたい。

２年次の「GLOBALⅡ」は教育課程上は週２時間の実施を予定している。ただし、この２時間は連続して行うものではない。２時間のうち１時間を各学類特有の学校設定科目と連続した時間割を編成し、２時間連続での授業を行う。人文社会学類は「文学探究」、「歴史探究」、「国際理解」、国際教養学類は「Global Studies」、音楽学類は「Global Music」、理数学類は「Global Science」である。また、残りの１時間は全クラス同時に行う「GLOBALⅡ」を実施する。学類の特色を前面に押し出して、得意分野を十分に生かして仮説検証を繰り返し行えるようなより深い研究ができるものと期待している。

３年次では希望者になるが「GLOBALⅢ」を週時程内に２時間実施することになっている。「GLOBALⅠ」、「GLOBALⅡ」で培った経験を生かしながら、個人研究の形で実施する。「GLOBALⅡ」での研究手法を踏まえてより自分の興味関心を深めて研究を進めていく。

（２）実施内容について

今年度、１年次の「GLOBALⅠ」では、「課題研究」を行うために必要なスキルの習得を１学期に行った。新型コロナウイルス感染症の影響のため、短縮授業となった。昨年度と同様に「探究ナビ」のテキストを用いて、「国語」「地歴公民」「数学」「理科」「情報」の５教科による教科横断的な学びをクラス単位で５回実施した。年間を通して、生徒自身による振り返りを記録させた。また、今年度は内閣府が提供する地域経済分析システム（RESAS)を用いたデータ収集の講演やSDGsに関する岡山市の取組について学習する講演、課題研究の進め方に関する講演などを課題研究を始めるタイミングで実施し、探究学習へスムーズに入ることができるように工夫した。また、課題研究の準備については、一人一台端末のiPadを導入したことにより、ホームルームでの共同編集が可能となり、作業の効率も向上させることができた。次年度についてもさらなる取組の充実を図りたい。

２年次の「GLOBALⅡ」では、学類の特色を生かす方向で実施している。SDGsの17の目標と関連付けてテーマ設定を行ったが、教科の特性が強いので、SDGs17の目標に当てはまらない部分があるともいえる。だが、169のターゲットとならば関連付けすることは可能であると考える。社会をよくすることを大目標として、リサーチクエスチョンや仮設の決定を行ってもらいたい。シンキングツール利用も今年度は増えており、課題研究を指導してきた経験が生かされているようである。調査・研究における手法は、主にアンケートやインタビューが多く用いられた。コロナ禍のため施設によっては、インタビューに行けなかったりと例年どおりとはいかなかったが、フィールドワークやClassiによるアンケートなどできることを利用しながらの行ってきた。来年度も基本的には、これらの手法を取り入れながらICTを活用していこうと考えている。

３年次の「GLOBALⅢ」においては、個人研究による課題研究に取り組んだ。自分たちが考える地域の課題や身近な問題を取り上げることで、地域の活性化や社会をよりよくすることへの提言ができればよいのではないかと考えている。研究手法は、１年次、２年次で学んだことをうまく活用し、インタビューやGoogle Formsによるアンケートなどを実施した。すべてを一人で行わなければならないので、今までの課題研究より負担は増えるが、そのかわり自分が納得するまで研究することができるので内容的には深みを増すこととなった。この研究成果は、大学入試にも生かすことができている。

５．今年度の成果や課題、次年度の取組

（１）カリキュラム・マネジメントの推進について

今年度は、カリキュラム・マネジメントのPhaseⅢに取りかかり、12月の時点でほぼ予定していた内容を完了させることができたが、細かい調整をしなければならない。

このシステムは青森県立青森高等学校の取組を参考にしており、一昨年度からシステムの構築に取りかかり、３つのPhaseに分けて準備していく予定である。一昨年度、PhaseⅠが完成し、昨年度はPhaseⅡのほぼ完成させた。今年度は、年度当初はコロナ禍の影響があり、緊急事態宣言下における時差登校、時短授業等を強いられた。２学期になると宣言解除とともに授業、学校行事も通常どおりに行えるようになり、昨年度ほどの混乱はなかった。また、７月に青森県立青森高等学校の「学習評価について」の発表をオンラインで視聴する機会があり、PhaseⅢへの大きなヒントを頂いた。今年度のカリキュラム・マネジメント委員会は一昨年度同様に月１回（８、９月はなし）のペースで開くことができた。協議内容は多岐にわたったが、本事業の終了に伴い来年度以降の内容について決定したことを中心に記載する。

PhaseⅢにおいて、まず決めなければならないのが各教科・科目の学びの３要素によるCompetency Baseのシラバスである。各教科にお願いして10月中には原案がほぼ決まり来年度実施の目処が立った。来年度以降のことについては基本的には課題研究等は変更なしで実施できるように教育課程を作成しているが、本事業における担当が一部の課や教科に偏っていたためそれらの部署に大きな負担をかけることになっていた。これを解消するために全学校的な取組となるように修正した。その際に、「Bon Voyage！（仮称）」というプロジェクト名をつけた。この仮称は、我々教師は生徒が様々な試練を乗り越えるための支援を行い、思い悩みながら成長していく過程を見守りながら、３年後には「Bon Voyage！」（よい旅を！）と言って生徒を送り出せることを目指して、名付けたものである。また、表３のように本事業における三つの柱を受け継ぐものを改めて設定した。

三つの柱（Three Main Components）
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を受け継ぐもの（案）

名称	地域密着の課題研究 ↓ 未来の自分をみつめて	異文化交流の深化 ↓ 社会を深掘り	自主性・自律性を育成する取組 ↓ 多様性の理解
資質・能力	基礎学力 論理的思考力 批判的思考力 課題解決能力 自己管理能力	グローバルな視野 批判的思考力 課題解決能力 ICT活用能力	人を大切に思う心 コニュニケーション能力 自己表現力 自己管理能力
担当	教務　総務　進路 グローバル	図書　国際　情報企画	生徒　厚生　相談　人権

表３

これにより、各部署でカリキュラム・マネジメントに関わってもらうことができるものと考えている。以上が現在までに決定した内容である。さらに、現在検討中の内容として、「学習評価」がある。来年度からの「指導と評価の一体化」のための学習評価をどのように行うかをカリキュラム・マネジメント委員会で議論している。大筋での合意は取り付けたが、細部においてはまだ検討を重ねており、今年度中に決められるものを決めている段階である。この学習評価の手法には、青森県立青森高等学校の学習評価方法を取り入れている。

（２）「GLOBALⅠ」「GLOBALⅡ」「GLOBALⅢ」の評価について

「GLOBALⅠ」の評価については、昨年度同様カリキュラム・マネジメントの推進のために準備しているCompetency Baseのシラバスを利用しようと考えている。生徒の自己評価と教員による評価を観点別評価の基準として、統計グラフコンクールの出品作品や、スキル学習のアンケートをはじめとする生徒のポートフォリオなどを用いて「GLOBALⅠ」への取組を多面的に評価していきたい。

「GLOBALⅡ」の評価については、学類特有の科目と「GLOBALⅡ」を連続で行っており、学類特有の科目の評価と「GLOBALⅡ」の評価とを関連づけて行わなければならない。ただし、学類により内容は異なるので、学類ごとに用意したシラバスを用いて生徒の自己評価と教員による評価を観点別評価の基準として、課題研究の研究記録等のポートフォリオも参考にしながら多面的に評価していきたい。

「GLOBALⅢ」の評価については、「GLOBALⅠ」同様にCompetency Baseのシラバスを利用しようと考えている。ただし、「GLOBALⅢ」は個人研究であり、生徒一人に担当者が一人つくようになっているので、担当者による評価を中心に行うことになっている。その際に、研究に対する取組、利用した研究手法における工夫、発表原稿などをポートフォリオとして評価の参考にしている。

今年度の成果としては、「GLOBALⅠ」「GLOBALⅡ」「GLOBALⅢ」の評価が確立できたことである。改善すべき点は多くあるが、まず形を整えることができたと考えている。後はポートフォリオをいかに活用するかである。この点において、本校はまだまだ不十分と言わざるを得ない状況である。まずは、「何を貯めるのか」、次に、「どのような内容を貯めるのか」、さらに、「いつ振り返るのか」最後に「自己の成長をどのように捉えるのか」と言ったことを計画的に実施できなければならない。ClassiやGoogle Workspaceの導入によりICT環境も整備されつつあるが、それを生かすことが今後の課題である。

（３）アカデミック・インターンシップの状況について

来年度、コロナ禍がどれほど収束するのか不透明であり、その状況下でどれほどの高大連携事業が行われるかは疑問である。ただ、アカデミック・インターシップへの取組は、本校のキャリア教育において重要なものとなる可能性を秘めており、今後も模索していかなければならない。

（４）指定３年目の総合的な探究の時間のプログラム開発について

「GLOBALⅢ」の評価方法を確立することができたので、探究活動としては、「GLOBALⅠ」、「GLOBALⅡ」、「GLOBALⅢ」と一貫した形ができあがったことになる。スキル学習から始まり、グループ研究、教科の特性を生かした研究、個人研究と基本的なプログラムを多くの生徒が３年間で体験することができるようになっている。来年度以降は、より生徒の資質・能力を伸ばすように仕組みを改善していかなければならない。これも、カリキュラム・マネジメントとして本校が取り組まなければならない課題である。

（５）まとめ

次年度は、カリキュラム・マネジメントを本格的に導入することになる。（１）で示したとおり「Bon Voyage！（仮称）」を推進するための準備は着々と整いつつあり、やっとスタートラインに立つことができた。クリアーしなければならない課題は多々あるが、事業終了後も持続可能な仕組みを築くことができつつあると考えている。昨年度以上にカリキュラム・マネジメントも探究活動も生徒、教員間に少しずつ浸透してきたようである。来年度以降、「Bon Voyage！（仮称）」というシステムを内外に周知徹底していくことに努めなければならない。３年間の本事業において様々な試みを実践してきたが、それらの成果を生かして今までのシステムに手を加えながら、新たなシステムの構築が完成しつつある。今後は、さらなる検証を重ねることでよりよいものを目指していきたい。

第６章　各種委員会の開催

１．運営指導委員会・コンソーシアム運営会議（○委員発言　●学校発言）

（１）第１回コンソーシアム運営会議
令和３年７月１日(木)14:00～15:30（オンライン）

□　協議内容

【質疑】

○「英語授業の改善」についての説明のなかで、国際教養学類のみGTECを受検、成績分析、分析結果のフィードバックを行っていくということだが、英語の４技能が重要視されている一方で、大学入学共通テストにGTECや英検などの民間検定試験の活用が見送られたことで、多くの学校が組織として受検する動きがなくなってきている実態があるようだ。大学入試に必要だからということではなく、これからの社会において必要とされてくる英語４技能をどのように育成し評価していくのかということが、本事業の成果の一つとして重要だと思うが、そのために、育成した力を客観的に捉えるエビデンスとして、外部検定試験の成績の分析と活用は必要かと思う。このことについて、学校として組織的にどう考え、取り組んでいるのかについて聞きたい。

●説明が足りていなかったが、GTECは全学年、全学類で受検している。国際教養学類のみというのは、スピーキングテストを、外国人講師に依頼して実施しているということである。

●本校は、大学入学共通テストへの外部検定試験の導入が議論される以前からGTECを受検しており、また、国際教養学類があるということで、岡山城東高校では英語をしっかりやっていくということは生徒にもメッセージとしてしっかりと伝わっている。英語の授業で目標としている力がどれだけ身に付いているかを測るために、GTECを受検するのだということは、生徒に伝え、意識させている。また、話す力を鍛えていくと、別の技能においてもしっかり力がついてくるので、CAN-DOリストに改訂を加えながら、新学習指導要領にも対応した指導を継続していきたい。

○資料にある１・２年次の７月下旬～８月上旬、１年次の３月上旬～中旬に設定された「スピーキングテスト」がGTECのことか。

●このスピーキングテストは授業中の取組である。例えば昨年度の１年生だと、英語表現Ⅰの授業のなかでALTと英語の教員が１クラスを半分ずつそれぞれ担当し、７月と３月とで担当を入れ替えて、スピーキングテストを対面で行った。

○GTECをいつ受検するのか。また、全員受検するのか。

●１・２年生は８月である。３年生は昨年度において７月にも受検機会があったが、今年度はそれがなくなったので、全学年８月である。全員受検である。

【各委員から】

○運営指導委員会でも話題となったが、岡山城東らしさにどう磨きをかけていくか、そのためにSGHも含め、事業の主旨を上手に活用しながら取組を進めてきていると思う。今年度は、これまでの取組の積み重ねをしっかりと整理し、成果をまとめるとともに、事業指定終了後にどのようにつなげていくのか、取組を継続していくのかということを考えてもらいたい。とりわけ、企業訪問については、この事業でつくった企業とのつながりをどう次に生かすのかということが課題であろう。

○コロナ禍で海外交流の取組の実施に苦労しているということだが、大学の留学生との交流に加えて、例えば岡山の企業で仕事をしている外国人の方や、かつて海外勤務を経験している方の話を聞くような機会を設けることは可能である。仕事という視点から、世界とのつながりについて考える取組として、検討してはどうか。

○コロナ禍で外部へ出ていく取組に困難があったことと思うが、生徒のために非常に工夫しながら様々な取組を進めてきていることがよくわかった。

○持続可能な地域をつくっていくためには、次の世代を担っていく人材の育成が重要であり、中山間・地域振興課で策定中の過疎地域の持続的な発展に向けた方針においても、人材育成を重要な項目として位置づけているところであるが、岡山城東高校がこの事業で、地域の課題について考えながら世界で活躍する生徒の育成を目指していることは、非常に意義のあることだと考える。

○発表のなかで、コロナ禍でボランティア活動、社会貢献活動の場が減っているということであったが、例えば中山間地域の集落で社会貢献活動を行ったり、地元の方と地域課題について考えたりする活動の紹介は可能である。地域によっては、感染対策を十分に講じているならば、来てもらって構わないという集落もあるので、そうした地域との橋渡しが可能である。

○事業の三つの柱のなかに、「地域密着の課題研究」と「自主性・自律性を育成する取組」とがあるが、地域密着の課題を探究し、それに対する解決策を社会貢献活動という形でリンクさせていこうという取組を考えてもらえれば、中山間・地域振興課としてはありがたい。

○SDGsやESDに関わる取組を行う、岡山ESD推進協議会という任意団体を２００５年に立ち上げている。この協議会の近年の方針として、高校生や大学生といったユースの取組に力を入れており、高校生の様々な活動の発表の場を設けている。

○今年度も、昨年度に引き続き、学校からの依頼を受け、１年生に対する講演を、７月１３日に行う予定である。SDGsとは何かということに加えて、岡山市の具体的な取組の紹介も交えながら、生徒が自分たちにできることについて考えることができるようなきっかけにしてもらえればと考えている。

○近年、岡山城東高校に限らず、多くの学校に出向いてSDGsについて話をする機会は多いが、岡山市では、高校生や大学生がSDGsと自分たちをつなげたり、地域課題を見つけたりするためのイベントも色々と企画している。一例を挙げると、８月１８日に「おかやまマチナカSDGs探険」というイベントを西川緑道公園を中心に行う。これは、高校生、大学生といったユース、若い世代が、SDGsのコアの部分を学びながら、身近にあるSDGsについて、大人たちに教わるのではなく、自分

たちで発見し、課題解決のために何ができるか、行動をどのように変えていく必要があるのかを考えるきっかけとするイベントである。こうしたイベントもぜひ、活用してもらえればと思う。

○岡山城東高校が、生徒の資質・能力の育成のために、地域密着の課題研究、英語教育の充実、自主性・自律性の育成に、学校を挙げて取り組んでいることは岡山県全体のモデルとなるものであると思う。

○この事業で取り組んでいること、自分が研究していることが、大学のどういう学部、研究につながっていくのか、それらを大学でどう発展させ、持続可能な社会の実現のために、自分に何ができるのか、という将来の進路をしっかりとイメージさせてもらいたい。事業の多岐に渡る様々な取組を、生徒たちの進路にどう結び付けていくのか、ということが、この事業の着地点として、非常に重要である。生徒一人一人が、問題意識、課題意識をしっかり持ちながら、大学で伸びていくための道筋をどうつけていくのか、ということを意識してもらいたい。

○岡山大学でも、総合型や学校推薦型の入試の枠を広げていこうという動きがある。特にSDGsについては、岡山県や岡山市とも連携をとりながら、持続可能な社会の実現を図っていく拠点としての大学を標榜している。そうしたなかで、SDGsや地域課題の解決を見据えた課題研究が、大学での学びに結びつき、主体的な進路選択に結びついていくということを目指してもらいたい。

○岡山大学のホームページに、岡山大学×SDGsという、岡山大学のそれぞれの学部が、学部を越えて連携しながら取り組んでいる事例を紹介した特集を掲載している。こうしたものも参考にしながら、問題意識を高めて、岡山大学へ進学してもらえればありがたい。

○新型コロナウイルス感染症に係る、大学の感染防止のガイドラインにより、７月１３日の課題研究の指導への教員派遣についてはオンラインでの実施となった。今後の派遣については、その時点の感染状況によって、対面派遣も可能になるかもしれない。

○生徒たちが探究学習で取り組んでいるテーマが、最終的には自分の将来の進路に結びついていくことがやはり大切である。自分がやりたいことを探しながら課題研究のテーマを決め、そのテーマに向けて生徒が自走していくことが、探究学習のあるべき形ではないか。特に普通科進学校において探究学習をすることの意義はそこにあると考える。

○新学習指導要領において、全体的な学ぶ内容の総量を変えることなく、一方で生徒の「主体的・対話的で深い学び」を目指し、かつ探究活動も重視されているが、これらすべてを授業のなかでこなしていくのは、現実的には無理である。いかに授業外のところで、生徒たちが自走していけるかということが鍵となるが、そのときに探究するテーマが生徒の興味、関心に結びついたものであること、そしてそれが最終的に将来の進路につながるような「マイプロジェクト」になっていくことが重要である。

○また、学校の授業のなかで行う探究活動と、ICT、一人一台端末を活用しながら、家庭学習としてできることをはっきりさせていくことが必要になってくる。授業はやはり対面の良さ、強みを生かして、生徒たちが協働的、対話的な学びを通して互いに刺激を受けるような時間とするべき。家庭学習で個人探究をしっかり行い、授業では、それを互いに持ち寄り、対話、交流を深める時間にしたい。

○新学習指導要領の内容の記述は、主語がすべて生徒になっており、生徒自身が何をどのように学ぶかが示されている。そのなかで教師には、支援者の立場として生徒たちに併走しながら、学び合いの場をつくり出し、生徒たちの心に火をつけ、探究活動が活性化していくようにコーディネートする役割が求められる。それは、AIにはできない、生身の教師ならではの役割であり、指導力の見せ所である。

○以上のような観点から、岡山城東高校の取組は、岡山県の高校のリーディングケースとなってもらいたい。岡山城東高校は、ここまでの取組の一つ一つを、事業のねらいに照らし合わせながら、非常に丁寧に進めてきていると感じる。事業最終年である今年度、積み重ねてきたものをさらにブラッシュアップしながら、一人一台端末の活用も含めた生徒の「学び方」の部分についても、リーディングケースとなることを期待している。

【学校からの質問】

●探究活動を将来の進路にどう結び付けていくかということは、学校としてもポイントだと感じている。今年度は、取組をキャリア教育とどう結び付けていくかということがテーマだと考えている。８月の企業訪問についても、この視点を重視した取組を検討している。こうしたキャリア教育を進めていく上での、ヒントをもらいたい。

○テーマ設定が重要だ。テーマを設定する過程で、教師が生徒としっかりと対話を重ねていくことが必要。特に、自分が将来、何をすればいいのかわからないという生徒にとっては、教師との対話や、校内の取組だけではなく、外部から講師を招いての講演会や、社会貢献活動等で様々な外部の方の話を聞く、といった経験を通して、興味、関心がもてるものを見つけていくことが大切である。

○また、個人だけでなく、例えば学類ごとに生徒たちにグループで考えさせていくことも一つの方法だ。いずれにしても、学校側、教員側がテーマを決めてそれをさせる、ということではなく、ある程度時間をかけて対話したり、様々な経験をさせたりしながら、生徒たち自身にテーマを決めさせていくということが重要である。

（２）第１回運営指導委員会
令和３年10月12日(火)13:30～15:15（セミナー室）

□　協議内容

【質疑】

○シラバスについて、これは生徒と共有しているのか。各教科の最初の授業でこのシラバスを使って、教員が生徒に説明をしているのか。このシラバスを見て、生徒は理解できるのか。シラバスは、まず授業内容が示された上で、それをどう評価するのかについて説明されるのが通常の形式ではないか。しかし、このシラバスはどのように評価するかが先に示されており、実際に何を学ぶかということがあまり示されていない。生徒たちにとっては、どのようなことが学べるのか、どのようなことをやるのか、ということの方が大事なの

ではないか。
○「10の資質・能力」について、全ての教科、科目間でバランスは取れているのか。一つの教科のなかに全ての資質・能力が同じウエイトで設定されるわけではないと思うので、カリキュラム全体の科目間でのバランスが取れているかどうかが大切である。もし、バランスが取れていなければ、生徒たちがルーブリックで自己評価を行ったときにも、項目間でばらつきが生じてしまう。そのようにならないために各教科間でバランスを取る「カリキュラム・マッピング」を行っているか。
●シラバスは生徒に示している。今回の資料で示しているものについては、学習評価の部分のみが出ているが、実際には年間指導計画がこれとセットになっており、これらを併せて運用していくというイメージである。
●「10の資質・能力」について、各教科・科目のシラバスは現在作成中である。まずは各教科・科目、学校行事など、学校の全ての教育活動を「10の資質・能力」に紐付けて実施していくということを進めている。今後、各教科が作成したものをもとに、カリキュラム全体のバランスを見ていくことになるが、まだそこには至っていないのが現状である。
○大変な作業だとは思うが、「10の資質・能力」を設定していることで、バランスを取る作業自体にそれほど時間はかからないのではないか。全ての科目を縦軸に、「10の資質・能力」を横軸に置いて、交差するところにチェック欄を作って見ていけば、各科目で弱い部分が見えてくるかと思う。ある科目で足りない部分が分かれば、それを補うために、新たな科目を設定したり、内容を変更したりすれば、全体でのバランスは取れるかと思う。
○評価の仕方について示すのはルーブリックであり、シラバスはあくまでも生徒たちに対して教育内容を事前開示し、学校側の説明責任を果たすものである。その点で現在示されているものは、フォーマットが違うのではないか。まず、授業の中で何を学んでいくのかをしっかりと示し、その上でこういう評価をする、というのが本来の形ではないかと思う。
○企業訪問について、事業終了後の来年度以降、この取組を継続していくためには、これまで受け入れてくれた各企業との結びつきが重要になってくるかと思うが、現段階での各企業の感触はどうか。
○社会貢献活動について、どれだけ自主性・自律性を育成する取組になっているか。保育園、こども園、社会福祉施設への訪問などが行われているが、生徒が「やらされ感」をもってやっているならば、あまり意味がない。生徒自身がそうした取組に対して、「なぜやらなければならないのか」「やる必要があるのか」ということを自主的・自律的に考えて行動できるよう仕向けることができているか。
●企業訪問について、訪問後、各企業にアンケートを行ったところ、来年度以降も受け入れ可能と回答をいただいた企業もある。また、「おかやまSDGsマップ」に掲載されている企業を中心に、訪問先を増やすことで、一つの企業に受け入れを依頼する人数を少なくして企業側の負担を軽減すれば、受け入れてもらえる可能性が高くなるのではないかと考えている。また、事業指定終了後については、大型バスで40人単位の訪問ではなく、生徒自身も含めて直接、企業にアポイントメントを取ってそれぞれ訪問するという形も含め、検討していきたい。
●学校が設定している社会貢献活動について、参加後の生徒の声として、「これをきっかけに、一般に募集されているボランティア等に参加したいと思った」というものが見られた。学校としては活動の機会を与えながら、それが生徒の自主的・自律的な取組に一層つながるよう、今後、どう働きかけていくかを模索していきたい。

【運営指導委員会】
○運営指導委員会では、最終年度ということで、成果をまとめていくとともに、事業終了後の来年度以降、これまでの取組をどう発展、継続していくかということについての助言ができればと思う。
○生徒たちは、「地域密着の課題研究」の情報収集をどういう方法で行い、テーマをどのように設定しているのか。最近は高校生も、その親の世代も新聞を読まない人が多い。そのような中で高校生が、地域にどのような課題があるかということをどういう方法で知り、取り組みたいテーマを決めているのか、知りたい。
○より能動的に、実体験を通して体で覚えていく、という要素がやや弱いと感じる。例えば、海ゴミの問題が様々なメディア等で取り上げられているが、これに関連して、河川の清掃が単なるボランティアに留まらず、海ゴミの問題解決に向けた取組として意義づけられるようになっている。こうした取組に参加することによって、本事業における「地域密着の課題研究」と「自主性・自律性を育成する取組」という二つの柱がつながっていくのではないかと思う。あるいは地域の公共交通手段の減少という問題について、岡山市、倉敷市などの県南部の中心地域で生活していると意識することは少ないかもしれないが、岡山県内にも既に、公共交通機関で行くことのできない地域は存在している。例えば、実際にローカル線に乗って、県北の地域にどうやって行けばいいのかということを実際に体験して感じたこと、考えたことをきっかけにして、さらに課題として探究していくということがあってもよいのではないか。
●テーマ設定については、単にインターネット検索だけではなく、論文、書籍、新聞などにも当たるよう指導はしているが、生徒になかなかそうした文献資料を読む習慣がないということで、難しい面がある。指導する教員側が読んだ新聞記事等を紹介するということは行っている。また、地域課題の発見については、全県学区の学校であるため、西備、東備、県北から通学している生徒、下宿している生徒もおり、それぞれの地域の抱える問題を個人の問題として意識している生徒も多い。また、課題研究において、岡山県立美術館で演奏を行ったグループや、自分達で講師を招聘し講演会を開催したグループがあった。まだ十分なものとは言えないものの、単に文献研究を重ねるだけではなく、必要な情報や知識を得るために自分たちで考え、行動した例と言えるかと思う。また、他のグループの生徒がこの取組を知り、そういう方法もあるのか、という感想を書いていたが、こうした生徒の能動的、体験的な取組の輪がさらに広がっていけばよいと考えている。
○先日の岡山フィルハーモニック管弦楽団の演奏会で、岡山城東高校出身の二人の演奏家が客演していたが、素晴らしい演奏で感服した。こうした人材を輩出でき

る学校は、本当にすごいと思う。
○事業最終年ということで、この事業を通して、生徒が何を学んで、何が良かったのか、ということについて検証する必要がある。印象だが、あまりにも多くのことを詰め込みすぎてはいないか。生徒からすると、要求されることが多く、苦しくなっている部分もあるのではないか。大切なことは、生徒たちが大学へ進学してから高校時代を振り返ったときに、その学びを肯定的に評価しているのかどうかということであり、その検証が必要だ。肯定的に評価しているのであれば、学びを通して何に気付き、発見し、体得したのか、ということを、卒業生アンケート等を用いて追跡し、検証してもらいたい。在学中の生徒のアンケートの結果だけではなく、進学後、さらには社会人になった後で、この事業の取組を生徒たちがどう評価しているのかということは大事な指標である。そういった指標も基にして、事業で取り組んできた内容を振り返り、事業終了後の取組については、あれもこれもではなく、もう少し焦点を絞って進めていくべきではないか。
○自分が塾長を務めている国際塾では、有名な経営者の方々に話をしてもらった内容を、必ず自分で文章にまとめさせることをしている。自分が見たこと、聞いたこと、感じたことを、自分の言葉でしっかりと書き上げることは、とても力がつくと感じている。
○これまでも指摘してきたが、キャリア教育の重要性を認識し、仕事について生徒にきちんと指導できる人、キャリア・アドバイザーのような人材を置く必要がある。例えば、英語が得意だから外交官になりたいという生徒がいたとすると、外交官になるためには、国家公務員試験を受ける必要があり、英語だけできれば良いわけではなく、法律の勉強をする必要があるということ、そのためにはどういう学校で学ぶ必要があるのかということを、きちんと指導できる人が必要だ。これは教員だけでは限界がある。キャリア教育の在り方についても検討してもらいたい。
●キャリア教育については、別添資料の中に本校の全体計画を示しているが、現在の学校の資産をどう生かしていくかという形で進めている。例えば企業訪問、課題研究といった本事業の取組についてもこの中に位置付けている。また、卒業生が多方面で活躍しているので、２年次生の「先輩の話を聞く会」において、活躍している先輩の生の声を生徒に聞かせるといった取組も行っている。
○コロナ禍において、特に「異文化交流の深化」に関わる取組については、代替事業の検討も含め、大変な苦労があったことと推察するが、その中で着実に成果を上げていることに敬意を表する。
○開校以来、新しいタイプの普通科高校として、個性的な教育活動を行ってきた結果、多方面に渡って活躍する卒業生を多く輩出してきた。その強みである「岡山城東らしさ」は大切にしてもらいたい。
○３年間の事業指定が終了し、来年度から予算措置がなくなるということだが、逆に言えば、やらなければならない、という縛りがなくなるということでもある。SGHも含めた、これまでの８年間にわたる事業を通して積み重ねてきた成果や経験を生かしながらも、生徒のために学校としてやるべきこと、やりたいことにしっかりと焦点を絞り、「岡山城東らしさ」が発揮できるような取組を継続していってもらいたい。
○先に杉山委員が触れたクラシック音楽界の第一線で活躍している音楽家や、ポップミュージック界で活躍している歌手、キング・オブ・コントで優勝した芸人など、これほど多様な人材を多く輩出している学校は、本当に素晴らしいと思う。
○学校自己評価アンケートの教員の評価が多くの項目で低い。必要なのは、教員の意識改革なのではないか。自由な校風でユニークな生徒が育っているが、教員の意識はどうか、という点について考えていく必要がある。一番の問題は、教員の忙しさではないか。
○来年度から新しい学習指導要領が高校でスタートし、高大接続改革が進んでいくことになる。その中の大きなトピックの一つが教員の働き方改革、業務の軽減である。大学の教員が高校の教育活動に関わっていくということが、高校の教員の業務軽減につながっていくと考えている。例えば、本事業も、岡山操山高校のＷＷＬ事業についても、岡山大学をはじめ、複数の岡山県内の大学の教員が生徒の指導に関わっている。それは、高大接続改革の中での大学の役割だと考える。また、地域との協働の一つの在り方でもあると思う。教員の仕事を軽減し、頼れるところには頼っていく、という校内体制の構築についても検討してもらいたい。
○現代は、大学を出て、就職して、定年まで勤めて、という従来のキャリアのモデルが崩壊し、多様な働き方や生き方がある時代である。そのような多様性の時代の中で、生きていく力をどう育んでいくかということが重要だ。
○先日、ノーベル賞を受賞した真鍋淑郎氏が「好奇心が研究の原動力だ」ということを言っていたが、この事業が、生徒一人ひとりの好奇心を出発点にして、学校が目指す資質・能力の育成につなげ、さらに目指す人材の育成につなげていくということが大切なのではないかと思う。事業最終年度の仕上げに向け、「岡山城東らしさ」の追求に結びつく取組を続けていってもらいたい。

（３）第２回コンソーシアム運営会議
令和３年10月12日(火)15:30～16:30（セミナー室）

○企業訪問の内容に対する生徒の満足度はどうか。企業としては、多くの生徒に地元で就職してもらいたいという思いもある。企業訪問の内容について、生徒がどういう印象をもったか、改善すべき点はあるかということが知りたい。
○生徒アンケートから見ると、満足度としては大変高いと思う。自分はナカシマプロペラに引率したが、SDGsに関する取組などを知ることができ、良い学びができたという感想が多く見られた。また、岡山城東高校出身の方が５、６人、座談会のような形で、大学選びのことや高校時代にどのようなことを頑張っておけば良いかということなど、色々と話をしてくれていた。そうした経験も生徒にとって良かったのではないかと思う。
○次年度からの企業訪問の方向性として、OB・OGの活用ということが一つの鍵になるのではないか。「おかやまSDGsマップ」の活用と併せて、同窓会名簿などでどの企業に卒業生が所属しているかということを参考にしながら、そうした企業を当たっていくのも良いかと思う。
○確かにアンケート結果を見ると、満足度は高いようだ

が、具体的な本音の部分も、受入れ企業側としては知りたく思う。そうしたこともフィードバックしてもらえるとありがたい。

●２年次生の「先輩の話を聞く会」については、昨年度と今年度はコロナ禍で直接来校しての実施ができなかったものの、昨年度はメッセージを届けてもらい、今年度はメッセージ動画の作成をお願いしたが、依頼したOB・OGは皆、快く引き受けてくれた。企業訪問についても、OB・OGの所属している企業に依頼するのは期待が持てると思う。

●企業訪問については、コロナ禍で、なかなか実際の現場を見せてもらえる機会が少ないということがあった。例えば理数学類であれば、実際のものづくりの現場を体感するという機会を持たせたかった。

○高校時代の「体験」は非常に大きい。次年度以降、やり方、形態の工夫をしながら、ぜひ、いろいろな企業を見て、体感する取組は継続してもらいたい。

○コロナ禍で実際に地域に出ていく活動は本当に難しい状況だと思う。中山間・地域振興課としても、地域の方に話を聞くことすらままならない状況が続いている。それでも、やはりこの事業の趣旨を考えると、企業だけではなく、県内の中山間地域の集落にも目を向けてもらいたいし、訪問もしてもらいたいと考えている。地域としても、若い人が来てくれることが、活力につながるということもある。当課としては、地域と学校との橋渡しをしていきたいと考えている。

○以前にも提案してきたことだが、「地域密着の課題研究」に取り組んでいくなかで、その解決策を「自主性・自律性を育成する取組」、つまり社会貢献活動という形で取り組んでもらえれば、中山間・地域振興課としてはありがたい。

●課題研究のテーマ一覧を見ると、昨年度の２年生と比較して、岡山という地域に対する課題意識をもったものが多いと感じる。今後は、探究したことを実際に行動に移していくのが、次のステップかと考えている。指導に当たっている岡山大学の教授からは、「研究して終わりではなく、解決策を示していこうとするのが岡山城東の課題研究のスタイルだ」という評価もいただいているので、そういった進め方を今後も継続していくことができればと考えている。

●来年度以降も、中山間・地域振興課に地域でのボランティア等の活動を紹介してもらうことは可能か。

○「元気集落応援団」という、人手を必要としている地域と、ボランティアを考えている人との橋渡しをする事業がある。こうしたものも活用していただければと思う。

●これは現地集合か。

○そうだ。交通費だけでもこちらで負担するということも検討してはいるが、なかなか難しい。

●昨年度も今年度も、コロナ禍でボランティアに参加したくてもできないという生徒が非常に多い。次年度以降もそうした情報をぜひ紹介していただければありがたい。

○３年間、非常に優れた取組を積み重ねてきている。学校、先生方に敬意を表する。

○大学教員の講師派遣について、大学と高等学校の仕組みの違いから、派遣については苦労するケースが非常に多かった。本事業については、連携に関する特別な要項を作成し、これに基づいて派遣を行っているが、事業指定終了後については、根拠となるものがなくなるため、次年度以降の教員派遣に関しては、新たなガイドラインを改めて作成するなどの対応が必要となってくるかと思う。講師として高校生を指導した大学の教員は、非常に満足感をもってやってくれているが、派遣に至るまでがなかなか大変というのが実情だ。事業終了後の岡山城東高校の取組の在り方については、県教委と学校でしっかりと協議して、引き続き連携の必要があれば、相談してもらいたい。

○来年度からの新教育課程の実施に伴い、大学入試改革の動きも進んでいく。岡山大学としては、次の三つを備えている学生を求めている。一つ目は学力。「知識及び技能」に加えて、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を兼ね備えていること。英語について４技能ということが言われるが、日本語についても同様であり、人の話を聴く力、まとめる力、長文を読む力、書く力、発表する力などが、今の大学生には不足していると感じる。そういう点で、岡山城東高校の課題研究等で生徒に取り組ませてきたことは、彼らが大学生に入ってから、社会に出てからも必ず必要となる力であるので、引き続きしっかりと育成していってもらいたい。大学に進んでから伸びていくために、また、社会のなかで自立し、より良い社会を作る人間になっていくために、という視点で、高校時代の学びを捉え、改めて考えてもらいたい。二つ目は、学ぶ目的意識を持っているかということ、三つ目は、自分で考えて動くことのできる人間であること、である。いずれも今の大学生に不足している要素である。したがって岡山大学では、SDGs入試を通して、「岡山大学でこれを学びたい」というしっかりとした意志を持った学生を取ろうとしている。一般入試の後期課程廃止を決めたのも、岡山大学で学びたいと考える学生をぜひとも取りたいという岡山大学の強い覚悟の表れである。岡山城東高校の事業で学んだ生徒たちは、まさにこの岡山大学が求める学生像に合致していると考える。実際に今年度も岡山城東高校から多くの生徒が入学してくれている。今後も、一般入試、SDGs入試も含め、岡山城東高校で学んだ多くの生徒に岡山大学に入学し、これからの地域社会、世界を担う人材になってもらいたいと考えている。

○課題研究で生徒が取り組むテーマの発見、設定については、普段の授業のなかで、生徒たちにどう社会の問題に出会わせるか、ということがポイントになるかと思う。授業と関係のない本を読め、と言ってもなかなか難しい。教員が持っている問題意識が、各教科の専門性と結びついて、生徒を感化していくことが大切だ。総合的な探究の時間での学びと、各教科での学びとが有機的に結びつくようにマネジメントしていくこと、また、その学びを評価して指導につなげていく、ということがカリキュラム・マネジメントの本質的意義である。

○「岡山発グローバルリーダーの育成」とあるが、生徒全員、一人ひとりがこれからの社会のリーダーとして、よりよい郷土、社会、世界をつくっていこうという意識をもち、進学して学び、社会に出て活躍していく、ということが、本事業の目指すところかと思う。そういう観点から、岡山城東高校の取組を見ると、やや教員が用意周到に準備し過ぎなのではないかと感じる。岡山城東高校の校風は、本来、生徒たちが自主的・自律的に、自分たちの学校を自分たちでつくっていこうという高い意識をもっている、ということではなかっ

たかと思う。そうした伝統的な校風を生かしながら、事業に関連する取組を、もっと生徒主体で取り組ませていくことが大切ではないかと思う。どうしても教員は生徒たちのためと思って色々やりがちであるが、もっと生徒たちを信じて、彼らが自分たちで考えて動き出すのを待つ、ということも必要なのではないか。

●事業指定終了後、講師として岡山大学の教員の派遣を依頼する流れは、どのようになるか。直接、それぞれの学部や教員に依頼をしていくことになるのか。

○岡山大学と県教委との間で締結されている連携協定に基づいてということになるので、確認して進めてもらいたい。

○国の指定事業以外の講師派遣については、岡山大学と県教委との大きな連携協定という全体の枠組みに基づいて、各学校から講師派遣を依頼するという流れになっている。指定事業のように、県教委を通して依頼をする、ということはない。

○事業で求められていることに対して、真摯に取り組み、着実に成果を積み重ねてきている。

○本日の運営指導委員会、コンソーシアム運営会議で各委員からの意見、指摘を聞いていると、キャリア教育と総合的な探究の時間と各教科、それぞれの取組は計画に基づいて進められているが、これらの取組の相互の連携が重要だ。例えば、総合的な探究の時間と各教科との関係について、岡山城東高校では課題研究のテーマは学類に基づいた設定となっているが、さらに各教科で学んだこと、各教科ならではの見方・考え方が、総合的な探究の時間で設定したテーマの解決につながっていくような計画を意識してもらいたい。キャリア教育については、単に、将来何になりたいかという職業へのアプローチだけではなく、将来、どういう自分で在りたいかというアプローチで進めていく必要があるかと考える。職業へのアプローチだけだと視野の狭いものになってしまいがちだ。これからの予測不可能な時代においては、生徒たちが社会に出たときに、その職業が存在しているかどうかもわからない。より広い視野で、将来社会に出て、たくさんの人たちとの関係のなかで自分はこのように貢献したい、といったより根本的な人間としての生き方・在り方へのアプローチが必要である。

○キャリア教育の側面からもう一点、「自分が社会をつくっていく当事者である」という意識を持たせていくことが大切だ。将来、職に就いて収入を得るということは、自分がやったことが社会のなかで評価された対価としてお金をもらうということであり、自分が身に付けた力がどんな形で社会に還元されるのかということを考えていくようなキャリア教育につなげてもらいたい。自分のしたことが、社会のなかで他の人の幸福につながり、そのことが自分の満足感や自己肯定感にもつながっていく、ということを伝えていくことも大切かと思う。

○自分が社会で力を発揮できる部分を探っていくのが、総合的な探究の時間のテーマであってほしい。そして、探究活動のゴールが課題解決策を提案し、行動に移すところまで進めることができればよいと考える。自分が探究したことが社会のなかで評価されるということを経験するとともに、さらに大学に進学してからもその課題の探究を続けていくというのが理想だ。

○大学入試改革が進められているが、岡山城東高校の取組は、間違いなく今後の大学入試のトレンドになってくるだろう。大学も徐々に、高校時代の探究的な学び、取組を評価する方向へシフトしてきており、今後はさらにその中身が問われてくる。その点で、岡山城東高校は他校よりも一歩も二歩も先を進んでいると言える。今後は総合選抜型入試や学校推薦選抜型入試も含め、生徒たちが興味や関心を持って取り組んだ結果が進路につながっていくための進路指導の在り方も研究してもらいたい。

○シラバスについては、新教育課程の実施に向け、県教委としても課題意識をもっており、平成15年に示した参考様式について見直しを考えている。岡山城東高校のシラバスが優れている点は、学校が目指している「10の資質・能力」と評価の観点である三つの柱がどう紐付いているかが示されていることである。これによって、学校の教育目標と、教科で付けたい資質・能力とがどう結びついていくかということを、各教科で考えていくとともに、それを生徒と共有していくことが重要であると考える。県教委としても非常に参考になった。今後、シラバスの参考様式については検討を重ね、示していきたい。

○ここまでの協議のなかで、気になることが２点ある。１点目は生徒が本を読まないことについて。インターネットで情報がすぐに検索できる時代だからこそ、文献資料にあたってほしいという思いがある。県立図書館の検索機能は非常に優れており、キーワードを入力することで、候補となる文献がたくさん検索できる。そうした方法についても教えていってほしい。昨年度の課題研究の報告書を見ても、出典はインターネットの記事であったり、文献資料は１、２冊程度であったりというものが目立つ。多面的な見方を学ぶことは重要であり、必ず複数のソースにあたるという意識付けをさせてもらいたい。また、できれば学校の図書館の利用率を客観的なデータとして持っておくことも、指導上必要かと思う。

○コロナ禍において、特に異文化理解、国際交流に関する取組の多くが中止となっていることが気掛かりだ。当面、この状況が続くことを考えれば、代替の取組を今後しっかりと考えていく必要がある。学校だけでは解決できない部分かと思うが、各大学やコンソーシアム各機関の協力も得ながら、オンラインの活用も含めて検討していく必要があるかと思う。

（４）【昨年度】第２回運営指導委員会
令和３年３月23日(火)13:30～15:15（セミナー室）

□　協議内容

○GPS-Academicの「創造的思考力」の数値が１年生で低いという結果が出ているということだが、そもそも学校としては「創造的思考力」をどのように捉え、本事業のどのような取組においてそれを育てていこうと考えているのか。

○課題研究の進め方の「城東メソッド」の確立について、現在、探究学習の進め方のプロセスで、何か参考にしているものはあるのか。

●「創造的思考力」については、資料と既有の知識とを結び付けて、最善の解決策を選択したり、他の事象に応用できる力を想定している。科目によっては、創造性の基礎を培うことが目標に示されているものもある。GPS-Academicの結果は返却されたばかりであり、これから校内、各教科で結果を共有、分析して、具体的にどのような取組においてこれを育てるかについて、考えいきたい。

●SGHの頃から、探究学習については、「課題研究メソッド」（啓林館）という書籍を生徒も、指導する教員も活用して進めてきた。現在はそれに加え、１年次にスキル学習を導入し、探究学習に導入しやすいよう工夫を行っている。また、今年度の１年生には、「課題研究メソッド」はやや内容が難しいこともあり、より高校生に分かりやすい教材ということで、「探究ナビ」(ベネッセ）を持たせている。加えて指導する教員には、大阪教育大学附属高等学校平野校舎による「平野メソッド」を一冊ずつ購入し、活用している。以上のような様々な方法や進め方を統合した形で、岡山城東高校としての探究学習のパッケージを、本事業を通してまとめることができればと考えている。

○「創造的思考力」については、まさにこれから子供たちに必要とされる力である。本事業を通して、ぜひ見える化し、成果を他校へも広めてもらいたい。

○「城東メソッド」について、探究学習の進め方は、これまでも様々なものが出されており、唯一の正解というものはないので、岡山城東高校ならではのものを作っていけば良い。また、基本的な型は必要だが、あまり型ばかりにとらわれるのではなく、状況に応じて臨機応変に扱えるようにしていけば良い。

○２年目ということで、取組が積み重ねられ、昨年度と比べても、充実してきていることが窺えたが、今日の報告を聞いていると、多様な取組について、やってきたこと自体の報告になっている印象がある。やはり大切なのは、取組を通じて、どのような資質・能力がどのように高まり、生徒が変容したかということである。各取組の目標に対して、生徒に資質・能力が身に付いたかどうかという観点での成果と課題の整理と明確化が必要。おそらく、これまでの取組の蓄積のなかに、そうしたデータもあるのだと思うが、それらをぜひ見える化してもらいたい。それが、本事業の取組を検証する視点になり、他校への成果の発信の際にも有効な材料になる。

○それぞれの取組の説明は非常に納得できるものであった。前回の運営指導委員会で話題となった「岡山城東らしさ」ということについて、改めて考えておきたい。

○学校自己評価アンケートで気になるのが、「城東高校は、生徒にとって入学前に抱いたイメージ通りの学校であると思う」という項目である。これが、生徒、教員、保護者ともに３点台の数値になっている。（３…入学前からのイメージ通りの学校である）これは、ほぼイメージ通りであったということなのかもしれないが、県教委が推進している「高校の魅力化」という視点から見れば、これはやはり４点台（４…やや良い印象、５…入学前に抱いていたよりも良い）を目指していく、つまり、入学前のイメージを上回っていた、となるのが望ましいのではないか。

○生徒、保護者と教員との間で評価に差がある項目として、「城東高校はマナー（交通など）がよい学校である」というものがあるが、教員は２．８となっている。これはどういう思いでこの数値になっているのだろうか。これに対して保護者は３．８と、やや高くなっているが、保護者が気付いていない部分なのか、あるいは学校に対する期待度であるのか。こうした差をどのように考えているのか聞きたい。

○「ブランディング」という言葉があるが、岡山城東高校のブランド力について、どうやって他の学校と差別化を図っていくのか。他県の高校のなかには、国内の大学ではなく、初めから海外の大学への進学を目指していくということを特色として位置付けている学校もある。改めて、岡山県の県立高校のなかで、「岡山城東らしさ」とは何かということを考えていく必要があるのではないか。大きなブランドとして「岡山城東高校ではこういうことができる」という目標を立てて、その手段を考えていく、ということがこれから必要になってくるのではないか。

●交通マナーについての教員の数値の低さについては、「一部の生徒についてマナーが良くない」ということであると思う。地域の方からは、「最近、マナーは良くなってきている」という声もいただいている。生徒や教員については、一部の生徒のマナーの悪さを見て、そのように評価しているという部分が大きいのではないかと思う。アンケートの結果についてはもう少し詳しく分析を加えながら、指導に生かしていきたいと思う。

●岡山城東高校のブランド力は非常に高いと考えている。多くの生徒、保護者が岡山城東高校に入りたくて入学している。他の学校と比較して、「自由な校風」や「勉強だけではなく、部活動や行事もがんばれる」といったイメージをもって、岡山城東高校を選んでくれている生徒が大半なのではないか。その部分が岡山城東高校の強み、魅力であるので、それは大切にしていきたい。一方で、入学後のイメージが違う部分については、勉強と部活動の両立が大変、忙しい、といったところがあるのではないか。もちろん、入学前も覚悟はしていたが、実際にやってみると、想像以上に厳しいということだと思う。その理想と現実とのギャップで苦しむ生徒もおり、本校の相談課や外部のカウンセラーを中心に必要なケアはしている。

○進学については、四つの学類を反映し、外国語大学、芸術大学などへの進学が、例年多いという特徴的な進路実績も見られる。

○生徒には岡山城東高校の生徒であるというプライドを持つように、そして、プライドを持ち続けるためにはしっかりと自分を高めていく必要がある、という話を普段からしている。

○３年次のアンケートで、５３％の生徒が「将来地元で暮らしたい」と回答しているが、これはコロナの影響

を受けた今年特有のものであるのか、ここ何年かの傾向であるのか、それをどう分析しているか。

○課題研究における地域課題について、生徒はどのような探し方をして設定しているのか。インターネットだけで検索して設定しているのか、実際に地域に出て自分の目に触れるものから見つけているのか。

●今年度の３年生の受験のパターンとして、地元に残りたい、家族と離れたくないという生徒、家族や地域の居心地が良いという生徒が多い学年だと思う。多少はコロナの影響もあるが、自分の進みたい道と、居心地の良い場所を求めた結果、このような数値になっていると考えている。

●課題研究のテーマ設定について、今年度のGLOBALⅡでは、昨年度までと異なり、各学類の専門性と、地域社会、世界が抱える課題とをリンクさせた課題設定をさせている。その際、各学類の専門分野によっては、なかなか地域の課題やSDGsのゴールと関連付けにくい分野もあった。この形式での実施は今年度が初めてということで、十分に詰め切れなかった部分もあった。次年度以降のカリキュラム開発に向けては、学類の専門性だけを突き詰めるのではなく、地域社会の課題解決との関連付けの部分をより意識した課題設定ができるように改善していきたい。

○「将来地元で暮らしたい」生徒の割合が、３年生は５３％で、２年生は３８％でかなりギャップがあるようだが、これが来年はどうなるのかということも気になる。また、「将来地元で暮らしたい」ということの意味合いが、一度、県外に出て活躍してから将来、故郷に帰ってきたいという意味なのか、高校卒業後ずっと岡山でやっていきたいという意味なのか、ということも気になる。これについては、継続的に分析、検証ができるようにしてもらいたい。

○地域課題について、岡山城東高校の「地域」は、岡山県全域と捉えるべきだろう。例えば課題研究の文学の領域で有名な作家の名前が挙がっているが、岡山出身の作家、岡山にゆかりのある作家を取り上げることなどを意識してはどうか。あるいは、環境問題の領域でプラスチックゴミの問題をテーマにしている班についても、瀬戸内海環境保全特別措置法の改正などが社会の話題となっているなかで、身近な岡山の河川におけるプラスチックごみの問題について考えていく、そしてそれを実際に回収するという活動に発展させていくと、社会貢献活動やリーダー育成の取組ともリンクさせることができる。また、一つのテーマをめぐって、その解決のために、学類の壁を越えて考えていく試みができれば､さらに取組が広がっていくのではないか。

○前回、この場で問題となった「岡山城東らしさ」ということについて、非常に真摯に考え、取り組んでいただいたことはうれしく思う。

○スキル学習において、統計の知識についてきちんと学び、全生徒に統計処理をできるようにするというのは良い試みだ。大学でも教えているが、高校までにやっていないとなかなか苦労する。社会人になってからもそうしたスキルは必要とされるので、非常に大切なことだと考える。ちなみに、この統計の学習のなかで、Google Formsの使い方は生徒に教えているか。

●生徒はGoogle Formsは使っていないが、別のアンケート回収ソフトを活用してアンケートの統計処理は行っている。

○了解した。大学生でもなかなかGoogle Formsを活用した統計処理ができないので、ぜひ、そうしたコンピュータを用いた統計処理の学習を高校生のうちにやっておいてもらいたい。

●特に理数学類の数学班については、統計学習は一通り学んでいる。課題研究の最終発表の際にも、岡山大学のデータサイエンスの先生に意見をいただいている。関西学院の探究甲子園に参加した生徒は、Excelを活用して自分で分析ができるようにもなっている。

○それは素晴らしい取組であるので、できれば理数学類だけではなく、１年次のうちに全ての生徒ができるようになっておいてもらいたい。

○海外体験・国際交流の取組について、生徒の英語力を図る指標にGTECが使われているが、実際に社会に出てグローバルに活躍する人材を育てることを考えていくならば、TOEFLの受験が必須である。岡山城東高校としては、アメリカやヨーロッパの大学へ進学する生徒の育成を目指してもらいたいが、そのためには、IELTSやTOEFLiBTでかなりのレベルのスコアが求められる。大学生でも海外留学を希望する学生に受験させるが、なかなか良いスコアが出ない。高校の頃から受験して高いスコアが出せる英語の力を付けておいてほしい。

○課題研究のテーマについて、今年度、「国際塾」で「２０４０年の岡山と私」という課題を取り上げ、グループごとに英語で発表させたが、例えばそうした大きなテーマについて、学校の中だけではなく、各種のコンクールも含め、しっかりと全国、世界へと発信していく経験をさせてもらいたい。

●GTECについては、SELHiの頃から全県に先駆けて導入しており､また､本事業でも継続して指標としている。IELTSやTOEFLは受験料が高額であり、また、国内の大学進学については、他の模擬試験との相関も取れるということで、生徒全員に対してはGTECを受験させることになっている。これとは別に、海外進学を希望する生徒は、IELTSやTOEFLを個人負担で受験している。そうした形で、学校全体で取り組んでいるものと、海外進学をする生徒個人に指導しているものとがある。

○既に取り組まれているかもしれないが、学校の中に海外進学について専門的に担当する教員を置いてほしい。例えば、始めから海外のトップスクールに進学するのは難しいが、コミュニティカレッジに入学して、そこで成績を上げ、トップスクールに編入するという方法がある。そうした情報に詳しい教員がいて、生徒にアドバイスをしたり、ノウハウを蓄積したりしていってもらいたい。

○コロナ禍を乗り越えながら、昨年度に比べて取組が非常に深化している。学校の取組に敬意を表したい。最終年に向けて、どの部分に焦点をあて、どの部分を伸ばしていくかをしっかりと見定めて取組を進めてもらいたい。

○教育の効果というのはすぐに出てくるものではない。高校教育の結果は、大学に進学すればそれで良いというわけではない。一人一人の生徒が高校卒業後の人生をどのように生きるか、という核の部分を培っていくのが、高校教育の底力である。岡山城東高校はすぐれた、ユニークな人材を数多く輩出しているが、それこそがまさに岡山城東高校の教育の底力である。そうした意識をもって、取組を進めていただきたい。

○本事業を有効に活用することによって、岡山城東高校らしい、ユニークな教育活動を、さらに充実したもの

にしてもらいたい。
○「将来地元で暮らしたい」生徒の割合の数値がピックアップされているが、この項目を出すことに若干、違和感があった。本事業で目指す人材像は、「グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材」、「郷土や日本への貢献意識を持ちながら国際社会で活躍する人材」であるから、別に岡山に限定されるものではなく、この質問項目が、本事業の成果を測る指標としては、そぐわないのではないか。
○企業訪問について、企業としてバス１台分の生徒を受け入れるということはなかなか難しく、かなり規模の大きな企業に限定されてしまう。そうしたなかで、この度、岡山経済同友会が「おかやまSDGsマップ」を作成しており、１７のゴールについて、どの企業がどのような取組を行っているかが紹介されている。こうした「おかやまSDGsマップ」を活用すれば、生徒たちが設定したテーマに合致する企業に対して、自分たちで取材の依頼をして、少人数で訪問することも可能になるのではないか。また、訪問する企業の選択肢も広がるのではないかと思う。

（５）【昨年度】第３回コンソーシアム運営会議
令和３年３月23日(火)15:30～16:30（セミナー室）

●本校の報告、運営指導委員会での指摘を受けて、次年度に向けての課題について御意見をいただき、協議ができればと考える。例えば、本事業が終了したあとの持続可能な取組の在り方、数値の低かった「創造的思考力」をどのように伸ばしていくか、取組の目標に対しての、生徒の変容という視点からの成果をどのように示していくか、地域課題の設定の仕方、これからの社会、地域、世界で活躍していくために必要とされる資質・能力をどのように育てていくのかなど、様々な示唆をいただいている。こうしたことについても、協議を通してヒントがいただければと考える。
○地域課題やテーマの設定について、２月の成果発表会にも参加したが、全県をフィールドにした地域課題探究ということを考えるならば、少し「地域」という視点が弱いという印象だ。岡山という地域の住民と触れ合い、実際の声として困っていることなどを拾い上げ、身近なところから地域課題を見出していくということをSDGsの１７のゴールと結び付けて考えてもらいたい。
○今年度、生徒に対してSDGsに関わる講演を行った。出来れば、講演の後、生徒からの質問を受けるなど、やりとりをする機会を持つことができれば、さらに良かった。
○講演の中で、SDGsの１７のゴールについては、それぞれ一つのゴールだけではなく、ゴール相互のつながりがあるという話をした。今回の生徒の研究集録を見ると、ゴールのアイコンがそれぞれ一つだけ付けられているが、これも関連するアイコンは複数付けておけば良い。テーマ相互のつながりを意識していくことが大切。
○今年度はコロナ禍で取組が困難であった部分も多かったと思うが、その反面、オンラインの活用、ICT等の技術革新によって、これまで以上に世界とはつながりやすくなっていると思う。そうしたものも活用しながら生徒には世界へ出て活躍し、将来、地元岡山へ帰ってきて、また、その帰ってきた場所でもICT等を駆使して仕事ができるということにつながっていけば良いと思う。「地域社会を支える人材」が本事業の目指す人材像。これからの地域社会を考えたとき、それぞれ自分が望む場所で生活も仕事もできるというのが理想である。本事業の取組が将来的にそうしたところにつながっていけば良いと考える。
○生徒の研究集録を見ると、GLOBALⅠとGLOBALⅡとでは、特徴の違いがあり、GLOBALⅠではSDGsの課題をかなり幅広く取り扱っている印象、GLOBALⅡでは各学類特有のテーマに絞られてくる印象だ。いずれにしても、高校生の段階でこういったテーマについて深く考えることができているのは素晴らしい。
○ただ気になるのは、参考引用文献がインターネットからのソースが非常に多いという点だ。これが現在のトレンドなのかもしれないが、もっと図書館の文献資料などに当たるべきではないか。加えて、引用の仕方、作法のようなものについても、かなりばらつきがあるように思う。これは１年生だからいうこともあるかもしれないが、逆に１年生のこの時期に、しっかりと作法を指導しておけば、大学進学後も困らないのではないか。そうした学術的な作法を知り、参考引用文献に当たりながら考えを深めることで、創造的思考力や批判的思考力を育成することにもつながっていくのではないか。
●昨年度の１年生は夏季休業中に文献を読む時間を取るように指導し、読んだ文献についてまとめるメモを配付したが、今年度は夏季休業が短縮された影響で、なかなか文献を読む時間が確保できなかったということがある。指導した教員からも文献の紹介等を行ったが、時間が限られている中で、インターネットの記事の引用が多くなってしまったということだと思う。今年度の課題として、GLOBALⅡでは論文、書籍を先行研究としてしっかりと調べていくということを指導していきたいと考える。引用の仕方については、今年度導入した「探究ナビ」というテキストにも説明があったが、この部分を学年全体で指導する共通認識が十分できていなかったこともある。来年度の１年団に、引継ぎをしておきたい。
○まずは、この２年間の取組の成果に対して、改めて敬意を表したい。
○岡山城東高校がグローカル型の申請をすると聞いたとき、本事業の最終的な落とし所をどうしていくのか、という疑問を持った。本事業で育成を目指す人材像が、「地域に根差し、地域社会を支える人材」と並んで、「国際社会で活躍する人材」とあり、グローカルというのは、まさにそうした表裏の関係にある人材の育成が目標となっている。今回の運営指導委員会においても、「もっと海外へ」という意見と、「もっと地元で活躍を」という意見がそれぞれ挙がっている。そのような中で、「将来地元で暮らしたい」生徒の割合の高さをどう評価すればいいのか、難しい。取組を進めていく上で、学校が一番苦労しているのもこの部分なのではないか。運営指導委員会で「ブランディング」という話が出たが、本事業の最終年を迎えるにあたり、岡山城東高校がどういう人材を育てていくのか、ということを分かりやすく、外に対してアピールしていくのか、ということが必要になってくる。SGHの頃から、学校としての優れた取組の積み重ねはあるはずなので、それをどう見えるようにしていくか、ということ

が大切である。
○他校の課題研究を指導しているある大学の教員が､｢高校の課題研究は何を目指しているのか｣ということを言っていた｡課題研究を進めていく上での課題として、取組を次の学年へとどう引き継いでいくのか､そして、方法論も含めて成果をどう蓄積していくのか、ということが十分できていないということがあるのではないか｡｢とりあえず何かをやった、というのは研究ではない｣というのが大学の研究者の考え方だ。運営指導委員会でも指摘があったが、研究に当たって設定した目標に対して、どういう評価基準で、どう評価して、それを見える化していくか、というアウトカムの部分が重要である。このことをしっかりとすることによって、指導と評価を一体化させ、成果と課題を次の学年に引き継ぎ、よりバージョンアップした｢城東メソッド｣につなげることができるのではないか。
○今、生徒たちが取り組んでいることは、大人になってから、必ず何かにつながるはずだ。今は分からないかもしれないし、やらされているという感覚の生徒もいるかもしれないが、いつか必ず、分かる時が来る。先生方が大変な思いをしながら生徒のために取り組んでいることは、必ず意味がある。
○大事なことは、｢大学に入って伸びる生徒を育てる｣ということ。当然のことながら、大学に入ることが目的ではない。岡山城東高校で学んだことが、大学でどう生きてくるか、そしてその先にある、社会を支える人材に育っていくかどうか、ということである。
○教員の派遣について、今年度はコロナ禍でオンラインでの派遣となってしまったが、来年度については、学務企画課が派遣のガイドライン、チェックリストを策定し、対面での派遣ができるように準備をしている。
○本事業指定の３年間については、本事業のための特別な連携協力の要項を作成して教員の派遣を行っているが、指定が終了すれば、通常の高大連携の枠内での派遣ということになる。本事業指定終了後のことについては、別途、相談していく必要があるだろう。
○岡山経済同友会が昨年から構想していた、SDGsに取り組んでいる県内企業のガイドブックである｢おかやまSDGsマップ｣がこの度、完成した。高校生が自分たちの関心のある企業に主体的にアプローチして聴き取りを行ったり、企業側が伝えたいことを伝えたり、協働してできることがあれば取り組む、といった形で活用していくことが想定されている。印刷・製本の費用については、中国銀行が９０周年記念事業ということで全面的にバックアップしてくれた。当初は２０社くらいの想定でスタートし、年度を重ねるごとに２０社ずつ増やしていくことができればと考えられていたが、実際には７３社が参加した。内容としては、企業の概要、その企業のどのような取組がSDGsなのか、といったことがまとめられている。あまり詳細に書くと、その記述を写すだけで満足してしまうので、｢おかやまSDGsマップ｣の記述自体は簡単なもので、後は、併せて記載されているSDGsに関するその企業の問合せ窓口に、高校生が自分たちで問合せできるような形になっている。
○３月２９日に岡山経済同友会から岡山県教育委員会への贈呈式が行われ、その後、４月に入ってから、各学校に配布することになっている。
○岡山県教育委員会としては、この｢おかやまSDGsマップ｣を使い、各学校の生徒がどういった活動をしたのかという情報を収集しようと考えており、｢おかやまSDGsマップ｣とともに、活用についての様式を送付する予定である。何年生のどのグループが、どういう企業に行って、どういう活動をしたのかを、その様式で提出してもらい、それを県教委でまとめて経済同友会を通じて企業へフィードバックすることを考えている。
○｢おかやまSDGsマップ｣を使い、課題研究等で関心をもって探究していることの延長線上に、実際の企業が地域でどのような取組を行っているのか、それがSDGsとどう関わっているのかということに実際に触れることによって、企業への見方が変わり、また、実社会を知ることにもつながる。
○本事業の｢グローカル｣の｢ローカル｣の部分については色々な見方があると思うが、やはり実体験ができるのは｢ローカル｣の部分なのではないか。その実体験を通して、自分の身近な課題を見付け、その課題を解決していくために何をしていけば良いのかを考えていくと、ローカルで解決するものもあれば、世界に視野を広げて捉えていかなければならないものもある。そうした視点をもって課題解決に当たることのできる人材の育成を目指すのが、｢グローカル｣の意味なのではないか。
○今年度は、コロナ禍でフィールドワークの機会を十分に取ることができなかった面もあったかと思うが､｢おかやまSDGsマップ｣なども活用しながら、自分の身近なところにある課題を、実際に自分の目で確かめ、課題を知り、自分のこととして考えていく、ということを大切にしてもらいたい。
●｢おかやまSDGsマップ｣の使い方について質問だが、これは生徒が個々に、各企業にアポイントメントを取って訪問するということか。各学校、各グループ、個々の生徒がバラバラに連絡を取るということになってくるが、それで良いか。
○各学校、各グループがバラバラにそれをやってしまうと大変なことになるので、今後、ルール作りをしていくことになる。連絡すれば全て受け入れてもらえるということではない。内容にもよる。そのためにも、県教委としては各学校の活動の情報を集め、公開していくことを考えている。そのレベルの内容なら、訪問するまでもない、ということが情報として分かるようにしておくことで、同じような内容での訪問が殺到することのブレーキになると考えている。
○この｢おかやまSDGsマップ｣は企業を知る良い入り口にはなると思うので、実際に訪問しなくても、｢おかやまSDGsマップ｣に掲載されている企業のホームページを見るだけでも、その企業が取り組んでいる課題などについて、かなり詳しい情報は得られるのではないか。その上で、十分ではない部分について、訪問する、もしくはメールや電話で取材するという方法もあるのではないか。
○企業によっては、来校してもらい、SDGsについての講演をしてもらうということもできるのではないかと思う。
○この｢おかやまSDGsマップ｣に限らず、例えばフィールドワークで商店街でアンケートを実施するなどが行われているが、毎年、毎回、同じような内容のアンケートをするのでは、かえって地域に負担がかかる。学校内でも、アンケートなどのフィールドワークの記録を蓄積、共有し、次年度へ引き継いでいくしくみは構

築してもらいたい。

●GLOBALⅠについて、１年生の場合は課題を深く探究していくための必要な知識のインプットにどうしても時間がかかってしまい、やっと視野が広がってきたときには研究の終盤ということになり、不完全燃焼という場合も多い。GLOBALⅠで積み重ねたものを、次年度、GLOBALⅡにしっかりとつなげていきたい。

●課題の設定について、GLOBALⅡは、今年度、学類コア科目と連動した探究活動にシフトしたことで、教科の専門性が強くなったとともに、SDGsとの関連性を持たせるということもあり、どうしても大きなテーマに目がいきがちであった。そのため、視野が広がりすぎて、焦点化が難しかったグループも多く、身近な地域課題の解決という部分が弱くなってしまったことが、次年度に向けての反省点である。

●生徒の研究レベルはまだ非常に低いが、指導を重ね、仮説を立てて検証していく一連のステップを経験させていくことによって、生徒が成長していく手応えはある。先程、指摘にもあったように、教員の指導の在り方についても、学校としての研究の蓄積、継続性という面が今後、大切になってくると考えている。

●企業訪問について、来年度については今年度までと同様の形態で、１年生の夏に実施をお願いしたいと考えているが、可能か。

○来年度については、これまで受入をお願いしてきた企業にはアプローチしてもらって構わないと思う。企業訪問も含めて、本事業指定の終了後、どのように取組を継続していくか、予算のことも含めて考えていく必要があるだろう。

○来年度１０月に、岡山市が中心となり、「岡山連携中枢都市圏」の１３市町で、海ごみに関するSDGsの取組として、岡山の河川のプラスチックごみを拾う活動を計画している。実際にごみを拾った後に、海ごみをテーマにしたSDGsフォーラムと、海ごみの状況を写した写真などのパネル展示を実施する予定である。来年度、課題研究でそうしたテーマを扱うグループ、関心のある生徒には参加してもらえればと思う。

○大学入学後、大切になってくるのは、先生に言われてする、ではなく、自分の頭で判断し、考えることができるということだ。そのために、岡山城東高校で生徒が取り組んでいることで一番大事なのは、課題を見つけることだと思う。自分がどういう分野に取り組んで、社会に貢献するために何ができるのか、ということを考えていくこと。地域課題やグローバルな社会課題と自分との接点を見出し、実際の体験を重ねていくこと。そうした経験を高校生の頃に経て、問題意識を持って大学に進学した生徒と、そうした意識を持たないまま進学した生徒とでは、学びに対するモチベーションが全然、違う。大学に入学したときの成績は、４年間、ほとんど変わらないと言われている。つまり、入学時にどれだけ高い意識をもってスタートできるかということが大事だということだ。何のために学ぶのか、学んだことを通してどう社会に貢献していくのか、ということを高校時代にしっかりと考えて大学に進んでいってもらいたい。

○本日の協議のなかで、岡山城東高校のブランディングの話や、入学前後の生徒の学校に対するイメージのギャップの話が出たが、やはり自由な校風をイメージして入学してくる生徒が多いので、何よりもまず、それぞれの生徒が岡山城東高校で何を学びたいのか、ということに応えていく必要がある。コンソーシアム各機関、地域とも連携しながら、生徒がそれぞれ自由な発想のなかで、課題を見つけ、解決していくための手段を身に付けることのできる学校、というのが岡山城東高校のブランドになっていくのではないかと考える。指定最終年度の取組において、そうしたことを実現していくことができるよう、岡山県教育委員会としてもサポートしていきたい。

２．教育改革推進委員会

（１）設置の目的

県教育委員会と連携しながら、事業の成果や課題を共有し、本事業の進捗管理を行う。

（２）構成員

【コアメンバー】校長、副校長、教頭、事務部長、主幹教諭、教務課長、学類主任、年次主任
【必要に応じて出席するメンバー】カリキュラム開発係主任（教務課長補佐）、地域連携係主任（生徒課長）、国際交流係主任（国際課長）、外国語教育推進係主任（外国語科研究主任）、情報発信係主任（総務課長）、記録係主任（図書課長）、会計係主任（事務室）

（３）開催期日と内容

［第１回］期日　令和３年４月14日
内容　令和３年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」実施計画（案）について　他

［第２回］期日　令和３年５月21日
内容　１年次SDGs講演会について、１年次企業訪問について　他

［第３回］期日　令和３年６月17日
内容　「WWL・SGHネットワーク」令和３年度連絡協議会について、１年次RESAS出前講座について　他

［第４回］期日　令和３年７月12日
内容　１年次企業訪問について　他

［第５回］期日　令和３年８月20日
内容　GLOBALⅡ、GLOBALⅢの外部講師について、GLOBALⅠの課題研究講演会について　他

［第６回］期日　令和３年９月22日
内容　第１回運営指導委員会及び第２回コンソーシアム運営会議について　他

［第７回］期日　令和３年10月25日
内容　スクール・ポリシーの策定について、カリキュラム・マネジメントの基本構想について、GLOBALⅠ、Ⅱ、Ⅲのシラバスについて、第２回コンソーシアム運営会議及び第１回運営指導委員会の報告　他

［第８回］期日　令和３年11月18日
内容　海外研修代替案について、研究開発実施報告書の作成について、令和４年度道徳教育全体計画について　他

［第９回］期日　令和３年12月16日
内容　学習評価について、令和４年度総合的な探究の時間全体計画について、令和４年度道徳教育全体計画について、令和３年度課題研究発表会について、成果報告会について　他

［第10回］期日　令和４年１月13日
内容　第２回運営指導委員会及び第３回コンソーシアム運営会議について、令和４年度道徳教育全体計画について、令和４年度キャリア教育全体計画について　他

［第11回］期日　令和４年２月４日
内容　学校経営計画学校評価書最終評価について、学校自己評価アンケートの結果と分析・展望について、学校評議員会の開催について　他

［第12回］期日　令和４年３月４日
内容　完了報告書について　他

３．学校評議員会

（１）設置の目的

本年度の「学校経営計画書」に基づき、本校の教育目標や計画、学校運営の基本方針、重点的な取組などについて説明を行い授業参観の場を設けることで、各評議員に本校への理解を深めていただくとともに、自らの知識や経験に基づいて意見を述べていただく。また、学校評価委員として評価者の立場からも学校関係者と意見交換を行う。

（２）学校評議員

小野　恭裕氏（株式会社　ラーンズ（代表取締役社長））
小橋　雅彦氏（ノートルダム清心女子大学　文学部　英語教育センター主任　准教授）
三枝　久依氏（本校 PTA 副会長）
日名　智子氏（元本校 PTA 役員、元赤磐市教育委員）
村上　尚徳氏（環太平洋大学 次世代教育学部 学校経営学科 教授 副学長 入試センター長）

（３）開催期日と内容

［第１回］期日　令和３年７月 28 日（書面協議）
内容　学校経営計画と本校の現状について

〔評議員の意見など〕（抜粋）

・城東高校で育みたい「10 の資質・能力」を伸長させることを目的として推進しているカリキュラム・マネジメントは、大変興味深い。
・ここまでの活動・研究の成果は、学校の有形・無形の財産として残っていると感じる。ポスト「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」として、次年度以降、何を発展継承し、何を終了とするのか、校内での議論が今後深まっていくことに期待している。
・岡山大学とのオンラインでのやりとりや、企業訪問は知っていたが、他にもさまざまな社会貢献活動をしていることがわかった。
・以前の「スーパーグローバルハイスクール」での取組を基に、新しい学習指導要領の趣旨を取り入れ、様々な取組が発展的に整理されている。
・（コロナ禍で）苦しい時だからこそ学べるものがあり、友人への配慮が自然と芽生え、他校にはないいわゆる「城東らしさ」が培われている。城東スタイルを是非今後とも受け継いでほしい。
・生徒への１人１台端末の整備・活用を始め、全国でも「先頭」を走っていると感じる。

［第２回］期日　令和３年 10 月 23 日
内容　学校経営計画の「取組の柱」に関する上半期の取組とスクール・ポリシーについて

〔評議員の意見など〕（抜粋）

・コロナ禍で城東らしい教育活動ができにくくなっているが、iPad を使って新しい教育活動、授業ができている。
・オンラインだからできることを模索し、実施されていることに感心した。
・スクール・ポリシーについて、「さまざまな国の人と協同で問題を解決」にすると良い。

［第３回］期日　令和４年２月 21 日（オンライン開催）
内容　今年度の取組と学校関係者評価について

〔評議員の意見など〕（抜粋）

・早い時期から GLOBAL の授業、国際化への取組、課題解決を取り入れており、深化している。
・時間をかけて授業準備や国際交流など、よくやっている。GLOBAL の評価はＡでよい。
・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」では生徒と教員が一緒になって、活動を進めている。
・全国的に ICT の活用は進んでいないが、城東は上手く活用し、国際交流等ができている。

第７章　広報活動

１．はじめに

本校の魅力や特色を、広く中学生・保護者・一般の方々に理解してもらうことを目的に、様々な機会を捉えて広報活動を行っている。校風や学校行事、４つの学類の特長などに加えて、令和元年度からは本事業の理念や取組についても紹介している。特に、本事業の３つの柱、「地域密着の課題研究」、「異文化交流の深化」、「自主性・自律性を育成する取組」を重点的に取り上げている。

２．広報媒体

（１）スクールガイド 2022

17,000 部を作成し、県内全中学校（３年生全員と全学級数）や塾に配付している。一部県外からの問い合わせにも対応した。また、学校説明会や公開授業の参加者全員にも配付している。今年度は、本事業の取組の最終年度を迎え、一層充実したスキル学習や企業訪問、研究成果について、詳細と成果を紹介した。

（２）学校紹介ビデオ

昨年度更新した学校紹介ビデオを学校説明会や中高連絡会上映し、本校の取組への理解を深めてもらうための一助としている。今年度は実施できなかった、本校の従来の取組として、海外修学研修や学類研修、留学生の受け入れ、海外高校との交流、ITC 英語集中合宿などの活動を分かりやすく紹介している。

（３）活動紹介スライド

中学生及び保護者対象の学校説明会用のスライドでは、本事業の理念や育成したい力、具体的な活動などを詳しく説明している。本校の特徴的な取組として課題研究や事業所訪問、ボランティア活動の様子などを紹介した。

（４）ホームページ

トップページを更新し、本事業のアイコンを加え、そこから本事業に関する記事を開けるようにした。ブログ「岡山城東な日々」では、「GLOBAL Ⅰ」「GLOBAL Ⅱ」における活動や自主性・自律性を育成する取組の様子を伝えている。スマートフォンやパソコンで本校の日常を簡単に見ることができるため、非常に多くの方に閲覧されている。

（５）岡山県教育庁高校教育課 Facebook

管理機関である岡山県教育委員会の Facebook にも度々掲載され、取組の様子を広く発信した。「GLOBAL Ⅰ」における「RESAS 出前講座」や「SDGs に関する講演会」などが掲載された。また「高校生探究フォーラム」での本校生徒の活躍が紹介された。

（６）各種情報誌など

塾や情報関連企業からの依頼を受け、本校の取組を紹介し、情報誌や各社ホームページで取り上げられた。

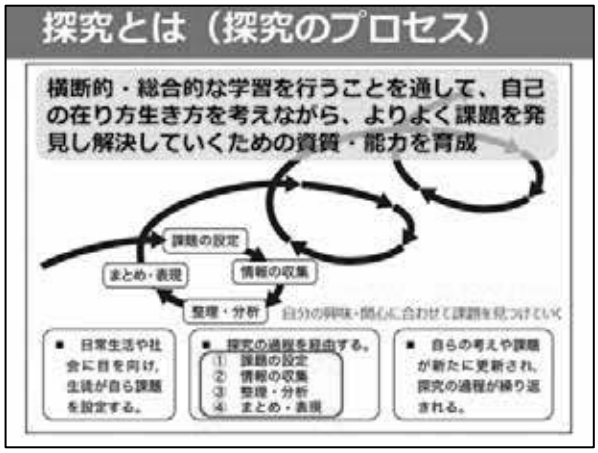
３．広報活動

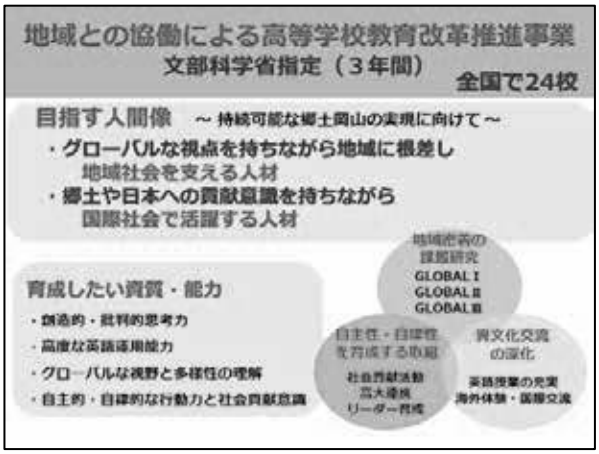
（１）中学生・保護者対象学校説明会

本校会場で１回、地区別（赤磐市・備前・瀬戸内市・津山市）会場で３回の学校説明会を実施し、延べ 828 名の参加があった。また各中学校での説明会には５校、塾説明会には４ヶ所に参加した。いずれの説明会においても、本取組における課題研究の取組や企業訪問の充実、リモートによる国際交流が高い関心を集めていた。また、本校を会場とする学校説明会では、中止となった秋のオープンスクールの内容を一部取り入れ、生徒による学類プレゼンテーションを行った。生徒自身の言葉で語る課題研究の苦労や達成感などに、中学生や保護者の関心が高かった。また、生徒のプレゼンテーションを高く評価する感想が寄せられた。また今年度で終了する本事業の今後について質問が寄せられたが、本格的に軌道に乗った課題研究や企業訪問、ボランティアなど継続する旨を説明した。

（２）中高連絡会

中学校教員を対象に、本校の特徴や取組に加えて本事業の説明を行った。リモート実施であったので、県北や県外からの問い合わせにも対応することができた。ここでは本事業について概要から目的までを詳細に説明しており、中学生が本校の取組をよく理解した上で志望校決定ができるように、中学校の先生方には中学生への情報提供をお願いしている。

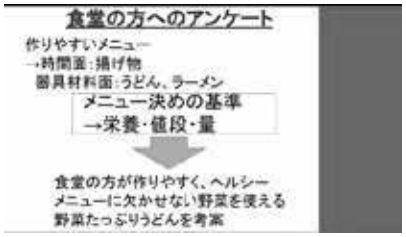




（３）授業公開

夏のオープンスクールが中止となったため、代替措置として、公開授業を行い、参加数を限定して中学生に本校の授業を公開し、331 名が参加した。中学生は、ディスカッションを多く取り入れた授業や、iPad を使いこなす授業、各教室のＩＣＴ環境などに高い関心を寄せていた。また公開授業に合わせて、学類説明や合唱部・吹奏楽部・管弦楽部の歓迎ミニコンサートの動画を期間限定でホームページにアップし、生徒の手による明るく元気なプレゼンテーションが好評であった。

一食多利　～TABLE FOR TWO を城東に～



１年次２組１班

背景・意義

世界では飢餓で亡くなる子供達が多いが私たちが直接的に支援できることは少ない。そこで私たちには何ができるかを考える中で、“TABLE FOR TWO”という取り組みを知った。一人暮らしをする人も多くなる大学生になる前に、食生活への意識を高めることが大切だと思い、また同時に飢餓を減らすための支援として食堂を利用することを考えた。

研究手法

1　クラスで食堂の利用状況や値段の意識に関するアンケートをとった。
2　インターネットを利用して“TABLE FOR TWO”の情報を収集した。
3　実際に取り組む場合の材料費や作りやすいメニュー、生徒の要望などを食堂の方たちにご協力いただき調査した。

結果・考察

食堂にはヘルシーなメニューが少なく、野菜が多い料理を作るという生徒たちからの需要があった。上記で実施した 2 種類のアンケートにより、食堂では満腹感を重視していたため、野菜などを多く入れたメニューが少なく、生徒たちにはヘルシーなメニューが求められていることが分かった。
実際に野菜たっぷりのうどんとラーメンを試作した結果、味の絡み具合などから食堂のメニューとしてはラーメンの方が向いていると考えた。

結論・課題

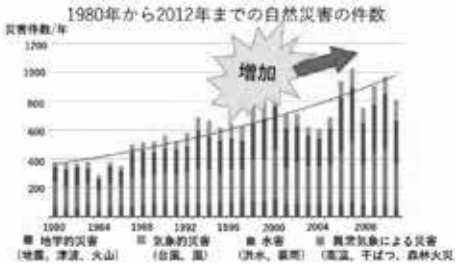
城東生の中には募金に積極的な人や健康志向の人が多く、野菜たっぷりラーメンは人気があったため、“TABLE FOR TWO”を取り入れても利益は見込める。今後、多くの人がこのメニューを食べることで“TABLE FOR TWO”について考えるきっかけにしてもらうとともに、より効果的な方法で飢餓の現状を伝えていく必要がある。また実際に“TABLE FOR TWO”を食堂に導入する際には、原材料や食堂の利益などを考えた上で値段について検討していく必要がある。

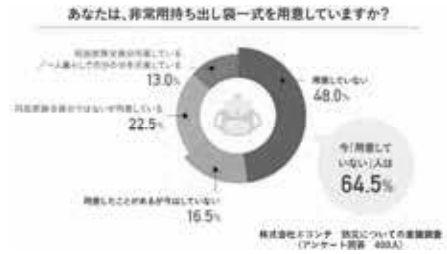
展望

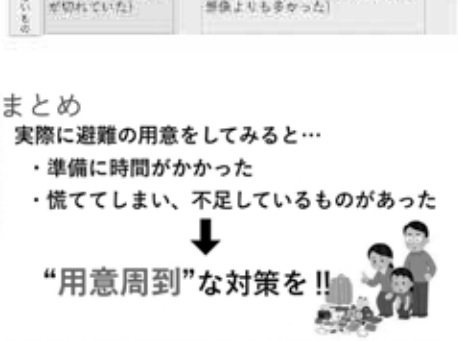
城東高校がこのような取り組みを行うことで、本校の生徒だけでなく他校や他の団体も同様に“TABLE FOR TWO ”に取り組むことや、自分たちにできることを考えて行動するなどして、意識を高め、広げていく。

参考文献　（閲覧日：11/5）
特別非営利団体 TABLE FOR TWO international
https://jp.tablefor2.org/

動き続ける地球と私たちの生活







１年次８組７班

背景・意義

近年、気候変動や温暖化などにより自然災害が増えてきている。そこで私たちは防災の意識を高めるためにできることを考えた。

研究手法

台風による災害を想定して避難するために必要なものを揃え、それらを用意するのにかかった時間、重さをはかり、改善点を班のメンバーで話し合った。

結果・考察

予想以上に食料と水が足らなかった。避難するのに必要なものを用意するのに用意していなかった人は用意していた人の倍以上の時間がかかった。また、慌てて用意をすると必要なものを用意できていなかったり、非常食に適切でないものを用意したりしていた。

結論・課題

避難するために必要なものを慌てて用意しようとすると不十分なので、事前に用意しておく必要がある。災害から逃げることができたとしても、その後の避難生活の想像ができないのではないかと感じた。避難するだけでなく、その先の避難生活まで考え、用意する必要がある。

展望

災害が起こったときにすぐ避難しようとしても、防災対策をしていないと避難時もその後の避難生活も困難になる。また実験で班の全員が食料と水が足りていなかったことから、防災グッズの有無に関わらず、防災対策は十分かぜひ確認してほしい。動き続ける地球と私たちの生活は密接だが、いつどこでどんな災害が起こるかわからない。防災対策をしている人が少ない現状を私たちの研究によって１人でも多くの人がこれからの自然災害に関心を持ってくれることを願う。

参考文献(閲覧日 2022 年 1 月 11 日)
非常用持ち出し袋(防災セット)による防災意識調査
https://econte.co.jp/works/survival-kit/
この猛暑はまだまだ続く?自然災害のグローバルトレンド
https://www.huffingtonpost.jp/yuuki-noda/post_5395_b_3741417.html

足守メロンを盛り上げよう

２年次グローバルⅡ　人文社会学類　歴史探究 ４班

１　はじめに

① 研究背景

清水白桃やピオーネは全国的にも有名なのにメロン好きな班員の前田君も足守メロンの存在を知らなかったので、足守メロンをたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。

② 研究目的・意義

足守メロンの良さを PR して多くの人に興味をもってもらう。

仮説１　足守メロンが他のメロンと比べて美味しくない。

仮説２　桃やマスカットなどのほかの果物産業に、足守メロンでも取り入れることのできる戦略がある。

仮説３　同じメロンで高い知名度を誇っている夕張メロンの産業の中に足守メロンにも取り入れることの出来る戦略がある。

２　研究手法

・岡山城東高校 34 期生 85 人に対して岡山の特産品についてのアンケートをとった。

・参考文献を読んだ。

・実際に足守メロンを食べて味や風味の特徴を体感した。

・インターネットを使って足守メロンと他の果物産業を比較した。

・インターネットを使って足守メロンと夕張メロンについての比較を行った。

３　結果・考察

アンケートの結果、足守メロンを知っている人は 15 人いたのに対し、清水白桃を知っている人は 54 人、シャインマスカットを知っている人は 80 人いたことがわかった。

実際に足守メロンを食べてみてメロン特有の強い香りと、上品な甘さがあったので足守メロンの知名度が低いのは味の問題ではないと考えられる。

桃やブドウは国内での生産が昔から盛んに行われていてメロンとは状況が大きく異なる。

夕張メロンと足守メロンの間で似ているところがいくらか見られた。

４　結論・今後の展望

夕張市が市をあげて夕張メロンを全国に広めてきた手法を足守メロンにも取り入れて足守メロンを多くの人に知ってもらい、興味をもってもらう。キャラクター・ロゴの提案。

５　参考文献

臼井英治(2018)『続々・岡山の作物文化誌』日本文教出版

昭文社旅行ガイドブック編集部(2021)『岡山のトリセツ』昭文社出版

足守メロン-岡山県青果物販株式会社

http://www.umaina.co.jp/fruits_vegitable/fruits_melon.html(閲覧日：2022 年 1 月 14 日)

次世代へ
国際人権意識の伝え方

２年次グローバルⅡ　人文社会学類　国際理解　５班

１　はじめに

私たちが昨今、メディアを通して目にすることの多い国際問題の一つとして、世界的な移民問題の深刻化があげられる。

私たちは移民の人たちの、特に人権問題について焦点を当てた。調べていく過程で、ニュースなどで報道されている、政府や法律などが関与しているようなもののほかに、差別やいじめなど私たちにとって比較的身近な人権問題があることを知った。

私たちは今回の研究を通して、次世代につなげていくべき人権意識について提示したいと考えている。

２　研究手法

書籍や論文、インターネットなどを活用し、先入観の生まれ方、人権教育方法、いじめについての心理学的論文等を精読し、次世代へのつなげ方として最善だと考えられるものを模索した。小学校で採用されている道徳の教科書の指導要領を鑑み、私たちの研究において人権意識を伝える対象を小学校高学年とした。

３　結果・考察

研究の結果から、いじめが起こる原因には「他者より優位に立ちたい」という自尊心や、マイノリティーを排除する社会的傾向があることを知った。

それを踏まえ、移民に対するいじめや偏見をなくしていくためには「違うことは怖い」という思想を払しょくする必要があると考えた。そして、子供にとってより身近な「絵本」を作成し、それを媒体に人権問題についての意見の提唱を行うことにした。

４　結論・今後の展望

絵本を作成していく過程で特に、「『違う』の表現方法」に苦戦した。見かけの違いを、登場人物の髪の色の違いを用いて具現化し、目に見てわかりやすいイラストにした。また、内容の主なねらいとしては、個人間あるいは複数の集団間に生まれる個性を受け入れ、尊重しあおうというもので、移民への意識のほかにも多様性の共生を訴えることができるよう工夫した。制作した絵本は城東高校の図書室においてもらおうと思っている。また、私たちが絵本製作にあたって対象とした小学校高学年の子どもへ読み聞かせに小学校を訪問する予定だ。さらに、高校生にも人種差別の現状を知ってもらうためにポスターを作成するつもりだ。

５　参考文献

ジョン・G・ラッセル著（1996）『日本人の黒人観』株式会社新評論
ジョン・G・ラッセル著（1995）『偏見と差別はどのようにつくられるか』株式会社明石書店
タハール・ベン・ジェルーン著　松葉祥一訳（2017）『娘に語る人種差別』　青土社
小井戸彰宏著（2017）『移民受入の国際社会学』名古屋大学出版会

What kind of people are found attractive?

2-8

1.Introduction

In recent years, young people, especially women, are worried about their appearance, and more and more people are over-diet and restrict their diet. In particular, Japan is less diverse than other countries and may be difficult to accept if it is different from others. Suicide is the leading cause of death among young people, and bullying is the most common cause of death. Most of this is due to visual bullying. Although being different is accepted overseas, in Japan it causes bullying even with just a little difference. Therefore, we decided to study and set a research theme of "what kind of people are found attractive".

According to a previous study, 93% of Japanese teenage women were not confident in their appearance.The cause of this has not yet been clarified.

We humans, especially women, are very concerned about the impressions of those around us. Through Survey, we found out whether students care about their inner or outer appearance. Next, the academic paper summarizes why women care about their appearance, how they did their research, and how they can be confident in their appearance.

2.Method

The survey looked at whether people care about their appearance and why they care about it. This survey was conducted by questionnaire. Through the questionnaire, we thought about the reason why many people care about their appearance, and clarified the cause and the basis of the research so far.

The subjects of research are high school boys and girls.

We divided the collected questionnaires into men and women, and divided them into those who are interested in appearance and those who are not. Next, the data is divided according to the tendency of those who are dating and those who are not.

3.Result and discussion

Through the survey, it was found that many people care more about the appearance than the inside. Certainly, in the previous research, about 90% judged people in the first meeting. In addition, he answered that about 80% of people have an influence on their appearance when they have a romantic feeling. In other words, it turns out that appearance is a very important factor. However, this causes women to go on an unhealthy or unreasonable diet. Previous studies have shown that to prevent this, we need to be confident, and this depends on what people around us say to you.

4.Conclusion

After all, many people, especially women, are worried about their appearance. As a result, you may end up on an excessive diet and become unhealthy. Therefore, in order to prevent this, it is necessary to be confident in yourself and to accept what kind of system and race the other person is.

5.References

Photo Souken(2017) Survey on “People’s appearance” Retrieved December 25, 2021 from https://www.asukanet.co.jp/main/photo/enq_35.html

Rie Ueki (2021) Why do you not have self-confidence? Retrieved December 25, 2021 from https://www.eyecity.jp/eye_psychology/vol38/

[ここに入力]

面白い鑑賞の授業受けたくない？

２年次グローバルⅡ　音楽学類　６班

１　はじめに

私たちが中学生の時、音楽の授業をつまらないと言っていた人がいた。なぜ音楽の授業をつまらないと思う人がいるのか、どのようにすれば楽しくなるのかを研究し、鑑賞の授業を通して音楽の楽しさをより知ってもらいたいと考えた。また、文部科学省の中学校指導要領を読んで、中学校の時の音楽の授業と比べ、指導要領が目指す音楽の授業が適切に行われていない場合があるのではないかと感じ、どうすれば指導要領が目指す音楽の授業を実現できるのか調べたいと思った。

研究を始めたきっかけは、自分たちが興味のなかったジャンルの音楽でも、授業を通して興味を持った経験があるからである。そこで、私たちと同じように音楽の授業を通して新たな興味をもって貰いたいと思い、そのためにどのような授業をすれば良いのか研究することにした。

２　研究手法

文部科学省の指導要領を参考に研究を進め、主に鑑賞に焦点を当て、アンケートを実施した。

３　結果・考察

曲のジャンルや曲調の好き嫌いもあったが、授業での先生の説明の仕方や、ただ鑑賞するだけでなく、その曲に関するアンサンブルやグループ活動をしたりすることが楽しかったと答える人が多かった。そのため、鑑賞はどんな曲を聴くかも重要だが、その授業内容によって生徒の興味を引き出すことができると分かった。

４　結論・今後の展望

鑑賞の授業の案の一つとして、いくつかのグループに分かれ、鑑賞する曲について、使われている楽器やどんな思いが込められているかなどを、それぞれのグループで調べるということを提案する。

このように、ただ音楽を聴き感想を書くだけではない授業を行うことで、より理解を深めることができ、楽しく鑑賞の授業を受けることができる。このような、生徒が自ら考えて受けるような授業は、文部科学省の指導要領が目指す授業の在り方と同じである。

５　参考文献

文部科学省(2019) 中学校指導要領新教育課程音楽科
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_006.pdf(閲覧日:2021 年 12 月 15 日)
音楽の授業で高めるソーシャルスキル file:///C:/Users/joto/Downloads/shuho-30-1%20(1).pdf
（閲覧日：2021 年 12 月 21 日）

冬は暖かくありたい

２年次グローバルⅡ　理数学類　数学 11 班

１　はじめに

昨今の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い換気が日常的なものとして扱われるようになった。しかし冬季の換気は非常に寒く、同時に長時間の換気は電力の無駄になるのではないかと考えた。そこで、適度な環境で健康に過ごしつつ、電力を無駄にしないようにする方法を模索するため研究を進めた。

２　研究方法

教室内の空気の流れを疑似的に表現するためにパーティクルボード材で 40 分の１スケールの模型を作成し、開ける窓を変えて実験を行った。評価方法は、空気の対流で得られる二酸化炭素測定器が示すｐｐｍを

(初期値)÷(その時間のｐｐｍ)

の値(以下相対割合と呼ぶ)とする。その値をグラフに描画し、評価した。

具体的な手法として５分の線香の煙の充満をして、大気を安定させるために２分 30 秒の放置。その後、指定の窓を開けて時間の評価を行った。

３　結果・考察

結果として、時間的効率を重視して換気を行う場合は窓をすべて開けるのがよいと考えられたが四つ角を開けるパターンと５０秒ほどの差しか見られなかったため、その日の体感温度によって２つから選ぶのが良いと考えられる。暖かさを重視して換気を行う場合は部屋の中心に近い対角線の窓を開けるのが良いと考えられる。理由としては、二酸化炭素濃度測定器を置いたのが模型の中心であり、この２か所が中心の空気を最も入れ替えやすい組み合わせだったのではないかと考えている。

４　結論・今後の展望

今回の研究では、時間の都合上エネルギー効率の良い換気方法を探ることができなかったので今後必要な数値を検討し、再度実験を進めていきたい。また、暖かさを重視して換気を行う場合は部屋の中心に近い対角線の窓を開けるのが良いという結果が得られたがなぜそのような結果になったのか分からなかったため、すべての窓を１か所ずつ開けた場合などの実験も行い、理由を探っていきたい。

５　参考文献

ダイキン工業株式会社（2021）上手な換気の方法～住宅編～
https://www.daikin.co.jp/air/life/ventilation/（閲覧日：2021 年 9 月 20 日）

外来種を減らそう！～アメリカザリガニの肥料化～

２年次グローバル理数学類　生物１班

１　はじめに

近年、外来生物の増加が著しく、在来生物の生態系や人々の生活に多大な影響を与えている。そこで、身近にいる外来生物のアメリカザリガニに焦点を当て、研究を行うことにした。先行研究を調べたところ、アメリカザリガニの捕獲や駆除に関する研究は見つかったが、アメリカザリガニの肥料化に関する研究は見当たらなかった。それに関する研究を進めることにより、アメリカザリガニが地域に及ぼす被害を減らし、さらに有効活用することができるかを明らかにする。

２　研究手法

城東高校付近の用水路でザリガニを５匹捕獲した。次にザリガニを１度冷凍し、それをハンマーで砕き、粉々にした。また山から採取した腐葉土にはザリガニを分解する微生物がいると考え、砕いたアメリカザリガニと腐葉土を混ぜ、A～D(A 真砂土:アメリカザリガニを含んだ腐葉土＝7:3 、B 真砂土:腐葉土＝7:3、C 真砂土:アメリカザリガニを含んだ腐葉土＝9:1、D 真砂土:腐葉土＝9:1)の４パターンの土を作成した。それぞれの土に発芽したハツカダイコンを植え、約３週間均等に水を与えた後、地上部の長さ、地下部の長さ、重量を比較した。

３　結果・考察

成長したハツカダイコンを３本抜き、地上部の長さ、地下部の長さ、重量の平均を求めた。その結果、４つのプランターの中で、A のプランターが一番よく育っていて、C、B、D の順番に良く育っていた。他のプランターにおいてもアメリカザリガニを含んだ方がよく育っていたことから、ザリガニを含んでいる方が良く育つということが分かった。

４　結論・今後の展望

アメリカザリガニを含む土での成長は、含まないものより良かったことから、アメリカザリガニは肥料として活用できることが分かった。また、アメリカザリガニを含む腐葉土を作成する際に、懸念されていた臭いもあまりなかったことから、肥料化をより現実的に考えられるようになった。アメリカザリガニの肥料化により、指定外来種を減らし活用する方法を見いだすことができた。さらに、アメリカザリガニを含んだ土を商品化することで、家庭栽培への普及にも繋げていくことができると考えた。

５　参考文献

侵略的な外来種、日本の外来種対策、環境省
https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/gairaizarigani.html (閲覧日:8 月 26 日)
ザリガニに含まれるカロリーと栄養情報－FatSelect
https://www.fatsecret.jp/カロリー-栄養/一般/ザリガニ?frc=True （閲覧日：8 月 26 日）
植物の栽培に必要な3要素と、成長を促進させる肥料の選び方
https://ecologia.100nen-kankyo.jp/column/single004.html (閲覧日:11 月 11 日)

Connecting traditional culture to the next generation

3-7

1. Introduction

Since I was a junior high school student, I have been involved in volunteer activities and community revitalization activities in the Nadasaki area of Okayama City, my hometown. During that time, I became interested in initiatives related to regional revitalization, and wanted to conduct research on regional revitalization in GLOBAL III.

The purpose of this study is to focus on traditional culture such as traditional festivals in the area and propose better inheritance methods. Also, the significance of research is that inheriting the traditional culture of the region can be utilized for the development of the region.

2. Methods

① Find out about the Nadasaki area

② Find out about cultural inheritance challenges

③ Examine previous research

3. Results and Discussion

Since there are three elementary schools and one junior high school in the Nadasaki area, I thought that by cooperating with those educational institutions, it would be possible to take measures against the problem of the bearers of traditional culture in the area.

4. Conclusions

From this research, I have learned that it is necessary to collaborate with educational institutions such as local elementary schools and junior high schools to carry out educational activities related to the region.

Self-esteem and Japanese cultural and social background

3-8

1. Introduction

According to a cabinet office survey, the number of Japanese people who have high self-esteem is lower than people from six other countries. Moreover, the researcher Ozawa Masayuki, who researched about the difference in self-esteem between Japanese and Korean students, found that elements which affect the level of self-esteem are different.

2. Methods

In my study, I used an Internet survey, an article survey and a questionnaire.

3. Results and Discussion

From my previous studies, these were my research questions: is Joto High School students' self-esteem low, and if so, what are the reasons for this? This time, the subjects were 222 Joto High School students in Japan and 42 Gimhae Foreign Language High School students in Korea.

First, a questionnaire which asked about the level of self-esteem was taken. Subjects chose one answer from 1, "Agree", to 4, "Disagree". Next, a question about the elements which are needed to satisfy the subjects' lives was asked. The result was that most of the Korean students answered 1, "Agree", for all questions. On the other hand, most of the Japanese students chose the second option. From the results of the next question, the most notable feature was that over 65% of Japanese students said personal relationships are the most important element.

One of the reasons for these results is the tendency that the Japanese put much value on "place" in Japanese society. Furthermore, the Japanese tendency to care about public attention and the culture of shame make people express their feeling less. Therefore, because of these, some Joto High School Students may have chosen the second option, even though they actually think 1, "Agree".

4. Conclusions

In conclusion, Joto High School students' self-esteem may not be so low. Moreover, it is difficult to know the true level of self-esteem from the questionnaire, because many elements affect the result.

Motivation Toward Studying English

3-8

1. Introduction

People around me were suffering from learning English. I wondered why, but I couldn't understand, so I started thinking how this problem could be washed away.

2. Methods

There were some prior studies about this topic, but they were not effective enough to solve this problem. They were just suggesting making a change in the curriculum of English classes at school. It may seem to be a good idea, but it cannot change students' motivation toward studying English. Even the English cafe held by Okayama University was not good enough, because it was a difficult place to join for some university students. I got some hints from this project, and started a project named Joto English Cafe.

Its goal was to stimulate and motivate students toward studying English through conversation including discussions. I asked them to answer a questionnaire and found their answers were negative. Most of them hate to study English, because learning another language was too hard for them. Even worse, some said that they were scared of the teachers. There was nothing I could do for them about this, but it was obvious this was tormenting them. During the event, participants seemed to be enjoying talking with others.

3. Results and discussion

After the event, participants answered a questionnaire again. Sixteen out of twenty students said that they felt a change in their minds. Why? Their answers were "I honestly didn't think I could speak English more than I expected.", "I sometimes felt it was hard, so I want to be able to speak more fluently," and so on. On the other hand, 4 students answered that joining this event only once is not enough. I held this event twice, and expected them to enjoy it more. As a result, all participants felt a change in their motivation toward studying English.

4. Conclusions

I thought that the original style of classes, like lectures we take at school, are necessary in order to learn the basis of English. However, these kinds of events are also necessary for students to improve their English skills, because students can be stimulated and motivated through them.

I did research on what people around me experienced, and I learned a lot. I've never suffered from studying English, and I thought it was not too tough for others. I honestly did not think there were so many people suffering from studying English. I wondered if there was anything I could do for them. This experience motivated me to help others. Also, during Joto English Cafe, I realized I did not have enough ability to communicate with people. I thought I still have to keep practicing and doing my best, in order to be able to contribute to society in the future.

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

2019年度予算額（案）　251百万円(新規)

新高等学校学習指導要領を踏まえ、Society5.0を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針2018」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」に基づき、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築

高等学校

・地域との協働による活動を学校の活動として明確化
・専門人材の配置等、学内における実施体制を構築

✓地域における活動を通じた探究的な学びの実現（新高等学校学習指導要領への対応）
✓学校の中だけではできない多様な社会体験

コンソーシアム

・将来の地域ビジョン・求める人材像の共有や協働プログラムの開発
・学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定

✓高校生のうちに地元地域を知ることにより、地元への定着やUターンが促進される
✓地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

標準スキームを踏まえつつ、地域の実情や人材ニーズに応じた取組を展開

【プロフェッショナル型】
〈専門学科中心10校程度〉
地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し、地域に求められる人材を育成

～特徴・取組例～
・地域の特産物の付加価値を高め安定的な食料生産により地域の発展を担う人材を育成
・ものづくりに関する専門的な技術を身に付け、地場産業を支える人材を育成　など

【地域魅力化型】
〈普通科中心20校程度〉
地域課題の解決等を通じた学習を各教科・科目や学校設定科目等において体系的に実施するためのカリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成

～特徴・取組例～
・地域との連携に係る教科横断的な単位を設定
・衰退しつつある地域の振興方策を地域との連携により研究・実践　など

【グローカル型】
〈学科共通20校程度〉
グローバルな視点を持ってコミュニティーを支える地域のリーダーを育成。

～特徴・取組例～
- グローバルな社会課題研究のカリキュラム研究開発
- 海外研修等をカリキュラムの中に体系的に位置づけ
- 海外からの留学生を受け入れるなど外国人生徒と一緒に授業・探究活動等を履修
- コミュニケーション能力を重視した外国語（複数外国語含む）の先進的な授業を実践　など

参考

地域との協働による高等学校教育改革推進事業　指定校一覧（令和３年度）

プロフェッショナル型【15件】

都道府県	設置者	学校名	実施学科	指定
秋田県	県立	金足農業高等学校	農業	R2
栃木県	県立	宇都宮工業高等学校	工業	R1
福井県	県立	科学技術高等学校	工業	R2
長野県	県立	飯田OIDE長姫高等学校	工業・商業	R1
岐阜県	県立	岐阜工業高等学校	工業	R1
愛知県	県立	愛知商業高等学校	商業	R1
三重県	県立	四日市工業高等学校	工業	R1
京都府	府立	京都すばる高等学校	商業	R1
兵庫県	県立	佐用高等学校	家庭	R2
島根県	県立	出雲農林高等学校	農業	R1
島根県	県立	情報科学高等学校	商業	R2
山口県	県立	田布施農工高等学校	農業	R1
愛媛県	県立	小松高等学校	家庭	R1
福岡県	県立	香椎（かしい）高等学校	家庭	R1
熊本県	県立	天草拓心高等学校	農業	R1

地域魅力化型【２６件】

都道府県	設置者	学校名	指定
岩手県	県立	大槌高等学校	R1
宮城県	県立	石巻西高等学校	R1
山形県	県立	新庄北高等学校	R1
山形県	県立	小国高等学校	R1
埼玉県	県立	小川高等学校	R1
東京都	都立	八丈高等学校	R2
神奈川県	県立	山北高等学校	R1
福井県	県立	鯖江高等学校	R1
福井県	県立	三国高等学校	R2
長野県	県立	白馬高等学校	R1
静岡県	県立	熱海高等学校	R1
静岡県	私立	浜松学芸高等学校	R1
三重県	公立	飯南高等学校	R1
兵庫県	公立	生野高等学校	R1
兵庫県	公立	村岡高等学校	R2
島根県	公立	松江東高等学校	R1
島根県	公立	平田高等学校	R1
島根県	公立	矢上高等学校	R2
岡山県	公立	和気閑谷（わけしずたに）高等学校	R1
徳島県	公立	城西高等学校神山分校	R1
愛媛県	公立	三崎高等学校	R1
高知県	公立	大方高等学校	R2
長崎県	公立	松浦高等学校	R2
熊本県	公立	上天草高等学校	R1
宮崎県	公立	飯野高等学校	R1
宮崎県	公立	宮崎南高等学校	R1

グローカル型【２４件】

都道府県	設置者	学校名	指定
北海道	道立	登別明日中等教育学校	R1
山形県	私立	九里学園高等学校	R1
山形県	県立	山形東高等学校	R1
福島県	県立	ふたば未来学園中学・高等学校	R2
千葉市	市立	稲毛高等学校・附属中学校	R1
東京都	私立	昭和女子大学附属昭和高等学校	R1
福井県	県立	丸岡高等学校	R1
山梨県	県立	甲府第一高等学校	R2
長野県	県立	長野高等学校	R1
静岡県	県立	榛原（はいばら）高等学校	R1
愛知県	私立	星城高等学校	R1
愛知県	私立	名古屋国際中学校・高等学校	R1
三重県	県立	宇治山田商業高等学校	R1
兵庫県	県立	柏原（かいばら）高等学校	R1
兵庫県	県立	兵庫高等学校	R2
奈良県	県立	畝傍（うねび）高等学校	R1
奈良県	私立	育英西中学校・高等学校	R1
和歌山県	私立	和歌山信愛中学校・高等学校	R1
島根県	県立	隠岐島前高等学校	R2
岡山県	県立	岡山城東高等学校	R1
香川県	県立	高松北高等学校	R1
愛媛県	県立	松山東高等学校	R1
高知県	県立	室戸高等学校	R1
宮崎県	県立	五ヶ瀬中等教育学校	R1

未来の岡山と世界のWell-beingの実現に貢献するグローバル・リーダーの育成

- 岡山における医療・福祉の先駆的な取組や充実した環境を踏まえ、SDGs「目標3　すべての人に健康と福祉を」と関連付けた学びを充実
- 「すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福 "Well-being " な社会の実現」を目指し、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダーを育成

拠点校の取組

岡山操山中学校・高等学校
- ○県内初の公立中高一貫教育（H14～）
- ○ＳＧＨ（H27～R1）
  - ・教員研修の活性化
  - ・授業の質の向上・深化
  - ・課題研究の内容の充実
  - ・校外の発表の場への参加者数の増加（G20提言等）
  - ・コンテスト等での入賞者数の増加
  - ・海外姉妹校との提携など国際交流の活性化

Well-beingの実現を社会課題として事業を進める岡山の歴史と土壌

医療・福祉・教育の先駆的取組
- ○岡山藩医学館や第三高等中学校医学部の流れをくむ非常に高い医療水準
- ○民生委員制度発祥の地
- ○児童福祉の父と呼ばれる石井十次など「岡山四聖人」の業績
- ○日本初の庶民の学校「閑谷学校」を源流とする「教育県岡山」

ESD・SDGs等の取組
- ○2014 ESDに関するユネスコ世界会議（ｽﾃｰｸﾎﾙﾀﾞｰ会議）開催
- ○SDGs未来都市 岡山市 真庭市
- ○岡山大学 SDGsﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ賞

G7・G20の開催
- ○2016 G 7倉敷教育大臣会合「倉敷宣言」
- ○2019 G 20岡山保健大臣会合 高校生による提言

育成する資質・能力　OKAYAMA Agency

幅広く深い教養	主体的に行動する力
課題発見・解決能力	他者と協働する力
新たな価値を創造する力	自他を尊重する心

活動の３つの柱

社会の多様性への理解の促進

【ﾈｯﾄﾜｰｸ】
- ★ICT(Web会議システム)を活用した高校生国際会議の開催
  テーマ：「健康と福祉」
- ★姉妹校を含む高校ﾈｯﾄﾜｰｸを構築し国際交流機会への相互乗り入れ（姉妹校：ｵｰｽﾄﾗﾘｱ・ｱｼﾞｱ・北米）
- ★合同留学報告会の開催

【拠点校】
- ★外国人教員による日常的な指導
- ★外国人留学生との交流促進
- ★海外研修の充実(ｵｰｽﾄﾗﾘｱｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰ、県ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ等の活用促進)

課題研究の充実

【ﾈｯﾄﾜｰｸ】
- ★合同課題研究発表会の開催、共同課題研究の実施によるSSH、地域協働事業等との成果共有・普及
- ★「岡山県版中高一貫課題研究メソッド」の開発

【拠点校】
- ★課題研究「未来航路」をSDGs「目標3 すべての人に健康と福祉を」と関連させて実施
  大学、企業等でのﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸや大学が行う国内外ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸへの同行等
- ★海外姉妹校との共同課題研究
  共通テーマによるデータ収集・分析等

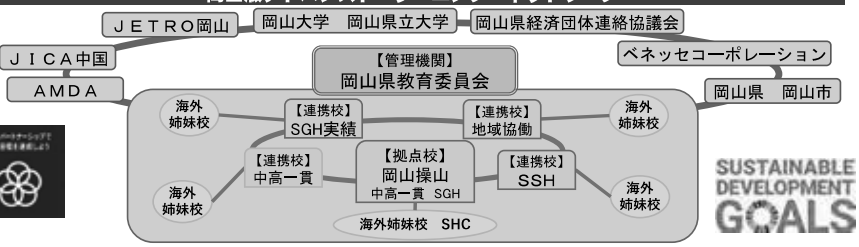
高度な学びの推進

【ﾈｯﾄﾜｰｸ】
- ★大学の講義等の聴講(遠隔授業の研究含む)・大学での単位認定の研究（ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・ﾌﾟﾚｲｽﾒﾝﾄ）
- ★課題研究の成果をOUTPUTする場としてコンテストや学会等へ参加
- ★企業、国際機関等が行う国際的なプログラム等への参加促進

【拠点校】
- ★データサイエンス等を含んだ文理融合・教科横断的科目「SOZAN STEAM」の実施（１年次・１単位）
- ★大学等との連携によるグローバル合宿等SOZAN国際塾の取組の深化

拠点校では、ICT環境整備と生徒一人一台端末環境により、学びのポートフォリオを蓄積・活用するとともに
- ★日常的な国際交流を促進
- ★思考の可視化等により協働学習を充実
- ★大学教員とのﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ等を充実

岡山版アドバンスト・ラーニング・ネットワーク



事業連携校

岡山一宮高等学校
SSH 姉妹校(韓国)

岡山城東高等学校
地域との協働(ｸﾞﾛｰｶﾙ型)
SGH実績 姉妹校(韓国)

岡山工業高等学校
STEAM教育(県事業)
姉妹校(ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ)

倉敷天城中学校・高等学校
SSH 姉妹校(ｱﾒﾘｶ) 中高一貫

倉敷中央高等学校
福祉科 看護科 姉妹校(台湾)

玉島高等学校
SSH 姉妹校(ｶﾅﾀﾞ)

津山中学校・高等学校
SSH 中高一貫

和気閑谷高等学校
地域との協働(地域魅力化型)
ｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙ 創学350年
姉妹校(中国・韓国・台湾)

岡山大安寺中等教育学校
IB研究(県事業) 中高一貫

Sacred Heart College高校
拠点校の姉妹校(ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)

事業協働機関

岡山大学
SGU　SDGs　UNCTAD
高度な学び　探究　連携協定

岡山県立大学
COC+　高度な学び　探究
連携協定

岡山県経済団体連絡協議会
県内経済５団体で構成
経済活動の連携・活性化

ベネッセコーポレーション
教育情報、情報発信

JETRO岡山
貿易振興　アジア

JICA中国
国際協力　開発途上国

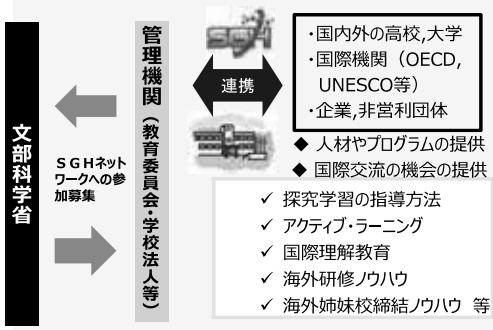
AMDA
NGO　NPO
国際人道支援活動

岡山県
岡山市
ESD SDGs
G20岡山保健大臣会合

スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）ネットワークの構築

目的

高等学校段階におけるグローバル人材育成の取組を一層促進するため、**スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）の取組を引き続き実施する高等学校等**が参加するネットワークを構築し、文部科学省主催の全国高校生フォーラム及びグローバル人材育成全国連絡協議会への参加など、全国的な取組への継続的な参画を通じて、**ＳＧＨの成果普及**と持続可能な**グローバル人材育成のネットワークづくり**を推進する。



文部科学省主催
- ◆全国高校生フォーラム（12月開催予定）への参加
- ◆ グローバル人材育成全国連絡協議会への参加 等
- ※SGHロゴマークの使用が可能

ＳＧＨネットワークへの参加要件

◆ 対象学校：国公私立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中・高）

※　令和３年度においては、平成26年度から令和２年度までのSGH事業指定校（123校）及びSGHアソシエイト校（56校）のうち、SGHの取組を引き続き実施する高等学校等を募集対象とする。

◆スケジュール: 令和３年４月～　取組開始

◆参加校：１１１校（国立：１０校、公立：５９校、私立：４２校）

◆要件

- ✓ グローバル人材像を設定し、当該人材像を踏まえ、卒業時に生徒が身に付けることのできる資質・能力を具体的かつ明確に定め、公表していること
- ✓ グローバル人材育成に資する課題研究又は先進的な課題研究等の実績を踏まえた、グローバル人材育成に資する発展的な実践に取り組む教育課程等を編成していること
- ✓ 国内外の高校・大学・国際機関等との連携により、より実践的で高度な学習活動が行われていること
- ✓ グループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、プロジェクト型学習等の手法が、外国語によるものも含め、生徒の主体的な学びを促すものとして効果的に取り入れられていること
- ✓ 一定期間ごとに、本取組に関する自己評価・学校関係者評価を実施すること

★これまでのＳＧＨ事業を通じて、全国の高等学校に形成されたグローバル人材育成プログラムの内容と運営の経験知、国内外のネットワーク等、有形無形のリソースを共有し、魅力的な教育課程の充実や国際的なつながりの拡大など、ＳＧＨの取組のさらなる質的・量的な発展を目指す。

スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク参加校一覧

（令和3年4月1日現在）

通番	都道府県	国公私別	所在市町村	学校名
1	北海道	公立	札幌市	北海道札幌国際情報高等学校
2			滝川市	北海道滝川西高等学校
3			登別市	北海道登別明日中等教育学校
4		私立	札幌市	札幌聖心女子学院高等学校
5			札幌市	北海学園札幌高等学校
6			江別市	立命館慶祥高等学校
7			北広島市	札幌日本大学高等学校
8	岩手県	公立	盛岡市	岩手県立盛岡第一高等学校
9		私立	盛岡市	盛岡中央高等学校
10	宮城県	公立	仙台市	宮城県仙台二華中学校・高等学校
11			気仙沼市	宮城県気仙沼高等学校
12		私立	仙台市	仙台白百合学園中学・高等学校
13	秋田県	公立	秋田市	秋田県立秋田南高等学校
14	福島県	公立	広野町	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
15	茨城県	私立	牛久市	東洋大学附属牛久中学校・高等学校
16	栃木県	公立	佐野市	栃木県立佐野高等学校
17	群馬県	公立	高崎市	群馬県立中央中等教育学校
18			高崎市	高崎市立高崎経済大学附属高等学校
19	埼玉県	国立	坂戸市	筑波大学附属坂戸高等学校
20		公立	さいたま市	埼玉県立浦和第一女子高等学校
21			加須市	埼玉県立不動岡高等学校
22	千葉県	公立	佐倉市	千葉県立佐倉高等学校
23		私立	千葉市	渋谷教育学園幕張高等学校
24			木更津市	暁星国際高等学校
25	東京都	国立	港区	東京工業大学附属科学技術高等学校
26			文京区	筑波大学附属高等学校
27			世田谷区	東京学芸大学附属高等学校
28			練馬区	東京学芸大学附属国際中等教育学校
29		私立	世田谷区	佼成学園女子中学高等学校
30			世田谷区	昭和女子大学附属昭和高等学校
31			渋谷区	青山学院高等部
32			渋谷区	渋谷教育学園渋谷中学高等学校
33			渋谷区	富士見丘中学高等学校
34			中野区	大妻中野中学校・高等学校
35			北区	順天高等学校
36			昭島市	啓明学園中学校高等学校
37			小平市	創価高等学校
38	神奈川県	公立	横浜市	神奈川県立横浜国際高等学校
39			横浜市	横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校
40			横浜市	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校
41		私立	横浜市	神奈川学園中学・高等学校
42			横浜市	横浜女学院中学校高等学校
43			藤沢市	湘南学園中学校高等学校
44	新潟県	公立	魚沼市	新潟県立国際情報高等学校
45	石川県	国立	金沢市	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
46		公立	金沢市	石川県立金沢泉丘高等学校
47	福井県	公立	福井市	福井県立高志高等学校
48	山梨県	公立	甲府市	山梨県立甲府第一高等学校
49	長野県	公立	長野市	長野県長野高等学校
50			上田市	長野県上田高等学校
51	岐阜県	公立	大垣市	岐阜県立大垣北高等学校
52			関市	岐阜県立関高等学校
53	愛知県	国立	名古屋市	名古屋大学教育学部附属中・高等学校
54		公立	豊橋市	愛知県立時習館高等学校
55			津島市	愛知県立津島高等学校
56		私立	名古屋市	名古屋国際中学校・高等学校
57			名古屋市	名古屋中学校・高等学校
58			名古屋市	名城大学附属高等学校
59			豊明市	星城高等学校
60	三重県	公立	四日市市	三重県立四日市高等学校
61	滋賀県	公立	守山市	滋賀県立守山中学・高等学校
62			甲賀市	滋賀県立水口東中学校・高等学校
63	京都府	国立	京都市	京都教育大学附属高等学校
64		公立	京都市	京都府立嵯峨野高等学校
65			京都市	京都府立鳥羽高等学校
66			京都市	京都市立西京高等学校
67			京都市	京都市立日吉ケ丘高等学校
68			京都市	京都市立堀川高等学校
69		私立	京都市	京都先端科学大学附属高等学校
70			宇治市	立命館宇治高等学校
71			長岡京市	立命館高等学校
72			京田辺市	同志社国際高等学校
73	大阪府	国立	大阪市	大阪教育大学附属高等学校平野校舎
74		公立	堺市	大阪府立泉北高等学校
75			堺市	大阪府立三国丘高等学校
76			豊中市	大阪府立豊中高等学校
77			吹田市	大阪府立千里高等学校
78			能勢町	大阪府立豊中高等学校能勢分校
79		私立	高槻市	関西大学高等部
80			高槻市	高槻高等学校・中学校
81			河内長野市	清教学園高等学校
82			箕面市	関西学院千里国際高等部
83			高石市	清風南海高等学校
84			交野市	関西創価高等学校
85	兵庫県	公立	神戸市	兵庫県立兵庫高等学校
86			神戸市	神戸市立葺合高等学校
87			芦屋市	兵庫県立国際高等学校
88		私立	神戸市	啓明学院中学校・高等学校
89			芦屋市	甲南高等学校・中学校
90	奈良県	公立	橿原市	奈良県立畝傍高等学校
91	和歌山県	公立	御坊市	和歌山県立日高高等学校
92		私立	和歌山市	和歌山信愛中学校高等学校
93	鳥取県	公立	鳥取市	鳥取県立鳥取西高等学校
94	島根県	公立	出雲市	島根県立出雲高等学校
95	岡山県	公立	岡山市	岡山県立岡山城東高等学校
96		私立	岡山市	岡山学芸館高等学校
97			浅口市	金光学園中学・高等学校
98	広島県	公立	東広島市	広島県立広島中学校・広島高等学校
99	愛媛県	国立	松山市	愛媛大学附属高等学校
100		公立	松山市	愛媛県立松山東高等学校
101			宇和島市	愛媛県立宇和島南中等教育学校
102	高知県	公立	高知市	高知県立高知西高等学校（高知県立高知国際高等学校）
103	福岡県	公立	直方市	福岡県立鞍手高等学校
104		私立	北九州市	明治学園中学校・高等学校
105			福岡市	上智福岡中学校・高等学校
106	長崎県	公立	長崎市	長崎県立長崎東高等学校
107	熊本県	公立	熊本市	熊本県立済々黌高等学校
108			水俣市	熊本県立水俣高等学校
109	宮崎県	公立	宮崎市	宮崎県立宮崎大宮高等学校
110			五ヶ瀬町	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
111	沖縄県	公立	那覇市	沖縄県立那覇国際高等学校

＜参加校の内訳＞

１１１校　（国立：１０校　　公立：５９校　　私立：４２校）

注）学校名欄の（　　）内は、令和3年度入学生の学校名を表す。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）
連携協力に係る実施要項

令　和　元　年　6　月　5　日
高大連携推進専門委員会承認

1　目的等

岡山大学は，文部科学省からスーパーグローバル大学に指定され，グローバルに活躍できる実践人の育成に注力している。また，地域と連携しESDにも早くから取り組んでおり，現在はSDGs達成への取組を進めている。その取組の一環として，地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校（グローカル型）（以下「グローカル型指定校」という。）及びその管理機関からの要請に基づき,グローカル型指定校が実施する当該事業への連携協力を行う。この連携協力により，高等学校及びその管理機関との連携をより強化し，本学の取組の一層の推進に資することを目的とする。

2　連携協力事項

1）コンソーシアムへの参加
2）岡山大学内に連携窓口の設置
3）高校生に対する指導等のための教員，大学院生等の派遣及び高校生が本学を訪問する際の調整
4）事業運営に対する指導等のための教員の派遣とその調整
5）異文化交流に関する外国人留学生の派遣や高校生の受入

3　連携協力事項の詳細

1）コンソーシアムへの参加
グローカル型指定校の管理機関からの要請に基づき，委員等を選出する。

2）岡山大学内に連携窓口の設置
岡山大学学務部学務企画課総務・企画グループ企画担当とする。
TEL：086-251-7186　FAX：086-251-8440
E-mail：koudai@adm.okayama-u.ac.jp

3）高校生に対する指導等のための教員，大学院生等の派遣及び高校生が本学を訪問する際の調整
岡山大学からの指導者（教員及び学生）の派遣を希望する場合は，別紙様式により申請するものとする。また，学生のみの派遣を希望する場合は，グローカル型指定校において作成した派遣内容詳細を記載した学生募集掲示を，連携窓口にて学内掲示することにより募集する。なお，いずれの場合も調整の結果，グローカル型指定校が希望する教員及び大学院生等の派遣ができない場合がある。
派遣終了後は，グローカル型指定校から岡山大学へ，派遣状況の実施報告をすること。
グローカル型指定校の高校生が岡山大学を訪問する際は，グローカル型指定校からの要請に基づき，その都度調整を図る。

４）事業運営に対する指導等のための教員の派遣とその調整
グローカル型指定校の管理機関からの要請に基づき選出する。

５）異文化交流に関する外国人留学生の派遣や高校生の受入
岡山大学からの外国人留学生の派遣を希望する場合は,派遣内容詳細を記載した要項等(日英版）を連携窓口へメール送付する。連携窓口は学内において調整し，派遣留学生の名簿を送付する。グローカル型指定校は名簿に記載の留学生に個別に連絡を取り調整する。なお，調整の結果，グローカル型指定校が希望する外国人留学生の派遣ができない場合がある。
異文化交流のため，グローカル型指定校の高校生が岡山大学を訪問する場合は，グローカル型指定校からの要請に基づき，その都度調整を図る。

４　連携協力期間
２　連携協力事項については，当該高等学校がグローカル型指定校に指定された事業実施期間とする。事業終了後の継続支援については，必要に応じグローカル型指定校の管理機関と協議の上決定する。

５　その他
１）　本事業の実施に係る費用については，原則として，指導者（教員及び学生)，外国人留学生が派遣される場合の交通費及び謝金はグローカル型指定校又はその管理機関で負担するものとし，その他の経費については，その都度協議するものとする。
２）　本要項の適用は，2019 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル型)に係るものからとする。
３）　派遣する指導者（教員及び学生)，外国人留学生を選出した後については，必要に応じて，グローカル型指定校と指導者（教員及び学生)，外国人留学生で直接調整するものとする。

参考：地域との協働による高等学校教育改革推進事業概要（文部科学省）
1　目　的
新高等学校学習指導要領を踏まえ，Society5.0 を地域から分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため,「経済財政運営と改革の基本方針 2018」や「まち・ひと・しごと創成基本方針 2018」に基づき，高等学校が自治体，高等教育機関，産業界等と協働してコンソーシアムを構築し，地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで，地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。
2　事業概要
【グローカル型】グローバルな視点を持ってコミュニティーを支える地域のリーダーを育成
【地域魅力型】地域課題の解決等を通じた学習を各教科・科目や学校設定科目等において体系的に実施するためのカリキュラムを構築し，地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成
【プロフェッショナル型】地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し，地域に求められる人材を育成

令和３年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」
岡山大学の教員の派遣について

１　「GLOBALⅡ」（総合的な探究の時間）及び「コア科目」（学校設定科目）
（各学類別の専門性を生かした課題研究・クループ研究）

対象：２年次生（全員）
時期：９月30日・10月１日（中間発表）、12月中旬～１月下旬（最終発表）
内容：各学類別・分野別において、課題研究の手法や内容に関する指導
講師：各学類別の学問領域の先生（計10名）

No.	担当する課題研究の領域・テーマ	派遣元	職名	氏名
1	数学・データサイエンス【理数学類】	工学部	教授	石原　卓
2	物理【理数学類】	工学部	准教授	佐藤　治夫
3	化学【理数学類】	理学部	教授	金田　隆
4	生物【理数学類】	理学部	准教授	菅　倫寛
5	文学探究【人文社会学類】	文学部	教授	江口　泰生
6	歴史探究【人文社会学類】	文学部	講師	松岡　弘之
7	国際理解【人文社会学類】	経済学部	講師	大越　裕史
8	教育、ジェンダー【国際教養学類】	グローバル人材育成院	准教授	稲森　岳央
9	環境問題【国際教養学類】	農学部	教授	生方　史数
10	音楽文化の普及【音楽学類】	教育学部	教授	齊藤　武

２　「GLOBALⅢ」（学校設定科目）
（高度な課題研究・個人研究）

対象：３年次（希望者）３名（いずれも国際教養学類）
時期：７月13日（中間発表）、11月25日（最終発表）
内容：課題研究のスキルだけでなく、研究テーマの専門性に関する指導
講師：グローバル人材育成院　宮川　陽名　先生

スクール・ポリシー（令和３年 11 月公表）

○岡山県公立高等学校の三つの方針について
公立高等学校における三つの方針の運用上の名称及び考え方

各方針の名称は、「高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針」を「育てたい生徒像」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」を「学びの内容・方法」、「入学者の受入れに関する方針」を「求める生徒像」とする。

（１）「育てたい生徒像」

各高等学校に期待される社会的役割等に基づき、生徒の卒業後の姿を見据えて、学校教育活動を通じて生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを定める基本的な方針となるものである。

（２）「学びの内容・方法」

「育てたい生徒像」を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施し、学習評価を行うのかを定める基本的な方針となるものである。

（３）「求める生徒像」

各高等学校に期待される社会的役割等や「育てたい生徒像」と「学びの内容・方法」に基づく教育内容等を踏まえ、入学に当たり期待される生徒像を示す基本的な方針となるものである。

全日制	岡山県立 **岡山城東**	所在地 連絡先	岡山県岡山市中区下 110 Tel：086-279-2005　Fax：086-279-9913
学科・コース等	単位制 普通科		
ＵＲＬ	http://www.joto.okayama-c.ed.jp/		

育てたい生徒像	【普通科】 ○　進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動する生徒 ○　お互いの立場を考え協力して助け合う生徒 ○　学業に励み、高い知性・豊かな情操を身に付けた、心身ともに健康な生徒 ○　日本と世界の文化と伝統への理解を深め、国際感覚と国際協調の精神を身に付けた生徒
学びの内容・方法	【普通科】 ○　単位制による学びで進路志望に応じた最適な学習プランを提供するとともに、キャリア教育の充実を図ります ○　２年次からの幅広い科目選択と、人文社会学類・国際教養学類・音楽学類・理数学類の学類選択で、個々に応じたきめ細かな指導を実施します ○　SDGs を基盤とした専門性の高い課題研究を、県内外のネットワークや大学等と連携して行い、課題解決能力の伸長を図ります
求める生徒像	【普通科】 ○　何事にも積極的にチャレンジする進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動することができる生徒 ○　学校やクラスの中で、お互いの立場を考え、協力して助け合う気持ちを持った生徒 ○　自ら見つけた課題について探究していこうという意欲のある生徒 ○　生徒会活動や文化的・体育的な活動に熱心に取り組んだ経験を持ち、今後その経験を生かしていこうとする生徒

令和３年度　学校経営計画書

岡山県立岡山城東高等学校

１　校　訓　　「進取・協同」

２　教育目標　進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動していく態度を養う
学園の一員として連帯し、互いの立場を考え協力して助け合う態度を養う
学業に励み、高い知性と豊かな情操を身につけ、健全な心身を養う
日本ならびに世界の文化と伝統への理解を深め、国際感覚と国際協調の精神を養う

３　校　風　　「城東の自由」を追求し、「集中と切替」を実践する生徒が集う生命もえたつ学園

４　ミッション　校訓「進取・協同」を実践する城東スピリットを備えた人材を育成する

５　ミッション追求のための柱となる施策

⑴ 「ステージは『世界』だ！」のスローガンのもと、グローバル社会や地域コミュニティ等において、リーダーとして必要な資質・能力を育てる教育活動を実践する。

⑵ 知的好奇心を育てる「学びのシステム」により、生徒一人ひとりの多彩な才能が開花する教育を行う。

⑶ 城東の教育を広く発信し、城東の追求する教育の理解者、支援者、実践者を増やす。

【自主・自律の４原則】

① 自由であることを意識しよう→自由であることは責任ある行動を要求されている。

② 信頼関係づくりに努めよう　→信頼関係の確立が自由な校則維持のために最も必要なものである。

③ 自立した社会人と自覚しよう→規律・礼儀が身に付いた自立した社会人として認められている。

④ 人間的人格的に成長しよう　→常に魅力ある人間になるための目標を語り合い、理想を求める。

【学びのシステム】学びの特徴：「単位制」「学類」「Activities」

① 「単位制」による学び
生徒の主体的な学習を推進する学びがある。
科目選択の幅広い自由度が多様な知的好奇心に応える。
生徒一人ひとりの進路志望に応じた最適な学習プランを提供する。

② 「学類」による学び
知的好奇心や探究心、学問的興味を引き出す学びがある。
学類コア科目等が専門性を深化させる。
学類研修など、学類独自の活動等が将来の目的意識を向上させる。

③ 「Activities」による学び
生徒主体の学校行事、各種活動（部活動・生徒会・ＨＲ）がたくましい学びを育成する。
海外での体験学習、高大連携学習、社会人講座が学びの広がりとなる。
地域とつながる活動が信頼と優しさの学びとなる。

【城東高校で育みたい「１０の資質・能力」】

基礎学力・論理的思考力・批判的思考力・課題解決能力・コミュニケーション能力・自己表現力・自己管理能力・グローバルな視野・人を大切にする心・ICT 活用能力

【セイフティネット】心の相談（ピアサポート・個別支援など）、学習支援（個別指導・土曜活用など）

６　令和３年度の重点的取組

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を通して、岡山発グローバルリーダーの育成を推進する。

⑴ 組織的な授業研究に取り組み、創造的・批判的思考力を持つ生徒を育成する。

⑵ 高度な英語運用能力とグローバルな視野を持つ生徒を育成する。

⑶ 授業や生徒会活動、部活動など、何事にも自主的・自律的に行動できる生徒を育成する。

７　令和３年度の取組の柱

⑴ 効果的・効率的な広報活動を推進し、城東の教育を広く周知するとともに、志願者の増加を図る。

⑵ カリキュラム･マネジメントを推進するとともに、ICT を活用して多面的な評価を推進する。

⑶ 生徒が自ら企画・運営できる活動を充実させるとともに、生徒会活動や委員会活動の活性化を図る。

⑷ 新教育課程で求められる学力を育むための指導方法を研究し、実践につなげる。

⑸ 実践的な防災体制の強化及び校内の美化を組織的に推進する。

⑹ 探究的な学習を支える図書館としての機能を充実させ、生徒の読書活動を推進する。

⑺ オンラインを活用するなど海外体験の在り方を工夫し、異文化交流の深化を図る。

⑻ 教育相談や外部機関との連携を通じて、生徒の悩みに組織的に対応するとともに、ピアサポート活動の充実を図る。

⑼ 教職員の働き方改革を推進し、業務の効率化を図る。

平成31年度入学生〔33期生〕 単位制教育課程編成表 その1

岡山県立岡山城東高等学校

科目群	教科	正式科目	校内名称	(標準)単位	1年	人文社会学類 2年	人文社会学類 3年	理数学類 2年	理数学類 3年	国際教養学類 2年	国際教養学類 3年	音楽学類 2年	音楽学類 3年
必履修科目等	国語	国語総合	国語総合	4	5								
		現代文B	現代文B	4		2	2	2	2	2	2	2	2
		古典B	古典	4		4	4			4	4	4	4
		古典B	理系古典	4				3	3				
	地理歴史	世界史A	世界史A	2				(ウ)2				(ウ)2	
		世界史B	世界史BⅠ	4		3		(エ)3		3		(エ)3	
		世界史B	世界史BⅡ	4			(ア)3 (イ)3		3		(ア)3 (イ)3		3
		日本史A	日本史A	2				(エ)2				(エ)2	
		日本史B	日本史BⅠ	4		3		(ウ)3		3		(ウ)3	
		日本史B	日本史BⅡ	4			(ア)3 (イ)3		3		(ア)3 (イ)3		3
		地理A	地理A	2				(エ)2				(エ)2	
		地理B	地理BⅠ	4		3		(ウ)3		3		(ウ)3	
		地理B	地理BⅡ	4			(ア)3 (イ)3		3		(ア)3 (イ)3		3
	公民	現代社会	現代社会	2	2								
	数学	数学Ⅰ	数学Ⅰ	3	3								
		数学Ⅱ	数学Ⅱ	4	1								
		数学Ⅱ	文系数学Ⅱ	4		3				3		3	
		数学Ⅱ	標準数学Ⅱ	4				4					
		数学Ⅱ	速修数学Ⅱ	4				3 ④					
		数学Ⅲ	数学Ⅲ	5				1	3				
		数学A	数学A	2	2								
		数学B	文系数学B	2		2				2		2	
		数学B	理系数学B	2				2					
		＊数学特論	＊数学特論	3					3				
		数学A	総合数学A	4			3				3		3
		数学B	総合数学B	2			2				2		2
		数学Ⅱ	総合数学C	4					3				
	理科	物理基礎	物理基礎	2	2								
		化学基礎	化学基礎	2	2								
		生物基礎	生物基礎	2	2								
		物理	文系物理	4			4				4		4
		物理	理系物理Ⅰ	4				3					
		物理	理系物理Ⅱ	4					4				
		物理	速修物理	4					3				
		化学	文系化学	4			4				4		4
		化学	理系化学Ⅰ	4				3					
		化学	理系化学Ⅱ	4					4				
		生物	文系生物	4			4				4		4
		生物	理系生物Ⅰ	4				3					
		生物	理系生物Ⅱ	4					4				
		生物	速修生物	4					3				
		＊物理研究	＊物理研究Ⅰ	3		1				1		1	
		＊物理研究	＊物理研究Ⅱ	3			2				2		2
		＊化学研究	＊化学研究Ⅰ	3		1				1		1	
		＊化学研究	＊化学研究Ⅱ	3			2				2		2
		＊生物研究	＊生物研究Ⅰ	3		1				1		1	
		＊生物研究	＊生物研究Ⅱ	3			2				2		2
	保健体育	体育	体育	7～8	2	2	3	2	3	2	3	2	3
		保健	保健	2	1	1		1		1		1	
	芸術	音楽Ⅰ	音楽Ⅰ	2	2								
		音楽Ⅱ	音楽Ⅱ	2		1				1		1	
		音楽Ⅲ	音楽鑑賞法	2									1
		美術Ⅰ	美術Ⅰ	2	2								
		美術Ⅱ	美術Ⅱ	2		1				1			
		書道Ⅰ	書道Ⅰ	2	2								
		書道Ⅱ	書道Ⅱ	2		1				1			
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3								
		コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3		3		3		3	
		コミュニケーション英語Ⅲ	コミュニケーション英語Ⅲ	4		1	4	1	4	1	4	1	4
		英語表現Ⅰ	英語表現Ⅰ	2	2								
		英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2			2	2
	家庭	家庭基礎	家庭基礎	2	2								
	情報	情報の科学	情報の科学	2	2								
	音楽	＊Global Music	＊Global Music	1								1	
	英語	英語表現	英語表現	4～8						2			
		総合英語	総合英語	4～13							2		
学類コア科目	音楽	音楽理論	音楽理論Ⅰ	2～8								1	
		音楽理論	音楽理論Ⅱ	2～8									1
		ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	6～12								2	
		ソルフェージュ	ソルフェージュⅡ	6～12									2
	国語	＊Global Arts A	＊文学探究	2		1	1						
	地理歴史	＊Global Arts B	＊歴史探究	2		1	1						
	公民	＊Global Arts D	＊国際理解	2		1	1						
	理数	＊Global Science	＊Global Science	2				1	1				
	英語	＊Global Studies	＊Global Studies	2						2			
		＊プラクティカル・ライティング	＊プラクティカル・ライティング	2							2		
GLOBAL		＊GLOBAL Ⅲ	＊GLOBAL Ⅲ	2			2		2		2		2
		総合的な探究の時間		3～6	1	2	0	2	0	2	0	2	0
		L H R			1	1	1	1	1	1	1	1	1

○ ＊は学校設定科目である。
○ 卒業に必要な単位数は、74単位以上である。
○ 単位数と学類ごとの配当は標準的なものであり、学類を越えて選択することも可能である。

・地歴（ウ）の場合は、世界史Aに加え、日本史BⅠ・地理BⅠのいずれかを選択する。
・地歴（エ）の場合は、世界史BⅠに加え、日本史A・地理Aのいずれかを選択する。

・地歴（ア）の場合は、2年次に選択したB科目と同じBⅡ科目を1つ選択する。
・地歴（イ）の場合は、世界史BⅡに加え、2年次に選択したB科目と同じBⅡ科目を1つ選択する。

平成31年度入学生〔33期生〕　単位制教育課程編成表　その2

岡山県立岡山城東高等学校

2年次選択科目

年次	系	教科	正式科目名	校内名称	標準単位	選択単位	学類	セット
1年次		英語	海外文化体験研修	海外文化体験研修	2	2		
2年次	人文社会学系	国語	古典B	国文法特講α	4	1		
2年次	人文社会学系	国語	古典B	国文法特講β	4	2		
2年次	人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅱ	英語精読α	4	1	(人)(国)(音)	
2年次	人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅱ	英語精読β	4	2	(人)(国)(音)	
2年次	人文社会学系	外国語・英語	異文化理解	異文化理解α	2〜6	1		
2年次	人文社会学系	外国語・英語	*フランス語	*フランス語	2	2		
2年次	自然科学系	数学	数学Ⅱ	Basic数学	4	1	(人)(国)	
2年次	自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅰα	4	1		
2年次	自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅰβ	4	2		
2年次	芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅰα	2〜16	1	(人)(国)	
2年次	芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅰβ	2〜16	2	(人)(国)	
2年次	芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅰα	2〜16	1	(理)	
2年次	芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅰβ	2〜16	2	(理)	
2年次	芸術・体育系	書道	書道Ⅱ	書道Ⅱ特講α	2	1	(人)(国)	
2年次	芸術・体育系	書道	書道Ⅱ	書道Ⅱ特講β	2	2	(人)(国)	
2年次	芸術・体育系	音楽	器楽	ピアノⅠ	2〜12	1	(音)	A
2年次	芸術・体育系	音楽	声楽	声楽Ⅰ	2〜12	1	(音)	A
2年次	芸術・体育系	音楽	声楽	合唱Ⅰ	2〜12	1	(音)	B
2年次	芸術・体育系	音楽	音楽理論	和声学Ⅰ	2〜8	1	(音)	B
2年次	芸術・体育系	音楽	演奏研究	アンサンブル	2〜8	1	(音)	
2年次	芸術・体育系	音楽	演奏研究	弦楽アンサンブルⅠ	2〜8	1	(音)	
2年次	芸術・体育系	音楽	*SJPP	*SJPP（聴講）	2	2	(音)	
2年次	芸術・体育系	保体	*アスリート	*アスリート	2	2		
2年次		英語	*海外修学研修	*海外修学研修	1	1		

履修年次を問わない科目

教科	正式科目名	校内名称	標準単位	選択単位
国語	*作品熟読	*作品熟読α	1〜2	1
国語	*作品熟読	*作品熟読β	1〜2	2
公民	倫理	倫理	2	2
公民	政治・経済	政治・経済	2	2
家庭	子ども文化	子ども文化	2〜4	2
家庭	フードデザイン	フードデザイン	2〜6	2
理科	*環境科学	*環境科学	2	2

【選択の留意事項】

パッケージの自由選択枠で、進路希望や興味・関心に応じて選択科目から選ぶ。

- ○ ＊印は、学校設定科目を示す。
- ○ 表中の ⏟ は、1単位ものの科目を2つまたは3つセットで選択することを意味する。
- ○ 表中の学類欄の（　）は、その科目の選択可能な学類を示している。表記がない場合は、すべての学類からの選択が可能である。
- ○ 校内名称にα・βが付いた同一名称の科目は、同一年次で同時に履修することはできない。
- ○ 履修するための要件を設定している科目があるので、授業ガイドの「履修上の留意点」をよく読むこと。
- ○ 以下の科目は、同一年次に選択することはできない。
  「倫理」と「政治・経済」、「子ども文化」と「フードデザイン」
- ○ 時間割の編成上、以下のことを選択要件とする。
  - ① 音楽学類2年次パッケージ②では、「ピアノⅠ＋声楽Ⅰ」を選択しなければならない。
  - ② 音楽学類3年次パッケージⅡでは、「ピアノⅡ＋声楽Ⅱ」を選択しなければならない。
- ○ 実技系の選択科目は、2〜3年次に継続して選択することが望ましいが、進路希望の変更に応じて選択を変えることもできる。

3年次選択科目

系	教科	正式科目名	校内名称	標準単位	選択単位	学類	セット
人文社会学系	国語	古典A	古典講読	2	2		
人文社会学系	国語	国語表現	国語表現	3	2		
人文社会学系	地理歴史・公民	世界史B	世界史B研究α	4	1		
人文社会学系	地理歴史・公民	世界史B	世界史B研究β	4	2		
人文社会学系	地理歴史・公民	日本史B	日本史B研究α	4	1		
人文社会学系	地理歴史・公民	日本史B	日本史B研究β	4	2		
人文社会学系	地理歴史・公民	地理B	地理B研究α	4	1		
人文社会学系	地理歴史・公民	地理B	地理B研究β	4	2		
人文社会学系	地理歴史・公民	現代社会	現代社会研究	2	2		
人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅲ	英語講読α	4	1	(人)(国)(音)	
人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅲ	英語講読β	4	2	(理)	
人文社会学系	外国語・英語	英語表現	英会話	4〜8	1		
人文社会学系	外国語・英語	時事英語	時事英語	2〜6	1		
人文社会学系	外国語・英語	英語理解	英語理解	4〜10	2	(国)	
人文社会学系	外国語・英語	*LL演習	*LL演習	1	1		
人文社会学系	外国語・英語	*英語基礎	*英語基礎	2	2		
人文社会学系	外国語・英語	*ドイツ語	*ドイツ語	2	2		
自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅱα	4	1		
自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅱβ	4	2		
自然科学系	理科	物理	テーマ物理α	4	1	(人)(国)(音)	
自然科学系	理科	物理	テーマ物理β	4	2	(人)(国)(音)	
自然科学系	理科	化学	テーマ化学α	4	1	(人)(国)(音)	
自然科学系	理科	化学	テーマ化学β	4	2	(人)(国)(音)	
自然科学系	理科	生物	テーマ生物α	4	1	(人)(国)(音)	
自然科学系	理科	生物	テーマ生物β	4	2	(人)(国)(音)	
自然科学系	理科	物理	物理特論α	4	1	(理)	
自然科学系	理科	物理	物理特論β	4	2	(理)	
自然科学系	理科	化学	化学特論α	4	1	(理)	
自然科学系	理科	化学	化学特論β	4	2	(理)	
自然科学系	理科	生物	生物特論α	4	1	(理)	
自然科学系	理科	生物	生物特論β	4	2	(理)	
芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅱα	2〜16	1	(人)(国)	
芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅱβ	2〜16	2	(人)(国)	
芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅱα	2〜16	1	(理)	
芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅱβ	2〜16	2	(理)	
芸術・体育系	書道	書道Ⅲ	書道Ⅲα	2	1	(人)(国)	
芸術・体育系	書道	書道Ⅲ	書道Ⅲβ	2	2	(人)(国)	
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	新曲視唱	6〜12	1	(音)	
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	音楽基礎演習	6〜12	1	(音)	
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	音楽発展演習	6〜12	1	(音)	
芸術・体育系	音楽	音楽Ⅱ	実践実技基礎	2	1	(人)(理)(国)	
芸術・体育系	音楽	鑑賞研究	オペラ鑑賞法	2〜12	2	(音)	
芸術・体育系	音楽	器楽	ピアノⅡ	2〜12	1	(音)	A
芸術・体育系	音楽	声楽	声楽Ⅱ	2〜12	1	(音)	A
芸術・体育系	音楽	演奏研究	伴奏法（声楽）	2〜8	1	(音)	B
芸術・体育系	音楽	声楽	合唱Ⅱ	2〜12	1	(音)	B
芸術・体育系	音楽	演奏研究	弦楽アンサンブルⅡ	2〜8	2	(音)	C
芸術・体育系	音楽	演奏研究	伴奏法（弦楽）	2〜8	1	(音)	C
芸術・体育系	音楽	音楽理論	和声学Ⅱ	2〜8	1	(音)	D
芸術・体育系	音楽	音楽史	音楽史	2〜8	1	(音)	D
芸術・体育系	音楽	鑑賞研究	作曲家研究	2〜12	1	(音)	D
芸術・体育系	音楽	音楽理論	和声学基礎	2〜8	1	(音)	
芸術・体育系	音楽	演奏研究	弦楽アンサンブル基礎	2〜8	1	(音)	
芸術・体育系	音楽	音楽Ⅲ	総合実技演習	2	1	(音)	
芸術・体育系	音楽	音楽理論	音楽理論演習	2〜8	1	(音)	E
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	ソルフェージュ発展演習	6〜12	1	(音)	E
芸術・体育系	音楽	演奏研究	専攻実技演習	2〜8	1	(音)	E
芸術・体育系	音楽	*SJPP	*SJPP	2	2	(音)	
芸術・体育系	保体	*トップアスリート	*トップアスリート	2	2		

令和2年度入学生〔34期生〕 単位制教育課程編成表　その1

岡山県立岡山城東高等学校

科目群	教科	正式科目	校内名称	(標準)単位	1年	人文社会学類 2年	人文社会学類 3年	理数学類 2年	理数学類 3年	国際教養学類 2年	国際教養学類 3年	音楽学類 2年	音楽学類 3年
必履修科目等	国語	国語総合	国語総合	4	5								
		現代文B	現代文B	4		2	2	2	2	2	2	2	2
		古典B	古典	4		4	4			4	4	4	4
		古典B	理系古典	4				3	3				
	地理歴史	世界史A	世界史A	2			(ア) / (イ)	(ウ) 2			(ア) / (イ)	(ウ) 2	
		世界史B	世界史BⅠ	4		3		(エ) 3		3		(エ) 3	
		世界史B	世界史BⅡ	4			(ア) 3 / (イ) 3		3		(ア) 3 / (イ) 3		3
		日本史A	日本史A	2				(エ) 2				(エ) 2	
		日本史B	日本史BⅠ	4		3		3		3		3	
		日本史B	日本史BⅡ	4			(ア) 3 / (イ) 3		3		(ア) 3 / (イ) 3		3
		地理A	地理A	2				(エ) 2				(エ) 2	
		地理B	地理BⅠ	4		3		3		3		3	
		地理B	地理BⅡ	4			(ア) 3 / (イ) 3		3		(ア) 3 / (イ) 3		3
	公民	現代社会	現代社会	2	2								
	数学	数学Ⅰ	数学Ⅰ	3	3								
		数学Ⅱ	数学Ⅱ	4	1								
		数学Ⅱ	文系数学Ⅱ	4		3				3		3	
		数学Ⅱ	標準数学Ⅱ	4				4 (④)					
		数学Ⅱ	速修数学Ⅱ	4				3 (④)					
		数学Ⅲ	数学Ⅲ	5				1 (④)	3				
		数学A	数学A	2	2								
		数学B	文系数学B	2		2				2		2	
		数学B	理系数学B	2				2					
		＊数学特論	＊数学特論	3					3				
		数学Ⅱ	総合数学A	4			3				3		3
		数学B	総合数学B	2			2				2		2
		数学Ⅱ	総合数学C	4					3				
	理科	物理基礎	物理基礎	2	2								
		化学基礎	化学基礎	2	2								
		生物基礎	生物基礎	2	2								
		物理	文系物理	4			4				4		4
		物理	理系物理Ⅰ	4				3					
		物理	理系物理Ⅱ	4					4				
		物理	速修物理	4					3				
		化学	文系化学	4			4				4		4
		化学	理系化学Ⅰ	4				3					
		化学	理系化学Ⅱ	4					4				
		生物	文系生物	4			4				4		4
		生物	理系生物Ⅰ	4				3					
		生物	理系生物Ⅱ	4					4				
		生物	速修生物	4					3				
		＊物理研究	＊物理研究Ⅰ	3		1				1		1	
		＊物理研究	＊物理研究Ⅱ	3			2				2		2
		＊化学研究	＊化学研究Ⅰ	3		1				1		1	
		＊化学研究	＊化学研究Ⅱ	3			2				2		2
		＊生物研究	＊生物研究Ⅰ	3		1				1		1	
		＊生物研究	＊生物研究Ⅱ	3			2				2		2
	保健体育	体育	体育	7～8	2	2	3	2	3	2	3	2	3
		保健	保健	2	1	1		1		1		1	
	芸術	音楽Ⅰ	音楽Ⅰ	2	2								
		音楽Ⅱ	音楽Ⅱ	2		1				1		1	
		音楽Ⅲ	音楽鑑賞法	2									1
		美術Ⅰ	美術Ⅰ	2	2								
		美術Ⅱ	美術Ⅱ	2		1				1			
		書道Ⅰ	書道Ⅰ	2	2								
		書道Ⅱ	書道Ⅱ	2		1				1			
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3								
		コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3		3		3		3	
		コミュニケーション英語Ⅲ	コミュニケーション英語Ⅲ	4		1	4	1	4	1	4	1	4
		英語表現Ⅰ	英語表現Ⅰ	2	2								
		英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2			2	2
	家庭	家庭基礎	家庭基礎	2	2								
	情報	情報の科学	情報の科学	2	2								
	音楽	＊Global Music	＊Global Music	1								1	
	英語	英語表現	英語表現	4～8						2			
		総合英語	総合英語	4～13							2		
学類コア科目	音楽	音楽理論	音楽理論Ⅰ	2～8								1	
		音楽理論	音楽理論Ⅱ	2～8									1
		ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	6～12								2	
		ソルフェージュ	ソルフェージュⅡ	6～12									2
	国語	＊Global Arts A	＊文学探究	2		1	1						
	地理歴史	＊Global Arts B	＊歴史探究	2		1	1						
	公民	＊Global Arts D	＊国際理解	2		1	1						
	数学/理科	＊Global Science	＊Global Science	2				1	1				
	英語	＊Global Studies	＊Global Studies	2						2			
		＊プラクティカル・ライティング	＊プラクティカル・ライティング	2							2		
GLOBAL		＊GLOBAL Ⅲ	＊GLOBAL Ⅲ	2			2		2		2		2
		総合的な探究の時間		3～6	1	2	0	2	0	2	0	2	0
		LHR			1	1	1	1	1	1	1	1	1

○ ＊は学校設定科目である。
○ 卒業に必要な単位数は、74単位以上である。
○ 単位数と学類ごとの配当は標準的なものであり、学類を越えて選択することも可能である。

・地歴(ウ)の場合は、世界史Aに加え、日本史BⅠ・地理BⅠのいずれかを選択する。
・地歴(エ)の場合は、世界史BⅠに加え、日本史A・地理Aのいずれかを選択する。

・地歴(ア)の場合は、2年次に選択したB科目と同じBⅡ科目を1つ選択する。
・地歴(イ)の場合は、世界史BⅡに加え、2年次に選択したB科目と同じBⅡ科目を1つ選択する。

令和２年度入学生〔34期生〕　単位制教育課程編成表　その2

岡山県立岡山城東高等学校

２年次選択科目

系	教科	正式科目名	校内名称	標準単位	選択単位	学類
（1年次）	英語	海外文化体験研修	海外文化体験研修	2	2	
人文社会学系	国語	古典B	国文法特講α	4	1	
人文社会学系	国語	古典B	国文法特講β	4	2	
人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅱ	英語精読α	4	1	(人)(国)(音)
人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅱ	英語精読β	4	2	(人)(国)(音)
人文社会学系	外国語・英語	異文化理解	異文化理解α	2〜6	1	
人文社会学系	外国語・英語	＊フランス語	＊フランス語	2	2	
自然科学系	数学	数学Ⅱ	Basic数学	4	1	(人)(国)
自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅰα	4	1	
自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅰβ	4	2	
芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅰα	2〜16	1	(人)(国)
芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅰβ	2〜16	2	(人)(国)
芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅰα	2〜16	1	(理)
芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅰβ	2〜16	2	(理)
芸術・体育系	書道	書道Ⅱ	書道Ⅱ特講α	2	1	(人)(国)
芸術・体育系	書道	書道Ⅱ	書道Ⅱ特講β	2	2	(人)(国)
芸術・体育系	音楽	器楽	ピアノⅠ	2〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	声楽	声楽Ⅰ	2〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	声楽	合唱Ⅰ	2〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	音楽理論	和声学Ⅰ	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	演奏研究	アンサンブル	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	演奏研究	弦楽アンサンブルⅠ	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	＊SJPP	＊SJPP（聴講）	2	2	(音)
芸術・体育系	保体	＊アスリート	＊アスリート	2	2	
	英語	＊海外修学研修	＊海外修学研修	1	1	

履修年次を問わない科目

教科	正式科目名	校内名称	標準単位	選択単位	学類
国語	＊作品熟読	＊作品熟読α	1〜2	1	
国語	＊作品熟読	＊作品熟読β	1〜2	2	
公民	倫理	倫理	2	2	
公民	政治・経済	政治・経済	2	2	
家庭	子ども文化	子ども文化	2〜4	2	
家庭	フードデザイン	フードデザイン	2〜6	2	
理科	＊環境科学	＊環境科学	2	2	

【選択の留意事項】

パッケージの自由選択枠で、進路希望や興味・関心に応じて選択科目から選ぶ。

- ○ ＊印は、学校設定科目を示す。
- ○ 表中の ︸ は、1単位ものの科目を2つまたは3つセットで選択することを意味する。
- ○ 表中の学類欄の（　）は、その科目の選択可能な学類を示している。表記がない場合は、すべての学類からの選択が可能である。
- ○ 校内名称にα・βが付いた同一名称の科目は、同一年次で同時に履修することはできない。
- ○ 履修するための要件を設定している科目があるので、授業ガイドの「履修上の留意点」をよく読むこと。
- ○ 以下の科目は、同一年次に選択することはできない。
  「倫理」と「政治・経済」、「子ども文化」と「フードデザイン」
- ○ 時間割の編成上、以下のことを選択要件とする。
  ① 音楽学類2年次パッケージ②では、「ピアノⅠ＋声楽Ⅰ」を選択しなければならない。
  ② 音楽学類3年次パッケージⅡでは、「ピアノⅡ＋声楽Ⅱ」を選択しなければならない。
- ○ 実技系の選択科目は、2〜3年次に継続して選択することが望ましいが、進路希望の変更に応じて選択を変えることもできる。

３年次選択科目

系	教科	正式科目名	校内名称	標準単位	選択単位	学類
人文社会学系	国語	古典A	古典講読	2	2	
人文社会学系	国語	国語表現	国語表現	3	2	
人文社会学系	地理歴史・公民	世界史B	世界史B研究α	4	1	
人文社会学系	地理歴史・公民	世界史B	世界史B研究β	4	2	
人文社会学系	地理歴史・公民	日本史B	日本史B研究α	4	1	
人文社会学系	地理歴史・公民	日本史B	日本史B研究β	4	2	
人文社会学系	地理歴史・公民	地理B	地理B研究α	4	1	
人文社会学系	地理歴史・公民	地理B	地理B研究β	4	2	
人文社会学系	地理歴史・公民	現代社会	現代社会研究	2	2	
人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅲ	英語講読α	4	1	(人)(国)(音)
人文社会学系	外国語・英語	コミュニケーション英語Ⅲ	英語講読β	4	2	(理)
人文社会学系	外国語・英語	英語表現	英会話	4〜8	1	
人文社会学系	外国語・英語	時事英語	時事英語	2〜6	1	
人文社会学系	外国語・英語	英語理解	英語理解	4〜10	2	(国)
人文社会学系	外国語・英語	＊LL演習	＊LL演習	1	1	
人文社会学系	外国語・英語	＊英語基礎	＊英語基礎	2	2	
人文社会学系	外国語・英語	＊ドイツ語	＊ドイツ語	2	2	
自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅱα	4	1	
自然科学系	数学	数学Ⅱ	数学演習Ⅱβ	4	2	
自然科学系	理科	物理	テーマ物理α	4	1	(人)(国)(音)
自然科学系	理科	物理	テーマ物理β	4	2	(人)(国)(音)
自然科学系	理科	化学	テーマ化学α	4	1	(人)(国)(音)
自然科学系	理科	化学	テーマ化学β	4	2	(人)(国)(音)
自然科学系	理科	生物	テーマ生物α	4	1	(人)(国)(音)
自然科学系	理科	生物	テーマ生物β	4	2	(人)(国)(音)
自然科学系	理科	物理	物理特論α	4	1	(理)
自然科学系	理科	物理	物理特論β	4	2	(理)
自然科学系	理科	化学	化学特論α	4	1	(理)
自然科学系	理科	化学	化学特論β	4	2	(理)
自然科学系	理科	生物	生物特論α	4	1	(理)
自然科学系	理科	生物	生物特論β	4	2	(理)
芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅱα	2〜16	1	(人)(国)
芸術・体育系	美術	素描	文系素描Ⅱβ	2〜16	2	(人)(国)
芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅱα	2〜16	1	(理)
芸術・体育系	美術	素描	理系素描Ⅱβ	2〜16	2	(理)
芸術・体育系	書道	書道Ⅲ	書道Ⅲα	2	1	(人)(国)
芸術・体育系	書道	書道Ⅲ	書道Ⅲβ	2	2	(人)(国)
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	新曲視唱	6〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	音楽基礎演習	6〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	音楽発展演習	6〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	音楽Ⅱ	実践実技基礎	2	1	(人)(理)(国)
芸術・体育系	音楽	鑑賞研究	オペラ鑑賞法	2〜12	2	(音)
芸術・体育系	音楽	器楽	ピアノⅡ	2〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	声楽	声楽Ⅱ	2〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	演奏研究	伴奏法（声楽）	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	声楽	合唱Ⅱ	2〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	演奏研究	弦楽アンサンブルⅡ	2〜8	2	(音)
芸術・体育系	音楽	演奏研究	伴奏法（弦楽）	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	音楽理論	和声学Ⅱ	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	音楽史	音楽史	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	鑑賞研究	作曲家研究	2〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	音楽理論	和声学基礎	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	演奏研究	弦楽アンサンブル基礎	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	音楽Ⅲ	総合実技演習	2	1	(音)
芸術・体育系	音楽	音楽理論	音楽理論演習	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	ソルフェージュ	ソルフェージュ発展演習	6〜12	1	(音)
芸術・体育系	音楽	演奏研究	専攻実技演習	2〜8	1	(音)
芸術・体育系	音楽	＊SJPP	＊SJPP	2	2	(音)
芸術・体育系	保体	＊トップアスリート	＊トップアスリート	2	2	

令和3年度入学生〔35期生〕 単位制教育課程編成表 その1

岡山県立岡山城東高等学校

科目群	教科	正式科目	校内名称	(標準)単位	1年	人文社会学類 2年	人文社会学類 3年	理数学類 2年	理数学類 3年	国際教養学類 2年	国際教養学類 3年	音楽学類 2年	音楽学類 3年
必履修科目等	国語	国語総合	国語総合	4	5								
必履修科目等	国語	現代文B	現代文B	4		2	2	2	2	2	2	2	2
必履修科目等	国語	古典B	古典	4		4	4			4	4	4	4
必履修科目等	国語	古典B	理系古典	4				3	3				
必履修科目等	地理歴史	世界史A	世界史A	2				(ウ)2				(ウ)2	
必履修科目等	地理歴史	世界史B	世界史BⅠ	4		3		(エ)3		3		(エ)3	
必履修科目等	地理歴史	世界史B	世界史BⅡ	4			(ア)3 (イ)3		3		(ア)3 (イ)3		3
必履修科目等	地理歴史	日本史A	日本史A	2				(エ)2				(エ)2	
必履修科目等	地理歴史	日本史B	日本史BⅠ	4		3		(ウ)3		3		(ウ)3	
必履修科目等	地理歴史	日本史B	日本史BⅡ	4			(ア)3 (イ)3		3		(ア)3 (イ)3		3
必履修科目等	地理歴史	地理A	地理A	2				(エ)2				(エ)2	
必履修科目等	地理歴史	地理B	地理BⅠ	4		3		(ウ)3		3		(ウ)3	
必履修科目等	地理歴史	地理B	地理BⅡ	4			(ア)3 (イ)3		3		(ア)3 (イ)3		3
必履修科目等	公民	現代社会	現代社会	2	2								
必履修科目等	数学	数学Ⅰ	数学Ⅰ	3	3								
必履修科目等	数学	数学Ⅱ	数学Ⅱ	4	1								
必履修科目等	数学	数学Ⅱ	文系数学Ⅱ	4		3				3		3	
必履修科目等	数学	数学Ⅱ	標準数学Ⅱ	4				4					
必履修科目等	数学	数学Ⅱ	速修数学Ⅱ	4				3 ④					
必履修科目等	数学	数学Ⅲ	数学Ⅲ	5				1	3				
必履修科目等	数学	数学A	数学A	2	2								
必履修科目等	数学	数学B	文系数学B	2		2				2		2	
必履修科目等	数学	数学B	理系数学B	2				2					
必履修科目等	数学	*数学特論	*数学特論	3					3				
必履修科目等	数学	数学Ⅱ	総合数学A	4			3				3		3
必履修科目等	数学	数学B	総合数学B	2			2				2		2
必履修科目等	数学	数学Ⅱ	総合数学C	4					3				
必履修科目等	理科	物理基礎	物理基礎	2	2								
必履修科目等	理科	化学基礎	化学基礎	2	2								
必履修科目等	理科	生物基礎	生物基礎	2	2								
必履修科目等	理科	物理	文系物理	4			4				4		4
必履修科目等	理科	物理	理系物理Ⅰ	4				3					
必履修科目等	理科	物理	理系物理Ⅱ	4					4				
必履修科目等	理科	物理	速修物理	4					3				
必履修科目等	理科	化学	文系化学	4			4				4		4
必履修科目等	理科	化学	理系化学Ⅰ	4				3					
必履修科目等	理科	化学	理系化学Ⅱ	4					4				
必履修科目等	理科	生物	文系生物	4			4				4		4
必履修科目等	理科	生物	理系生物Ⅰ	4				3					
必履修科目等	理科	生物	理系生物Ⅱ	4					4				
必履修科目等	理科	生物	速修生物	4					3				
必履修科目等	理科	*物理研究	*物理研究Ⅰ	3		1				1		1	
必履修科目等	理科	*物理研究	*物理研究Ⅱ	3			2				2		2
必履修科目等	理科	*化学研究	*化学研究Ⅰ	3		1				1		1	
必履修科目等	理科	*化学研究	*化学研究Ⅱ	3			2				2		2
必履修科目等	理科	*生物研究	*生物研究Ⅰ	3		1				1		1	
必履修科目等	理科	*生物研究	*生物研究Ⅱ	3			2				2		2
必履修科目等	保健体育	体育	体育	7～8	2	2	3	2	3	2	3	2	3
必履修科目等	保健体育	保健	保健	2	1	1		1		1		1	
必履修科目等	芸術	音楽Ⅰ	音楽Ⅰ	2	2								
必履修科目等	芸術	音楽Ⅱ	音楽Ⅱ	2		1				1		1	
必履修科目等	芸術	音楽Ⅲ	音楽鑑賞法	2									1
必履修科目等	芸術	美術Ⅰ	美術Ⅰ	2	2								
必履修科目等	芸術	美術Ⅱ	美術Ⅱ	2		1				1			
必履修科目等	芸術	書道Ⅰ	書道Ⅰ	2	2								
必履修科目等	芸術	書道Ⅱ	書道Ⅱ	2		1				1			
必履修科目等	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3								
必履修科目等	外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3		3		3		3	
必履修科目等	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	コミュニケーション英語Ⅲ	4		1	4	1	4	1	4	1	4
必履修科目等	外国語	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅰ	2	2								
必履修科目等	外国語	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2			2	2
必履修科目等	家庭	家庭基礎	家庭基礎	2	2								
必履修科目等	情報	情報の科学	情報の科学	2	2								
必履修科目等	音楽	*Global Music	*Global Music	1								1	
必履修科目等	英語	英語表現	英語表現	4～8						2			
必履修科目等	英語	総合英語	総合英語	4～13							2		
学類コア科目	音楽	音楽理論	音楽理論Ⅰ	2～8								1	
学類コア科目	音楽	音楽理論	音楽理論Ⅱ	2～8									1
学類コア科目	音楽	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	6～12								2	
学類コア科目	音楽	ソルフェージュ	ソルフェージュⅡ	6～12									2
学類コア科目	国語	*Global Arts A	*文学探究	2		1	1						
学類コア科目	地理歴史	*Global Arts B	*歴史探究	2		1	1						
学類コア科目	公民	*Global Arts D	*国際理解	2		1	1						
学類コア科目	数理科学	*Global Science	*Global Science	2				1	1				
学類コア科目	英語	*Global Studies	*Global Studies	2						2			
学類コア科目	英語	*プラクティカル・ライティング	*プラクティカル・ライティング	2							2		
GLOBAL		*GLOBAL Ⅲ	*GLOBAL Ⅲ	2			2		2		2		2
		総合的な探究の時間		3～6	1	2	0	2	0	2	0	2	0
		LHR			1	1	1	1	1	1	1	1	1

○ *は学校設定科目である。
○ 卒業に必要な単位数は、74単位以上である。
○ 単位数と学類ごとの配当は標準的なものであり、学類を越えて選択することも可能である。

・地歴（ウ）の場合は、世界史Aに加え、日本史BⅠ・地理BⅠのいずれかを選択する。
・地歴（エ）の場合は、世界史BⅠに加え、日本史A・地理Aのいずれかを選択する。

・地歴（ア）の場合は、2年次に選択したB科目と同じBⅡ科目を1つ選択する。
・地歴（イ）の場合は、世界史BⅡに加え、2年次に選択したB科目と同じBⅡ科目を1つ選択する。

令和３年度入学生〔35期生〕　単位制教育課程編成表　その2

岡山県立岡山城東高等学校

年次	1年次	２年次選択科目					
		人文社会学系					
	英語	国語	国語	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語
正式科目名	海外文化体験研修	古典B	古典B	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅡ	異文化理解	＊フランス語
校内名称	海外文化体験研修	国文法特講α	国文法特講β	英語精読α	英語精読β	異文化理解α	＊フランス語
標準単位	2	4	4	4	4	2～6	2
選択単位・学類	2	1	2	1 (人)(国)(音)	2 (人)(国)(音)	1	2

年次	２年次選択科目									
	自然科学系			芸術・体育系						
	数学	数学	数学	美術	美術	美術	美術	書道	書道	
正式科目名	数学Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅱ	素描	素描	素描	素描	書道Ⅱ	書道Ⅱ	
校内名称	Basic数学	数学演習Ⅰα	数学演習Ⅰβ	文系素描Ⅰα	文系素描Ⅰβ	理系素描Ⅰα	理系素描Ⅰβ	書道Ⅱ特講α	書道Ⅱ特講β	
標準単位	4	4	4	2～16	2～16	2～16	2～16	2	2	
選択単位・学類	1 (人)(国)	1	2	1 (人)(国)	2 (人)(国)	1 (理)	2 (理)	1 (人)(国)	2 (人)(国)	

年次	２年次選択科目								
	芸術・体育系								
	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	保体	英語
正式科目名	器楽	声楽	声楽	音楽理論	演奏研究	演奏研究	＊SJPP	＊アスリート	＊海外修学研修
校内名称	ピアノⅠ	声楽Ⅰ	合唱Ⅰ	和声学Ⅰ	アンサンブル	弦楽アンサンブルⅠ	＊SJPP（聴講）	＊アスリート	＊海外修学研修
標準単位	2～12	2～12	2～12	2～8	2～8	2～8	2	2	1
選択単位・学類	1 ┐ (音)	1 ┘ (音)	1 ┐ (音)	1 ┘ (音)	1 (音)	1 (音)	2 (音)	2	1

年次	履修年次を問わない科目						
	国語	国語	公民	公民	家庭	家庭	理科
正式科目名	＊作品熟読	＊作品熟読	倫理	政治・経済	子ども文化	フードデザイン	＊環境科学
校内名称	＊作品熟読α	＊作品熟読β	倫理	政治・経済	子ども文化	フードデザイン	＊環境科学
標準単位	1～2	1～2	2	2	2～4	2～6	2
選択単位・学類	1	2	2	2	2	2	2

【選択の留意事項】

パッケージの自由選択枠で、進路希望や興味・関心に応じて選択科目から選ぶ。

- ○ ＊印は、学校設定科目を示す。
- ○ 表中の ⏟ は、1単位ものの科目を2つまたは3つセットで選択することを意味する。
- ○ 表中の学類欄の（　）は、その科目の選択可能な学類を示している。表記がない場合は、すべての学類からの選択が可能である。
- ○ 校内名称にα・βが付いた同一名称の科目は、同一年次で同時に履修することはできない。
- ○ 履修するための要件を設定している科目があるので、授業ガイドの「履修上の留意点」をよく読むこと。
- ○ 以下の科目は、同一年次に選択することはできない。
  「倫理」と「政治・経済」、「子ども文化」と「フードデザイン」
- ○ 時間割の編成上、以下のことを選択要件とする。
  - ① 音楽学類2年次パッケージ②では、「ピアノⅠ＋声楽Ⅰ」を選択しなければならない。
  - ② 音楽学類3年次パッケージⅡでは、「ピアノⅡ＋声楽Ⅱ」を選択しなければならない。
- ○ 実技系の選択科目は、2～3年次に継続して選択することが望ましいが、進路希望の変更に応じて選択を変えることもできる。

年次	３年次選択科目								
	人文社会学系								
	国語	国語	地理歴史・公民	地理歴史・公民	地理歴史・公民	地理歴史・公民	地理歴史・公民	地理歴史・公民	地理歴史・公民
正式科目名	古典A	国語表現	世界史B	世界史B	日本史B	日本史B	地理B	地理B	現代社会
校内名称	古典講読	国語表現	世界史B研究α	世界史B研究β	日本史B研究α	日本史B研究β	地理B研究α	地理B研究β	現代社会研究
標準単位	2	3	4	4	4	4	4	4	2
選択単位・学類	2	2	1	2	1	2	1	2	2

年次	３年次選択科目							
	人文社会学系							
	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語	外国語・英語
正式科目名	英語コミュニケーションⅢ	英語コミュニケーションⅢ	英語表現	時事英語	英語理解	＊LL演習	＊英語基礎	＊ドイツ語
校内名称	英語講読α	英語講読β	英会話	時事英語	英語理解	＊LL演習	＊英語基礎	＊ドイツ語
標準単位	4	4	4～8	2～6	4～10	1	2	2
選択単位・学類	1 (人)(国)(音)	2 (理)	1	1	2 (国)	1	2	2

年次	３年次選択科目													
	自然科学系													
	数学	数学	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科
正式科目名	数学Ⅱ	数学Ⅱ	物理	物理	化学	化学	生物	生物	物理	物理	化学	化学	生物	生物
校内名称	数学演習Ⅱα	数学演習Ⅱβ	テーマ物理α	テーマ物理β	テーマ化学α	テーマ化学β	テーマ生物α	テーマ生物β	物理特論α	物理特論β	化学特論α	化学特論β	生物特論α	生物特論β
標準単位	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
選択単位・学類	1	2	1 (人)(国)(音)	2 (人)(国)(音)	1 (人)(国)(音)	2 (人)(国)(音)	1 (人)(国)(音)	2 (人)(国)(音)	1 (理)	2 (理)	1 (理)	2 (理)	1 (理)	2 (理)

年次	３年次選択科目										
	芸術・体育系										
	美術	美術	美術	美術	書道	書道	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
正式科目名	素描	素描	素描	素描	書道Ⅲ	書道Ⅲ	ソルフェージュ	ソルフェージュ	ソルフェージュ	音楽Ⅱ	鑑賞研究
校内名称	文系素描Ⅱα	文系素描Ⅱβ	理系素描Ⅱα	理系素描Ⅱβ	書道Ⅲα	書道Ⅲβ	新曲視唱	音楽基礎演習	音楽発展演習	実践実技基礎	オペラ鑑賞法
標準単位	2～16	2～16	2～16	2～16	2	2	6～12	6～12	6～12	2	2～12
選択単位・学類	1 (人)(国)	2 (人)(国)	1 (理)	2 (理)	1 (人)(国)	2 (人)(国)	1 (音)	1 (音)	1 (音)	1 (人)(理)(国)	2 (音)

年次	３年次選択科目																
	芸術・体育系																
	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	保体
正式科目名	器楽	声楽	演奏研究	声楽	演奏研究	演奏研究	音楽理論	音楽史	鑑賞研究	音楽理論	演奏研究	音楽Ⅲ	音楽理論	ソルフェージュ	演奏研究	＊SJPP	＊トップアスリート
校内名称	ピアノⅡ	声楽Ⅱ	伴奏法（声楽）	合唱Ⅱ	弦楽アンサンブルⅡ	伴奏法（弦楽）	和声学Ⅱ	音楽史	作曲家研究	和声学基礎	弦楽アンサンブル基礎	総合実技演習	音楽理論演習	ソルフェージュ発展演習	専攻実技演習	＊SJPP	＊トップアスリート
標準単位	2～12	2～12	2～8	2～12	2～8	2～8	2～8	2～8	2～12	2～8	2～8	2	2～8	6～12	2～8	2	2
選択単位・学類	1 ┐ (音)	1 ┘ (音)	1 ┐ (音)	1 ┘ (音)	2 ┐ (音)	1 ┘ (音)	1 ┐ (音)	1 ┤ (音)	1 ┘ (音)	1 (音)	1 (音)	1 (音)	1 ┐ (音)	1 ┤ (音)	1 ┘ (音)	2 (音)	2

令和3年度　総合的な探究の時間　全体計画

岡山県立岡山城東高等学校

生徒の実態
・ 基礎学力は高く、自主活動への取り組み意欲も旺盛である。全体的に素直で明るい生徒が多く、ほぼ全員の生徒が大学進学を希望している。

本校の教育目標
・ 進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動していく態度を養う。

保護者の願い
・ 普通科進学校としての進路実績に加えて、部活動、HR活動や学校行事等の自主活動において、本校独自の魅力ある教育実践が期待されている。

地域・社会の実態
・ 市の中心部からは離れており、周辺は閑静で学習環境には適している。

学校の実態
・ 素直な性格の生徒が多く、学校行事などには協働的に取り組むことで、学校全体が明るい雰囲気に包まれている。

本校において定める目標
・自分の在り方や生き方・将来についての意見や考えをもち、論理的な思考を駆使して議論することで、社会に潜む課題と向き合うことができる能力を育成する。

・日本ならびに世界の文化と伝統への理解を深め、国際感覚と国際協調の精神を身につけさせ、グローバルな問題を解決するための方法を考えることができる能力を育成する。

・地域の抱える課題についての見識を広め、社会をよりよくするために自分たちができることを共有しながら解決策を導き出すことができる能力を育成する。

地域の願い
・ 全県学区普通科として、将来的に地域の活性化に携わる人材を輩出することが期待されている。

教職員の願い
・ 自己管理をきちんと行い、世界・社会に強い関心を持ちながら地域の課題にも目を向け、物事をより深く考える姿勢を持ち続けてもらいたい。

本校において定める内容

目標を実現するにふさわしい探究課題
一例として以下のようなものが考えられる。

・国内外の文学の比較による多様な価値観

・政令指定都市の比較から考える地域創生

・古典芸能から見える伝統的価値観

・先進国における子供の貧困

・日本における外国人労働者の福利厚生

・日韓関係における草の根レベルの交流の有用性

・音楽による国際交流が拓く社会

・音楽療法による認知症に対する効果

・AIの可能性と社会の変容

・統計資料の必要性と信頼度について

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・ さまざまな社会や文化の多様性と独自性を理解するための、正確かつ一般的な知識を身につけることができる。 ・ 社会事象や芸術作品および人物に対して一般的に必要とされる正確な知識を身につけることができる。 ・日本語資料に限らず英文資料の中からも必要な情報を検索し、取捨選択することができる知識や読解力を養える。 ・研究内容を深めていくために、ネイティブのアドバイザーに英語で質問したり説明したりすることのできる英語の運用能力を養える。	・ 先行研究や他者の意見を批判的に検討し、必要な情報を収集・統合して自分の考えを論理的にまとめ、効果的に発信することができる。 ・ 収集した情報をもとに、ディベート、ディスカッションを通し、自らの意見を論理的に述べ、他者を説得したり、異なる意見をまとめたりする論理的思考力を養える。 ・ 探究した内容を英語でプレゼンテーションすることのできる表現力、疑問点等をその場で英語での質疑応答によって深めることができる即興的な英語力を養える。 ・ それぞれ音楽の特徴が生み出す雰囲気を感受しながら、楽曲の背景とかかわらせて、どのように演奏するかという表現力を養える。	・ 興味・関心のある事に対して常に意欲的に知識を身につけようとし、他者の意見を踏まえた上で、より深いテーマへの「気づき」ができる。 ・ 社会や文化に対して、興味・関心を持ち、他者との関わりを通して新たな課題を発見し、課題解決に向かうことができる。 ・ 探究活動を通して、日本を含めた世界を取り巻くあらゆる問題について自ら積極的に考え、解決に尽力することでより良い世界を作ろうとする姿勢を育成することができる。 ・ 自分自身の考えや意見を持ち、それを発信し他者と共有することで、物事を新たな視点からもとらえ相手と相互に理解し合おうとする態度を養える。

学習活動
・ 1年次は課題研究を行うための基礎分野の学習、2年次は学類特有の科目との連携による課題研究を行う。

・ 1年次では2学期後半から身近な課題についてのプレゼンテーションを作成する。

・ 年度末には発表会を設けるなど単元展開を工夫する。

指導方法
・ 生徒の課題意識を深化させる支援。

・各教科・科目との関連的な指導の重視。

指導体制
・ カリキュラム・マネジメント委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立。

・ 各年次教員による相互支援体制による協力。

学習の評価
・ 活動の状況などの観察記録による評価

・ レポートなどの製作物による評価

・ 学習記録などを集積したポートフォリオによる評価

・ 成果発表などによるパフォーマンス評価

・ ルーブリック、シラバスによる自己評価や相互評価

各教科等との関連
・ 教科横断的な学習の中に、各教科の専門性を活かした活動を取り入れる。特に進路実現を目標とした取り組みを展開するなかで、知的好奇心を喚起する。

地域や大学との連携
・ 地元の大学や企業の支援による講演会などを実施し、グローバルな視点による社会性を育成する。

・ 卒業生から職業選択や進路選択にかかわる助言を得て、キャリア教育を推進する。

小・中学生や他の高等学校との連携
・ オープンスクールで中学生に高校生活を紹介したり、出身中学校を訪問して情報提供をするなど、自らの役割と責任を果たす態度を養う。

・「社会貢献活動」においては、地域の人々、子どもたちとの交流を通じて、自己探究に努め、自己の特性・進路等についての理解を深める。

令和３年度キャリア教育の全体計画

学校名　岡山県立岡山城東高等学校

学校教育目標

・進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動していく態度を養う。
・学園の一員として連帯し、互いの立場を考え協力して助け合う態度を養う。
・学業に励み、高い知性と豊かな情操を身につけ、健全な心身を養う。
・日本ならびに世界の文化と伝統への理解を深め、国際感覚と国際協調の精神を養う。

保護者・地域の願い

・全県学区普通科としての実績は、中学校の生徒、保護者、また地域から高く評価されており、期待も大きい。
・普通科進学校としての進路実績に加えて、部活動、HR 活動や学校行事等の自主活動において、本校独自の魅力ある教育実践が期待されている。地域やＰＴＡは協力的であり、学校への信頼も厚い。
・地域に根差し、世界で活躍するリーダーとして、高い志を抱き、それを実現する。

生徒の実態

・ほぼ全員の生徒が大学進学を希望している。
・基礎学力は高く、自主活動への取組意欲も旺盛である。全体的に素直で明るい生徒が多い。
・文武両道を実践し実績を上げている。
・校地周辺は閑静で、学習に適した環境に位置している。しかし、通学には多くの時間を要する生徒が少なくない。
・「城東の自由」と呼ばれる校風の中で、生徒会活動や委員会活動が活性化しつつあり、自治意識が高まりつつある。しかしながら、集団において、自らの考えや在り方を積極的に表明することを苦手とする生徒も散見する。

キャリア教育の重点目標

・何事にも自主的・自律的に取り組む態度を涵養する。
・課題研究やフィールドワークを通して、論理的な思考力や創造的・批判的思考力を育成する。
・高度な英語運用力とグローバルな視野を持ち、地域や国際社会に貢献できる人材を育成する。

育成したい能力

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
自分の考えや思いをきちんと伝えることができ、相手を尊重しつつ、よりよい関係や集団を築いていく力 （自己表現力、コミュニケーション能力、人を大切にする心）	広い視野と、何事にも積極的にチャレンジする進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動できる力 （自己管理能力）	自ら課題を見つけ、世界や地域にも目をむけながら協働し、仮説を立てて論理的に解決を導こうとする力 （論理的な思考力、批判的な思考力、課題解決能力、コミュニケーション能力）	多面的な視点から、諸活動を振り返って、自らが果たすべき役割を考え、周囲と協働してよりよい人生を創造しようとする力 （グローバルな視野、自己管理能力）

各教科・科目におけるキャリア教育

国語：古典分野の教材から先人の思想や価値観を学び、現代に生きる我々のあるべき姿を考察させる。また、現代文の指導の中で、現代の情勢や課題を認識し探究する態度を養う。

地歴公民：我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色について理解と認識を深め、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献しようとする態度を育てる。

数学：数学的根拠に基づいて論理的に判断する態度を育て、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てる。

理科：身近な事象や生物に対する興味・関心をもち、課題発見、探究の姿勢を育成する。

保健体育：運動の実践を通して、ルールやマナーの大切さを身に付けさせるとともに、集団における公正、協力、責任などの態度を育成する。

芸術：芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

外国語：外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献できる人材を育てる。

家庭：家族・家庭の意義を理解させ、家族への敬愛の念を育てることにより、家庭や地域社会の一員として生活をよりよくしようとする態度を育てる。

情報：情報社会の中で気をつけるべきマナーやモラルなどを身に付け、他の人の立場に立って、物事を考えることができるようにさせる。

各学類コア科目：地域や大学などと連携して、グループ、あるいは個人による課題研究に取り組ませ、批判的思考力、論理的思考力、表現力を養う。

各学年（年次）ごとの重点目標

１年次	自己理解 ・キャリア・パスポートの記入やそれを活用した面談を通して、自己の在り方や生き方、将来について真剣に考え、よりよい進路を主体的に選択する能力を育成する。 ・LHR などを通して各自が進路の実現に向けて設定した課題を克服するために必要なことを考え、計画を立てて実践する中で、学び方や自らの価値観を身に付けさせ、論理的思考力や自己表現力の深化を図る。 ※企業訪問やグループでの課題研究を通して、地域や社会の諸課題を学び、自ら課題を設定して取り組む中で、批判的思考力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを培う。
２年次	進路設計 ・キャリア・パスポートの記入やそれを活用した面談を通して、自己の能力・特長・適性など、自己理解に基づいて進路を設計することの重要性を知り、自らに適した進路を考える力を育成する。 ・講演会や課題研究を通して、多様化する社会のありようについて知り、それを踏まえて自らの進路設計を的確に行える力を養う。 ・LHR やオープン・キャンパスへの参加などを通して学部･学科の内容を理解し、自己の適性を考えて、具体的な進路設計を考え、実践できる力を養う。
３年次	自己実現 ・大学説明会や講演会を通して、広い視野をもち、自らの生き方について考え、将来の目標を持って進路を決定できる力を身に付けさせる。 ・キャリア・パスポートの記入やそれを活用した面談を通して、自己実現のための課題を明確にして、その解決にむけて主体的に取り組む態度を育てる。 ・講演会などを通して変化する世界の現状と課題に興味、関心を持ち、地域との関わりにも目を向けつつ、自らの果たすべき役割を考えて、取り組もうとする態度を涵養する。

進路指導

・自分の個性や特長を十分理解し、それを伸長する態度を養い、具体的な目標設定のもと、充実した高校生活が送れるようにする。
・進路に関する活動を通して、世界をステージとして自らの人生を切り拓いていく姿勢を涵養する。
・オープン・キャンパスなどを通して大学、学部についての理解を深めさせる。

生徒指導

・生徒自らが学校生活における問題点やいじめなどについて取り上げ、討議し解決にむけて取り組む姿勢を育て、城東の自由と責任、共同の意識を涵養する。
・生徒会活動や委員会活動を通して生徒主体の自治意識を育成する。

家庭・地域との連携

・世界に目を向ける中で、地域の課題にも真剣に向き合い、解決法を探究する態度を養う。
・社会貢献活動への自主的な参加を勧める。
※１年次生全員に県内の企業体験をさせる。
・２、３年次では、学類のコア科目の課題研究や校外学習、グローバルサイエンスやグローバルスタディーズでの学習活動を通して、地域の歴史や文化、産業、最新の技術などを学び、社会人として必要な力を身に付けさせる。

総合的な探究の時間におけるキャリア教育

Global Ⅰ（グループ研究）
・スキル学習（全員）
　教科等横断的なリサーチスキルの学習
・地域密着の課題研究（全員）
　SDGs の 17 のゴールを踏まえた課題研究を実施
・講演会
　グローバル講演会
　SDGs 講演会
※県内企業訪問でグローバルな地域課題の学習

Global Ⅱ（グループ研究）
・本格的な課題研究（全員）
　「学類コア科目」と「総合的な探究の時間」が連動した学類の専門性を活かした探究活動及び地域でのフィールドワークを重視した実証的研究

特別活動におけるキャリア教育

《HR 活動》
・集団宿泊研修準備（１年次）
・ウォーキング大会（１年次）
・社会貢献活動
・翠緑祭準備
・学類研修準備（２年次）
・進路指導 HR
　学部学科研究、選ぶ際の考え方、入試制度、受験科目など
・保健安全講話
・小論文
・百人一首大会（１年次）
・各種講演
・先輩の話を聞く会、実習生の話を聞く会
・志望理由書の作成
《生徒会活動》
・新入生歓迎会
・翠緑祭（文化の部、体育の部）
《学校行事》
・各種式典
・集団宿泊研修（１年次）
・学類研修（２年次）
　（関東、マレーシア、韓国、台湾など）
・球技大会（２，３年次）
・赤ちゃん先生（２，３年次）

令和３年度学校自己評価アンケート分析（抜粋）

１．実施状況

実施期間　　令和３年 11 月 25 日～12 月３日
実施形態　　Classi 配信により回答する（今年度より実施）一部紙媒体で実施
対　　象　　生徒　保護者　教職員
回 答 率　　生徒　81.7%　　保護者　69.6%　　教職員　100.0%
※　保護者と教職員の質問項目⑱は「城東高校は、生徒にとって入学前に抱いたイメージ通りの学校であると感じていると思う」としている。

２．アンケート結果

（１）全体的には大きな変化は見られないが、保護者の回答では昨年度より高い。
（２）①②③⑤⑦⑨⑭⑯⑳は生徒・保護者・教職員が 4.0 以上の高い評価である。
（３）⑱は、3.4 で、82.0%の生徒が「ほぼイメージメージ通り」「イメージ以上」と回答している。
（４）⑳は生徒・保護者の評価は 4.4 と高く、85.5%の生徒が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答している。

３．分析と今後の対応

（１）質問項目①「城東高校は、生徒の進路や興味・関心・適性に応じた学習ができる」について

来年度より本格的にカリキュラム・マネジメントを実施し、本校の目標を生徒・保護者・教職員間で共通理解し、本校のスクールミッションの実現に取り組んで行く。

（２）質問項目②「城東高校の授業は主体的な学びを促すように工夫している」、質問項目⑬「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」、質問項目⑭「城東高校は授業や学校行事、講演会などを通じてグローバルな視野を育てようとしている」について

生徒の主体的な学びを促すような授業を工夫する。一人一台端末の導入に伴い、ICT 環境の整備が進んでいる。授業でのペアワークやグループワークの活用、課題研究など、生徒同士が協力しながら取り組む場面が多く、「GLOBAL Ⅰ」の充実や、学類コア科目と連動した「GLOBAL Ⅱ」など、「主体的・対話的で深い学び」の視点から継続して授業改善が行われている。また、岡山大学の留学生や、韓国と中国の国際交流員との交流会を実施するなど、グローバルな視野の育成を図っている。

（３）質問項目⑤「学校行事は、生徒が中心となって取り組んでおり、充実したものとなっている」について

行事について生徒自身はコロナ禍での工夫や改善を高く評価している。１年次生は先輩を見て生徒主体で行事を作る城東らしさを実感している。

４．自由記述について

（１）授業・課題研究について

「協同ですることが多いので、みんなと高め合いながら学力やチームワークを向上させることができる。」「自分の発言をする機会が増えて成長できたと感じる。特徴的な学びのシステムが多く、未来への糧になっていると思う。」などの意見が多い。

（２）城東高校について

「生徒主体の学校行事などでは自分たちで考えて積極的に動く力を付けられた。勉強や行事で忙しいけど、成長できる場所だと思う。」「みんなが何かに打ち込んでいて、人として尊敬できるので、刺激がたくさんもらえて毎日が楽しい。」「生徒同士で考える機会がたくさんある。」「生徒が主体的に活動できている。」など、様々な場面で、友達と協力しながら成長していこうとする前向きな姿勢がうかがえる。

R3 学校自己評価アンケートまとめ

評価は「5. そう思う 4. どちらかと言えばそう思う 3. どちらとも言えない 2. どちらかといえばそう思わない 1. そう思わない」の5段階評価。

⑱については 5…入学前に抱いていたよりも良い印象　4…やや良い印象　3…入学前からのイメージ通り　2…入学前に抱いていたよりもやや悪い印象　1…悪い印象、イメージの学校だと思う。（保護者・教職員：と感じていると思う。）

	質問項目（生徒用）	生徒											保護者								教員							
		平均値	前年平均	前々年平均	平均値			内訳					平均値	前年平均	前々年平均	内訳					平均値	前年平均	前々年平均	内訳				
					1年	2年	3年	5	4	3	2	1				5	4	3	2	1				5	4	3	2	1
1	城東高校は、生徒の進路や興味・関心・適性に応じた学習ができる。	4.1	4.1	4.0	4.3	4.1	3.8	254	391	84	29	9	4.2	4.2	4.1	247	323	66	14	3	4.1	4.1	4.2	15	47	6	1	0
2	城東高校の授業は、生徒の主体的な学びを促すよう工夫している。	4.1	4.1	3.9	4.3	4.1	3.9	263	370	104	23	8	4.1	4.0	4.0	221	319	88	21	3	4.1	4.0	4.1	17	40	11	1	0
3	城東高校は、進路通信「時計台」やロングホームルームなどを通じて進路を考えるのに必要な情報を提供している。	4.1	4.3	4.2	4.3	4.2	3.9	282	351	105	23	6	4.2	4.1	4.1	214	347	78	10	2	4.4	4.1	4.0	38	25	5	1	0
4	城東高校は、自分の進路選択に向けて、面談や講演会などを通じてきめ細かな指導を行っている。	3.9	4.1	4.0	4.1	3.9	3.6	206	355	154	41	11	4.0	4.0	4.0	181	344	98	21	8	4.2	4.0	4.0	22	37	9	1	0
5	学校行事は、生徒が中心となって取り組んでおり、充実したものとなっている。	4.6	4.6	4.7	4.7	4.6	4.4	505	207	38	6	8	4.5	4.4	4.7	397	207	41	8	1	4.2	4.2	4.3	28	31	8	1	1
6	生徒会・委員会活動が活発に行われている。	3.8	3.9	3.8	4.0	3.9	3.5	195	324	164	64	16	4.0	3.9	4.1	186	311	143	9	1	4.0	3.8	4.0	23	30	10	5	1
7	城東高校は、生徒が部活動に熱心に取り組み、充実感を得られる学校である。	4.4	4.5	4.4	4.5	4.3	4.3	404	288	58	9	7	4.4	4.4	4.4	332	256	50	10	4	4.2	4.4	4.3	30	28	8	3	0
8	城東高校は、部活動と勉強との両立が出来るように、配慮している。	3.4	3.5	3.2	3.4	3.4	3.3	120	249	237	109	52	3.8	3.8	3.7	175	256	166	39	16	3.5	3.2	3.2	11	28	17	8	5
9	城東高校は、自由で明るい雰囲気の学校である。	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.2	421	265	56	12	9	4.6	4.5	4.6	427	189	23	5	5	4.2	4.3	4.3	23	39	5	1	1
10	城東高校の生徒は、品位のある制服の着こなしができている。	3.7	3.7	3.5	3.8	3.7	3.6	160	312	204	76	15	4.1	4.0	4.0	220	319	92	11	8	3.0	3.2	3.1	2	25	21	16	5
11	城東高校はマナー（交通など）がよい学校である。	3.1	3.2	3.1	3.4	3.0	2.9	74	195	288	159	48	4.0	3.8	3.8	166	318	149	12	3	3.0	2.8	3.0	2	25	22	13	7
12	城東高校は、社会貢献活動やボランティアなどの体験を通じて、生徒を高める機会をもうけている。	3.7	3.8	3.8	4.2	3.3	3.5	156	329	169	90	24	3.8	3.8	3.9	131	296	192	25	4	3.8	3.7	4.0	13	35	15	5	1
13	城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である。	4.1	4.1	4.0	4.4	4.0	3.9	278	345	102	30	8	4.1	4.0	4.0	186	335	116	11	2	3.9	4.1	4.0	16	35	16	1	1
14	城東高校は、授業や学校行事、講演会などを通してグローバルな視野を育てようとしている。	4.1	4.2	4.0	4.4	4.0	3.8	261	352	112	29	11	4.2	4.1	4.2	238	306	91	10	3	4.0	4.2	4.1	21	30	15	2	1
15	生徒が悩んだり困ったことがあれば、面談などさまざまな機会に教員などに相談することができる体制にある。	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	3.7	232	317	146	48	21	3.9	3.9	3.8	160	320	125	32	10	4.1	4.2	4.1	20	36	11	1	1
16	城東高校は、教育活動全般において、人権やプライバシー・生徒の個人情報の保護に配慮している。	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	3.9	283	306	137	23	14	4.2	4.1	4.1	233	334	71	5	6	4.0	4.0	4.0	17	40	8	2	2
17	城東高校は、防災訓練やホームルーム活動などを通して、身の安全についての指導をしている。	3.8	4.0	3.8	4.0	3.8	3.7	179	342	171	63	9	3.8	3.8	3.8	111	323	200	8	5	4.0	4.0	4.2	21	31	14	1	2
18	城東高校は、生徒にとって入学前に抱いたイメージ通りの学校であると思う。	3.4	3.4	3.3	3.6	3.5	3.3	140	224	265	117	22	3.4	3.5	3.6	111	121	335	76	8	3.0	3.3	3.1	2	14	39	12	2
19	城東高校は、生徒を成長させている学校である。	4.3	4.3	4.2	4.5	4.3	4.1	375	284	75	19	11	4.3	4.3	4.2	276	292	57	18	4	3.9	3.8	3.8	14	39	13	1	2
20	城東高校に来て良かったと思う。 （教職員：城東高校は良い学校だと思う。）	4.4	4.4	4.3	4.4	4.5	4.2	434	218	75	25	11	4.4	4.4	4.4	405	151	66	13	13	4.0	4.0	4.0	19	32	16	0	2

令和３年度各種アセスメント結果

（１）GTEC４技能版受検者数における CEFR 別人数割合（%）

	B2	B1	A2
令和元年度１年次（293 名 12 月受検）	1.8%	8.8%	89.4%
令和２年度２年次（288 名８月受検）	2.1%	22.6%	73.6%
令和３年度３年次（263 名８月受検）	3.4%	44.1%	52.5%
令和２年度１年次（288 名８月受検）	0.7%	5.9%	90.6%
令和３年度２年次（276 名８月受検）	1.1%	18.8%	80.1%
令和３年度１年次（281 名８月受検）	1.1%	12.5%	86.5%

（２）実用英語技能検定合格人数（人）

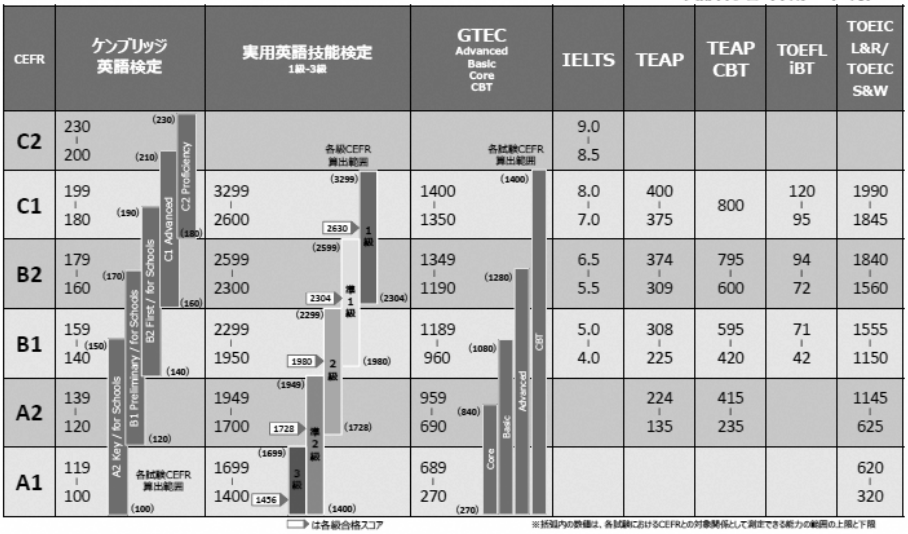
	１級	準１級	２級	準２級
令和元年度１年次	0	1	2	13
令和２年度２年次	0	12	17	9
令和３年度３年次	0	12	14	0
令和２年度１年次	1	0	3	4
令和３年度２年次	0	5	29	8
令和３年度１年次	0	0	7	6

（３）その他資格試験における CEFR 別人数（人）

	C1	B2	B1	A2
令和元年度１年次	0	1	5	12
令和２年度２年次	0	10	16	10
令和３年度３年次	0	4	0	0
令和２年度１年次	0	0	1	1
令和３年度２年次	1	0	0	0
令和３年度１年次	0	0	0	1

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）



○ 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。

※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。

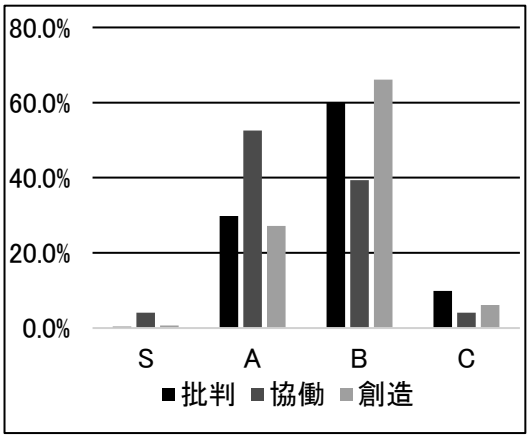
※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。

（４）GPS-Academic（総合結果）

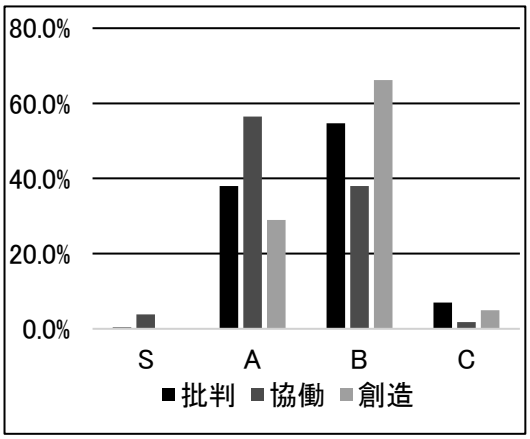
〇35期（1年次） 令和3年12月実施　　※数値は人数と割合

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
S	1	0.3%	12	4.1%	2	0.7%
A	88	29.8%	155	52.5%	80	27.1%
B	177	60.0%	116	39.3%	195	66.1%
C	29	9.8%	12	4.1%	18	6.1%
D	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	295	100.0%	295	100.0%	295	100.0%
	S+A	30.2%	S+A	56.6%	S+A	27.8%



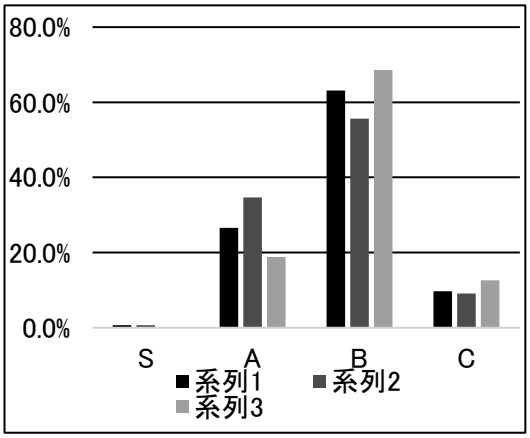
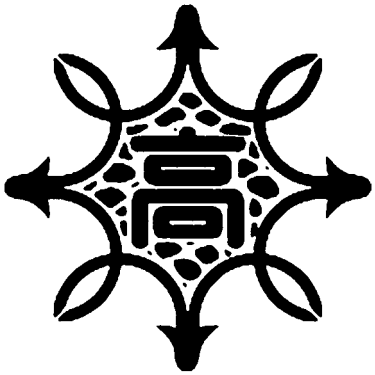
〇34期（2年次） 令和3年12月実施

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
S	1	0.3%	11	3.8%	0	0.0%
A	109	38.0%	162	56.4%	83	28.9%
B	157	54.7%	109	38.0%	190	66.2%
C	20	7.0%	5	1.7%	14	4.9%
D	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	287	100.0%	287	100.0%	287	100.0%
	S+A	38.3%	S+A	60.3%	S+A	28.9%
	昨年比	+11.1%	昨年比	+25.0%	昨年比	+10.1%



〇34期（1年次） 令和2年12月実施

	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
S	2	0.6%	2	0.6%	0	0.0%
A	82	26.5%	107	34.6%	58	18.8%
B	195	63.1%	172	55.7%	212	68.6%
C	30	9.7%	28	9.1%	39	12.6%
D	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	309	100.0%	309	100.0%	309	100.0%
	S+A	27.2%	S+A	35.3%	S+A	18.8%



令和３年度
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」
研究開発実施報告書・第３年次
発行日　令和４年３月
発行者　岡山県立岡山城東高等学校
　　校長　前川　隆弘
所在地　〒703-8222
　　岡山県岡山市中区下 110
　　電　話　086-279-2005　　ＦＡＸ　086-279-9913
印刷所　昭和印刷株式会社